

福岡県立大学 中期計画に関わる 自己点検・評価報告書

平成29年 6月

公立大学法人福岡県立大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡県立大学
所在地	福岡県田川市大字伊田4395番地
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
	8,530,220,100円(全額 福岡県出資)
沿革	昭和20年(1945)4月 福岡県立保健婦学校開設 昭和27年(1952)7月 福岡県立保育専門学院開設 昭和42年(1967)4月 福岡県社会保育短期大学(保育科、社会福祉科)開学 平成4年(1992)4月 福岡県立大学(人間社会学部)開設 平成9年(1997)4月 大学院人間社会学研究科(修士課程)開設 平成15年(2003)4月 看護学部開設 平成18年(2006)4月 公立大学法人福岡県立大学に移行 平成19年(2007)4月 大学院看護学研究科(修士課程)開設
法人の目標	公立大学法人福岡県立大学は、社会の要請に応え、人間社会学部と看護学部の連携のもと、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍できる資質を持った優秀な職業人を育成することを使命とする。 特に次の取組については、中期目標期間6年間の重点事項とする。 <ul style="list-style-type: none"> ・人間社会学部と看護学部の連携により魅力ある福祉系総合大学の教育システムを構築する。 ・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動を推進する。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・地域に貢献する大学としての認知度を高める。 1 教育:保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 2 研究:大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。 3 社会貢献:大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。 4 業務運営:理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。 5 財務:経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 6 評価及び情報公開 :評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。 <ul style="list-style-type: none"> ・評価 ・情報公開
法人の業務	1 福岡県立大学を設置し、これを運営すること。 2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

2. 組織・人員情報

(1) 役員

役員の定数は、公立大学法人福岡県立大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また、役員の任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	柴田 洋三郎	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和46年 3月 九州大学医学部卒業 昭和56年 7月 シカゴ大学客員准教授 昭和63年 9月 九州大学教授 平成 8年 9月 九州大学学生部長 平成 9年 4月 九州大学副学長(～平成14年3月) 平成15年10月 九州大学副学長 平成16年 4月 九州大学理事・副学長 平成22年 4月 独立行政法人大学入試センター 試験・研究統括官 平成24年 4月 公立大学法人 福岡県立大学 理事長・学長
副理事長	松本 次好	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和53年 4月 文部省入省 平成18年 4月 九州大学総務部長 平成20年 4月 島根大学理事・副学長・事務局長 平成24年 2月 福岡教育大学理事・副学長 平成25年 2月 環太平洋大学事務局長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 副理事長
常務理事(事務局長)	吉村 静男	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和53年 4月 福岡県採用 平成15年 4月 漁政課長 平成23年 4月 人事委員会次長 平成25年 4月 水資源対策長 平成27年 4月 公立大学法人福岡県立大学 常務理事(事務局長)
理事(学外)	麻生 泰(前任)	平成26年4月1日 ～平成28年5月30日	昭和54年12月 麻生セメント(株)取締役社長 昭和56年 4月 (社)経済団体連合会理事 昭和59年 4月 (社)セメント協会副会長 平成 2年 4月 (社)経済団体連合会評議員 平成 8年12月 飯塚商工会議所会頭 平成11年 1月 慶應義塾監事 平成13年 8月 新・麻生セメント(株)代表取締役社長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成22年 6月 (株)麻生 代表取締役会長 平成25年 6月 (一社)九州経済連合会会長
理事(学外)	古野 金廣(後任)	平成28年6月1日 ～平成30年3月31日	昭和47年 5月 麻生セメント(株)入社 平成 元年 4月 麻生教育サービス(株)代表取締役社長 平成19年 7月 (株)麻生代表取締役専務取締役 平成19年 7月 学校法人麻生塾副理事長 平成19年12月 麻生レコードマネジメント(株)代表取締役 社長 平成28年 6月 公立大学法人福岡県立大学理事

理事(学外)	芳賀 晟 壽	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和51年 1月 (社)北九州青年会議所理事長 昭和56年 8月 (株)芳賀代表取締役社長・会長 昭和56年12月 芳賀教育文化振興会理事長 昭和62年10月 福岡県教育委員会委員・委員長 平成 2年11月 社会福祉法人年長者の里理事長 平成 3年 7月 北九州商工会議所常議員 平成14年10月 (社)北九州高齢者福祉事業協会会長 平成18年 4月 公立大学法人福岡県立大学理事 平成20年 4月 北九州市社会福祉協議会会長
理事(学内)	石 崎 龍 二	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 5年 3月 九州大学理学研究科博士後期課程修了 平成 6年 4月 福岡県立大学助手 平成12年 4月 福岡県立大学助教授 平成25年 4月 福岡県立大学人間社会学部教授 平成26年 4月 福岡県立大学教員兼務理事
理事(学内)	松 浦 賢 長	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 2年3月 東京大学医学系研究科博士課程修了 平成 3年3月 カリフォルニア大学バークレー校研究助手 平成 5年4月 京都教育大学教育学部助教授 平成 9年3月 カリフォルニア大学バークレー校客員研究員 平成15年4月 福岡県立大学看護学部教授 平成20年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属図書館長 平成22年4月 福岡県立大学看護学部教授 兼附属研究所長 平成25年4月 福岡県立大学教員兼務理事
監事	古 本 栄 一	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	平成 6年 4月 弁護士開業 平成21年 2月 古本法律事務所開設 平成24年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事
監事	梅 田 久 和	平成28年4月1日 ～平成30年3月31日	昭和60年 4月 麻生セメント入社 平成 7年10月 センチュリー監査法人入所 平成17年 6月 新日本監査法人マネージャー 平成17年 7月 梅田公認会計事務所開設 平成28年 4月 公立大学法人福岡県立大学監事

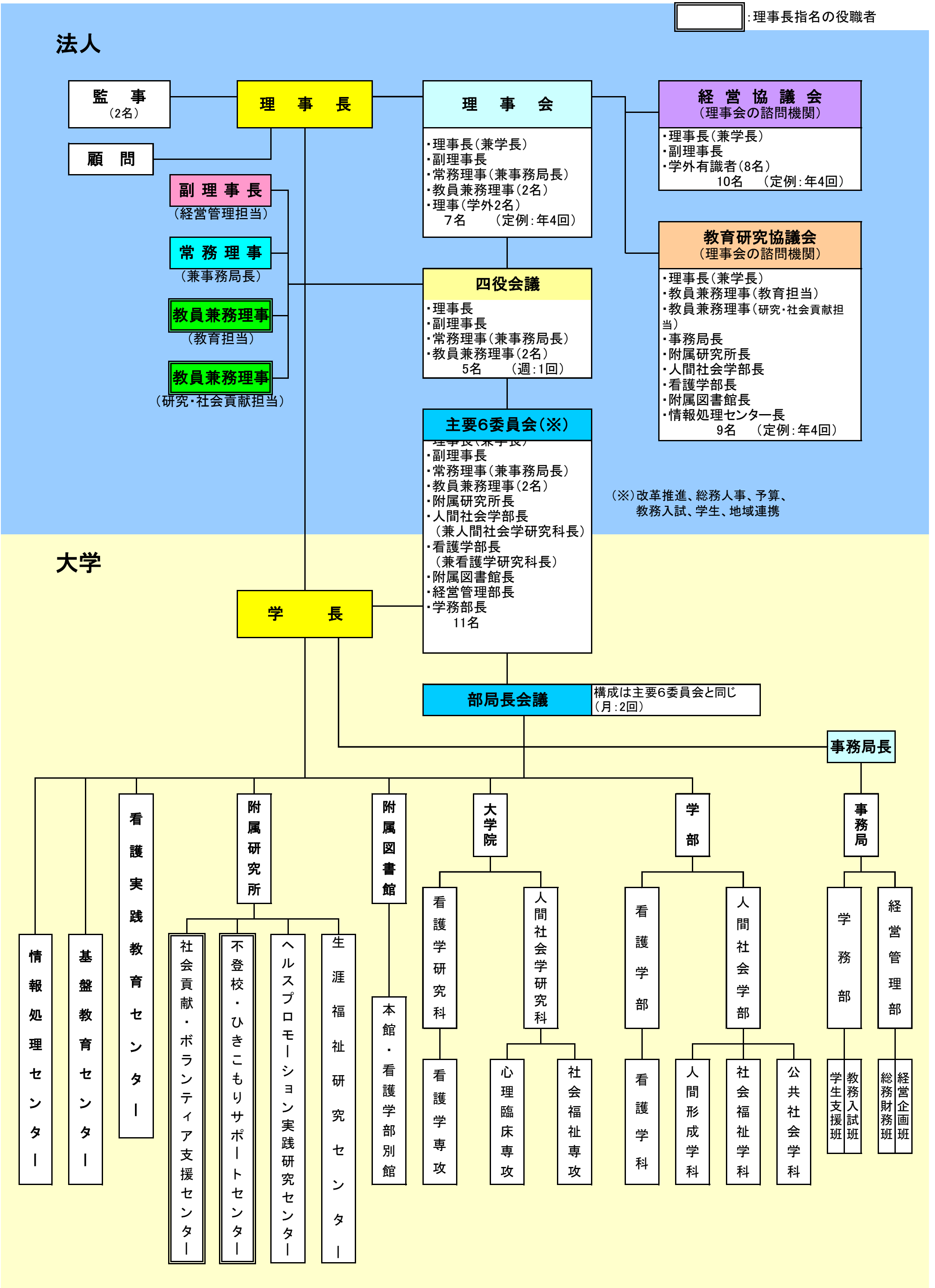
(2)教員			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
教員数	常勤(正規)		110人	110人	110人	102人	104人	108人
	内 訳	教授	28人	26人	28人	23人	23人	21人
		准教授	28人	34人	32人	31人	32人	34人
		講師	25人	20人	20人	22人	23人	24人
		助教	15人	17人	19人	21人	21人	21人
		助手	14人	13人	11人	5人	5人	8人
	非常勤講師		112人	127人	130人	112人	146人	134人
	合計	222人	237人	240人	214人	250人	242人	

教員数増減の主な理由

平成28年度に非常勤講師数が減少しているのは、本学で新任教員を雇用したこと及び育休者が復帰したこと等による。

(3)職員										
		平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度			
職員数	事務局長	1人	1人	1人	1人	1人	1人			
	正規職員	県派遣	20人	18人	15人	13人	13人	14人		
		プロパー	0人	2人	5人	7人	7人	7人		
		他団体派遣	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
		その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人		
	計	20人	20人	20人	20人	20人	21人			
嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	8人	10人	11人	11人	13人	15人				
合計	29人	31人	32人	32人	34人	37人				
職員数増減の主な理由										
平成28年度に職員数が増加しているのは、代替要員補充に伴う増員等による。										
(4)法人の組織構成										
別紙のとおり										
3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)					
					23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
人間社会学	計	630名	706名	112%	118	116	115	113	112	112
内訳	人間社会学部	600名	681名	114%	118	117	116	115	112	114
	公共社会学科	200名	222名	111%	118	118	119	116	113	111
	社会福祉学科	200名	232名	116%	116	117	116	118	113	116
	人間形成学科	200名	227名	114%	120	116	115	110	112	114
	大学院 人間社会学研究科	30名	25名	83%	120	90	90	90	97	83
看護学部	計	384名	378名	98%	99	100	102	100	101	98
内訳	看護学部	360名	354名	98%	101	99	102	101	101	98
	看護学科	360名	354名	98%	101	99	102	101	101	98
	大学院 看護学研究科	24名	24名	100%	79	108	104	92	100	100
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										

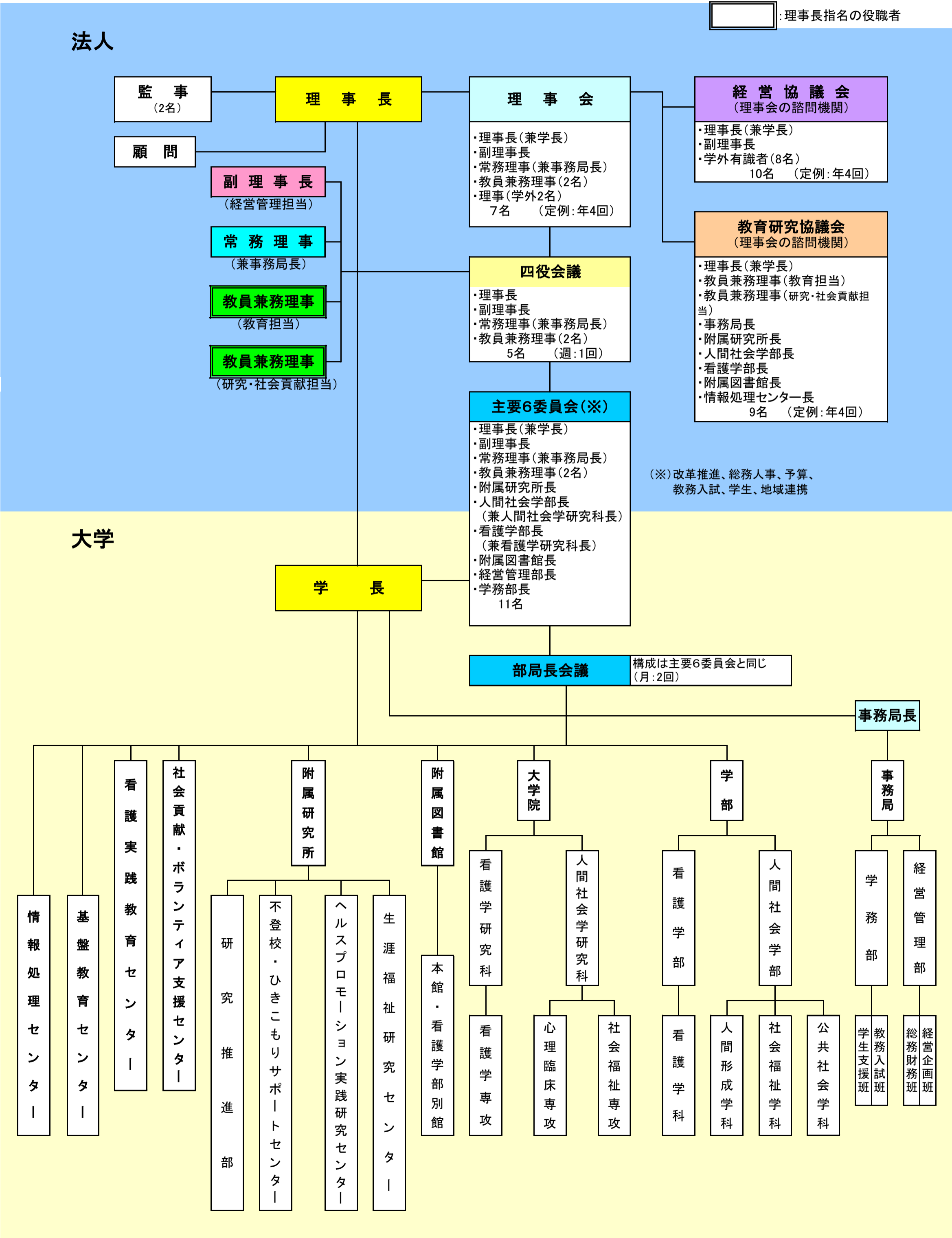
4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	柴田 洋三郎	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	公立大学法人福岡県立大学理事長
副理事長	松本 次好	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	公立大学法人福岡県立大学副理事長
学外委員	秋吉 一明	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	福岡県立大学と共に歩む会 会長
	川上 鉄夫	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	福岡県立大学同窓会 会長
	北原 守	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	北九州市手をつなぐ育成会(親の会) 顧問
	佐藤 博英	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	福岡県立田川高等学校 校長
	齋藤 明	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	前 独立行政法人大学入試センター 監事
	佐渡 文夫	平成28年4月1日～平成30年3月31日	田川商工会議所 会頭
	二場 公人	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	田川市長
	吉村 恭幸	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	(一社)福岡県社会保険医療協会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	柴田 洋三郎	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	理事長
学部長	赤司 千波	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	看護学部長兼看護学学研究科長
	田中 哲也	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	人間社会学部長兼人間社会学研究科長
学内組織の長	石崎 龍二	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	教員兼務理事
	永嶋 由理子	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	附属研究所長
	郝 暁卿	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	情報センター長
	福田 恭介	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	附属図書館長
	松浦 賢長	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	教員兼務理事
	吉村 静男	平成28年4月1日☐平成30年3月31日	事務局長



公立大学法人福岡県立大学組織図

平成28年6月1日現在

: 理事長指名の役職者



全体評価

法人自己評価

I 全体

【平成28年度】

公立大学法人である本学は、福祉系総合大学として保健・福祉の高度な専門的人材の養成、地域に貢献する研究及び社会活動の推進の役割を担っています。

学長のリーダーシップのもと、引き続き大学改革を推進し、PDCAサイクルによる改善に取り組みました。特に、学長主導のもと、これからの社会（少子高齢化社会、情報化社会、国際化社会、地域創生社会）を担う学生の汎用力を高めるための教育改革に取り組みました。前年度から導入した全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」「国際交流プログラム」「キャリア形成支援プログラム」に加え、新たに「保健福祉情報教育プログラム」を導入しました。全学横断型教育プログラムでは、教員が学部・学科・コースの枠を越えてその教育にかかわることになり、本学の学部教育の大きな特徴の一つとなりました。

入口管理は、質の高い学生確保のため、入試広報活動についてスマートフォン対応をはじめとするホームページの見直し・改善を積極的に行いました。また、オープンキャンパス（2回）、入試説明会、高校訪問、高校教員情報交換会、高校生向けサマーセミナー等を全学的に教職員協働で推進しました。その結果、オープンキャンパスの参加者は目標の約170%に達しました。入学者選抜試験における学部の実質倍率は3.0倍となりました。

出口管理は、学生委員会の下に置かれた進路・生活支援部会を中心に、まず国家試験対策に取り組み、新卒者における看護師合格率は95.2%、保健師100%、社会福祉士62.7%、精神保健福祉士100%と全国平均を上回る合格率を達成することができました。また、就職対策は、学生支援班及びキャリアサポートセンターの積極的関与に加え、教員を対象に早期からの就職状況開示を行うことにより課題意識の共有を図った結果、就職率は99.1%と高い水準を達成しました。

教育は、教養教育、専門教育に加え、両学部連携による科目を開講しました。また、eラーニングシステムの利用促進を図り、115コースを開講し、学生の利用率は86.5%となりました。授業評価アンケートの内容を見直し、改訂版による評価を実施しました。また、本学の教育課題を分科会形式で議論するFDセミナーを開催し、教員のFDに対する意識と教育の質の向上に取り組みました。FD研修会等への教員参加率は89.3%となり、前年度を上回りました。学生の成績評価では引き続きGPA制度を活用し、GPA低得点の学生全員を面接指導する一方、GPA高得点の学生を学位記・卒業証書授与式で表彰しました。

研究は、全学的に科研費申請支援のための説明会を行い、その上で申請に向け全教員に個別に働きかけるなど、科学研究費補助金の応募率・採択件数の向上を目指しました。その結果、獲得金額は4,461万円、平成28年度科学研究費応募率は95.9%となり、目標を上回る水準を維持しました。また、附属研究所調整部会の下に公開講座小部会を設け、学内の公開講座及び県立三大学共同の公開講座の企画運営にあたり、研究成果発表・還元等の地域貢献活性化を図りました。査読付き論文数は47件、招待講演等の学会発表数は9件となっています。

研究奨励交付金事業は、プロジェクト研究において地（知）の拠点作りを目指す大学としての取り組み（COC）、及び交流協定を締結している韓国・中国の大学との共同研究を重点課題としました。また、科学研究費申請に向けた研究費補助制度を引き続き実施したことに加え、若手教員を対象にした研究助成制度や大学院生の研究助成及び学会発表支援制度の実施等により、研究を積極的に推進してきました。

地域貢献における各種活動は附属研究所を中心に活発に行うことができました。

国際交流は、南京師範大学、大邱韓医大学校、北京中医薬大学、三育大学校、コンケン大学、威徳大学に、新たな協定校である吉林大学珠海学院を加え、学生交流を中心に積極的に展開しました。受入留学生は22名となりました。また、短期研修制度（学生派遣）を威徳大学・大邱韓医大学校において実施しました。短期研修（大邱韓医大学校）の受入れも実施することができました。

総合的には、法人化後の第2期中期計画の5年目となり、第1期までの基盤整備の上に、継続した事業推進をするだけでなく、大学改革をガバナンス改革と教育・研究改革の両面にて推進し、本学の戦略的特徴を形作りつつ、強化すべき重点課題に取り組む体制を整備・運用できたと考えます。

Ⅱ 中期目標項目別

1 教育

【平成28年度】

1 教養教育の充実

教養科目の新たなカテゴリーを決定し、社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるため「社会人基礎力演習」を平成29年度前期から、グローバル化対応のため「グローバル社会論」を平成29年度後期から新規開設しました。

また、スキルアップ・ゼミとして「スタートダッシュのための就活塾」と「Critical thinking and discussion on Japanese pop culture」の2コースを開設しました。教養演習に関しては担当者向けのワークショップを行い、前年度担当者との相談体制を整えるとともに、教養演習テキストについては、学生編集委員による改訂・編集作業を行いました。

2 専門教育の充実

①人間社会学部では、専門性を高めるため、学科制からコース制への移行に伴い、各コースのカリキュラムの見直しを行い、実施しました。また、看護学部では、平成24年度入学生から適用した新カリキュラムの前期・後期科目について学生を対象とした調査を行い、開講時期の変更(2科目)と選択科目の見直し(1科目)を行いました。

②東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラム「東洋看護学演習」は、国内の補完代替医療の専門家による前期授業に切り替えました。

③実習教育の充実として、人間社会学部では教職免許取得希望者に対する学校インターンシップ(12回)を実施しました。また、看護学部では実習担当教員・指導者研修会と実習指導者連絡会議を開催し、実習指導體制の充実を図りました。

④両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進として、「専門職連携入門」を後期に開講しました。また、「不登校・ひきこもり援助論」、「子供学習支援論」を開設しました。

⑤専門教育の充実については、人間社会学研究科では、「子ども教育専攻」の開設(平成29年度)に至りました。看護学研究科では専門看護師コースの見直しを行いました。

⑥他大学との連携による教育の充実を目指して、人間社会学部では実践型インターンシップとして他大学の学生と取り組むプログラムを実施しました。看護学部では「ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム」を基にした連携事業(大学間連携共同教育推進事業)において、8大学の単位互換・相互受講の制度を推進しました。

3 教育効果を検証するシステムの構築

①学生による授業評価アンケートは内容を見直した改訂版を用いて実施しました。また、学生座談会を開催し、授業評価に対する学生のニーズ把握を行いました。

②アウトカム評価は、就職先アンケートと卒業生アンケートを各学部にて実施し、それらの集計・分析等を行いました。また、国家試験対策として、模擬試験、個別指導、学習会開催、学習環境整備等を実施しました。その結果、国家試験合格率はいずれも全国平均を上回りました。

4 教員の教育能力の向上

分科会形式のFDセミナーを開催し、本学の教育課題(授業評価アンケート、学生生活時間と単位の実質化、授業参観導入等)について議論するとともに、授業参観および公開授業を実施しました。また、大学院研究科ではFDセミナー実施、学外セミナーへの教員派遣とともに、大学院生にアンケートを実施し、大学院生によるFD会議を開催しました。さらに、他大学や実習先職員との合同研修による教師力向上戦略の実施として、人間社会学部(社会福祉コース)では九州ブロックの合同研修会への参加、看護学部では臨床教授との合同講習会や、他大学との研修会を開催しました。

5 優秀な学生の確保

アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するため、学部入試見直しの一環として、実用英語技能検定等の外部英語試験結果を推薦入試で活用することを決定するとともに、高大連携に関する情報交換会と高校生向けサマーセミナーを開催しました。また、大学院に関してはオープンキャンパスで入試に関する相談コーナーを設けました。

広報活動については、「入試広報手許資料」を改訂し、高校訪問における説明内容の標準化を行うとともに、スマートフォン用の大学公式サイト(入試情報)を充実させました。

6 学生支援の充実

プレ・インターンシップ、中長期・実践型インターンシップを充実しました。また、大学コンソーシアムを基盤とした学生コンソーシアムの取り組みを推進しました。大学院生への支援として、研究助成金制度と国内学会参加補助金制度を運用しました。

7 学習環境の充実

IT教育システムの充実を図り、eラーニングシステム研修会の開催、システムの改善、開設コースの増加促進に取り組みました。また、学生のアクティブラーニングを推進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入しました。

8 人間社会学部の改革

全学横断型教育プログラムとして「保健福祉情報教育プログラム」を開設しました。「国際交流プログラム」においては、4年次卒業ルート of 学生が1名留学しました。「援助力養成プログラム」においては、カリキュラム充実の一環として新たな科目「子供学習支援論」を開設しました。

実施事項別評価は、Aは1項目、Bは23項目とします。

2 研究

【平成28年度】

1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進については、附属研究所内に新たに研究推進部を設置しました。「地域教育課題」に関する研究と「医療福祉情報システム」に関する研究の2課題を重点研究として推進しました。また、地域貢献と国際交流推進のため「地域・国際コーディネーター(常勤)」を配置しました。学際的研究プロジェクト数が3件、産学官連携契約件数が2件、提携協定校との共同研究数は3件、招聘件数は2件となりました。
- ② 外部研究資金獲得の推進については、科研費応募率向上のための研修会を開催し、さらに個別の申請支援を行うことにより、科研費応募率が95.9%、科研費獲得件数35件、金額が4,461万円となり、目標を上回りました。
- ③ 研究倫理の徹底については、厚生労働科学研究を対象とした利益相反に関する審査体制を整備し、外部有識者を入れた審査を行いました。若手研究者を対象としたセミナーも開催しました。また、公私立大学動物実験施設協議会による動物実験施設の外部検証を受審しました。

実施事項別評価は、Aを1項目、Bを2項目とします。

3 社会貢献

【平成28年度】

1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討については、まず中国の吉林大学珠海学院と交流協定を締結しました。協定校である大邱韓医大学、三育大学、威徳大学、北京中医薬大学、南京師範大学を国際交流推進部会員が訪問し、文化・学術交流推進について議論しました。また、後藤寺小学校の総合学習に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施しました。伊田小学校の英語授業に留学生が講師として参加しました。協定締結校との文化・学術交流の実績としては、教員が25名交流し、文化交流プログラムを4回実施しました。
- ② 留学生の支援体制の充実については、英国短期語学演習プログラムが福岡県の「世界に打って出る若者育成事業補助金」に採択されました。交流協定校への短期派遣プログラムを、威徳大学と大邱韓医大学にて実施しました(学生10名参加)。また、韓国の大邱韓医大学から短期研修プログラムを1か月間受け入れました(10名受入)。受入留学生数は22名でした。
- ③ 産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進については、附属研究所の改組に伴い、今後の保存のあり方について見直しと整理を行いました。

2 県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進については、以下の取組みを行いました。

- ① 附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進については、田川市・福岡県立大学包括的連携協定に基づく連携事業(1件)が実施されました。県立三大学連携推進会議で協議し、各大学で実施予定の講演会、公開講座等の情報を共有しました。三大学連携公開講座の一環として、本学では5つの講座を開きました。

3 地域に貢献する大学としての認知度アップについては、以下の取組みを行いました。

- ① 地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施については、生涯福祉研究センターを中心に、相談事業の実施・拡充と地域活動の強化に取り組みました。ヘルスプロモーション実践研究センターを中心に、健康教室と相談事業を行いました。また、不登校・ひきこもりサポートセンターを中心に、県大子どもサポーター派遣事業を行い、延べ2,571人を派遣しました。キャンパススクール事業は延べ1,417人を対象としました。キャンパススクールの登校開始率は66.7%と高い水準でした。社会貢献・ボランティア支援センターを中心に、外部団体・機関と学生とのコーディネートを実施し、団体登録が174件、活動学生数が延べ477人となりました。また、福岡県重点課題授業「土曜の風」(地域学習支援事業)を開始し、延べ1,214回の学生派遣を行いました。
- ② 資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施については、生涯福祉研究センターとヘルスプロモーション実践研究センターの2センターを中心とした取組みを行いました。生涯福祉研究センターでは、特別支援教育に関するスキルアップ講座や、足と靴の健康講座等を実施しました。ペアレントトレーニング・スキルアップ講座を、直方市との共催事業として実施しました。また、ヘルスプロモーション実践研究センターでは、看護師・助産師・保健師を対象としたリカレント教育を行いました。リカレント教育については、両学部合わせ60人の卒業生が参加しました。
- ③ 地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略については、不登校・ひきこもりサポートセンターが南京師範大学の学生6名の研修受入れを行いました。また、附属研究所公開講座を3コース実施しました。
- ④ 看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実については、リクルートのためのリカレント研修会をはじめとして、リカレント教育を実施しました。また、地域住民・企業を対象に、糖尿病予防等に関する出前講義を行いました。リカレント研修会の参加人数は249人、認定看護師コースの入学試験倍率は2.2倍、認定審査合格率は100%となりました。

実施事項別評価は、Aは4項目、Bは7項目とします。

4 業務運営

【平成28年度】

1 運営体制の改善については、以下の取組みを行いました。

- ① 事務局機能の強化については、公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修に3名が参加しました。また、学内FD・SD研修「大学改革セミナー」を実施しました。データ交換等にファイル共有システムを積極的に活用しました。三大学事務局長会議、事務局部長会議を開催しました。
- ② 教員の士気を高める教育環境の整備については、ベストティーチャー賞を1名選定しました。
- ③ 教員の個人業績評価については、平成27年度分の個人業績評価を実施しました。
- ④ リスクマネジメント体制の整備については、平成28年2月に制定した「危機管理基本マニュアル」の周知・徹底を図りました。

実施事項別評価は、Bを4項目とします。

5 財務

【平成28年度】

1 外部研究資金等の積極的確保については、外部研究資金公募情報をホームページに掲載し、全教員にメールを発信するとともに、科研費応募率向上のための研修会を実施しました。また、大学広報誌により県大基金への寄付金募集等を行うとともに、自主財源基金設立に対する検討を行いました。

2 運営経費の削減・抑制については、以下の取組みを行いました。

- ① 業務改善による経費の削減については、急を要する物品以外は消耗品の集中発注システムを活用し、一括発注に努めました。また、外灯(駐車場、通路66基)をLED照明化するとともに、屋内蛍光灯が故障した際随時LED電灯への切替えを行いました。
- ② 人件費の抑制については、教育研究水準の維持・向上に配慮した上で、退職教員の補充においては若手教員採用に努めました。また、超過勤務縮減対策の一環として週休日の振替を徹底しました。

実施事項別評価は、Bを3項目とします。

6 評価及び情報公開

【平成28年度】

1 自己評価の見直しについては、県公立大学法人評価委員会の評価結果について大学改革セミナーを開催し、全教職員に周知するとともに、教員の教育・研究・社会貢献の実績調査を行い、ホームページに掲載しました。また、大学評価・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受審した結果、本学は「大学評価基準を満たしている。」と認定されました。

2 県大ブランド力の強化については、ホームページをリニューアルして見やすくし、またスマートフォンでの閲覧を可能とするとともに、ホームページの掲載情報の充実を図りました。あわせてフェイスブックを適宜更新し、広報活動の充実を図りました。また、本学の教育研究情報やイベント情報等について積極的に新聞社等へ情報提供しました。

実施事項別評価は、Bを2項目とします。

Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

【平成28年度】

・人間社会学部と看護学部の連携による魅力ある教育システムの構築については、「専門職連携入門」「不登校・ひきこもり援助論」「海外語学演習・実習」を引き続き開講するとともに、新たに「子供学習支援論」を開講しました。

・地域とアジアの保健・医療・福祉に貢献する研究や社会貢献活動の推進については、健康教室や公開講座の取組みを進め、また、不登校・ひきこもりサポートセンターの取組みでは、キャンパススクールにおいて高い登校開始率を達成しました。さらに海外提携協定校を新たに1校加え、協定校との共同研究3件、教員交流数25名の成果を得ました。

・事務局における専門性を備えた人材の確保・育成については、プロパー職員等を公立大学協会主催の事務局員対象研修会に参加させました(3名)。

・地域に貢献する大学としての認知度向上については、全国の関係団体等から不登校・ひきこもりサポートセンターに視察訪問の申し込みがあり、それを受け入れました。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 1 教育</p>	<p>「保健・医療・福祉の現場で中核となって活躍する資質を持った優秀な職業人を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡県立大学は、保健・医療・福祉の専門職としての実践的能力を身に付けさせるとともに、人間社会学部と看護学部との連携のもとで、関連する分野に関する幅広い視野を持ち、現場において他の専門職種と協働できる能力を育成する。 人間社会学部については、今後の社会的ニーズに的確に対応するため教育内容の改革に取り組む。 看護学部については、医療の高度化・ニーズの多様化に対応するため、学部及び大学院を通じた教育の充実を図る。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
----------------------	--

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 教養教育の充実 公立大学法人福岡県立大学の教養教育は、豊かな感性、柔軟な思考力、緻密な論理構成力および自己表現能力の習得をめざす。	1 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門科目の基礎と社会人・職業人として身につけるべき教養科目を中心に、カリキュラムや科目内容を検討・改編する。 ○達成目標 ・学生の成績 :教養科目全てを対象として C以上80%	1-1 【平成28年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○新科目の設置に伴い、学生の教育効果に基づいて既存科目の見直しを行う。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目の実施に向けて準備をする。 ○全学横断型教育プログラム関連科目を実施する。 ○既スキルアップ・ゼミに関連した新設科目の開設に伴い、「スキルアップ・ゼミ」コースを精選して実施する。 ○達成目標 ・スキルアップゼミ2コースの開設 ・学生の成績 :教養科目全てを対象として C以上80%	1	【平成28年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討・改編】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○既存科目の見直しについては、全学共通教養科目の削減・編成を提案し、教務・共通教育部会、各学部の教授会で承認された。また、単位修得における教養科目の区分について統合・再編を検討した。 ○社会人・職業人として必要な知識・スキルを身につけるための新科目については、本年度入学生より対象となる科目「社会人基礎力演習」を新規開設した(平成29年度前期から開講)。 ○全学横断型教育プログラム関連科目の実施に関しては、本年度、全学横断型教育プログラムの保健福祉情報教育プログラムに必要な科目「数学概論」、「情報処理応用演習」を新規開設した。 ○「スキルアップ・ゼミ」コースについては、以下の2コースを開設し、実施した。3年生対象の「スタートダッシュのための就活塾」(12月、2月、3月の全3回、受講者48名) 英語力アップを目指す全学年対象の「Critical thinking and discussion on Japanese pop culture」(11月、12月で全4回、受講者12名) ○目標実績 ・スキルアップゼミ2コース開設 ・学生の成績:教養科目全てを対象としてC以上92.3%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		1

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
※1 教養教育の充実の続き	<p>2【教養演習・総合科目の改善】 <両学部の教養演習、総合科目></p> <p>①学生の課題発見・解決能力、論理的思考力及び自己表現能力を高めるために、教養演習等における授業内容と方法を継続的に改善していく。 ・教養演習・総合科目の改善</p> <p>②語学について、従来の語学教育を見直し、アジアとともに発展する国際交流を推進させるために、アジア諸国の異文化理解と共にコミュニケーション能力を高める。 ・英語・中国語・韓国語教育の充実</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> :全学の教養演習及び総合科目において C以上80% ・語学教育カリキュラムと科目内容の検討・改編 :2科目増設</p>	2-1	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>【教養演習・総合科目の改善】 <教養演習・総合科目の改善> ○教養演習の授業内容・方法の充実を継続して行う。 ○学生編集委員会を中心に、平成27年度教養テキストを改善し、改訂版を作成する。同時に、共通テキストの大幅な見直し案の作成を継続して行う。 ○総合科目内において、グローバル化へ対応するための新科目を実施に向けて準備をする。</p> <p><語学教育の充実> ○英語教育見直しのひとつとして平成25年度から導入した外部テストを、各学部・学科の一、二年生対象に一年生は年2回、二年生は年1回実施する。 ○「教養演習英語クラス」を継続して開講する。 ○異文化理解のために購入した伝統衣装や伝統工芸品、DVD等を韓国語教育、中国語教育に積極的に活用する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> 全学の教養演習及び総合科目において C以上80%</p>	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>【教養演習・総合科目の改善】 <教養演習・総合科目の改善> ○教養演習の授業内容・方法の充実に関しては、昨年度までの経験を踏まえ、本年度の担当者に向けてワークショップを行った。また本年度の担当者からの相談に対応する体制をとった。 ○教養テキストの改善、共通テキストの大幅な見直し案の作成については、学生編集委員によって昨年度のテキストの校正作業を行った。また、挿絵(イラスト)を新たに作成し、新年度のテキストの挿絵を新しいものに差し替えた。 ○グローバル化へ対応するための新科目については、本年度入学生より対象となる科目「グローバル社会論」を新規開設した(平成29年度後期から開講)。</p> <p><語学教育の充実> ○外部テストG-TELPを4月に各学部・学科の一年生に、12月に一年生(2回目)と二年生に実施した。 ○「教養演習英語クラス」の開講を継続した。 ○異文化理解のために購入した資料は、韓国語、中国語の両教育において及び社会と文化等の他の科目において積極的に活用した。</p> <p>○目標実績 ・学生の成績 <人間社会学部><看護学部> 全学の教養演習及び総合科目においてC以上97.1%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		2

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 専門教育の充実	1 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①専門教育充実の視点からカリキュラムと科目内容の検討を行う。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数 ・全専門科目 ・学生の成績：専門教育科目において C以上80%	1-1 【平成28年度計画】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・科目間の履修の順序や関係を学生に分かりやすく示し、地域社会分野と国際共生分野、それぞれ充実を図る。 ・社会調査実習、演習において学生に研究課題の設定、調査、分析、考察の一連の過程を経験させる。 ＜社会福祉学科＞ ・前年度に開始した「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の専門科目の改善・充実について、1年生からのカリキュラムに反映させ、実施する。 ＜人間形成学科＞ ・新カリキュラム(基幹科目、コース展開科目、関連科目)の実施とともに、在学生への移行措置を実施・検証する。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラムの見直しと検討を行う。 ・平成24年度入学生から適用したカリキュラムの完成年度を受け、カリキュラムの評価と検討を行う。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーションで強化を図る。 ・倫理に関する講義を実施する。 ○達成目標 ・シラバスの改善科目数：全専門科目 ・学生の成績 専門教育科目において：C以上 80%	1	【平成28年度の実施状況】 【カリキュラムと科目内容の検討】 ＜人間社会学部＞ ○専門教育及び資格関係科目の充実に向けた教学体制の検討 ＜公共社会学科＞ ・地域社会、国際共生分野の履修モデルの変更を周知し、新カリキュラム移行にともなう資格取得指導を行った。 ・「社会調査実習」担当教員間において課題設定、調査・分析法等の教育内容と到達目標、中間報告会等の日程調整の確認を行った。 ＜社会福祉学科＞ ・「社会福祉士」「精神保健福祉士」「学校ソーシャルワーカー」等の資格関係・専門科目の改善・充実について、1年生からのカリキュラムに反映させ、実施した。 ＜人間形成学科＞ ・新カリキュラム実施に伴い、移行期間の授業展開を学生に周知するとともに、廃止科目の未・再履修者への対応を検討・確認した。 ＜看護学部＞ ○新カリキュラムの見直しと検討を行った。 ・平成24年度入学生から適用したカリキュラムの完成年度を受け、新カリキュラムに対する調査を行い、教務部会にてカリキュラムの見直しを行った。 2科目について開講時期の変更を行い、選択科目の見直し検討を行った。 ○専門職としての規範意識の向上と職業倫理を身につける。 ・新入生オリエンテーション、実習前オリエンテーション(1年生、3年生、4年生)で強化を図った。 ・倫理に関する講義を前期に実施した(「基礎看護学概論」)。後期科目の生態機能看護学Ⅲ(選択)において、「薬害被害者の講義：陣痛促進剤事故について知ろう～実態と問題点～」を行い、112名が参加した。 ○目標実績 ・シラバスの改善科目数：全専門科目について必要な見直しを行った。 ・学生の成績 専門教育科目において：C以上 89.2%(人社92.4%、看護84.6%)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		3

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>なお、助産師養成は平成27年度から大学院修士課程に移行する。 また、専門職としての規範意識の向上と職業倫理の涵養を強化する。 さらに、高度な地域保健福祉の総合的な実践、保健福祉サービス供給のシステムの中核を担うことのできる人材を育成する大学院教育の充実を図る。</p>	<p>2【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞</p> <p>①東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムの検討・実施 ホリスティック人間論、東洋看護学演習等の教育プログラム内容の検討</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%</p>	<p>2-1【平成28年度計画】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞</p> <p>○東洋医療と西洋医療を融合した教育プログラムを新たな体制のもとに実施する。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：教育プログラム C以上80%</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】 【東洋医療を導入した教育プログラムの構築】 ＜看護学部＞</p> <p>○東洋医療と西洋医療の融合領域を専門とする非常勤講師(国内)による授業「東洋看護学演習」を前期に開講した。</p> <p>○目標実績 ・学生の成績：教育プログラム C以上93.8%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		4

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	<p>3【実践力強化のための実習教育の充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①看護実践能力育成のための実習教育の充実 ②人間社会学部における実習教育の充実 ③実習前後における学習内容の充実</p> <p>○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ・教育・保育・養護実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%</p>	<p>3-1【平成28年度計画】 【実践力強化のための実習教育の推進】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議の内容を検討し、年1回開催 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを行う ・実習打ち合わせの充実(臨床との共同会議開催) ・学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入を行う ○新カリ学生に対する看護基本技術習得支援の実施と項目の検討 ＜人間社会学部＞ ○3学科がそれぞれ実施している実習教育について現状を分析検討し、課題を明らかにしていく。 ○公共社会学部における実習指導の充実 ・社会調査実習の配当年次変更後の授業実施体制の検討、教育実習の事前指導の充実。 ○社会福祉学部における実習指導の充実 ・各実習間の指導内容の標準化を図るための取り組みを行う。 ○人間形成学部における実習指導の充実 ・実習指導体制と指導内容の見直しを行う。</p> <p>○達成目標 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 年1回以上 ：学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入 1回/年 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目3以上 75% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上80%</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】 ＜看護学部＞ ○実習指導者連絡会議は3月9日に開催した。 ○実習指導体制の実施を継続、および見直しを行った。 ・教員・指導者研修会を9月15日に開催した。 ・臨床との共同会議開催は各領域で実施中。全体は3月9日に実施した。 ○新カリ学生に対する看護基本技術習得支援の実施と項目の検討については、学びのカルテによる集計及び分析を終了してまとめ、本学紀要に投稿した。</p> <p>＜人間社会学部＞ ○3学科の学生に関連する教育実習については、教職を希望している2, 3年生に対して学校へのインターン実習(12回)を奨励した。 ○公共社会学部における実習指導の充実 ・教育実習について、実施予定者が円滑に実習に取り組めるよう、全員に複数回に及ぶ模擬授業を課して、実践的内容を事前指導に盛り込んだ。 ○社会福祉学部における実習指導の充実 ・各実習における指導内容の連関性を高めるため、実習日誌等の記録作成方法について他大学での実施状況を把握した。担当者間で今後の取組について検討を行い、記録様式の修正・変更を行った。また、各実習において開催している実習報告会等の目的と方法について情報共有し、指導内容を見直した。 ○人間形成学部における実習指導の充実 ・幼稚園教育実習、保育所実習、施設実習ごとに各分野の実務経験がある教員を新たに採用し、配置し、連携を確認した。事前事後指導においては、現場での指導の観点から、指導の方針及び日誌の改訂について検討し、指導内容の統一を図り、日誌は刷新した。</p> <p>○目標実績 ・看護学部における臨地実習指導体制の整備 ：実習指導者連絡会議開催 1回 ：学生の対人スキル向上のために実習前のコーチング学習の導入 1回 ・教育・保育・養護・社会福祉士実習における事前事後指導の充実 ：事前事後指導科目4科目 100% ・学生の成績 ：事前事後指導科目 C以上 96.1%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		5

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	4【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ①保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」の充実を図るとともに、選択科目としての単位化を検討する。 ②「両学部で学ぶ専門的連携科目」(「社会貢献論」、「社会貢献論演習」、「不登校・ひきこもり援助論」、「不登校・ひきこもり援助応用演習」)の充実を図る。 ③両学部の学生が共に海外の保健・医療・福祉の現場を訪れ、語学を学びながら現場体験を行う「海外語学実習」の実習先の開拓を行うとともに、その事前準備のための「海外語学演習」の充実を図る。 ④社会貢献フォーラムと公開卒論発表会の開催 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	4-1【平成28年度計画】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○保健・医療・福祉の現場の専門職を招聘し「他の学部の専門分野を学ぶ実学的教育プログラム」(として平成27年度から単位化した「専門職連携入門」)を充実を図りながら実施 ○「全学横断型科目」(「不登校・ひきこもり援助論」「子供学習支援論」)を充実を図りながら実施 (※科目の区分目「両学部で学ぶ専門的連携科目」は平成28年度から「全学横断型科目」へ変更、「社会貢献論」「社会貢献論演習」「不登校・ひきこもり援助応用演習」は平成28年度入学生から廃止し、「問題解決演習(2年次開講)」「子供学習支援論(1年次開講)」を新設) ○「海外語学演習」「海外語学実習」の実施 ○社会貢献フォーラムの実施 ○公開卒論発表会の実施 ○達成目標 ・学生の成績 :C以上80%	1	【平成28年度の実施状況】 【両学部連携による他の専門職と協働できる実学的専門教育科目の推進】 ○「専門職連携入門(全8回)」を後期に開講した(受講者数45名)。 ○「全学横断型科目」の「不登校・ひきこもり援助論」(受講生220名)、「子供学習支援論」(受講者97名)を開講した。 ○「海外語学演習」(受講生16名)を開講、「海外語学実習」(16名参加)を実施した。 ○社会貢献フォーラムを平成28年度不登校・ひきこもり支援フォーラム内で開催した。 学生4名がボランティア活動をポスター発表した(参加者53名)。 ○人間社会学部の卒業論文発表会を開催した(学外参加者39名)。 看護学部の卒業研究発表会を開催した(学外参加者11名)。 ○目標実績 ・学生の成績:C以上 96.1%(人社99.7%、看護94.5%)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		6

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	5【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ①高度専門職業人の育成を重視したカリキュラム体制にしていくため、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程の見直し検討を行う。 ○達成目標 ・充足率 (入学者数)／(入学定員) :100%	5-1【平成28年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直し検討 心理臨床専攻 ・日本臨床心理士資格認定協会による枠内で、および国家資格化の動向を踏まえながら、学生のニーズに合わせて、新設科目等を検討する。 社会福祉専攻 ・高度専門職業人の育成に向け、新カリキュラムの実施を開始する。また、その内容について確認していく。 子ども教育専攻(仮称) ・平成29年度開設に向けて必要な手続き等を行う。 ○達成目標 ・充足率 社会福祉専攻 :100% 心理臨床専攻 :100% 子ども教育専攻(仮称) :100%	1	【平成28年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜人間社会学研究科＞ ○高度専門職業人の育成に向け、人間社会学部の改革検討に合わせて大学院修士課程のカリキュラムの見直しについて検討した。 ＜心理臨床専攻＞ ・公認心理師(国家資格)カリキュラムの公示が来年度となったので、新科目等はそれを待って来年度検討することを決定した。 ＜社会福祉専攻＞ ・新設科目「社会福祉研究法」「量的研究法」「質的研究法」を開講し、教員間で授業内容を確認した。 ＜子ども教育専攻＞ ・平成28年9月に届出を行い、平成29年度開設した。 ○目標実績 ・充足率 社会福祉専攻 : 50% 心理臨床専攻 :166% 子ども教育専攻 : 33%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・充足率 社会福祉専攻の土日開講について、卒業生を含めた施設従事者等への周知に努める。 また子ども教育専攻については、開設初年度であるため、今後さらに周知に努める。		7

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	<p>6【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>①高度な看護専門職教育の充実 ②現場看護職の研究支援及び相互交流による高度実践能力の育成 ③大学間のがんプロフェッショナル連携の構築</p> <p>○達成目標 ・充足率(入学者数)/ (入学定員):100%</p>	<p>6-1【平成28年度計画】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・各専門看護師コースについては、継続して情報収集及び教育の充実に向けた整備を行う。 ○現場看護職の相互交流による高度実践能力の育成(継続) ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議参加 ・平成29年度以降のがんプロ参加に関する検討 ○修士修了生の支援 ・研究科コースの修了者の研究支援を行う ・CNSコース3コースの修了後の専門看護師資格習得までの支援体制を整備する</p> <p>○達成目標 ・充足率(入学者数)/ (入学定員):100%</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】 【高度専門職業人の人材育成】 ＜看護学研究科＞</p> <p>○高度な看護専門職教育の充実・見直し検討 ・がん看護専門看護師コースは26単位課程の認可が切れる平成28年度をもって終了した。 ○小児看護学、精神看護学、成人看護学、地域看護学の分野において、現場看護職の相互交流による高度実践能力の育成を図る検討会等を開催した。 ○大学間のがんプロフェッショナル連携の構築(継続) ・がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン会議の全体研修会と最終評価会に参加した。 ・平成29年度以降のがんプロ参加については、がん看護専門看護師コース終了に伴って不参加とした。 ○修士課程の修了生の支援 ・精神看護学、地域看護学の研究コース修了者の研究支援を行った。 ・精神看護専門看護師コース、がん看護専門看護師コース修了者の研究支援を行った</p> <p>○目標実績 ・充足率(入学者数9名/入学定員12名):75%</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 充足率が目標に達していない(75%)ことを受け、受験生向けの研究科パンフレットを平成29年度に刷新することとした。</p>	No.1 「②入学者 選抜試験 (大学院)」	8

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※2 専門教育の充実の続き	<p>7【他大学との連携による教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門領域に応じた他大学との連携による教育の充実<人間社会学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムの構築<看護学部> <p>①両学部において、専門領域に応じた他大学との連携プログラムを検証し、実施する。</p> <p>②看護学部においては、ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアムを構築し、講義の相互受講システム、大学連携による授業科目の提供など、教育の充実を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他大学との連携プログラムの件数 :1件以上/年 <人間社会学部> ・大学間連携による開講科目数 :1科目以上 <看護学部> ・ケアリングアイランド九州・沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 1回/年 :テレビ会議 2回以上/年 	<p>7-1【平成28年度計画】</p> <p>【他大学との連携による教育の充実】</p> <p><人間社会学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科の専門領域に対応した高度なインターンシップ活動について九州・沖縄・山口地域の大学との連携の方向性を検討し、教育の充実に向けた連携プログラムを検討する。 <p><看護学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を開催する。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会の開催 ・ホームページを更新し、ニュースレターを発行する。 ・外部評価委員会による事業評価を実施する。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・キャリア像確立講義のオンデマンド配信を実施する。 ・ナーシングキャリアカフェを開催する。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査を実施する。 ○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・連携大学での講義の単位互換または相互受講を実施する。 ・特徴科目における授業の一部をオンデマンド配信できるよう収録、コンテンツ化する。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行う。 ・国際協力看護領域及び災害看護領域における合同短期研修を実施する。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修を実施する。 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携による開講科目数 :1科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議 :対面会議 2回/年 :テレビ会議 2回以上/年 	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p><人間社会学部></p> <ul style="list-style-type: none"> 実践型インターンシップとして他大学の学生と一緒に取り組む連携プログラムを実施した(6月~12月末、本学学生2名、北九州市立大学学生1名)。 <p><看護学部></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアムの充実 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議を2回開催した。 ○連携8大学及びステークホルダーの代表からなる共同教育連携運営協議会を4回開催した。 ・ホームページは随時更新し、ニュースレターは9月に8号を発行した。 ・外部評価委員会による事業評価を実施した。 ○使命感育成を担当するキャリア像確立部会を開催し、事業計画の検討・修正を行った。 ・キャリア像確立講義のオンデマンド配信は11名が登録し、7名が単位を取得した。 ・ナーシングキャリアカフェを福岡と沖縄で合わせて19回開催した。 ・連携大学の卒業生に対する離職率調査・就職先調査を6月に実施した。 ○単位互換を担当する単位互換・相互受講部会を開催し、事業計画の検討・修正を行った。 ・連携大学での単位互換・相互受講の実施について、前期は連携校の学生延べ20名、後期は延べ15名が参加した。 ・特徴科目における授業の一部のオンデマンド配信に関しては、性教育学(福岡県立大学)、不登校・ひきこもり援助論(福岡県立大学)、国際看護学Ⅰ(聖マリア学院大学)の3科目をコンテンツ化した。 ○合同短期研修を担当する研修調整部会を開催し、事業計画の検討・修正を行った。 ・国際協力看護領域における合同短期研修を実施した。災害看護領域における合同短期研修を実施した。 ・新規付加価値コースにおける合同短期研修は、受入先との日程調整が整わず中止となった。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学間連携による開講科目数:2科目 ・ケアリングアイランド九州沖縄コンソーシアム会議:対面会議2回/年 テレビ会議5回/年 	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規付加価値コースにおける合同短期研修は、受入先との日程調整が整わず中止となった。 		9

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3 教育効果を検証するシステムの構築	1【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①学生による授業評価の継続的实施(前期、後期)とその結果に基づくFDセミナーの開催などを通じて教育内容の改善を図る。また学生との座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1-1【平成28年度計画】 【学生による授業評価の実施と有効活用】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価の実施(前期、後期) ○授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施する。 ○授業評価に関するFDセミナーを開催 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会等を実施する。 ○達成目標 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催 :年1回以上 ・学生による授業評価の回収率 :各授業科目の回収率70%以上	1	【平成28年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○学生による授業評価を実施した。 ○授業評価による授業改善目標の設定について教務部会と連携して実施した。また、授業評価アンケートの内容を見直し、実施した。 ○授業評価に関するFDセミナーを開催した。 ○学生による授業評価を聴取するため学生座談会等を実施した。 ○目標実績 ・学生による授業評価結果を反映したFDセミナーの開催:1回 ・学生による授業評価の回収率:86.1%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		10

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 教育効果を検証するシステムの構築の続き	<p>2【アウトカム評価システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞</p> <p>①就職先へのアンケートを実施する。 ②卒業生の実態を把握するアンケートを実施する。 ③就職先の評価、卒業生の実態、就職先等を総合的に評価し、対応を考えるシステムを作る。</p> <p>○数値目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上</p>	<p>2-1【平成28年度計画】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価システムの改善策を検討する。</p> <p>＜人間社会学部＞ ○卒業生の就職先からの評価を把握するため、就職先アンケートを実施する。 ○卒業生の実態を把握するため、卒業生アンケートを実施する。</p> <p>＜看護学部＞ ○就職先アンケートの内容を見直し、調査する。 ○卒業生アンケートの内容を見直し、調査する。 ○アウトカム評価システムに従って、アンケート内容を分析し、適切な対応を行う。 ・就職・進学に関する情報提供を行い、面接および指導を行う。 ・国家試験対策として、模試の実施・補講・個別指導を実施する。</p> <p>○達成目標 ・アンケート内容の見直し：年1回以上 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：95%以上 ・国家試験合格率 看護師：98%以上 保健師：90%以上 助産師：90%以上 社会福祉士：70%以上 精神保健福祉士：70%以上</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】 【アウトカム評価システムの充実】 ○アウトカム評価に用いるアンケート内容を見直した上で、就職先アンケートを実施し、集計・分析を行った。(対象：H26.4月入職の事業所、送付数174、回答数75、回収率43.1%)</p> <p>＜人間社会学部＞ ○卒業生アンケートの項目の見直しを進路生活支援部会で行い、アンケートを実施し、集計・分析を行った。(対象：H27年度卒業生、送付数137、回答数20、回収率14.6%)</p> <p>＜看護学部＞ ○病院就職説明会で就職先アンケート調査を実施し、教育ニーズを把握した。(対象：説明会参加病院、配付数59、回答数54、回収率92%) ○卒業生アンケートの内容を見直し、調査を実施し、集計・分析を行った。(対象：H27年度卒業生、送付数56、回答数11、回収率19.6%) ○病院・施設の情報をメール・展示で提供し、就職相談を随時実施した。看護師国家試験対策(模試、対策講座の開講等)を実施した。保健師国家試験対策(模試、対策講座の開講等)を実施した。</p> <p>○目標実績 ・アンケート内容の見直し：1回 ・就職率(就職者数/就職希望者数)：99.1% ・国家試験合格率 看護師：95.2% 保健師：100% 社会福祉士：62.7% 精神保健福祉士：100% (助産師については課程の大学院移行のため28年度の受験者なし)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 ・社会福祉士の国家試験合格率 平成29年度は、国家試験対策に関するガイダンスを早期に行い、学習会・対策授業では、前期にゼミ等小グループでの学習を促し、学科独自の模擬試験を導入するなどの国家試験に向けた学習支援を強化する予定である。</p>	No.8 「資格試験合格率、免許の取得」 No.18 「就職状況」	11

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
4 教員の教育能力の向上 学生にわかりやすい授業を提供するために教員の教育力の向上を図る	1【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①ワークショップや研修会などを企画し、実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ②教員間の授業参観システムの構築 ③Best Teacherによる公開授業の実施 ○達成目標 ・FD活動等への教員参加率：100% ・学生の成績 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観システムの構築 ：教員間の授業参観を実施 年1回以上	1-1【平成28年度計画】 【教員のFD活動の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー(ワークショップや研修会などを企画・実施し、授業改善に活かされたかを検証する。 ○教員間の授業参観の実施および課題の抽出 ○公開授業の実施および課題の抽出 ○教員の授業自己評価の実施・修正 ○達成目標 ・FDセミナー等教員参加率：95% ・学生の成績＜人間社会学部＞ ＜看護学部＞ ：両学部の常勤教員の全教科において C以上80% ・教員間の授業参観：年1回以上	1	【平成28年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○FDセミナー「Eラーニングの活用について」2回(68名)、「大学改革セミナー」1回(48名)、「授業評価アンケートの活用方法・ベストティーチャーの選考方法」1回(32名)を計4回実施した。Eラーニングセミナーは初心者向けと実践者向けを実施し、初心者の方の基本的な操作技術の習得、利用者の利用しづらさの軽減につながった。 ○教員間の授業参観は4回実施された。他者の授業を見ることで自身の講義プランニングや教授方法の参考になったとの意見が聞かれた。授業参観制度について事務的な手続きが十分周知されていない現状があり、報告書の未提出もあった為、周知を図っていく必要がある。 ○公開授業を実施した。教育関係者を含む外部からの参加もあり、地域に開かれた公開授業が実施できた。 ○2月に実施されたFDセミナーにおいて、教員が学生からの授業評価を受け、自己評価を行うとともに改善策を考え学生に還元するための方法をFDセミナーで話し合った。授業評価アンケートの活用方法について学生の意見を聞くために学生座談会を実施した。この結果を踏まえ、授業自己評価・改善プランを策定した。 ○目標実績 ・FDセミナー等教員参加率 89.3%(92/103名参加、大学院・学部FD参加者) ・両学部常勤教員の全教科におけるC判定以上の割合：90.9% ・教員間の授業参観：4回/年	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 FDセミナー等教員参加率は89.3%と、わずかに目標を達成できなかった。今後は、3か月に1度、部局長にセミナー参加状況を報告し、参加勧奨の機会を増やすこととした。	No.10 「FD」	12

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※4 教員の教育能力の向上の続き	1 ※【教員のFD活動の推進】の続き	1-2	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>【教員のFD活動の推進】 <人間社会学研究科><看護学研究科></p> <p>○大学院FD活動の推進 ・各専攻によるFD研修会議の開催 □学外の講師によるFDセミナーの開催 □学外で開催されるFDセミナーへの参加</p> <p>・大学院生へのアンケート実施 カリキュラム、授業、実習、修士論文作成等の観点及び総合評価について満足度を問う ・アンケート結果をもとにした大学院生参画によるFD会議の開催</p> <p>○達成目標 □大学院教員の大学院FD研修会への参加1回以上の教員:95% □大学院生の満足度:「中」以上:75%</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	B		13

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※4 教員の教育能力の向上の続き	2【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①看護学部と臨床との看護ユニフィケーションを構築し、教員の臨床での継続教育への参画を企画、実践していく。 ②大学と臨床現場との看護実践・教育・研究が有機的に連携するために、臨床教授等と協働したワークショップや講習会などを企画し、実習指導力を向上させる。 ③両学部と他大学との情報共有しながら、教育能力向上のための合同研修会などについて、検討及び実施する。 ○達成目標 ・臨床との共同研究数：年に1件以上 ・教員・指導者講習会実施数：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数：年に1人以上 ・他大学との合同FD開催数：年に1回以上	2-1【平成28年度計画】 【他大学や実習先の職員との合同研修による教師力向上戦略の推進】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討・実施 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、研究大会及び合同研修会等を継続実施する。 ○ブラッシュアップのためのセミナーを開講する。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行う。 ・臨床との共同研究を実施（継続） ・教員と臨床教授等の合同講習会実施 ・ブラッシュアップのためのセミナー開催 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等を実施する。 ○達成目標 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究を実施（1件以上／年）（継続） ・他大学との合同研修会、FD等を実施（1回以上／年） ・教員・指導者講習会実施数：年に1回以上 ・教員の臨床継続教育者数：年に1人以上	1	【平成28年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞ ○他大学との合同研修会などの検討・実施 ・社会福祉士養成校協会九州ブロックの加盟校として、長崎国際大学で開催された九州ブロック研究大会の社会福祉コースの教員3名は参加した。 総会で、本学は次年度から運営委員校を担当することになった。 ○ブラッシュアップセミナーを、「ドイツの児童福祉と専門職養成教育について」をテーマに、ドイツから講師を招き実施した。参加者11名。 ＜看護学部＞ ○臨床と教育研究との連携を図り、以下の取組を行った、 ・臨床との共同研究を実施（継続）：大学院がん看護専門看護師コース4件、小児看護学1件 ・教員・指導者研修会開催：実習指導者53名、教員23名参加 ・実習指導者連絡会議の開催：実習指導者53名、教員18名参加 ・ブラッシュアップのためのセミナー開催：大学院精神看護：年3回、研究法の授業1回 ・実習に関する他大学との合同研修会、FD等の実施 ：ケアリング FD&CSD研究参加(3名)、看護協会「看護学校と職場の連絡会」参加(3名) ○目標実績 ＜看護学部＞ ・臨床との共同研究を実施 5件（継続） ・他大学との合同研修会、FD等を実施 2回 ・教員・指導者講習会実施数：1回 ・教員の臨床継続教育者数：1人	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		14

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
5 優秀な学生の確保 本学の教育目標にかなった、健やかで心豊かな福祉社会の創造に夢と意欲をもつ学生を質・量ともに確保する。	1 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 ①学部・大学院で育成すべき学生像に沿って定められた学生・院生の受け入れ方針をもとに行っている選抜方法が効果的な方法であるかを検討する。 ②入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との分析を行い、選抜方法などの見直しを行う。 ③高校や高校生との連携を深めるための高大連携事業について検討・実施する。 ④大学院の入試説明会を見直しながら実施する。 ○達成目標 ・志願倍率<各学科の志願倍率(一般入試)> (志願者数/募集人員) :公共社会学科 6.5倍以上 社会福祉学科 6.0倍以上 人間形成学科 7.5倍以上 看護学科 5.5倍以上 ・辞退率<各学科> (辞退者数/合格者数(追加除く)) :両学部における辞退率 25%以下 ・充足率<大学院> (入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む) 20回以上、良好評価75%以上 (入学者数/入学定員) :大学院における充足率	1-1 【平成28年度計画】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するための取組 ・高大接続改革を見据えた、学部入試の見直し作業開始 ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績や進路などの関連に関する分析をもとにした、現行の入試方法における課題抽出作業の継続 ・「高大連携に関する情報交換会」及び「高校生向けサマーセミナー」の実施 <大学院> ○大学院入試部会を複数回開催し、現状分析を行い、アドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について取り組む。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・看護学研究科にH27年度から開講した助産学コース、老年看護CNSコースの入試説明会を学内外で実施する。 ○達成目標 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(6.5倍)、社福(6.0倍)、形成(7.5倍)、看護(5.5倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)) :25%以下 ・充足率<大学院>(入学者数/入学定員) :大学院における充足率 100% ・出前講義数及びアンケート :20回以上、良好評価75%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【アドミッションポリシーに合った質の高い学生の確保】 <学部> ○アドミッションポリシーに合った質の高い学生を確保するための取組 ・高大接続改革を見据えた、学部入試見直しの一環として、実用英語技能検定など英語の資格・検定試験の推薦入試での活用を決定した。 (看護学部・平成30年度入試から) ・入試時の成績や入試形態などと入学後の成績との関連について分析し、現行の入学者選抜方法における課題抽出を行った。 ・「高大連携に関する情報交換会」秋のオープンキャンパスと同時開催 参加者:高校教諭7校7名 「高校生向けサマーセミナー」夏のオープンキャンパスと同時開催 人間社会学部講座「社会福祉について考える-障害者施設虐待の現状と課題-」 参加者:10名 看護学部講座「いのちとやしのワークショップ」参加者:22名 <大学院> ○大学院入試部会を7回開催し、現状分析及びアドミッションポリシーに合った社会人志願者の確保について検討した。 ○大学院入試説明会を継続して実施する ・人間社会学研究科・看護学研究科とも、オープンキャンパスの相談コーナーで入試説明を行ったほか、コース毎の個別入試説明や入試説明会(関係団体の協力を得て学外で実施した広報活動も含む)を行った。 老年 個別入試説明3名(筑豊ブロック看護協会の協力を得て、募集案内チラシを看護の日に配布し、個別に説明した) 精神 入試説明会6名 科目等履修生募集等の説明8名 助産 入試説明会を学部生学年毎に開催、個別入試説明5名 ○目標実績 ・一般入試の志願倍率(志願者数/募集人員) 公共(7.0倍)、社福(6.1倍)、形成(6.7倍)、看護(5.6倍) ・両学部における辞退率(辞退者数/合格者数(追加除く)):19.5% ・大学院における充足率 85.2% ・出前講義数及びアンケート:回数24回、良好評価98.9%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・一般入試の志願倍率 人間形成学科の志願倍率が目標に達しなかったため、原因を分析し、平成29年度から広報活動を強化している。 ・大学院における充足率 大学院の充足率が目標に達しなかったため、平成29年度はさらに各種広報活動を行うこととした。	No.1 「入学者選抜試験」 No.5 「出前講義」	15

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※5 優秀な学生の確保の続き	2	2-1	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○広報活動等の改善の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入試広報手許資料」の改訂など、入試説明会での広報内容に係る改善を実施。高1,2年生をターゲットにした大規模イベント「夢ナビライブ2016」に参加。 ・新任部会員への研修及び「入試広報手許資料」の改訂により、高校訪問での説明内容の標準化を行った。「高大連携に関する情報交換会」で高校側が求める情報について意見聴取し、説明内容の改善や標準化に反映させた。 <p>○広報活動等の実施・修正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学紹介パンフレットの内容を改善し、最新版を発行した。 ・SNSを活用した受験生向け情報発信の試行へ向けて、「高大連携に関する情報交換会」で発信内容について意見聴取を実施した。 ・Facebookで、入試情報マガジン「福岡県立大学で学びませんか」を開始した。 ・スマートフォン用大学公式サイト(入試情報)を充実させた。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス参加者数及びアンケート :1,711名、良好評価 96% ・入試説明会参加者数及びアンケート :10会場、良好評価100.0% ・訪問高校数及びアンケート :30校、良好評価98.8% 	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	<p>No.3 「高校訪問」</p> <p>No.4 「入試説明会」</p> <p>No.5 「出前講義」</p> <p>No.6 「オープンキャンパス」</p>	16	
						B		

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
6 学生支援の充実 学生の学習意欲を高める仕組みづくりを行うとともに、入学から卒業後までのキャリア形成支援体制を充実させ、学習・就職活動を支援する。	1【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと各学部・学科との連携を深め、学生一人ひとりに対応したキャリア形成支援を行う。 ②1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の仕組みづくりを行い、実施する。また、キャリアサポートセンターの個別支援と連動させ、個々の学生の必要に応じた受講を促す。 ③1～2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなげる。 ④マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用した社会貢献活動やインターンシップ等の単位認定の仕組みを導入し、社会貢献・ボランティア支援センターと連携しながら実施する。 ⑤未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間、継続的なキャリア形成支援を行う。 ⑥優秀学生の表彰制度の構築やドロップアウト予防の学習支援体制の構築等、GPA制度の有効活用について検討・実施する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施：表彰の実施(年1回)	1-1【平成28年度計画】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○キャリアサポートセンターの個別相談機能を強化するとともに、センターと教員の情報の共有を図る。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座を実施する。 ○1年次から2年次に行うプレ・インターンシップを充実させ、3年次以降のインターンシップにつなぐ。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定を、正規の授業として実施する。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などに対して、概ね卒業後1年間の経過についてキャリア形成支援を実施する。 ○優秀学生の表彰制度を実施し、GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援を実施する。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○達成目標 ・プレインターンシップ及びインターンシップ後の学生アンケート ：良好評価 75%以上 ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 75%以上 ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率100% ・表彰制度の実施：表彰の実施(年1回) ・キャリアサポートセンター利用数 ：利用者実数：150人以上、延べ900件以上	2	【平成28年度の実施状況】 【入学から卒業後までのキャリア形成支援体制の強化】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○キャリアサポートセンターと教員の情報共有として、進路・生活支援部会にオブザーバーとしてカウンセラーが出席した。 ○1年次から4年次までの系統的キャリア形成支援講座の実施については、1、2年次はキャリア形成支援講座ⅠⅡⅢを、3年次は夏季インターンシップを実施した。 ○夏季インターンシップに参加した14名のうち3名がプレ・インターンシップ履修者である。 ○マイキャリアポケット(社会貢献活動記録帳)を活用したインターンシップの単位認定については、プレ・インターンシップで実施した。 ○未就職の卒業生や離職・転職した卒業生などへのキャリア形成支援として、卒業生がキャリアサポートセンター相談室を活用できるようにした。 ○卒業時に優秀学生の表彰を行った。GPA制度を活用したドロップアウト予防の学習支援として、平成27年度後期・平成28年度前期のGPAが2.0以下の学生を特定し、公共社会学科、社会福祉学科、人間形成学科、看護学部看護学科で面接指導を行った。 ○全学横断型教育プログラム「キャリア形成支援プログラム」の実施については、「プレ・インターンシップ」単位取得者14名が中長期・実践型インターンシップに取り組み、課題を検討した。 ○目標実績 ・夏季インターンシップ参加14名のアンケート結果 ：良好評価 100% ・キャリア形成支援講座参加者アンケート ：良好評価 93.1% ・GPA制度の活用状況調査 ：GPA2.0未満の学生面接率99.2% ・表彰制度の実施：卒業時に優秀学生の表彰を実施 ・キャリアサポートセンター利用数：利用者実数：187人、延べ829件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No35 「キャリアサポートセンター利用状況」	17

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※6 学生支援の充実の続き	2【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ①九州沖縄の大学間の学生コンソーシアムを構築し、学生間の交流を促進し、学生が主体的に学生コミュニティを作り、大学生としての「学びの文化」の創造を目指す。 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催 ：1回／年 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催：対面会議 2回以上／年	2-1【平成28年度計画】 【大学間の学生コンソーシアムの構築】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の実施 ○学生コンソーシアム会議の開催 ○学生フェスティバルの開催 ○達成目標 ・学生フェスティバルの開催：1回／年、 学生参加数 県立大学から20名以上 ・学生コンソーシアム会議の開催 ：対面会議年2回	1	【平成28年度の実施状況】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○九州沖縄の大学間の学生コンソーシアム事業の体制づくりとして、10大学から15人の教職員が学生コンソーシアム担当者として支援を行っている。本学からは2名の教員が担当している。 ○学生コンソーシアム会議を、7回実施した。 ○学生フェスティバルは、福岡大学にて大学祭「七隈祭」と同日開催。参加者総数232名。 ○目標実績 ・学生フェスティバルの開催：1回、学生参加数 県立大学から21名 ・学生コンソーシアム会議の開催：対面会議 7回	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		18

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※6 学生支援の充実の続き	3【大学院生支援の充実】 ①大学院生の入学から修了までの学生生活支援、教育研究活動支援を行う。 具体的には、学習及び研究環境に対する相談体制を整えとともに、大学院生研究助成制度の新設、本学卒業生の大学院入学金減免措置について大学独自の奨学金の創設・活用の検討・実施、大学院生の国内学会参加費補助制度の構築などを行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :3件以上/年 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :4件以上/年	3-1【平成28年度計画】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 ＜心理臨床専攻＞ ・H27年度実施したアンケートの結果を踏まえ改善点を検討する。 ＜社会福祉専攻＞ ・今年度から、土日祝日開講を開始する。これに伴い、各講義科目の開講日程等について学生のニーズや希望が反映できる体制を構築していく。 ＜看護学研究科＞ ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)について、学務部会やFD部会と連携し、体制を整える。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討 ・代替策の実現可能性も含め、一部実施に向けた検討を行う。 ○達成目標 ・助成金の実施状況 :1件以上 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件以上	1	【平成28年度の実施状況】 【大学院生支援の充実】 ○大学院生への相談体制の具体策の検討 FD部会と連携して、両研究科学生へのアンケート調査を実施した。 ＜心理臨床専攻＞ ・アンケート結果を踏まえ、修士論文作成に置いて相談指導体制を強化するために、来年度より副指導教員を設置することを決定した。 ＜社会福祉専攻＞ ・各学生と履修相談を行い、前期5科目、後期3科目について土日祝日開講を実施した。 ＜看護学研究科＞ ・大学院生からの要望(学習環境・連絡体制・個別問題等)については、大学院生室の机やロッカーの配置の整備、印刷機の増設、最新の統計解析ソフトの整備、機器に関する連絡体制の整備、院生の個別問題や学習における相談体制を整え、支援を実施した。 ○卒業生の大学院入学金減免措置の実施に向けた検討 ・代替策の実現可能性も含め、一部実施に向けた検討を行った。 ○目標実績 ・助成金の実施状況 :1件 ・国内学会参加費補助制度の活用件数 :1件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		19

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
7 学習環境の充実 学部生及び大学院生がインターネット社会に対応した学習環境の中で、学習できる環境を整備する。また社会人学生が学習しやすい体制を整備することで、大学院志願者の増加をめざす。	1【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ 学生の自主的学習を促すために、授業時間外の学習を支援するeラーニングシステムの活用を推進する。 ①eラーニングシステムの教育効果を上げる活用方法を検討する。 ②eラーニングシステムを改善する。 ③一定のコース開設数を維持する。 ④一定の学生の利用率を維持する。 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数：100以上(平成26年度以降) ・学生の利用率：70%以上(平成26年度以降)	1-1【平成28年度計画】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの活用を推進する。 ・教員向け講習会の実施 ○コース開設数調査の実施 ○学生の利用率調査の実施 ○達成目標 ・eラーニングコース開設数：100コース ・学生の利用率：70%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【IT教育システムの充実】 ＜人間社会学部＞＜看護学部＞ ○eラーニングシステムの活用を推進する。 ・教員向け講習会を2回実施した。(参加者延べ41名) ○コース開設数調査の実施 前期コース開設数 54コース (人間社会学部 30、看護学部 24) 後期コース開設数 61コース (人間社会学部 36、看護学部 25) 前期・後期合計 115コース (人間社会学部 66、看護学部 49) ○学生の利用率調査の実施 前期利用率 両学部平均 88.3% (人間社会学部 77.0%、看護学部 99.5%) 後期利用率 両学部平均 84.8% (人間社会学部 71.0%、看護学部 98.7%) 前期・後期利用率 両学部平均 86.5% (人間社会学部 74.0%、看護学部 99.1%) ○目標実績 ・eラーニングコース開設数：115コース ・学生の利用率：86.5%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		20

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※7 学習環境の充実の続き	2【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ①社会人が学びやすい学習環境の充実(サテライト教室の整備充実) ②既修得単位認定システムの整備(システムの明文化とHPでのインフォメーション) ③指導システムの充実 ④研究生制度の積極的活用 ○達成目標 ・アンケートによる満足度 : 参加した社会人のアンケート調査における 良好評価 70%以上	2-1【平成28年度計画】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・レポートのWEB提出、コメントなどIT環境の整備 ・e-ラーニングをより良く活用するための検討 ○研究生制度の見直し ○達成目標 ・e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバックの件数、2件以上 ・Bizコリでの授業参加者の全体満足度 : 普通以上70%	1	【平成28年度の実施状況】 【社会人が学びやすい学習環境の充実】 ＜人間社会学研究科＞＜看護学研究科＞ ○e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック充実 ・レポートのWEB提出は、看護学研究科の2科目で実施(アドバンス生理学・病態生理学、終末期高齢者看護論)レポートの学生間でのWEB公開を人間社会学研究科の4科目で実施した。 ・e-ラーニングをより良く活用するための検討を行った。 ○研究生制度の見直し 福岡県立大学大学院研究生規則では、研究生の資格として「修士の資格を有する者」とあるが、現段階では制度の利用がない。そこで、看護学研究科では、研究生の資格の基準を変更することについて検討した。 ○目標実績 ・e-ラーニングでのレポート提出とコメントのフィードバック:6件 ・Bizコリでの授業参加者の全体満足度 : 普通以上66.7%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		21

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※7 学習環境の充実の続き	3【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ①教育・研究活動支援の充実と研究情報公開の視点から機関リポジトリの導入 ②ラーニング commons の設置 ③平日の開館時間延長・土日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年30件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	3-1【平成28年度計画】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充 ○ラーニング commons の利用とその促進 ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館の実施 ○達成目標 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数年15件以上 ・ラーニング commons 利用者数 : 月300名以上 ・開館延長時間内の利用者数 : 月200名以上	1	【平成28年度の実施状況】 【図書館の教育・研究活動支援と研究情報公開の充実】 ○機関リポジトリの拡充 CiNiiに加えてJAIRO Cloudへの本学機関リポジトリの登録を決定した ○ラーニング commons の利用とその促進 図書館本館にラーニング commons のスペースを確保するための案を作成した ○看護学部分館平日の開館時間延長・日曜祝日開館を実施している月の利用者数は目標値を上回った ○目標実績 ・機関リポジトリ登録件数 : 新規登録数 43件 ・ラーニング commons 利用者数 : 月311名 ・開館延長時間内の利用者数 : 月322名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.11 「図書館」	22

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
8人間社会学部の改革 人間社会学部は平成4年の設置時に10年間を目標に大幅改組の予定であった。しかし、その間、改組はされておらず、あわせて受験数が減少していく動向にある。そのため、学生に魅力ある学部へと改革していくことが求められており、平成22年度には人間社会学部将来構想のワーキンググループによる構想案が作成され、その後、学長を委員長とする将来構想検討会議で構想案を作成した。この構想案を基盤に、人間社会学部の改革を実施していく。	1【改革案の検討・作成】 ①将来構想を基に、具体的な検討のための組織を立ち上げる。 ②労働市場や学生のニーズ等を調査する。 ③平成25年度までに改革案を検討・作成し中期計画の変更を行う。 ○達成目標 ・改革案の作成 :平成25年度までに作成	1-1【平成28年度計画】 【改革案の検討・作成】 ○改革を進める。 ・卒論にいたるカリキュラムとして保健福祉情報プログラムを開設する。また、他の3全学横断型教育プログラム(援助力養成、国際交流、キャリア形成支援)の充実を図る。	2	【平成28年度の実施状況】 【改革案の検討・作成】 ○改革を進めた。 ・本年度、卒論にいたるカリキュラムとして保健福祉情報教育プログラムを開設するとともに、本プログラム強化のために教員を採用した。キャリア形成支援プログラムを平成30年度より卒論にいたるプログラムとするため、カリキュラムを作成するとともに本プログラムのための教員を採用した。国際交流プログラムでは、科目配置等の見直し等により4年間で卒業可能な留学コースを設定し、援助力養成プログラムではカリキュラム充実のために新たに「子供学習支援論」を開設した。	A	【高く評価する点】 ○保健福祉情報教育プログラム強化のための担当教員を追加採用し、キャリア形成支援プログラムの卒論に至るカリキュラム作成に向けて中核教員を前倒しで採用し、改革を進めることができた。 【実施(達成)できなかった点】		23

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
9 両学部連携の大学院博士課程の新設 保健・医療・福祉分野で、国内のみならずアジアを中核に国際的に第一線の研究を展開していく研究者を養成していくために、人間社会学研究科と看護学研究科統が連携した博士課程について検討して新設する。	1【大学院博士課程の新設検討】 ①人間社会学部の改革検討と併せ、具体的な検討を行う。 ②平成25年度までに改革案を検討・作成し、中期計画の変更を行う。	1-1【平成28年度計画】 【大学院博士課程の新設検討】 ・学部改革及び大学院修士課程の現状を協議し、博士課程構築の方向性を検討する。	1	【平成28年度の実施状況】 【大学院博士課程の新設検討】 ・博士課程構築の前提となる大学院修士課程の現状について、四役会等で議論をおこなった。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		24
		ウエイト総計	28年度 26			項目数計		28年度 24

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

- ・6-1-1 在学生のキャリア形成支援とともに卒業後までのキャリア形成支援体制を強化し、キャリアサポートセンターと各学部・学科との連携を深めていく。
- ・8-1-1 今後の社会的ニーズに的確に対応するため、人間社会学部の改革は喫緊の課題であり、重点的に取り組む。

教育に関する特記事項(平成28年度)

- ①大学評価・学位授与機構による平成28年度機関別認証評価において、主な優れた点の一つとして、以下のような高い評価を受けた。
「小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。」
- ②学生の専門に応じた書籍を、学生の視点から選んでもらう、選書ツアーを実施した。
- ③学生の主体的な勉学・研究をさらに促進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入した。

年度計画項目別評価

中期目標 2 研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」 国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の保健・医療・福祉の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。
--------------	---

項目	実施事項	平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進 特色ある研究を推進し、特に地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究を推進する。 学術交流大学等との保健・福祉分野における学際的共同研究を実施し、研究成果を国内及びアジア諸国に広く公表していくことで、地域とアジアの保健・医療・福祉の推進に寄与していく。 また、外部研究資金を獲得し、研究を活発にする。	1【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ①地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトを推進する。 ②学際的研究プロジェクトの成果を学内外に公表する。 ③附属研究所などを窓口及び活動拠点とした産学官連携を積極的に推進する。 ④協定校及び今後提携する海外の優れた教育機関や研究機関との研究者や学生、院生の交流を促進する。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :隔年1回開催 ・学際的研究プロジェクトの報告書発刊 :隔年1回発刊 ・日中韓等における保健・医療・福祉分野における学際的共同研究の活性化 :シンポジウムの開催 隔年1回 ・産学連携契約件数 :年間2件(継続を含む) ・知的財産セミナーの開催 :年1回 ・メールマガジン(イベント、セミナー、公募事業の紹介)の発行 :年12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 :3名以上(口頭発表、ポスターセッション等) ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 :共同研究数 2件以上/年 招聘件数 2件以上/年 ・提携協定校との共同研究の応募状況 :共同研究応募件数 3件以上/年	1-1【平成28年度計画】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 4センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトについて検討する。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について検討する。 ○産学官連携を積極的に推進するための学内広報に努め、田川地域包括連携協定のもと協働事業を検討する。 ○協定校(大邱韓医大、北京中医薬大学、三育大学、南京師範大学、コンケン大学、威徳大学)との研究者や学生、院生の交流促進について国際交流推進部会と連携して検討する。 ○日中韓等における保健・医療・福祉分野の学際的共同研究活性化のため、シンポジウムの29年度開催に向けた検討を行う。 ○達成目標 ・学際的研究プロジェクト数 :3件以上/年 ・産学連携契約件数 2件(継続含む) ・知的財産セミナーの開催 1回 ・メールマガジンの発行 12回以上 ・研究シーズ発表会への参加 3名以上 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間 40件以上 看護学部年間 40件以上 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 10件以上 看護学部年間 10件以上 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数 2件以上 招聘件数 2件以上 ・提携協定校との共同研究応募件数 3件以上 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会 :1回	2	【平成28年度の実施状況】 【附属研究所を中心とした学際的研究プロジェクトの推進】 研究推進部及び3センターを中核とした研究基盤体制を整備充実し、他大学・施設・研究機関等との共同研究を推進する。 ○地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する学際的研究プロジェクトとして、研究推進部において地域教育課題、医療福祉情報に関する2つの重点領域研究部門のプロジェクトを立ち上げた。 ○学際的研究プロジェクトの成果を学内外に発表する方法について、重点領域研究部門のプロジェクトを中心とした中間報告会を平成29年12月に実施することを決定。 ○産学官連携の積極的に推進については、附属研究所の改組に伴い、研究推進部において産学官連携の取り組み内容の見直し及び整理を行った。また、本学教職員に向け保健医療福祉領域に関連する広報を行った(国際医療福祉機器展イベント・セミナー、田川市在宅医療推進フォーラム、福岡女子大学産学官技術交流会等)。 ○協定校との研究者や学生、院生の交流促進について、国際交流推進部会と連携して協定校の学生、院生の受け入れと派遣を行った(受け入れ8名、派遣3名)。 ○保健・医療・福祉分野の学際的共同研究活性化のため、平成29年4月にドイツから講師を招き国際シンポジウムを共催で実施することを決定。 ○目標実績 ・学際的研究プロジェクト数:3件/年 ・産学官連携契約件数:2件 ・知的財産セミナーの開催:1回開催 ・メールマガジンの発行:12回 ・研究シーズ発表会への参加:3名 ・論文数(査読付き、学術掲載文) :人間社会学部年間17件 看護学部年間 30件 ・学会発表数(招待講演、シンポジスト招聘分) :人間社会学部年間 8件 看護学部年間 1件 ・提携協定校との共同研究数・招聘件数 共同研究数:3件 招聘件数:2件 ・提携協定校との共同研究応募件数:3件 ・学際的研究プロジェクトの成果発表会:翌年度実施	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.20 「論文等の実績」 No.21 「産学官連携」	25

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	2【外部研究資金の獲得の推進】 ①外部研究資金獲得を支援するための組織を学内に設立する。 ②科研費の応募率を上げるとともに科研費応募／獲得による教員評価システムの検討と実施 ○達成目標 ・外部研究資金獲得件数、金額：年間30件以上、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率：80%以上 (現在科研費による研究課題を持っている教員は除く)	2-1【平成28年度計画】 【外部研究資金の獲得の推進】 ○科研費申請繁忙期に適宜事務局機能を強化・充実する。また、ホームページの内容を充実していく。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度の実施 ・不採択となったがA評価だった教員に対するフォロー策の実施等 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○達成目標 ・外部研究資金(科研費)獲得件数、金額：年間30件、年間4,000万円以上 ・科学研究費応募率：80%以上(現在科研費による研究課題をもっている教員は除く)	1	【平成28年度の実施状況】 ○科研費申請等事務繁忙期に非常勤職員を専従させ事務局体制の強化・充実を図り、公募状況を適宜ホームページに掲載するとともに教員全員にメールを送信し周知を行った。 ○科研費応募者へのインセンティブ制度実施。 ・不採択となったA評価だった教員(申請者)に対し助成した。 ○科研費応募率向上のための研修会を開催した。 ○目標に対する実績 ・科研費獲得件数・金額 35件・4,461万円 ・科研費応募率：95.9%(既に科研費による研究課題をもっている教員除く)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.19 「研究」	26
※1 地域とアジアの保健・医療・福祉に寄与する研究の推進の続き	3【研究倫理の徹底】 ①研究倫理審査体制の整備のために研究倫理委員会委員の研修参加を推進 ②学外者を含めた審査体制の検討 ③動物実験に関する委員会の開催及び動物実験実施ガイドラインの徹底 ④若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回(平成25年度以降) ・動物実験に関する委員会(倫理審査を含む)：年2回以上	3-1【平成28年度計画】 【研究倫理の徹底】 ○研究倫理審査体制の整備 ○動物実験に関する委員会開催及び実施ガイドラインを徹底するための取組を引き続き検討 ○若手研究者に対するセミナーを開催し、倫理指針の徹底を図る。 ○達成目標 ・学外での研修参加：年1人以上(研究倫理委員会委員) ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：年2回以上	1	【平成28年度の実施状況】 ○厚生科学研究を対象とした利益相反に関する審査体制を新規に整備し、外部有識者を入れた審査をおこなった。 ○動物実験に関する委員会を2回開催した。また実施ガイドラインに基づいた取組については引き続き会議にて検討をおこなった。 ○若手研究者に対するセミナーを開催した。 ○目標実績 ・学外での研修参加：年1人 ・セミナー開催：年1回 ・動物実験に関する委員会(倫理審査含む)：年2回	A	【高く評価する点】 利益相反に関する審査部会に大学外部から委員を加えて審議をおこなった。 【実施(達成)できなかった点】		27
		ウェイト総計	28年度 4			項目数計		28年度 3

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 超高齢時代を迎え、「健やかで心豊かな福祉社会づくり」に寄与するプロジェクト研究が重要となっている。本学の特色として附属研究所の共同プロジェクトを重点化する必要がある。

研究に関する特記事項(平成28年度)

①附属研究所の総合的な研究・調査をより一層推進するために改組を行った(平成28年6月)。
新たに研究推進部を設置し、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターの3センターが連携協力しながら総合領域の研究等を推進していく体制を整えた。

年度計画項目別評価

中期目標 3 社会貢献	「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」 大学の特色を活かして、看護師、保健師、助産師、社会福祉士、精神保健福祉士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域住民の健康と福祉の向上に貢献する取組を積極的に実施する。 また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。
----------------	---

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進 保健・福祉に関わる人材育成のために、アジアの大学等と相互の教育・研究を促進する。	1【国際交流センター(仮称)を中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ①福祉系総合大学として、中国・韓国等の大学と保健福祉の実情について情報交換及び発信を行う。 ②地域住民との連携事業による地域の国際化を視野に入れた文化交流プログラムの共同開発を行うとともに、教育研究の国際化推進体制を検討する。 ③ゲストハウスなどの受け入れ体制整備の検討を行う。こうした事業を推進するために国際交流センター(仮称)を開設する。 ○達成目標 ・教員交流数 : 延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 : 1回以上/年	1-1【平成28年度計画】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際化推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、コンケン大学、威徳大学との教員交流の推進 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・地域の学校に留学生を派遣する文化交流プログラムを実施する。 ○国際交流センターの事業推進 ○達成目標 ・教員交流数 : 延べ20名以上/年 ・文化交流プログラムの実施 : 1回以上/年	1	【平成28年度の実施状況】 【国際交流センターを中心とした教育研究の国際推進体制の検討】 ○協定締結校との文化・学術交流事業の実施 ・協定締結校である大邱韓医大学校、三育大学校、北京中医薬大学、南京師範大学、威徳大学を国際交流推進部会員が訪問し、それぞれ文化・学術交流の推進について議論した。 ○地域住民との連携事業としての文化交流プログラムの共同開発実施 ・田川市の料理教室に中国人留学生3名、田川市立後藤寺小学校の文化交流プログラムに韓国人留学生4名、田川市立伊田小学校の英語授業に中国人留学生が3名参加した。 ○国際交流センターの事業推進については、「地域・国際交流コーディネーター」と「国際交流チューター」を中心に、センター内の整備を始め、各種情報の積極的発信をおこなった。 ○目標実績 ・教員交流数: 延べ25名/年 ・文化交流プログラムの実施: 4回/年	A	【高く評価する点】 国際交流センターに新たに「地域・国際交流コーディネーター(職員として採用)」と「国際交流チューター(長期留学からの帰国した学生を委嘱)」を配置し、国際交流の推進にあたった。留学生を交えた文化交流プログラムは田川市内の学校からのニーズが高く、目標を超えて4回実施できた。 【実施(達成)できなかった点】		28

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	2【留学生への支援体制の充実】 ①短期研修制度の充実：短期研修制度の拡充により、派遣留学先の情報・魅力を学生に十分に提供し、支援する。 ②派遣中の学生への支援：派遣期間中の留学生の修学・生活上の問題点等を、留学に関するアンケート等により把握し、支援する体制を作る。 ③受入留学生の新たな支援について検討・実施する。 ④短期派遣留学生の奨学金・交換留学協定締結について検討・実施する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会：年1回以上 ・受入留学生数：30人以上(私費留学生を含む)／年	2-1【平成28年度計画】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修の実施 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)の実施 ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修(ショートビジット)を実施する。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・協定校を対象とした短期留学(受入)プログラムの実施 ・受入留学生に対し、国際交流センターを活用して地域住民との交流の機会を提供する。 ○交流協定校への短期研修プログラム(派遣)の実施 ・プログラムの継続的实施に向けた調整を行う。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○達成目標 ・留学を経験した学生の報告会：年1回以上 ・受入留学生数：20名以上(私費留学生含む)	1	【平成28年度の実施状況】 【留学生への支援体制の充実】 ○学生の海外短期語学研修機会の提供 ・ハワイ大学語学研修については、コストを抑え、保健福祉系の特性を生かしたプログラムの再検討を行った。 ・英国(オックスフォード市等)短期語学演習(単位認定)を実施した。(学生16名参加) ○派遣留学生(交流協定校への1年間派遣留学)への支援策の実施 ・本学学生の留学希望者が増えるよう、双方向型事前授業を組み合わせた短期海外研修(ショートビジット)を実施した(短期研修プログラム実施)。 ○受入留学生の増加対策の実施 ・協定校を対象とした短期留学(受入)プログラムを実施した(大邱韓医大学10名受け入れ) ・受入留学生に対し、国際交流センターを活用して地域住民との交流の機会を提供した。 ○交流協定校への短期研修プログラム(派遣)の実施 ・威徳大学、大邱韓医大学への短期研修プログラムを実施した(学生10名参加)。 ○全学横断型教育プログラム「国際交流プログラム」を実施し、部会にて課題を検討した。 ○目標実績 ・留学を経験した学生の報告会 2回 ・受入留学生数 22名	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		29

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 地域とアジアとともに発展する国際交流の推進の続き	3【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ①世界記憶遺産に登録された山本作兵衛氏の日記・絵画の一部を県立大学で所管していることから、産炭地の歴史や記録資料(日記や絵画を含む)を英文に翻訳し、それをインターネット等を通じて世界に発信すると同時に、世界各国の産炭地に所在する大学との学術交流をおこなう。 ○達成目標 ・英文アーカイブ化の基礎となる日本語資料の翻訳：平成27年度までに作成	3-1【平成28年度計画】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵する山本作兵衛コレクションの保存・活用の検討 ○英文翻訳作業の検討・実施 ○達成目標 ・県立大学に保管された山本作兵衛関連遺品タイトルの翻訳 ・地域の方々との日記現代語訳作業部会の開催	1	【平成28年度の実施状況】 【産炭地記録資料の英文アーカイブ化と国際学術研究交流の推進】 ○県立大学が所蔵・保管する山本作兵衛コレクションの保存・活用については、附属研究所の改組に伴い、今後の保存のあり方について、見直しと整理を行った。 ○英文翻訳作業の検討・実施については、附属研究所の改組に伴い、新たな事業に移行するため計画の終了を決定した。作業部会は今年度をもって終了となった。 ○目標実績 ・県立大学に保管された山本作兵衛関連遺品タイトルの翻訳：平成27年度に作業を終了 ・地域の方々との日記現代語訳作業部会の開催：40回開催	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		30

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
2	県立三大学、福岡県、田川市郡との連携による社会貢献の推進 地域の抱える課題を解決していくために、附属研究所が核となって県立三大学、福岡県、田川市郡との連携を深めた取組を展開していく。	1	1-1	<p>【平成28年度計画】</p> <p>【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進 ○田川市郡との包括連携事業の推進 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの検討・実施 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件以上/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件以上/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :1企画以上/年 	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>【附属研究所による地域課題解決のための連携取組の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○福岡県・田川市郡との産学官連携事業の推進に関する取り組みについて確認を行った。 ○田川市郡との包括連携事業の推進については、福岡県立大学・田川地域包括連携推進協議会の開催について検討するため、田川市と協議を行った。 ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムに関し、県立三大学連携県民公開講座を開催(10月:1件、11月:3件、12月:1件)。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡県・田川市郡との産学官連携事業の実施 :1件/年 ・田川市郡との包括連携事業の実施 :5件/年 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 :5企画/年 	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.21 「産学官連携」	31

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進 附属研究所(生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンター、社会貢献・ボランティア支援センター)を核に、健やかで心豊かな福祉社会の実現に貢献する。また、大学の社会貢献活動に関する情報を積極的に発信し、地域に貢献する大学としての認知度の向上を図る。	1【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ①生涯福祉研究センターの事業推進 ②ヘルスプロモーション実践研究センターの事業推進 ③不登校・ひきこもりサポートセンターの事業推進 ④社会貢献・ボランティア支援センターの事業推進 ○達成目標 ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1-1【平成28年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 ○地域活動の強化 ・「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)」養成事業開始 ○達成目標 ・福祉用具研究会の開催(年間6回以上) ・参加者・相談者アンケート：良好評価75%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○福祉・教育・健康の相談事業の実施・拡充 「お父さん・お母さんの学習室」:23回開催、参加者のべ49名 「足と靴の相談室」:随時応談、来談者のべ14名 「おもちゃとしゃかん・たがわ」:32回開館、来館者のべ198名 ○地域活動の強化 ・「子どもの声を聞くことのできる市民ボランティア(アドボケイト)」養成事業 市民ボランティアの愛称を「アドボチャイルド」に決定 アドボチャイルドの運営などに関する打ち合わせ会:5回実施 アドボチャイルド主催の講演会:1回開催「障害者にとって自立とは何か」(参加者:市民6名、学生30名) 地域啓発のための講演会:3回開催 香春町子ども食堂の運営に協力:研修会5回、子ども食堂4回実施 「アンビシャス広場」親子広場:17回実施、参加者52組133名の親子 学生クラブ:親子広場の活動支援(環境づくり)通年随時。 フィールドワーク1回、意見交流会10回 障害児のきょうだいの会4回実施 「福祉用具研究会」:9回開催、参加者のべ218名 「筑豊市民大学」への支援:講師選定、プログラム作成協力 ○目標実績 ・福祉用具研究会の開催:9回 ・参加者・相談者アンケート:良好評価100% (「お父さん・お母さんの学習室」修了者アンケート)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.36 「生涯福祉研究センター活動実績」	32

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-2 【平成28年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○健康教室の実施・修正 健康教室(マザークラス田川) 6回実施、62名参加 健康教室(マザークラス福岡) 6回実施、176名参加 健康大使への継続教育 1回実施、18名参加 筑豊市民大学ヘルシー・エイジングゼミ 11回実施、278名参加 健康教室(ヒーリング) 7回実施、45名参加 「癒やしの空間」の管理運営 3回実施、6名参加 食によるヒーリングパワー 1回、14名参加 ○福祉・教育・健康の相談事業の検討・実施 ○達成目標 ・健康教室等:20件 ・参加者数:延べ 800名 ・参加者アンケート:良好評価 75%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○健康教室の実施・修正 健康教室(マザークラス田川) 6回実施、62名参加 健康教室(マザークラス福岡) 6回実施、176名参加 健康大使への継続教育 1回実施、18名参加 筑豊市民大学ヘルシー・エイジングゼミ 11回実施、278名参加 健康教室(ヒーリング) 7回実施、45名参加 「癒やしの空間」の管理運営 3回実施、6名参加 食によるヒーリングパワー 1回、14名参加 ○福祉・教育・健康の相談事業の検討 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」 3回実施、13名参加 性の健康に関する事業 19回実施、369名参加 エンド・オブ・ライフケア教育 3回実施(田川市)、340名参加 ○目標実績 ・健康教室等:60件 ・参加者数:延べ 1,321名 ・参加者アンケート:良好評価 99.7%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	33

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-3 【平成28年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業の実施 ○教員対象研修事業の実施 ○キャンパス・スクール事業の実施 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、課題を検討する。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、子供援助力支援機構(仮称)のもと推進する。 ○達成目標 ・サポーター派遣人数:140名以上 ・教員対象研修回数:10回以上 ・キャンパス・スクール受入れ児童数:20名以上 ・登校開始率:37% ※ 登校開始率とは、・・・キャンパス・スクールから在籍校に定期的・非定期的に通学を開始した児童・生徒の率(1年間)。	1	【平成28年度の実施状況】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜不登校・ひきこもりサポートセンター＞ ○県大子どもサポーター派遣事業は、実人数270名、延べ2,571名が活動した。 ○教員対象研修事業は、67回の研修を4,329名に実施した。 ○キャンパス・スクール事業は、実人数21名、延べ1,417名が通級した。 ○全学横断型教育プログラム「援助力養成プログラム」を実施し、月2回実施している運営会議の中で課題を検討している。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施している。地域の教育委員会主催の学習支援を実施している5箇所(箇所)に学生を派遣した。派遣学生数は77人、派遣延べ回数は1,430回であった。 ○目標実績 ・サポーター派遣人数:270名 ・教員対象研修回数:67回 ・キャンパス・スクール受入れ児童数:21名 ・登校開始率:66.7%	A	【高く評価する点】 ○サポーター派遣事業では実人数が270名、教員対象研修が67回、キャンパス・スクール事業においては登校開始率が66.7%と計画を大きく上回る取り組みとなった。 【実施(達成)できなかった点】	No.38 「不登校・ひきこもりサポートセンター」	34

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	1 ※【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】の続き	1-4 【平成28年度計画】 【地域住民の健康の向上、福祉、教育等の相談・支援の実施】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、子供援助力支援機構(仮称)のもと推進する。 ○達成目標 ・外部団体・機関登録数 90件以上 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 300人(延) ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 年2回	1	【平成28年度の実施状況】 ＜社会貢献・ボランティア支援センター＞ ○学生の活動の場となる外部団体と学生とのコーディネートの実施について、外部団体の登録件数は174件となり、学生とのコーディネートにより延べ477人の学生が活動を行った。 ○社会貢献・ボランティア活動を行う学生グループへの支援については、延べ807人の学生が「学生活動ルーム」を利用した。学内のボランティアサークルとの懇談会を2回実施し、11グループからの相談に対応した。 ○学生の社会貢献・ボランティア活動の普及と質の向上については、社会貢献・ボランティア活動に関する研修会を2回実施した。 ○福岡県の重点課題事業である「土曜の風」を、地域教育支援機構のもと実施している。地域の教育委員会主催の学習支援を実施している5箇所(仮称)に学生を派遣した。派遣学生数は77人、派遣延べ回数は1,430回であった。 ○目標実績 ・外部団体・機関登録件数 174件 ・センターのコーディネートにより活動を行った学生数 477人(延) ・社会貢献・ボランティア活動に関する研修会や報告会等の開催 2回	A	【高く評価する点】 外部団体・機関登録数およびコーディネートにより活動を行った学生数について、計画を大きく上回る取り組みができた。 また、土曜の風の学生派遣延べ回数について、当初計画の500回を大きく上回る1,430回の活動ができた。 【実施(達成)できなかった点】	No.16 「学生サークル」	35

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	2【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ①資格・免許保持者等への力量形成にむけた教育と卒業生へのキャリアサポートの実施 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・看護技術追跡調査実施状況 :年間1回(平成25年度から) ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名	2-1【平成28年度計画】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 ○教育研修活動の実施 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の実施 ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育の実施 ○達成目標 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 年間1回以上 ・社会福祉士及び精神保健福祉士対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・看護師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・助産師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・保健師対象のリカレント教育 1事業/年以上 ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数 :年間10名 ・看護技術追跡調査実施 :年間1回	1	【平成28年度の実施状況】 【資格・免許保持者等へのリカレント教育や研修の実施】 ＜生涯福祉研究センター＞ ○地域支援の充実 「特別支援教育・スキルアッププログラム」:5回実施、参加者のべ113名 「ペアレントトレーニングのスキルアップ講座(直方市)」:5回開催、参加者のべ214名 ○教育研修活動の実施 「福祉用具体験講習2016」:1回開催、参加者14名 「筑豊英語教員フォーラム」:22回開催、参加者のべ330名 「山本作兵衛さんをく読む>会」への支援:40回開催 ○社会福祉士や精神保健福祉士等の福祉従事者へのキャリアアップ及びリカレント教育の実施 リカレントセミナー「ドイツの児童福祉と児童養護施設の取組み」 :参加者30名(うち卒業生2名) リカレントセミナー「地域包括支援体制を考えるー変化を生み出すソーシャルアクションー」:参加者105名(うち卒業生41名) ＜ヘルスプロモーション実践研究センター＞ ○リカレント教育 看護職へのリカレント教育 1回実施(看護師11名、助産師43名) 保健師リカレント教育 3回実施(一般12名、看護師11名、保健師42名、うち卒業生17名) 地域住民の感染症予防スキルアップ事業 11回実施(一般175名、保健師1名) ○目標実績 ・専門分野を深める講習会、研究会の開催回数 :各ライセンス向けのリカレント実施数 ・看護師対象のリカレント教育 2事業実施 ・助産師対象のリカレント教育 1事業実施 ・保健師対象のリカレント教育 2事業実施 ・社会福祉士及び精神保健福祉士対象のリカレント教育 2事業/年 ・卒業生参加数 :各学部卒業生参加数:人間社会学部・年間43名 看護学部・年間17名 ・看護技術追跡調査実施 福岡ヘルシー・エイジング研究会 2回実施(一般9名、看護師33名)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	N0.39 「ヘルスプロモーション実践研究センター」	36

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	3【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ①附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開 ②公開講座の実施 ③世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保管・管理及び公開 ④附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の創設 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催	3-1【平成28年度計画】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとしての展開の検討 ○公開講座の実施 ○世界記憶遺産「山本作兵衛の日記等」の保存・管理及び公開 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織の検討 ○達成目標 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :年5回以上 ・公開講座の実施回数 :年3回以上開催	1	【平成28年度の実施状況】 【地域に貢献する大学としての認知度アップ戦略】 ○附属研究所(不登校・ひきこもりサポートセンター等)の全国モデルとして、不登校・ひきこもりサポートセンターと連携し、南京師範大学の学生の受け入れを行った(6名)。 ○公開講座について、3講座を実施した。 ○世界の記憶「山本作兵衛の日記等」については、ユネスコ基準に則り、適切な保存・管理をおこなった。 ○附属研究所関連研究分野における大学または研究所間の全国ネットワークの組織について、関連研究施設の視察を行った。 ○目標実績 ・学会・県外研修会等における附属研究所活動紹介の回数 :5回/年 ・公開講座の実施回数 :3回/年	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		37

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※3 地域に貢献する大学としての認知度アップと事業推進の続き	4 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ①糖尿病看護認定看護師教育課程を運営し、地域に貢献する糖尿病看護師を養成する。 ②志願倍率を保ち、より水準の高い人材を確保するためのリクルート活動を行う。 ③同窓生によるネットワークを構築し、よりよい糖尿病看護のあり方について学ぶ場を持ち、研鑽しあう。 ④地域貢献の一環として田川市郡を中心に生活習慣病に関連した健康教育を積極的に実施する。 ○達成目標 ・志願倍率:(志願者数/募集人員):1.5倍以上 ・認定合格率:90% ・福岡県糖尿病看護研究会の定期開催:年4回以上 同窓生によるフォローアップ研修会:年1回以上 ・リクルートのためのリカレント研修会の開催:年1回以上 参加者アンケート:良好評価75%以上 ・健康教室:年3回以上開催 参加者アンケート:良好評価75%以上	4-1 【平成28年度計画】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) ○糖尿病健康教育活動の実施 ○積極的な広報活動 ○達成目標 ・入学試験志願倍率(志願者数/募集人数) 1.0倍 ・認定審査合格率 90% ・患者教育研究会延べ参加者数 20名以上 ・セミナー参加者数 50名以上、参加者アンケート 良好評価75%以上 ・糖尿病予防教育(出前講義)開催回数3回以上、参加者アンケート 良好評価75%以上	1	【平成28年度の実施状況】 【看護実践教育センターでの認定看護師教育の充実】 ○リカレント教育等の実施(看護実践教育センター) 福岡糖尿病患者教育研究会の定期開催を6回(参加者合計:31名) フォローアップ研修会1回(参加者数24名)、リカレントセミナー1回(参加者数249名) ○糖尿病健康教育活動の実施 地域住民を対象に、糖尿病療養の相談の実施(1回、32名) コメディカルスタッフを対象とし糖尿病教育に関する講義を実施(宮崎市内、130名) 看護師を対象とした糖尿病教育に関する講義を実施(福岡市内、100名) ○積極的な広報活動 入学式・次年度入試情報についてのホームページ更新、セミナー参加募集についてホームページによる健康教育活動の告知・募集、セミナー参加者に入試試験募集案内のチラシ配布を実施した。 ○目標実績 ・入学試験志願倍率 2.2倍 ・認定審査合格率 100%(10名) ・患者教育研究会延べ参加者数 49名 ・セミナー参加者数 249名、参加者アンケート 良好評価98.3% ・糖尿病予防教育(出前講義)等の開催回数 3回、参加者アンケート 良好評価92%	A	【高く評価する点】 オープンキャンパスにおいて受験希望者向けの個別相談・説明会を実施した結果、志願倍率2.2倍、収容定員(18名)の充足率106%を達成した。 【実施(達成)できなかった点】		38
		ウェイト総計	28年度 11			項目数計		28年度 11

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

社会貢献に関する特記事項(平成28年度)

- ①「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を附属研究所、国際交流センターに配置し、運営強化を図った。
- ②長期留学から帰国した学生(4名)に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進にあたることとなった。
- ③学生1名が本学初めてとなる4年次卒業ルート(1年間の留学を含めて4年次卒業が可能となるルート)の制度を利用して長期留学した。
- ④新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定(MOU)を締結した。
- ⑤福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、延べ1,430回の学生派遣をおこなった。

年度計画項目別評価

中期目標 4 業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。 多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。
----------------	--

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 運営体制の改善 理事長のリーダーシップのもと、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備するとともに、多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた職員の人材確保・育成など、大学運営の基盤強化を図る。	1【事務局機能の強化】 ①大学に特有な業務の機能を強化するため、段階的にプロパー職員の採用を進める。 ②徹底的な事務処理の見直し、業務マニュアルの作成、情報の共有化により、事務作業の簡略化を検討する。 ③事務職員の資質の向上と教育現場に関わる者として意識の向上を図るため、SDのシステム化を推進する。 ④研究や活動内容等をデータベース化し、蓄積した情報を有効活用する。 ⑤防災・防犯対策や学生の事故防止のため安全管理体制の充実を図る。 ⑥より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討・実施する。 ○達成目標 ・プロパー職員の採用：平成27年度まで8名以上	1-1【平成28年度計画】 【事務局機能の強化】 ○公立大学協会主催の事務職員を対象とした研修及び学内SD研修の実施 ○事務局データベースとしてのファイル共有システムの活用 ○ヒヤリハット報告に基づく事故再発防止の事例検討 ○防犯講習会の開催(年2回) ○より一層の安全管理体制の充実を図るため、防災訓練の実施・充実 ○県立三大学の事務処理共通化について、三大学経営管理部会議を開催して引き続き検討する ○達成目標 ・防災訓練の実施：1回/年	1	【平成28年度の実施状況】 ○公立大学協会主催の事務局員対象研修会に参加させた(延べ3名)。また、学内研修「大学改革セミナー」を実施した。 ○データ交換等の際し、ファイル共有システムを積極的に活用した。 ○ヒヤリハット事例の収集を行った。 ○防犯講習会の開催。(2回) ○防災訓練の実施。(2回) ○三大学の事務局長会議、事務局部長会議を開催し、共通事務の取扱い等に対する協議を行った。 ○目標実績 ・防災訓練の実施：2回/年	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		39

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 運営体制の改善の続き	2【教員の志気を高める教育環境の整備】 ①教員表彰制度(Best Teacher's Award・研究費優遇・学内外公表等)の創設 ②研究経費の全学的視点からの戦略的配分を推進するため、理事長裁量経費としての研究奨励交付金制度の充実 ③担当科目数の平準化 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) :毎年度の表彰 ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30%	2-1 【平成28年度計画】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○教員表彰を実施する。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保する。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、平準化のための改革方を準備する。 ○達成目標 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む) ・研究費に占める研究奨励金の割合 :30%	1	【平成28年度の実施状況】 【教員の志気を高める教育環境の整備】 ○ベストティーチャー1名を選定した。 ○研究奨励交付金制度の実施 ・学長留保分を5%確保した。 ○担当科目上限数の申し合わせに基づき、持ちコマ(担当科目)上限数の見直し等の改革方を検討するために、現状を把握した。 ○目標実績 ・教員表彰の実施(Best Teacher's Awardを含む):1名 ・研究費に占める研究奨励金の割合:30%	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.37 「学術研究経費予算」	40

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
※1 運営体制の改善の続き	3【教員の個人業績評価システムの改善】 ①教員の個人業績評価システムを改善し、効率化を図るとともに、より妥当な評価基準を作成する。 ②個人業績評価基準見直し検討委員会を設置し、先行している国立大学や公立大学の実態を調査、教員に対するヒアリングの実施、第一期における個人業績評価結果の分析を行い、改善案を策定する。	3-1【平成28年度計画】 【教員の個人業績評価システムの改善】 ○平成25年度に見直した評価基準に基づく教員個人業績評価を実施する。	1	【平成28年度の実施状況】 ○平成27年度分の教員個人業績評価を実施した。 ・評価対象者 88名(うち評価猶予者 3名)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		41
	4【リスクマネジメント体制の整備】 ①他大学の体制調査・リスクの洗い出し作業等を実施する。 ②リスクに対応したマニュアルを作成してリスクマネジメント体制を整備する。	4-1【平成28年度計画】 【リスクマネジメント体制の整備】 ○各個別マニュアルの必要に応じた修正	1	【平成28年度の実施状況】 ○危機管理基本マニュアル(H28.2.17制定)の周知・徹底を行った。 ※個別マニュアルの修正は不要であった。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		42
		ウエイト総計	28年度 4			項目数計	28年度 4	

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

業務運営に関する特記事項(平成28年度)

① …

年度計画項目別評価

中期目標 5 財務	「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」 大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。
--------------	---

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 自己収入の積極的確保 外部研究資金等の確保に対する取組を強化することにより自己収入の積極的確保を図る。	1【外部研究資金等の積極的確保】 ①受託研究、受託事業などの外部研究資金等の積極的獲得に全学的に取り組む。外部研究資金等獲得に向けた支援体制を整備する。 ②民間企業や同窓会組織に対して、寄附金を増加させるための広報活動を戦略的に実施し、自主財源基金化スキームの実現に向けて検討する。 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得額 :年間5,000万円以上	1-1【平成28年度計画】 【外部研究資金等の積極的確保】 ○ホームページへの外部研究資金公募情報掲載の充実 ○科研費応募率向上のための研修会の開催 ○県大基金への寄附金を増加させるための広報の実施 ○自主財源基金スキームの平成28年度実施に向けた検討 ○達成目標 ・外部研究資金等獲得金額 :年間5,000万円以上	2	【平成28年度の実施状況】 ○外部研究資金公募情報を適宜ホームページに掲載するとともに全教員にメールを発信した。 ○科研費応募率向上のための研修会を実施した。 ○大学広報誌により県大基金への寄付金募集等を行った。 ○自主財源基金設立に対する検討を行った。 ○目標実績 ・外部研究資金等獲得金額 6,291万円	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.19 「研究」	43

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 運営経費の削減・抑制 業務改善による経費の削減と人件費の抑制に取り組む。	1【業務改善による経費の削減】 ①事務処理方法の見直しや外部委託などの業務改善を実施し経費の削減を図る。 ②エコ・省エネ型キャンパスの実現を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1【平成28年度計画】 【業務改善による経費の削減】 ○消耗品の集中発注システムの活用 ○アウトソーシング可能な業務の検討 ○省エネ対策(節電対策)の推進 ○達成目標 ・業務改善件数 1件以上/年	1	【平成28年度の実施状況】 ○急を要する物品以外は、集中発注システムを活用し一括発注に努めた。 ○旅費関係事務処理に関するアウトソーシングについて検討した。 ○外灯(駐車場、通路 66基)をLED照明化さらに既存の屋内蛍光灯が故障した際、随時LED電灯への切替を行った。また、部局長会議等通じて全職員に節電を呼びかけた。 ○目標実績 ・業務改善件数 1件(外灯のLED照明化)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		44
	2【人件費の抑制】 ①教育研究水準の維持・向上に配慮しつつ、人件費の抑制を図る。 ○達成目標 年度計画で設定	2-1【平成28年度計画】 【人件費の抑制】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した退職教員の補充における若手教員の採用 ○時間外勤務縮減施策の検討 ○達成目標 ・平成28年度時間外勤務時間数が前年度を下回ること(H28年度新規事業分を除く)	1	【平成28年度の実施状況】 ○教育研究水準の維持・向上に配慮した上で、退職教員の補充においては若手教員の採用に努めた。 ○週休日の振替の徹底。 ○目標実績 ・大幅に減少した平成27年度を、更に減少させることができた。(△1%)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.31 「経費削減」	45
		ウエイト総計	28年度 4		項目数計			28年度 3

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

・1-1-1 法人の収入増を図るためには様々な取組が必要である。産学官連携等による外部研究資金の確保に取り組んでいるが、中でも科研費等の外部資金の獲得がより重要である。更には広報活動の強化や同窓会組織等への働きかけなど戦略的取組を行っていく。

財務に関する特記事項(平成28年度)

- ①正門に照明を設置し、校内外往来に対する安全性を向上させた。
- ②「すずかけ寮」各居室にエアコンを設置し、入寮生の居住環境を改善させた。
- ③アクティブラーニングを推進するため、3号館講義室・ゼミ室の机・イスを簡単に移動できる軽量なものに更新するとともに、ホワイトボードを増設した。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 6 評価及び 情報公開</p>	<p>「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」</p> <p>(1) 評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。</p> <p>(2) 情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。</p>
---------------------------------	--

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 自己点 検・評価の効 率的な実施 自己点検・ 評価及び各 種評価結果 を大学運営 に反映し、改 善を図る。	1 【自己点検・評価の見直し と実施】 ①中期目標の実現を目指 して、計画的に年度計画を 立て、実施し、自己評価す る。県評価委員会の評価 結果を大学運営に反映さ せる。 ②各教員の教育・研究・社 会貢献の実績調査を実施 し、教育・研究・社会貢献 一覧を作成し、HPIに掲載 する。 ③次期認証評価に向け て、必要なデータを蓄積す る仕組みを検討し、認証評 価の準備を行う。	1-1 【平成28年度計画】 【自己点検・評価の見直しと実施】 ○県評価委員会の評価結果を大学運営に 反映させる。 ○教員の教育・研究・社会貢献報告書を作 成し、HPIに掲載する。 ○大学評価・学位授与機構による「大学機 関別認証評価」を受審する。 ・認証評価W.G.で自己点検評価書を作成 し、大学評価・学位授与機構に6月末に 提出する。	1	【平成28年度の実施状況】 ○県評価委員会の評価結果について、大学改革セミナーを開催し、全教職員 に周知した。改善すべき点は部局長会議、改革推進委員会等で審議し、 大学運営に反映させた。 ○教員の平成28年度教育・研究・社会貢献の実績調査を平成29年3月に実施 し、4月に各教員の教育・研究・社会貢献実績を本学HPIに掲載した。 ○大学改革支援・学位授与機構による「大学機関別認証評価」を受審した。 ・認証評価W.G.で自己点検評価書を作成し、大学改革支援・学位授与機構に 提出した。訪問調査を経て、評価結果が確定し、本学が、「大学評価基準を 満たしている」と認定された。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		46

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 広報活動の充実・強化	1 【県大ブランド力の強化】 効果的な広報活動による社会的プレゼンスの向上・メディアとの包括連携の推進を図る ①魅力あるHPの充実 ②県大ブランドとなる教育プログラム等の積極的広報 ③多様な媒体(出版物、マスメディア、車内広告、駅広告などの活用)や出前講義等を通じた広報活動の充実 ④情報発信体制の整備 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1-1 【平成28年度計画】 【県大ブランド力の強化】 ○HPの更新を定期的にチェックするとともに、トップページのフラッシュを適宜変えていく ○教育プログラムにおける特色ある取組について、HPの教育情報の中の任意情報の充実 ○多様な媒体を通じた積極的な広報活動の充実 ○情報発信体制の整備 ・大学発のフォーラム・シンポジウムの積極的な記者資料提供 ○達成目標 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の作成 :2回/年 発行 ・出前講義数及びアンケート :出前講義(体験学習含む)20回以上 良好評価75%以上 ・教育プログラム紹介の広報活動実績 :3件以上/年 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版5件以上/年 全国版1件以上/年	1	【平成28年度の実施状況】 【県大ブランド力の強化】 ○ホームページのリニューアルし見やすくするとともに、スマートフォンでの閲覧も可能とした。 ○ホームページのリニューアルにより掲載情報の充実を図った。 ○ホームページリニューアルと合わせて、1月よりスタートした、フェイスブックを適宜更新し、広報活動の充実を図った。 ○情報発信体制の整備 ・大学発のイベント等について、積極的に新聞社等へ情報提供した。 ○目標実績 ・大学案内パンフレットの作成 :2種類 ・広報誌の発行 :2回 ・出前講座及び実施後アンケート :24回開催、良好評価98.9% ・教育プログラム紹介の広報活動 4件 ・メディアに取り上げられた件数 :地方版 12件、全国版 2件	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】	No.5 「出前講義」	47
		ウェイト総計	28年度 2			項目数計		28年度 2

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

評価及び情報公開に関する特記事項(平成28年度)

① …

特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。
 ※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとられなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。
 なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

特記事項	関連する通し番号
①大学評価・学位授与機構による平成28年度機関別認証評価において、主な優れた点の一つとして、以下のような高い評価を受けた。 「小論文試験の出題テーマや面接試験の集団討論テーマの検証を行うとともに、入学者受入方針に対する理解を広めることを目的として、小論文試験問題と面接問題及び出題意図を取りまとめた冊子を作成し、高校生等に配布している。」	15
②学生の専門に応じた書籍を、学生の視点から選んでもらう、選書ツアーを実施した。	22
③学生のアクティブラーニングを推進するため、図書館本館にノートパソコン40台を導入した。	22
④附属研究所の総合的な研究・調査をより一層推進するために改組を行った(平成28年6月)。 新たに研究推進部を設置し、生涯福祉研究センター、ヘルスプロモーション実践研究センター、不登校・ひきこもりサポートセンターの3センターが連携協力しながら総合領域の研究等を推進していく体制を整えた。	25
⑤「地域・国際交流コーディネーター(常勤)」を附属研究所、国際交流センターに配置し、運営強化を図った。	25、28
⑥長期留学から帰国した学生(4名)に学長から「国際交流チューター」を委嘱し、学内の国際交流推進にあたることとなった。	28
⑦学生1名が本学初めてとなる4年次卒業ルート(1年間の留学を含めて4年次卒業が可能となるルート)の制度を利用して長期留学した。	28
⑧新たに中国吉林大学珠海学院と交換留学等の協定(MOU)を締結した。	28
⑨福岡県重点課題事業として、地域教育支援プロジェクト「土曜の風」を開始し、延べ1,430回の学生派遣をおこなった。	34
⑩正門に照明を設置し、校内外往来に対する安全性を向上させた。	44
⑪「すずかけ寮」各居室にエアコンを設置し、入寮生の居住環境を改善させた。	44
⑫アクティブラーニングを推進するため、3号館講義室・ゼミ室の机・イスを、グループワーク時に簡単に移動できる軽量なものに更新するとともに、ホワイトボードを増設した。	44

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価
		計画	実績		
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			-
		区分	予算額(a)	決算額(b)	
費用の部	1,859	1,890	31		
経常費用	1,859	1,887	28		
業務費	1,648	1,652	4		
教育研究経費	333	340	7		
受託研究費等	16	1	▲ 15		
人件費	1,299	1,310	11		
一般管理経費	210	231	21		
(減価償却費 再掲)	(89)	(91)	▲ 2		
財務費用	-	1	1		
臨時損失	-	3	0		
収益の部	1,859	1,855	▲ 4		
経常収益	1,859	1,851	▲ 8		
運営費交付金収益	1,000	1,009	9		
授業料収益	578	576	▲ 2		
入学金収益	112	116	4		
検定料収益	25	23	▲ 2		
その他業務収益	-	0	0		
受託研究等収益	-	0	0		
受託事業等収益	-	0	-		
補助金等収益	17	21	4		
寄付金収益	0	1	0		
資産見返物品受贈額戻入	43	44	1		
資産見返運営費交付金等戻入	4	4	0		
資産見返寄附金戻入	1	1	0		
資産見返補助金戻入	13	12	▲ 1		
資産見返補償金戻入	0	0	0		
財務収益	0	0	0		
雑益	35	37	2		
臨時利益	0	3	3		
純利益	0	▲ 35	▲ 35		
前中期目標期間繰越積立金取崩額	24	2	▲ 22		
目的積立金取崩額	-	33	33		
総利益	0	0	0		

中期計画	年度計画			自己評価	
	計画	実績			
2. 資金計画予算	区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)	
	資金支出	2,021	2,043	22	
	業務活動による支出	1,758	1,768	10	
	投資活動による支出	11	28	17	
	財務活動による支出	26	28	2	
	翌年度への繰越金	225	217	▲ 8	
	資金収入	2,021	2,043	22	
	業務活動による収入	1,770	1,780	10	
	運営費交付金による収入	1,000	1,011	11	
	授業料等による収入	716	706	▲ 10	
	受託研究等による収入	-	1	0	
	補助金等による収入	17	21	4	
	寄附金等による収入	0	1	1	
	その他収入	35	38	3	
	投資活動による収入	0	0	0	
財務活動による収入	-	-	-		
前中期目標期間繰越積立金取崩額	24	36	12		
前年度からの繰越金	225	225	0		
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。		該当なし	-	
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし		該当なし	-	
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び組織運営の改善に充てる。		該当なし	-	
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	該当なし		該当なし	-	

2016（平成 28）年度

福岡県立大学

教育・研究・社会貢献活動一覽

福岡県立大学

凡 例

- (1) この「教育・研究・社会貢献活動一覧」は、2016（平成28）年度、福岡県立大学に専任教員として在籍した者を対象とし、2017（平成29）年3月の時点で、1人あたり2頁を目安に報告をまとめている。
- (2) 「主な研究分野」は、専門研究者向けではなく、一般の方向けの自己PRとして記載している。
- (3) 「研究業績」は、過去3年間分を記載している<2014（平成26）年度～2016（平成28）年度>。業績数が多い教員については、一部省略している場合がある。
- (4) 「外部研究資金」は、2016（平成28）年度に資金を得ているものを記載している。
- (5) 「受賞」は、2016（平成28）年度の実績を記載している。
- (6) 「所属学会」は、2016（平成28）年度の所属状況を記載している。
- (7) 「担当授業科目」は、原則として2016（平成28）年度の担当授業を記載している。なお、助手については、補助業務を担当している授業科目を記載している。
- (8) 「社会貢献活動」は、2016（平成28）年度の状況を記載している。
- (9) 「学外講義・講演」は、2016（平成28）年度の実績を記載している。学会での講演は、「研究業績」欄に記載し、ここにはそれ以外のものを記載している。また、会場は学内であっても、学外者向けのものはこちらに含まれている。なお、大学等での非常勤講師は含まれていない。
- (10) 「附属研究所の活動等」は、2016（平成28）年度の状況を記載している。
- (11) 記載事項は、以上の9項目であるが、該当なしの場合は、項目そのものを記載していない。

<目 次>

はじめに
凡 例

【掲載順】

人間社会学部については、職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。看護学部については、学系ごとに職名順とし、同一職名内は姓の50音順である。

人間社会学部

● 教授	池田 孝博	1
● 教授	石崎 龍二	4
● 教授	上野 行良	7
● 教授	神谷 英二	8
● 教授	小嶋 秀幹	10
● 教授	住友 雄資	12
● 教授	田代 英美	14
● 教授	田中 哲也	16
● 教授	郝 暁卿	18
● 教授	福田 恭介	20
● 教授	細井 勇	23
● 教授	本郷 秀和	26
● 教授	森脇 敦史	29
● 准教授	岩橋 宗哉	31
● 准教授	大久保 淳子	33
● 准教授	岡本 雅享	35
● 准教授	奥村 賢一	37
● 准教授	櫻井 国芳	41
● 准教授	佐野 麻由子	43
● 准教授	杉野 寿子	46
● 准教授	Ian Stuart Gale	48
● 准教授	堤 圭史郎	52
● 准教授	中村 晋介	55
● 准教授	平部 康子	57
● 准教授	藤澤 健一	59
● 准教授	許 棟翰	61
● 准教授	水野 邦太郎	64
● 准教授	三隅 譲二	66
● 准教授	美谷 薫	67
● 准教授	麦島 剛	69
● 准教授	村山 浩一郎	72

● 准教授	吉岡 和子	7 4
● 准教授	鷺野 彰子	7 7
● 講師	池 志保	8 0
● 講師	伊勢 慎	8 3
● 講師	河野 高志	8 5
● 講師	金 恩愛	8 7
● 講師	小山 憲一郎	8 9
● 講師	柴田 雅博	9 1
● 講師	寺島 正博	9 4
● 講師	中原 雄一	9 7
● 講師	松岡 佐智	9 9
● 助教	中藤 広美	1 0 1
● 助教	畑 香理	1 0 3
● 助教	二見 妙子	1 0 5
● 助手	佐藤 繁美	1 0 7

看護学部

➤ 基盤看護学系

● 教授	江上 千代美	1 0 9
● 教授	小池 祐子	1 1 1
● 教授	永嶋 由理子	1 1 3
● 准教授	石田 智恵美	1 1 5
● 准教授	芋川 浩	1 1 7
● 准教授	四戸 智昭	1 2 0
● 准教授	杉野 浩幸	1 2 2
● 准教授	渕野 由夏	1 2 4
● 講師	加藤 法子	1 2 6
● 講師	小出 昭太郎	1 2 8
● 講師	藤野 靖博	1 2 9
● 講師	増満 誠	1 3 1
● 助教	於久 比呂美	1 3 5
● 助教	清水 夏子	1 3 6
● 助手	宮崎 千尋	1 3 8

➤ 臨床看護学系

● 教授	赤司 千波	1 3 9
● 教授	鳥越 郁代	1 4 1
● 准教授	櫟 直美	1 4 4

● 准教授	田中 美樹	1 4 7
● 准教授	古田 祐子	1 4 9
● 准教授	松枝 美智子	1 5 2
● 准教授	渡邊 智子	1 5 6
● 講師	石村 美由紀	1 5 8
● 講師	大島 操	1 6 1
● 講師	中井 裕子	1 6 2
● 講師	安河内 静子	1 6 4
● 講師	安永 薫梨	1 6 6
● 講師	吉川 未桜	1 6 8
● 助教	江上 史子	1 7 0
● 助教	小林 絵里子	1 7 2
● 助教	廣瀬 理絵	1 7 5
● 助教	政時 和美	1 7 7
● 助教	松井 聡子	1 7 9
● 助教	宮崎 初	1 8 1
● 助教	吉田 静	1 8 3
● 助手	柴北 早苗	1 8 6
● 助手	仲村 彩	1 8 7
● 助手	中本 亮	1 8 8

➤ ヘルスプロモーション看護学系

● 教授	尾形 由起子	1 9 0
● 教授	松浦 賢長	1 9 4
● 准教授	山下 清香	1 9 6
● 講師	小野 順子	1 9 8
● 講師	原田 直樹	2 0 0
● 講師	吉田 恭子	2 0 3
● 助教	猪狩 崇	2 0 5
● 助教	梶原 由紀子	2 0 7
● 助教	佐藤 繭子	2 0 9
● 助教	手島 聖子	2 1 2
● 助教	檜橋 明子	2 1 4
● 助手	杉本 みぎわ	2 1 6
● 助手	中村 美穂子	2 1 7

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	池田 孝博
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992.3 筑波大学大学院修士課程体育研究科修了

1992.4-1997.3 慶應義塾中等部

1997.4-2009.3 佐賀短期大学（現；西九州大学短期大学部）

2009.3 福岡大学大学院スポーツ健康科学研究科博士課程後期修了

2009.4- 本学着任

博士（スポーツ健康科学）

人間の運動パフォーマンスや健康行動・健康意識の測定評価を研究分野としている。

①幼児の体力・運動能力の発育発達およびそれらに影響を及ぼす諸要因に関する研究

②日本と韓国の小学生の運動・身体活動に対する意識に関する研究

③体育授業のカリキュラム・学習評価に関する研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O., Classification, Gender and Age Differences, and Seasonal Changes in Relation to Patterns of Distribution Curves for Physique and Motor Performance in Preschool-Aged Japanese Children. *Journal of Sports Science* (ISSN2332-7839), 印刷中
- ・ 池田孝博・青柳領, 集成材の剣道場床面の機能性評価に関する因子構造の特徴と床面特性と機能性評価の関連. *体育学研究*, 61(2):, 2016.
- ・ Ikeda, To., Ikeda, Ta. & Aoyagi, O., The relationship among stress response, weight management, and physical exercise in Japanese university students. *Journal of Sports Science* (ISSN2332-7839), 4(3): 163-169, 2016. doi: 10.17265/2332-7839/2016.03.006
- ・ 池田孝博・青柳領, 幼児期における運動能力の偏りと生活環境要因の関連. *福岡県立大学人間社会学部紀要*, 24(2): 23-39, 2015.
- ・ 池田孝博・中藤広美・青柳領, 幼児期における「はだし保育」と体力の関連. *福岡県立大学人間社会学部紀要*, 24(1): 73-83. 2015.
- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O., The reliability and validity of toe grip strength as an index of physical development in 4- to 5-year-old children. *Journal of Sports Science* (ISSN2332-7839), 3(1): 22-28, 2015. doi:10.17265/2332-7839/2015.01.003
- ・ 池田孝博・青柳領, 幼児の運動パフォーマンスの二極化傾向と性, 年齢, 体力, 運動スキルおよび発現契機との関連. *福岡県立大学人間社会学部紀要*, 22(2): 21-34. 2014.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 池田孝博・青柳領・Choi, T.H.・Han, N.I.・Nam, Y.S.・Seo, Y.H.（ポスター発表）児童期後期における「運動の楽しさ」に関する日韓比較. 九州体育・スポーツ学会第65回大会（長崎国際大学）, 2016.
- ・ Ikeda, T., Aoyagi, O., Choi, T.H., Han, N.I., Nam, Y.S., Seo, Y.H., Koo, K.S. & Seo, Y.H.(Invited lecture) Comparison of factor structures on pleasure derived from physical activity by 10- to 12-year-old children in South Korea and Japan. 2016 International Sport Science Congress (ISSC), (Hanyang University, Korea), 2016.
- ・ Ikeda, To., Ikeda, Ta., Yaita, A., Sakaguchi, H., Itoh, H., Aoyagi, O., Han, N.I., Choi, T.H., Hong, Y.J., Nam, Y.S. & Koo, K.S. (Poster Session) Comparison of the implementation status of weight control and physical activities between South Korean and Japanese university students. 2016 International Sport Science Congress (ISSC), (Hanyang University, Korea), 2016.

- Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Keynote lecture) Motivation for Physical Activity in Late Childhood: A Comparative Study between South Korea and Japan. The 21st Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (上海交通大学, China), 2016.
- Ikeda, To., Ikeda, Ta., Yaita, A., Sakaguchi, H., Itoh, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Hong, Y., Han, N., Choi, T., Nam, Y., Koo, K. (E-poster) Examining weight control and diet behavior among university students in Japan and South Korea. 21st annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Austria Center Vienna, Austria), 2016.
- Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Conventional poster session) Comparing factors determining the enjoyment of physical activity in 10-12 year-old children in Japan and South Korea. 21st annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Austria Center Vienna, Austria), 2016.
- 池田孝博・青柳領・Choi, T.H. (ポスター発表) 児童期後期における身体活動動機づけに関する因子構造の日韓比較. 九州体育・スポーツ学会第 64 回大会 (西九州大学), 2015.
- 池田孝博・高橋健太郎・武藤健一郎・青柳領 (口頭発表) 少年剣道実践者による剣道用試作マットの主観的評価. 日本武道学会第 48 回大会 (日本体育大学), 2015.
- 池田孝博・青柳領・Choi, T.H. (口頭発表) 身体活動に関する動機づけと運動技能、学習動機および活動状況の構造的関連—日本と韓国の小学生を対象として—. 日本体育学会第 66 回大会 (国士舘大学), 2015.
- Ikeda, To., Ikeda, Ta., Yaita, A., Sakaguchi, H., Itoh, H., Annoura, T., Aoyagi, O., Han, N.I., Choi, T.H., Nam, Y.S. & Koo, K.S. (Poster Session) A Comparison of Body Type and Ideals between Korean and Japanese Female University Students. The 20th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan), 2015
- Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Poster Session) Relationship between Lifestyle and Motivation for Physical Activity among Korean and Japanese Elementary School-Aged Children. The 20th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Tokyo University of Agriculture and Technology, Japan), 2015
- Ikeda, To. & Ikeda, Ta. (E-poster) The relationship between stress response and weight management among university students. 20th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Malmö, Sweden), 2015.
- Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Mini oral Session) The relationship between motivation for physical activity and lifestyle in 10- to 12-year-old children in South Korea and Japan. 20th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Malmö, Sweden), 2015.
- 池田孝博・青柳領 (口頭発表) はだし保育は子どもの体力を向上させるか?. 日本発育発達学会第 13 回大会 (日本大学), 2015.
- 池田孝博・青柳領 (口頭発表) 児童期後期における身体活動および学習動機づけの構造的関連. 日本体育学会第 65 回大会 (岩手大学), 2014.
- Ikeda, T., Aoyagi, O., Han, N.I. & Choi, T.H. (Poster Session) Motivation for physical activity and learning in late childhood: comparison of factors between Korean and Japanese children. The 19th Annual Conference of the East Asian Sport and Exercise Science Society (EASESS), (Busan University, Korea), 2014
- Ikeda, T. & Aoyagi, O. (Mini oral Session) Item analysis of toe grip on preschool-aged children. 19th annual congress of the European College of sport science (ECSS) (Amsterdam, the Netherland), 2014.

③過去の主要業績

- 池田孝博・本多壮太郎・岩切公治・太田順康・大坪壽・前阪茂樹・鍋山隆弘・八木沢誠・瀧田伸吾・青柳領, 剣道場の床面塗装とスポーツ傷害・障害および床面の機能性に関する主観的評価の関連. 武道学研究, 45(1): 23-34. 2012. (学会優秀論文賞 受賞)

- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between gender difference in motor performance and age, movement skills and physical fitness among 3- to 6-years old Japanese children based on effect size calculated by meta-analysis. School Health 5: 9-23. 2009.
- ・ Ikeda, T. & Aoyagi, O. Relationships between test characteristics and movement patterns, physical fitness, and measurement characteristics: suggestions for developing new test items for 2- to 6-year-old children. Human Performance Measurement5: 9-22, 2008. (学会賞 受賞)

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究(C)一般 研究課題名「主観評価と客観指標に基づく剣道に適した専用サーフェイスの検討と開発」課題番号 16K01627（研究期間 平成 28～30 年度）研究代表者：池田孝博

4. 受賞

該当なし

5. 所属学会

日本体育学会，日本発育発達学会，日本測定評価学会，日本体育科教育学会，日本学校保健学会，日本健康心理学会，日本武道学会，日本武道学会剣道分科会，九州体育・スポーツ学会，The European College of sport science (ECSS：ヨーロッパスポーツ科学会)

6. 担当授業科目

<学 部>

健康科学実習Ⅰ・1単位・1年・前期，健康科学実習Ⅱ・1単位・1年・後期，
体育Ⅰ・2単位・2年・通年，体育Ⅱ・2単位・3年・通年，
演習・2単位・3年後期~4年前期，卒業論文・6単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

該当なし

8. 学外講義・講演

該当なし

9. 附属研究所の活動等

附属研究所重点領域研究プロジェクト

研究課題名「地域教育課題に関する研究」研究代表者：池田孝博

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	石崎 龍二
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

自然や社会の種々の現象に関する数理モデルのコンピュータ・シミュレーションやデータの統計解析を行っている。特に非平衡系にあらわれるカオスや散逸構造の統計的性質を、理論的および数値的な面から研究している。

①非定常時系列に対するパターン・エントロピー時系列による解析と応用、②散逸のあるクーロン多体系の数理モデルの構築と数値解析、③異常拡散現象の機構の解明と新しい統計の探求等を主な研究テーマとしている。

物理現象、生命現象、経済現象などに見られる多くの要素間の非線形な相互作用によって生じる複雑な運動形態を研究する非線形科学が発展してきている。非線形科学では、カオス、フラクタル、自己組織化臨界現象、カオスの縁、コンプレックス・カオスなど数多くの新しい概念が見出され、複雑な現象が数学的に表現され力学的な理解ができるようになってきている。コンピュータによる解析を取り入れた新しい統計的な手法を開発し、その成果を社会科学へ応用したい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「統計教育科目における学生の自己評価と学習到達度の分析(2016)」福岡県立大学人間社会学部紀要第 25 巻第 2 号, pp.21-40, 福岡県立大学, 2017 年 2 月.

②その他最近の業績

<調査研究報告書>

- ・ 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートの相関とエントロピー」統計数理研究所共同研究レポート「経済物理とその周辺(13)」, 第 378 巻, pp.11-17, 2017 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における多変量解析に関する統計演習の教育効果(2015年)」福岡県立大学人間社会学部紀要第 25 巻第 1 号, pp.63-79, 福岡県立大学, 2016 年 9 月.
- ・ 石崎龍二「外国為替レートのパターン・エントロピーと相関」統計数理研究所共同研究レポート「経済物理とその周辺(12)」, 第 360 巻, pp.74-79, 2016 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤 繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2015年)」福岡県立大学人間社会学部紀要第 24 巻第 2 号, pp.105-118, 福岡県立大学, 2016 年 2 月.
- ・ 石崎龍二, 増本賢治「福岡県立大学人間社会学部における コンピュータリテラシー教育の効果(2014年)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 24 巻第 1 号, pp.103-125, 福岡県立大学, 2015 年 9 月.
- ・ 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートの複数時系列のパターン・エントロピーと相関」統計数理研究所共同研究レポート「経済物理とその周辺(11)」, 第 332 巻, pp.74-79, 2015 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 佐藤繁美「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果(2014年)」福岡県立大学人間社会学部紀要第 23 巻第 2 号, pp.57-72, 福岡県立大学, 2015 年 3 月.
- ・ 石崎龍二, 増本賢治「福岡県立大学人間社会学部における コンピュータリテラシー教育の効果(2013年)」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第 23 巻第 1 号, pp.31-57, 福岡県立大学, 2014 年 7 月.

<学会報告>

- 石崎龍二, 井上政義「外国為替レート間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H28 度第 2 回研究会 (統計数理研究所), 2017 年 3 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置と揺らぎの統計的性質」, 日本物理学会 第 72 回年次大会 (大阪大学), 2017 年 3 月.
- 池志保, 中村晋介, 石崎龍二「大学生の「就業力」についての縦断調査研究」, 日本発達心理学会第28回大会, 2017年3月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置と揺らぎの統計的性質」, 第 122 回日本物理学会九州支部例会 (福岡大学), 2016 年 12 月.
- 石崎龍二, 井上政義「外国為替レート間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H28 度第 1 回研究会 (キャノングローバル戦略研究所), 2016 年 8 月.
- 柴田雅博, 石崎龍二「保健福祉系大学における全学横断型での統計・情報教育拡充への取り組み」, 第 134 回コンピュータと教育研究会, 2016 年 3 月.
- 石崎龍二, 井上政義「外国為替レート間の相関とエントロピー」, 日本物理学会 第 71 回年次大会 (東北学院大学), 2016 年 3 月.
- 石崎龍二「外国為替レート間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H27 度第 2 回研究会 (統計数理研究所), 2016 年 1 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置と不安定性」, 第 121 回日本物理学会九州支部例会 (九州工業大学), 2015 年 12 月.
- 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートにおける複数時系列とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H26 度第 2 回研究会 (統計数理研究所), 2015 年 3 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男, 濱岡翔太「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置とゆらぎ」, 第 120 回日本物理学会九州支部例会 (崇城大学), 2014 年 12 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男, 濱岡翔太「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の平衡配置とゆらぎの統計的性質」, 第 78 回形の科学シンポジウム「こころのかたち・こころのゆらぎ」 (佐賀大学), 2014 年 11 月.
- 石崎龍二, 井上政義「外国為替レートの変動間の相関とエントロピー」, 統数研共同研究集会「経済物理学とその周辺」H26 度第 1 回研究会 (キャノングローバル戦略研究所), 2014 年 9 月.
- 石崎龍二, 秦浩起, 庄司多津男, 濱岡翔太「AC トラップ中の少数帯電微粒子群の間欠的運動の統計的性質」, 日本物理学会 2014 年秋季大会 (中部大学), 2014 年 9 月.

③過去の主要業績

- Ryuji Ishizaki, Toshikazu Shinba, Go Mugishima, Hikaru Haraguchi and Masayoshi Inoue, “Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy”, Physica A, Vol.387 No.13, pp.3145-3154, 2008.
- 駒澤勉・橋口捷久・石崎龍二『新版 パソコン数量化分析』, 朝倉書店, 1998 年.
- Ryuji Ishizaki, Takehiko Horita, Tatsuharu Kobayashi and Hazime Mori, “Anomalous Diffusion Due to Accelerator Modes in the Standard Map”, Progress of Theoretical Physics, Vol.85 No.5, pp.1013-1022, 1991.

3. 外部研究資金

- 日本学術振興会, 科学研究費基盤研究 (C), 「大学生の IT セキュリティに関する新たな教育プログラムの構築」(研究代表者: 中村晋介) 3,380,000 円, 平成 28 年度~平成 30 年度, 研究分担者.

4. 受賞

5. 所属学会

日本物理学会、アメリカ物理学会 (APS)、日本心理学会

6. 担当授業科目

<学部>

数学概論・2単位・1年・前期、プレ・インターンシップ・2単位・1・2年・通年、
情報科学・2単位・1年・後期、専門職連携入門・1単位・1年・後期、情報数学・2単
位・2年・前期、プログラミング概論・2単位・2年・後期、データ処理とデータ解析
I・1単位・3年・前期、データ処理とデータ解析 II・1単位・3年・後期、公共社会学
研究 I・1単位・3年・前期、公共社会学研究 II・1単位・3年・後期、卒業論文・6単
位・4年・通年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部	職名	教授	氏名	上野 行良
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

人間関係に関する心理学を研究しています。

個人が生きやすくなるために必要な人間関係や心のあり方、そして個人を不幸にする社会の問題や個人の思考・行動・感情の分析をしたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

上野行良 (2015) 「わかりやすく伝えようープレゼンテーション」(「レポートの書き方入門'15」福岡県立大学)

②過去の主要業績

上野行良 (2006) 「感情心理学」(山岡重行編著『サイコナビ 心理学案内』ブレーン出版)

上野行良・中村晋介・麦島剛・本多潤子(2006)「非行の抑制要因と促進要因-福岡県の青少年非行に関する調査」福岡県立大学奨励研究報告書 V. 25.

上野行良 (2003) 「ユーモアの心理学ー人間関係とパーソナリティ」サイエンス社

3. 所属学会

日本心理学会、日本社会心理学会

4. 担当授業科目

〈学部〉

対人心理学・2単位・1年・前期、心理学・2単位・1年・後期、心の科学の現在・2単位・1年・後期、社会心理学・2単位・1年・後期、人間関係の科学・2単位・3年・前期、演習(人間形成学科)・2単位・3~4年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期

〈大学院〉

社会心理学特論・2単位・修士1年・前期、人間関係特論・2単位・修士1年・後期、特別研究・4単位・修士1~2年・通年

5. 学外講義・講演

- ・教育関連 (田川市保育士会、直方市保育士連盟など)
- ・行政機関 (福岡県、大分県、田川市、大分市、宇佐市、水巻町など)
- ・医療福祉関連 (国立病院研究学会、日本精神看護協会、佐賀県看護協会、国立病院機構など)
- ・その他 (大分県警察署など)

所属	人間社会学部総合人間社会コース	職名	教授	氏名	神谷 英二
----	-----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、現象学を中心とする現代哲学と生命倫理を中心とする応用倫理学を主な研究分野としています。また、医療機関や地方自治体の人材育成にも取り組んでいます。

- a. 現象学的他者論・相互主観性論研究
- b. 集合的記憶を媒介とした世代間コミュニケーションに関する現象学的研究
- c. 「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究
- d. インフォームド・コンセントに関する哲学的・倫理的基礎研究とそれに基づく医療職に対する生命倫理教育プログラムの開発と実践
- e. 医療倫理体制構築を主な手段とする医療機関の経営品質向上の研究と実践
- f. ロジカルシンキング、ロジカルライティング、文書添削及びコーチングを中心とする地方自治体における人材育成プログラムの開発と実践

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<学術論文>

(単著)「固有名と記憶(2)」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2014年、63-76

(単著)「瓦礫の記憶論のために」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2016年、77-90

(単著)「灰を忘却から救出するためのメモランダム」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2017年、59-68

(共著)新木真理子・神谷英二・東玲子・吉原悦子・丸山泰子「要介護高齢者の気遣いの世界—祖父父母的ジェネラティヴィティの源」、『西南女学院大学紀要』Vol.21、西南女学院大学保健福祉学部、2017年

②その他最近の業績

<学会発表>

(共同)新木真理子・神谷英二・東玲子・吉原悦子・丸山泰子「要介護高齢者の『気遣い』に着目した介入研究の可能性を探る—ハイデガーの解釈学的現象学を基盤として」日本看護科学学会第34回学術集会・交流集会、2014年11月30日、名古屋国際会議場

<教科書>

(共著)田中哲也編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方—2015年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2015年(担当箇所「第2章 レポートとは?」、21-37)

(共著)田中哲也編『旅する大学生のガイドブック—レポートの書き方—2016年版』福岡県立大学教養演習テキスト出版会、2016年(担当箇所「第2章 レポートとは?」、21-37)

③過去の主要業績

<著書>

(共著)千田義光・久保陽一・高山守編『講座 近・現代ドイツ哲学Ⅱ—ヘーゲル以後フッサールまで—』理想社、2006年。(担当箇所「第9章 他者経験の起源—発生的現象学におけるヒューレ・キネステーゼ・他者—」、255-277)

<学術論文>

(単著)「規範の生成—世代発生的現象学に基づく倫理学の可能性—」、『西日本哲学会年報』第9号、西日本哲学会、2001年、107-120

(共著)神谷英二・橋口捷久「医学生における生命倫理—患者の権利とインフォームド・コンセント—」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第13巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2005年、75-94

(単著)「遊歩者・記憶・集団の夢—ベンヤミン『パサージュ論』による記憶論構築のた

めに一」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第17巻第2号、福岡県立大学人間社会学部、2009年、67-79

<翻訳>

(単著)A. J. スタインボック「限界現象と経験の限界性」、『思想』2000年第10号、No.916、岩波書店、2000年、218-243

<書評>

(単著)「武内大著『現象学と形而上学—フッサール・フィンク・ハイデガー』の書評」、実存思想協会編『思想としての仏教』実存思想論集26、理想社、2011年、179-182

3. 外部研究資金

日本学術振興会・科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C)、研究課題名:「まちの物語論」構築のための記憶・忘却・喪失・再生に関する現象学的解釈学的研究(研究代表者:神谷英二、課題番号:25370024)、研究期間:2013(平成25)~2016(平成28)年度

4. 受賞

福岡県田川郡香春町・自治功労者表彰

5. 所属学会

日本哲学会、日本倫理学会、日本現象学会、日本生命倫理学会、哲学会、科学基礎論学会、実存思想協会、日本現象学・社会科学会、日本ミシェル・アンリ哲学会、中部哲学会、西日本哲学会、九州大学哲学会、日本老年看護学会、各会員

6. 担当授業科目

哲学Ⅰ・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、生命倫理・2単位・1年・前期、哲学Ⅱ・2単位・1年・後期、論理学・2単位・2年・前期、倫理学・2単位・2-3年・前期、哲学要論・2単位・3年・後期、看護倫理・1単位・看護実践教育センター糖尿病看護認定看護師教育課程、スタートダッシュのための就活塾・単位外・3年・後期

7. 社会貢献活動

<福岡県田川市>経営評価改革推進委員会委員長、新中学校のあり方に関する審議会会長、田川市立病院経営状況検証委員会委員長

<福岡県直方市>行政改革推進委員会会長、消防本部職員採用試験員

<福岡県田川郡香春町>情報公開審査会会長、個人情報保護審査会会長、政治倫理審査会会長、行政改革推進委員会会長、総合戦略検証委員会委員長、総合計画審議会委員

<株式会社社麻生・飯塚病院>倫理委員会委員、臨床研究管理委員会委員

8. 学外講義・講演

<公務員研修>福岡県市町村職員研修所「ディベート研修」、「文書添削力向上研修」、「先進地視察研究<四王寺塾>」田川市職員研修「スキルアップ神谷塾」、久留米市新任主査研修、京都郡みやこ町職員人材育成研修・「文書のきほん」研修など多数

<医療職向け講演>福岡県済生会二日市病院生命倫理研修「緩和ケアをめぐる倫理的問題—明日のケアと患者満足のために—」、福岡県済生会飯塚嘉穂病院倫理研修会「プロフェッショナルの復習教室—インフォームド・コンセントを極める—」

<市民向け講演>筑豊市民大学講演「豊かな最期の迎え方」

9. 附属研究所の活動等

附属研究所生涯福祉研究センター長

生涯福祉研究センター地域支援員(筑豊市民大学アドバイザー・講座部担当)

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	教授	氏名	小嶋 秀幹
----	---------------	----	----	----	-------

1. 主な研究分野

社会精神医学、精神保健学を主な研究分野としている。特に、地域住民や対人援助職者に対する精神障害の啓発教育、自殺予防対策に取り組んでいる。こころに生じる問題、精神障害をいかにわかりやすく伝えるか、その研修方法に興味を持っている。近年の主な取り組みには、福岡県内を中心とした自殺予防ゲートキーパー研修会講師がある。その他、勤労者の精神保健、筑豊・田川地域におけるアルコール問題、思春期の精神保健（自傷行為やひきこもりの問題）、司法精神医学（精神鑑定）、高齢者の精神的健康のあり方などにも興味を持って研究・実務をしている。

2. 研究業績

①著書・論文

- ・大石史香、小嶋秀幹：低出生体重児の親の会が参加者に提供する心理的支援—会話内容の質的分析—。福岡県立大学心理臨床研究 9；2017。（印刷中）
- ・小嶋秀幹、中島貴子：自傷行為をする親友に関わる際の心理についての質的調査。精神療法 42（6）；75-84，2016。
- ・田中玲衣、小嶋秀幹：若手のスクールカウンセラーがその職務体験から得た意識についての質的調査。福岡県立大学心理臨床研究 8；11-24，2016。
- ・権 静香、小嶋秀幹：在日コリアン青年の名のり行動形成に伴う心理的プロセス。福岡県立大学心理臨床研究 7；31-42，2015。
- ・小嶋秀幹：民生委員からみた自殺対策の現状と課題—自由記述内容の質的分析から—。自殺予防と危機介入 34（1）；41-47，2014。
- ・塚本紀子、小嶋秀幹：公的扶助ケースワーカーのストレスと職務適応プロセス。福岡県立大学心理臨床研究 6；85-91，2014。

②その他の業績

<学会報告>

- ・阿部 望、小嶋秀幹：ストレングスを用いた認知再構成法による心理教育プログラムの効果、第 42 回日本認知・行動療法学会，2016。
- ・Nozomi Abe & Hideki Kojima, A comparison of strengths-based cognitive restructuring and standard cognitive intervention for college students: A pilot trial. Cognitive Therapy Special Interest Group Exposition, The 50th Association for Behavioral and Cognitive Therapies, New York, 2016.
- ・小嶋秀幹：教育機関での取り組み～アルコール問題の啓発劇～。第28回九州アルコール関連問題学会，2016。
- ・小嶋秀幹、中島貴子：自傷行為をする親友と関わる際の心理についての調査。第 39 回日本自殺予防学会，2015。
- ・小嶋秀幹：保健福祉課職員のストレスと職務適応の心理的プロセス。第 21 回日本産業精神保健学会，2014。
- ・小嶋秀幹：戦略研究 NOCOMIT-J で学んだこと。第 38 回日本自殺予防学会，2014。
- ・小嶋秀幹：まずはこころの健康を身近に感じることから—福岡県中間市における寸劇の取り組み—。第 38 回日本自殺予防学会，2014。

③過去の主要業績

- ・小嶋秀幹：民生委員が関わった自殺事例のプロセス—インタビュー内容の質的分析—。日本社会精神医学会雑誌 22（2）；92 - 105，2013。
- ・小嶋秀幹：自殺の危険が切迫した人と関わる際の心構えとは—地域の事例を通して考えたこと—。自殺予防と危機介入 32（1）；68-71，2012。

3. 外部研究資金 なし

4. 受賞 なし

5. 所属学会

- ・九州精神神経学会評議員・編集委員
- ・日本精神神経学会精神科専門医
- ・日本精神神経学会、日本臨床心理士会、九州精神神経学会、日本社会精神医学会、日本自殺予防学会、日本病院地域精神医学会、日本司法精神医学会、日本産業衛生学会、日本アルコール・アディクション医学会、日本臨床精神薬理学会、日本老年精神医学会、日本心理臨床学会、日本産業精神保健学会、日本保健福祉学会、福岡県臨床心理士会 各会員

6. 担当授業科目

精神保健学・2単位・1年・前期、精神保健学Ⅰ・2単位・2年・前期、精神医学Ⅰ・2単位・3年・前期、老年期医学・2単位・3年・前期、精神保健学Ⅱ・2単位・2年・後期、精神医学Ⅱ・2単位・3年・後期、演習・2単位・3～4年・通年、卒業論文・6単位・4年・後期、特別研究・4単位・大学院1年・通年、臨床心理実習(学内)・1単位・大学院2年・通年、臨床心理査定演習・4単位・大学院1年・前期、臨床心理面接特論・4単位・大学院1年・後期、臨床心理基礎実習・2単位・大学院1年・通年、臨床心理実習(施設)・1単位・大学院2年・前期

7. 社会貢献活動

北九州いのちの電話評議員、北九州市役所嘱託産業医、田川市役所嘱託産業医、ホームレス自立支援センター北九州嘱託医、田川児童相談所虐待カウンセリング医、産業医科大学医学部非常勤講師、福岡県自殺対策協議会委員、福岡市自殺対策協議会委員、香春町いじめ防止等対策委員会委員長、心神喪失等医療観察法判定医

8. 学外講義・講演

- ・自殺予防の基礎知識と相談対応、福岡市中央区民生委員研修、8月
- ・自傷行為をする青少年の心理と関わり方、福岡県立大学教員免許更新研修、8月
- ・自殺予防の基礎知識と相談対応、水巻町職員ゲートキーパー研修、8月
- ・自殺予防の基礎知識と相談対応、古賀市職員ゲートキーパー研修、8月
- ・学生のメンタルヘルス、福岡県看護専門学校教員研修、9月
- ・精神障害を持つ方々への相談援助、北九州市こども相談職員研修、9月
- ・こころの不調のサインと関わり方、川崎町保健センターゲートキーパー研修、9月
- ・自殺予防の基礎知識と相談対応、中間市保健センターゲートキーパー研修、9月
- ・高齢者のうつ病(啓発劇)、上毛町民生委員研修、11月
- ・働く人のストレスケア、久留米市保健所職域研修、11月
- ・パーソナリティ障害の方への対応、行橋市居宅介護専門員研修、11月
- ・精神医学の基礎知識、北九州いのちの電話相談員養成研修、11月・12月
- ・自傷行為をする友人への関わり方、福岡教育大学ゲートキーパー研修、12月
- ・大学生のメンタルヘルス、産業医科大学FD研修、1月
- ・職場のメンタルヘルス、中間市役所管理職研修、1月
- ・妊産婦のメンタルヘルス、京築保健所母子保健職員研修、2月
- ・自傷行為をする若者の心理と関わり方、京都医師会看護学校ゲートキーパー研修、2月

9. 附属研究所の活動等

- ・福岡県立大学不登校・ひきこもりサポートセンター幹事

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	住友雄資
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

厚生労働省の発表によると、わが国には300万人を超える精神障害者がいます。精神科病院に入院している精神障害者は約35万人ですので、大多数は地域で生活しています。しかし、差別・偏見を受けやすい精神障害者や家族は、地域で生活しづらい状況が続いています。そこで、ソーシャルワークの視点から、精神障害者が地域で生活しやすい援助・支援法の開発とそれを下支えする社会環境を構築する方法を研究しています。そのためにはケアマネジメントという技術とケアマネジメントが有効に機能するシステムが不可欠で、両者を統合した地域サポートシステムを構築する研究をおこなっています。

またケアマネジメントを担う福祉専門職が必要になりますので、その観点から精神保健福祉士等をどのように養成するかということも研究しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

林志帆・住友雄資 (2016) 「精神障害者のきょうだいへの支援—精神保健福祉士による支援内容から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24 (2) , 21-36.

②その他最近の業績

(学会報告)

鈴木孝典・岩崎香・大塚淳子・松本すみ子・大谷京子・松浦智和・石田賢哉・越智あゆみ・住友雄資・石川到覚 (2016) 「精神科医療機関における精神保健福祉士の配置と長期入院患者の動向との関連」『日本精神保健福祉学会第5回学術研究集会要旨集』(沖縄大学), 2016年6月24日.

(教育実践報告)

畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・平川明美 (2016) 「2015年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習』・『精神保健福祉援助実習指導』—新カリキュラム完成年度の取り組みについて」『福岡県立大学人間社会学部紀要』25(1), 81-90.

畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・梶原浩介 (2015) 「2014年度教育実践報告：旧カリ『精神保健福祉援助実習』・新カリ『精神保健福祉援助実習指導』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24(1), 127-135.

住友雄資・畑香理・平林恵美・奥村賢一 (2014) 「2013年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』23(1), 59-71.

(書評)

住友雄資 (2015) 「書評 赤畑淳『聴覚障害と精神障害をあわせもつ人の支援とコミュニケーション』ミネルヴァ書房」『福岡県立大学人間社会学部紀要』23(2), 87-90.

③過去の主要業績

住友雄資 (2007) 『精神保健福祉士のための地域生活支援活動モデル』金剛出版。(単著)

杉本敏夫・住友雄資編 (2006) 『改訂 新しいソーシャルワーク』中央法規出版。(共編著)

住友雄資 (2001) 『精神科ソーシャルワーク』中央法規出版。(単著)

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

一般社団法人日本社会福祉学会 代議員・査読委員
日本精神障害者リハビリテーション学会 査読委員
日本ソーシャルワーク学会
日本職業リハビリテーション学会
日本地域福祉学会
一般社団法人日本精神保健福祉学会

6. 担当授業科目

(学部)

教養演習・1単位・1年・前期
精神科リハビリテーション学Ⅰ・2単位・3年・前期
精神科リハビリテーション学Ⅱ・2単位・3年・後期
精神保健福祉論Ⅲ・2単位・3年・後期
精神保健福祉演習・1単位・3年・前期
精神保健福祉援助演習・2単位・3年・通年
社会福祉学演習・2単位・3年・後期
精神保健福祉援助実習指導・3単位・3～4年・通年
精神保健福祉援助実習・5単位・4年・通年

(大学院)

社会福祉研究法・2単位・前期
精神保健福祉演習・2単位・後期
質的研究法・1単位・前期
特別研究・4単位・通年

7. 社会貢献活動

精神保健福祉士試験委員会 副委員長
直方市障害者施策推進協議会 会長
田川市障害者総合自立支援協議会 会長

8. 学外講義・講演

(出前講義)

福岡県立東鷹高校「ソーシャルワーカーの援助」(2016年9月16日)

9. 附属研究所の活動等

※HPには各教員の主な研究内容(3項目に限る)と保有学位も掲載しています。
上記様式とは別に、下記の内容も回答頂きますようお願い致します。

(研究内容)

1. 精神障害者の地域生活支援に関する研究
2. ソーシャルワーク及びケアマネジメントに関する研究
3. 福祉専門職養成に関する研究

(保有学位)

博士(臨床福祉学)

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	教授	氏名	田代 英美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院文学研究科修士課程（社会学専攻）修了。1992年より本学に勤務。

研究分野は都市社会学、生活構造論、公共社会学。

さまざまに異なる生活条件を持つ人々が集住する地域社会、ここでの協同性や合意形成のあり方は地域社会学の中心的なテーマである。グローバル化とローカル化が同時に進行する現在、私たちの生活の拠点としての地域社会、ともに生きていく拠り所となる協同性や公共性が改めて問われている。少子高齢・人口減少社会において個人の移動と生活の質を確保し、活気ある地域社会を維持するための課題を明らかにしたい。具体的な研究テーマとして、地域における公共交通や河川整備、特にそこでの住民参加、また、東日本大震災による避難/移住者の生活過程について実証的な調査研究を続けている。

理論的な側面では、都市社会における生活問題分析の枠組みを再検討している。最近注目を集めているワーキングプアやワーク・ライフ・バランスは、実は生活構造論の中で常に議論されてきた問題である。これまでの研究に学ぶとともに、新たな状況下での生活問題の性質と課題を分析する際の枠組みを考えたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究（1）——埼京線・埼玉高速鉄道・TXと北陸新幹線・九州新幹線を事例とする第一次報告」『日本都市社会学会年報』VOL.49、315-319、2016年5月。

田代英美「遠方避難における生活再建と地域社会の課題」、『社会分析』43号、25-43、2016年3月。

田代英美・佐藤繁美『公共社会学入門 「公共性の社会学」テキスト』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、2016年4月。

田代英美「遠方個別避難における『被災』、『避難』、『生活再建』の構造」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、45-56、2015年2月。

②その他最近の業績

<学会発表>

田代英美「平常化する地域社会の見えない避難」、開催校企画テーマセッション『「フクシマ」をひらく——原発事故をめぐる社会の現在と未来』報告者、日本社会学会第89回大会（九州大学）、2016年10月9日。

後藤範章・田代英美・浅川達人・小山雄一郎・松林秀樹・松橋達矢「新線開業の社会学的効果に関する実証的研究（2）」日本都市学会第63回大会（岡崎市）、「報告要旨集」54-55、2016年10月30日。

田代英美・伊東啓太郎・田中優太・山下絢子・揚野慎一郎・伊藤拓「“かわまちづくり”への参加に関わる住民の行動・意識要因——福岡県田川市における調査から」日本景観生態学会第25回全国大会（九州工業大学）、「講演要旨集」77、2015年6月6日。

田代英美「テーマ部会 東日本大震災と都市社会学」討論者、日本都市社会学会第32回大会（専修大学）、2014年9月11日。

<調査研究報告書>

田代英美・石出千里・江川美紗・上種あゆみ・工藤夏美・杉元綾・中村汐里・早川怜香・松尾綾華・山内一成「彦山川調査第1次報告」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、73-86、2015年2月。

田代英美「原発避難・移住者への新たな支援活動の可能性」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第1号、13-21、2014年9月。

<教育実践報告>

田代英美・佐野麻由子「公共社会学科におけるアクティブ・ラーニングの実践 2016」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第2号、81-92、2017年2月。

<書評>

田代英美「書評 関西学院大学災害復興制度研究所他編著『原発避難白書』（2015、人文書院、241頁。）」、『社会分析』44号、2017年3月発行予定。

③過去の主要業績

田代英美「東日本大震災による遠方への避難の諸要因と生活再建期における課題」、『西日本社会学会年報』第11号、63-75、2013年3月。

田代英美「地方公共交通の再編とコミュニティの情報提供機能」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第21巻第2号、65-77、2013年1月。

田代英美・佐藤繁美編『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』、福岡県立大学人間社会学部公共社会学科、総ページ数77、2011年3月。

田代英美「市町村合併政策に伴う行政組織の変動と『協働』」、『西日本社会学会年報』第8号、51-70、2010年3月。

田代英美・植田美佐恵・佐藤繁美「生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程」平成14～16年度科学研究費補助金（基盤研究(B)（2））研究成果報告書、2005年6月。

3. 外部研究資金

科学研究費基盤研究（B）「交通インパクトの社会的効果に関する研究——量と質とビジュアルの混合研究法——」平成26年度～平成29年度、研究分担者。

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会分析学会、西日本社会学会、日本都市社会学会、日本社会学会、環境社会学会、日本都市学会 各会員

6. 担当授業科目

<学部>

公共性の社会学・2単位・1年・前期、社会学概論・2単位・2年・前期、地域社会研究Ⅰ・1単位・2年、地域社会研究Ⅱ・1単位・2年、社会調査実習・2単位・3年・通年、地域社会分析法A（地域と生活）・2単位・3年・前期、地域社会学特講・2単位・3年、環境社会学・2単位・3年・後期、公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期、公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年、卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

田川市地域公共交通会議委員、田川市経営評価改革推進委員会委員、田川市産業振興会議委員、田川の宝！彦山川を創る会会長、川崎町地域公共交通会議委員、添田町地域公共交通会議委員、直方市都市計画審議会委員

8. 学外講義・講演

<出前講義>

・福岡県立鞍手高等学校「筑豊地域の人口——各地域の人口動向を理解し、まちづくりの課題を考える——」2016年6月15日。

<講習・講演会>

・田川法人会「見つける、つなぐ、動かす」2016年12月7日。田川市青少年文化ホール。

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部 総合人間社会コース	職名	教授	氏名	田中哲也
----	------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1978年九州大学大学院文学研究科修士課程修了、カイロ大学、カイロ・アメリカ大学留学、在シリア日本大使館専門調査員勤務後、同大学院博士後期課程中退。九州大学文学部助手の後、1992年、本学助教授に着任、1997年より教授。2002-03年、日本学術振興会カイロ研究連絡センター長。2014年より人間社会学部長、人間社会学研究科長。

主として中東アラブ・イスラム地域を主な対象領域として、宗教社会学的フィールド・ワーク研究から宗教史的研究、在シリア日本大使館付専門調査員として行った同地の宗派問題の研究まで幅広く研究を行ってきた。また、中東地域に加えて、西アフリカ、インド、インドネシアでの現地調査も行った。

近年は、エジプトを事例としてイスラム世界の近代化にともなう社会・文化変容の研究を行っている。19世紀初頭以来の西洋式教育制度や教育内容がイスラム社会やイスラム文化をどのように変化させてきたのかについて分析してきた。現在、これまで行ってきたエジプトへの西洋式近代教育制度の導入と展開についての教育史・教育社会学的研究を出版するためにまとめる作業を行うとともに、2013年より現代エジプト高等教育についての諸問題についての研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・『旅する大学生のガイドブック：レポートのかきかた 16年版』福岡県立大学教養演習テキスト、編集代表、第1章執筆。

②その他最近の業績

- ・「エジプト近代教育史：現代エジプトの理解のために」学術振興会カイロ研究連絡センター懇話会、2015. 9. 3.

③過去の主要業績

- ・「イギリス占領時代末期におけるアッワル学校と民衆初等教育制度」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第20巻第2号、2012.
- ・「イギリス占領下におけるエジプト教育再考」『アジア教育』第4巻、2010年.
- ・「近代教育制度とイスラーム社会の変容」『比較文明』第24巻、日本比較文明学会、2009年.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費補助金 一般 (c) 「エジプト高等教育のグローバル化における「外国大学」の教育社会学的研究」(2016 - 18年)

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本宗教学会、宗教と社会学会、日本イスラム学会（評議員）、日本中東学会、比較文明学会（幹事）、日本比較教育学会、日本教育史学会、日本教育社会学会、アジア教育史学会、アジア教育学会

6. 担当授業科目

比較文化論・2単位・1年・前期、宗教学・2単位・2年・後期、イスラム社会論・2単位・2年・後期、外書講読A・1単位・3年・前期、外書講読B・1単位・3前期、地域文化演習・2単位・前期（研究科）、地域文化研究演習・2単位・後期（研究科）、日本事情・2単位・後期、日本事情・2単位・前期

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市特別職報酬等審議会会長
- ・ 汚泥活性処理センター整備事業者選定委員会
- ・ 田川市図書館協議会

所属	人間社会学部・一般教育等	職名	教授	氏名	郝 曉 卿
----	--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

グローバル時代における中国の国内政治を基点として、中国の現代史と国際環境との関係などを主な研究分野としている。その内容として、1、現在の中国の内政と外交に多大な影響を与えた文化大革命の国際的な背景の検討と、2、高度成長を伴う深刻な環境問題に対する中国政府の対策への調査、検討等である。具体的には、1の場合、文化大革命の発生から終息までの原因の一つとして、当時の国際環境に照準を定め、問題の解明を行ってきたが、現在はアメリカの要素を中心に、50～70年代における米国の対中政策を中国の国内情勢に及ぼしたかを明らかにしようとしている。2については、世界、とくにアジアに深刻な影響を与えた中国の環境問題を注目し、現地調査で入手した資料などを参考にしながら、中国の環境問題などを制度的に検討するとともに、国際協力で、世界からいかなる越境支援を受け、また、何の問題があるのかを研究しようとしている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

論文

- ・「文化大革命と国際環境」(5)、単著、2011年7月、『福岡県立大学紀要』、第20巻第1号
- ・「文化大革命と国際環境」(6)、単著、2013年1月、『福岡県立大学紀要』、第21巻第2号
- ・『『黄帝内経』の叡智』、単著、2014年1月、『福岡県立大学紀要』、第22巻第2号

②その他最近の業績

- ・平成27年度研究奨励交付金（南京師範大学との教育研究交流を推進するプロジェクト研究）

③過去の主要業績

著書

- ・『転換期の東アジア』、共著、ナカニシヤ出版、佐々木武夫 豊田謙二編、1998年5月、第4章「過渡期における中国の労働問題」担当
- ・『社会主義の世紀』、共著、法律文化社、熊野直樹 星乃治彦編、2004年11月、第8章「ユートピアと現実との間」担当

論文

- ・「中国の環境問題と国際協力」、単著、2006年11月、『福岡県立大学紀要』、第15巻第1号
- ・「文化大革命と国際環境」(4)、単著、2007年11月、『福岡県立大学紀要』、第16巻第1号
- ・「中国文化における中医学」、単著、2009年7月、『福岡県立大学紀要』、第18巻第1号

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

日本国際政治学会

6. 担当授業科目

- ・中国語Ⅰ－(1)・中国語Ⅰ－(2)・2単位・通年・1年、中国語Ⅱ－(1)・中国語Ⅱ

－ (2) ・2単位・通年・2年、中国語Ⅲ－ (1) ・中国語Ⅲ－ (2) ・2単位・通年・3年、
国際関係論 ・1単位・前期・1年、中国の社会と文化 ・1単位・前期・2年、教養演習 ・1
単位・前期・1年

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

・福岡県立大学公開講座「導引養生法入門」、2014年11月

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部人間形成学科/心理コース	職名	教授	氏名	福田恭介
----	--------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1. **まばたきに関する研究**：まばたきは、刺激を待ちかまえたり刺激を取り込んだりしているときには抑制され、刺激処理が終了した瞬間にまばたきが生じることを示してきた。このことは、まばたきが目の保護・防衛のため反射的に生じるだけでなく、期待、処理、処理終了、さらには選択的注意といった認知過程と関連していることを示している。最近では、発達障害を抱えた児童に反応を抑制させると、まばたきのタイミングが遅れやすく、前頭前皮質の活動とまばたきが関連していることを示している。このことは、まばたきによる発達障害アセスメントの可能性を示すものである。
2. **ペアレントトレーニング（ペアトレ）に関する研究**：親の子育て支援だけでなく、保育園や学校における子ども支援にもペアトレが役立つことを示してきた。子どもの行動や親・保育者・教師の行動を記録すると、親・保育者・教師の行動が変わり、子どもの行動が改善し、さらには親・保育者・教師が自信を回復している。こういった取り組みが子ども支援に効果的であることを示すための啓発活動も行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

著書

1. 福田恭介「情動の認知」『新・知性と感性の心理－認知心理学最前線－』行場次朗・箱田裕司（編著）第9章，152-166. 福村出版（2014）

論文

1. Fukuda, K. (2014). An investigation into the relationship between spontaneous eye blinks and cognitive processing. *International Journal of Psychophysiology*, 94 (2), 162-163. 査読あり
2. 森久美子・福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人 (2015)「感情語提示時における大学生の瞳孔反応と抑うつ・不安との関連」福岡県立大学人間社会学部紀要，23(2)，33-44. 査読あり

②その他最近の業績

学会発表

1. 是永陽子・吉岡和子・中藤広美・福田恭介「ペアレントトレーニングが保育士・教師の特別支援教育スキルアップに及ぼす効果」九州心理学会第75回大会2014.11.15（宮崎県 宮崎公立大学）
2. 福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人「瞬目時間分布に及ぼす刺激呈示確率の影響」第23回まばたき研究会 2015.3.29（静岡県 三保園ホテル）
3. 福田恭介・上江洲成美・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人「表情画像の呈示時間が瞬目発生に及ぼす効果」第33回日本生理心理学会大会2015.5.23（グランフロント大阪）
4. 福田恭介「心理学実験演習における瞬目利用」第24回まばたき研究会 2016.3.28（大阪府あまみ温泉 南天苑）
5. 福田恭介・松尾太加志・志堂寺和則・早見武人「Go課題・No-Go課題時における瞬目時間分布」第34回日本生理心理学会大会 2016.5.15（名古屋大学 豊田講堂）
6. 福田恭介・志堂寺和則・松尾太加志・早見武人「Go課題・No-Go課題時における発達障害児の瞬目変動」九州心理学会第77回大会 2016.12.3（西南学院大学 松緑会館）
7. 鈴木梓・福田恭介・志堂寺和則・早見武人・松尾太加志「ワーキングメモリ課題中における瞬目変動」九州心理学会第77回大会 2016.12.3（西南学院大学 松緑会館）
8. 結田希望・福田恭介「表情と顔の呈示数が表情探索課題に及ぼす影響」九州心理学会第77回大会 2016.12.4（西南学院大学 松緑会館）

シンポジウム

1. K. Fukuda, The relationship between spontaneous eye blinks & cognitive processing. Symposium “Recent Research Topics on Eye Blink Behavior” at the 17th World Congress of

Psychophysiology. (Hiroshima, Japan) 2014.09.26

2. 第78回日本心理学会シンポジウム「瞬目研究の新展開-画像処理によるデータ分析とドーパミンとの関連-」2014. 9月12日 (同志社大学) 指定討論
3. 第79回日本心理学会シンポジウム「まばたきでどこまで研究可能か! -観客との相互作用および気分障害評価について-」2015. 9月23日 (名古屋大学) 指定討論

③過去の主要業績

1. 田多英興・山田富美雄・福田恭介(1991)「まばたきの心理学-瞬目行動の研究を総括する」289頁 北大路書房 (京都)
2. K. Fukuda: Eye blinks: New indices of detection of deception. *International Journal of Psychophysiology*. (2001) 40, 239-245.
3. K. Fukuda, J.A. Stern, T.B. Brown, & M.B. Russo, (2005). Cognition, Blinks, Eye-Movements, and Pupillary Movements During Performance of a Running Memory Task. *Aviation, Space, and Environmental Medicine* 76 (7), Section 2, C75-C85.
4. 福田恭介 (2011) 「ペアレントトレーニング実践ガイドブック-きつとうまくいく。子どもの発達支援」258頁 あいり出版 (京都)

3. 外部研究資金

日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究C「眼球運動・瞬目反応を用いた発達障害児の心理過程アセスメント」研究代表者 (課題番号26380893) ¥4,680,000 2014~2016年度

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本生理心理学会 (理事), 九州心理学会 (理事), 日本心理学会, Society of Psychophysiological Research (SPR), 日本行動療法学会, 日本心理臨床学会, 日本教育心理学会, International Organization of Psychophysiology (IOP)

6. 担当授業科目

<学部>

実験測定法Ⅰ・2単位・2年・前期, 実験測定法Ⅱ・2単位・2年・後期, 幼児教育心理学・2単位・2年・前期, 教育心理学概論・2単位・2年・後期, 知覚心理学・2単位・3年・前期, 認知心理学・2単位・3年・後期, 演習・2単位・3年後期・4年前期, 卒業論文・6単位・4年・後期

<大学院>

臨床心理基礎実習・2単位・修士1年・通年, 心理学研究法特論・2単位・修士1年・前期, 認知心理学特論・2単位・修士1年・後期, 臨床心理実習(学内)・1単位・修士2年・通年, 臨床心理実習(施設)・1単位・修士2年・前期, 特別研究・2単位・修士1・2年通年

7. 社会貢献活動

附属図書館長, 田川市教育支援委員会委員長, 九州心理学会理事, 日本生理心理学会理事, 福岡県立大学人間社会学部紀要査読委員, 福岡県立大学心理臨床研究査読委員

8. 学外講義・講演

1. 京築ブロック保健師協議会「ペアレントトレーニング:園での取り組みや事例を通して」4月8日 行橋市役所
2. 特別支援教育スキルアッププログラム 5月27日~7月22日 5回 福岡県立大学附属研究所
3. 福岡舞鶴高校出前講義「心理学入門」6月18日
4. 第15回春日市特別支援保育研修会「ペアレントトレーニングによる気になる子への対応」6月25日 春日市役所

5. 中間市要保護児童対策協議会専門研修会「要保護児童に対するペアレントトレーニングの応用」7月4日 中間市保健センター
6. 2016教員免許状更新講習「ペアレントトレーニングの教育現場への応用」8月24日 福岡県立大学
7. 筑豊ブロック地域保健師研究協議会「ペアレントトレーニングによる子育て支援」10月14日 鞍手町総合福祉センター
8. 子育てボランティア養成講座「ペアレントトレーニング：家庭から園・学校，そして地域へ」10月21日 田川市多世代交流ひろばそだちの森
9. 直方特別支援学校出前講義「心理学入門」12月9日
10. 筑紫ブロック保健師研究協議会「ペアレントトレーニングによる子育て支援」1月6日 大野城市役所
11. 直方市ペアレントトレーニングによる保育士・教師のためのスキルアッププログラム1月6日，13日，27日，2月10日，24日 直方市公民館
12. 北九州市障害児施設連盟職員研修会「親支援・ペアレントトレーニング」1月27日 北九州市立総合療育センター

9. 附属研究所の活動等

1. 「お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）」の企画と運営
2. 「教師・保育士のための特別支援教育スキルアッププログラム」の企画と運営
3. 「第6回直方市保育士・教師のためのスキルアップセミナー」の企画と運営

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	教授	氏名	細井 勇
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究分野は、社会事業史研究である。日本の近代化過程の特質とは何か、その中で社会福祉は如何に形成されてきたか、とくに、近代日本におけるキリスト教の受容、その隣人愛に触発された慈善事業に関心がある。これまで、岡山孤児院と石井十次に関する研究を続けてきたが、最近では、その事業のモデルとなった英国バーナードズ、児童ケアの日英比較に発展し、さらに現在では、日英比較では見えてこないドイツ等におけるソーシャル・ペタゴジーに注目するようになり、その日本の社会的養護界への導入を試行しようとしている。旧産炭地筑豊の生活保護史とキリスト教学生運動史の研究は、もう一つのライフワークである。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

細井勇「石井十次とアメリカン・ボード―宣教師ペティ―から見た岡山孤児院―」細井勇、小笠原慶彰他編『福祉にとっての歴史 歴史にとっての福祉 ―人物で見る福祉の思想―』ミネルヴァ書房, 2017年

細井勇「自由と全体性」杉山博昭編『戦前期における社会事業の展開―自由と全体性の変遷をめぐって―』社会福祉形成史研究会, 2015年

菊池義昭、細井勇編・解説『史料・岡山孤児院 機関誌編』全5巻, 六花出版, 2014年

細井勇「日露戦争後の感化救済事業とキリスト教」日本キリスト教社会福祉学会編『日本キリスト教社会福祉の歴史』ミネルヴァ書房, 2014年

〈論文〉

細井勇「正義と自由としての社会福祉―『商品化』論と『脱商品化』論の関係―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』25-2, 1-20, 2017年

細井勇「ドイツの児童福祉と日本の児童福祉―ドイツ児童・青少年援助法と児童福祉施設―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』25-1, 1-21, 2016年

細井勇「ソーシャル・ペタゴジーと児童養護施設―福祉レジームの観点からの国際比較研究―」『福岡県立大学人間社会学部紀要』24-2, 1-21, 2016年

細井勇「岡山孤児院12則と里親委託」『社会的養護とファミリーホーム』6号、122-127, 2015年

細井勇「アメリカン・ボード宣教師 J. H. ペティ―から見た岡山孤児院―The Missionary Heraldの掲載記事より―」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅲ, 95-106, 2015年

②その他最近の業績

〈書評〉

細井勇「書評：木原活信著『社会福祉と人権』」『キリスト教社会福祉学研究』46号、2015年

細井勇「書評：津崎哲雄著『英国の社会的養護の歴史：子どもの最善の利益を保障する』」『社会福祉研究』54-4, 2014年

〈その他〉

細井勇「2015年度の研究活動報告」『石井十次資料館研究紀要』17, 2016年

細井勇「児童養護のルーツ」日本児童養護実践学会関西ブロック『こそだち』創刊号, 2016年

細井勇「ドイツ・ペタゴジーとラウエハウス―ドイツの児童福祉施設を訪問して―」『石

井十次資料館研究紀要』16, 2015年

細井勇「2104年度の研究活動報告並びに科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究(2010-2014)の成果報告」『石井十次資料館研究紀要』16, 2015年

細井勇「発刊にあたって」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅲ(科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」代表細井勇最終報告書) 2015年

細井勇「結びにかえて」並松秀邦編『福岡県立大学社会福祉学会報告書 平成22年～26年、大会報告』福岡県立大学, 2015年

細井勇、菊池義昭、元村智明編『石井十次資料館蒐・所蔵資料仮目録 簿冊文書の部 高鍋図書館所蔵』石井十次研究会, 2014年

細井勇 「巻頭言」『石井十次資料館研究紀要』別冊Ⅱ(科研費研究「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」代表細井勇中間報告書) 2014年

〈学会報告等〉

森茂起、細井勇他「(応募シンポジウム) これからの施設養護に求められるもの: 国際的に評価される実践モデルを目指して」第22回日本子ども虐待防止協会(於いて大阪国際会議場) 2016年11月25日

細井勇「(基調講演) 日本の社会的養護に求められる専門性としてのソーシャルペタゴギーの役割と意義について」日本児童養護実践学会第8回研究大会(於大阪成蹊短期大学) 2016年2月28日

細井勇、山内未紗希、三原博光「ドイツ・ペタゴギーと児童養護施設一現地訪問調査を通じて」日本社会福祉学会63回秋季大会(於留米大学) 2015年9月20日

細井勇「(基調講演) 歴史から学ぶ社会的養護実践」日本児童養護実践学会第6回研究大会(於目白大学) 2014年2月15日

③過去の主要業績

細井勇・菊池義昭編・解説『岡山孤児院関係資料集成』全3巻、不二出版、2009年

細井勇『石井十次と岡山孤児院—近代日本と慈善事業—』ミネルヴァ書房、2009年

田川地区社会福祉研究会・細井勇監修『福岡県田川福祉事務所四十年史』、1996年

共著『山室軍平の研究』同朋社、1991年

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本基督教社会福祉学会(理事)、社会事業史学会、司法福祉学会、同志社大学社会福祉学会、日本子ども虐待防止研究会、日本児童養護実践学会、福岡県立大学社会福祉学会(会長)

6. 担当授業科目

(学部)

社会福祉概論Ⅰ・2単位・1年前期、社会福祉史入門・2単位・1年後期、児童福祉論・2単位・2年前期、社会福祉発達史・2単位・3年後期、社会福祉相談援助実習指導・3単位・2年～3年、社会福祉相談援助実習・4単位・3年、相談援助演習C・1単位・3年後期、社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年後期

(大学院)

社会福祉研究・2単位・前期、社会福祉演習・1単位・後期、特別研究・4単位・通年、フィールドワーク・2単位・1年後期

7. 社会貢献活動

福岡県日常生活自立支援事業契約締結審査会委員

児童養護施設栄光園 評議員

8. 学外講義・講演

細井勇「子ども家庭福祉と放課後児童クラブ」「特に配慮を必要とする子どもの理解」
学童保育協会（於レインボープラザ）2016年10月22日

細井勇「同上」（於苧田町中央公民館）2016年9月16日

細井勇「（講義）ドイツの児童福祉施設を訪問して」第19回石井十次セミナー（於宮崎
県高鍋町）2016年8月28日

細井勇「社会福祉論—正義と自由と社会福祉—」平成28年度「学童保育基礎資格」認定
講習会（於北九州大学）2016年6月5日

所属	人間社会学部 社会福祉コース	職名	教授	氏名	本郷 秀和
----	----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、福祉活動に取り組むNPO法人において、社会福祉士・介護福祉士等として相談員や介護業務、運営管理業務等に従事した経験があることから、高齢者福祉活動(ソーシャルワークや介護、各種の生活支援)に取り組むNPO法人の役割にこれまで着目してきました。

現在の研究テーマとしては、1)高齢者のニーズに応える生活支援サービス(特にNPO法人が提供するサービス)に関する研究、2)高齢者の権利擁護に関する研究(例:介護サービスの評価や苦情解決、高齢者虐待の予防と対応、認知症高齢者の地域支援等)、3)高齢者が住み慣れた地域で生活が継続できるためのソーシャルワークの今後の展開(特に様々なニーズに応えられるためのサービス開発の推進方法や管理運営等)に関するものがあります。研究上で特に意識することとして、机上のみではなく、実際に高齢者の方や様々な専門職の方等と顔がみえる関係を築きながら、現実の福祉問題の把握と理解に心がけながら研究を進めようと考えています。また、社会福祉に関する各種調査等を通じて福祉問題を抽出・発見し、その結果を福祉実践にフィードバックすることで現実の社会福祉サービスの向上に貢献できればと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文(2014-2016年度)

- 1)本郷秀和「第14章 ソーシャルワーク -社会福祉の相談援助-」「第16章 社会福祉の諸問題とコメディカルへの期待」、鬼崎信好・本郷秀和編著、『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』2017年2月。
- 2)矢部航・本郷秀和、「福祉 NPO 法人におけるボランティア受け入れの課題—九州・沖縄地方の福祉NPO 法人に対する質問紙調査の結果から—」日本社会福祉学会九州部会発行、『九州社会福祉学』第13号・2017年3月。
- 3)本郷秀和「介護支援専門員の高齢者虐待の兆候の認識に関する現状と課題—政令指定都市における介護支援専門員の意識調査を通じて—」日本高齢者虐待防止学会発行、『高齢者虐待防止研究』、2017年3月。
- 4)本郷秀和「高齢者虐待における介護支援専門員の課題—地域包括支援センターとの連携に向けて—」『地域ケアリング』Vol19.No.4.2017.(株)北陸館、2017年3月。
- 5)下田学・本郷秀和「認知症高齢者に関する成年後見制度の利用支援の課題—福岡県内の主要相談機関を中心に—」『九州社会福祉学』第12号、日本社会福祉学会九州部会発行、2016年3月。
- 6)本郷秀和・梶原浩介・田中将太「相談援助実習ガイドラインからみた相談援助実習の学習意識—福岡県立大学「相談援助実習」履修生の学習課題—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第1号、2015年9月。
- 7)本郷秀和・永田千鶴・鬼崎信好・荒木剛、「調査報告 フィンランド高齢者福祉を巡る動向 I (公的機関編)—2012-2013年度のヒアリング調査結果の紹介—」『福岡県立大学人間社会学部紀要 第23巻第1号』2014年9月。

②その他最近の業績(2014-2016年度)

- 1)趙秀眞(ジョスジン)・本郷秀和、「特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)における施設社会化の現状と課題—福岡県内の特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)を対象に—」日本社会福祉学会第55回大会九州部会口頭発表(会場:鹿児島国際大学)平成26年6月。
- 2)永松美奈子・本郷秀和、「北九州市における特別養護老人ホームの職場内集合研修の現状と課題1—介護職員へのアンケート調査結果の紹介—」日本社会福祉学会第56回大会九州部会口頭発表(会場:九州保健福祉大学)、平成27年6月。
- 3)相浦京子・本郷秀和、「認知症高齢者の家族支援に関する現状と課題—北九州市の介護支援専門員実態調査から—」日本社会福祉学会第57回大会九州部会口頭発表(会場:長崎ウエスレヤン大学)、平成28年6月。
- 4)畑香里・本郷秀和・永田千鶴・荒木剛、「介護支援専門員の高齢者虐待の遭遇経験と兆候察知の現状—福岡市・北九州市に着目して—」日本社会福祉学会第57回大会九州部会口頭発表(会場:長崎ウエスレヤン大学)、平成28年6月。

5) 鬼崎信好(研究代表)・本郷秀和・永田千鶴・荒木剛・村山浩一郎・松岡佐智、『利用者本位の介護サービス評価手法の開発に関する研究』(平成 23-26 年度 科学研究費補助金【基盤研究 C】)研究成果報告書、久留米大学文学部教授 鬼崎信好発行、平成 27 年 3 月。

③過去の主要業績(3点以内)

- 1) 本郷秀和・西島衛二・永田俊明、「福祉移送サービスの現状の問題点と課題 -介護サービスを実施するNPO法人のケーススタディ-」『介護福祉学』Vol.12, 日本介護福祉学会、2005年10月。
- 2) 本郷秀和・鬼崎信好・佐伯幸雄、「指定福祉NPOにおける社会福祉士の役割」『日本の地域福祉』第20巻、日本地域福祉学会、2006年3月。
- 3) 本郷秀和、「高齢者虐待の兆候察知における介護支援専門員の課題 -福岡市・北九州市の介護支援専門員の現状と意識-」『社会福祉学』第54号第2巻、2013年8月。

3. 外部研究資金(2017年度のみ)

- 1) 平成 25-28 年度、文部科学省科学研究費補助金申請、【基盤研究C】(共同)※研究代表:永田千鶴(山口大学 医学部)「認知症高齢者のエイジング・イン・プレイスを果たす地域密着型事業所での看取りの実践」、(総額):370 万円。
- 2) 平成 26-29 年度(予定)科学研究費補助金【基盤研究 C】(共同)※研究代表:本郷秀和、テーマ:「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」(総額)360 万。
- 3) 平成 28-30 年度(予定)科学研究費補助金【基盤研究 C】(共同)※研究代表:荒木剛(西南女学院大学 保健福祉学部)テーマ:「地域包括支援センターにおける地域のインフォーマル資源の主体形成を図る実践」(総額)100 万円。

4. 受賞 なし

5. 所属学会

- 1) 日本社会福祉学会(理事)、2) 日本地域福祉学会、3) 日本社会福祉士会、4) 日本介護福祉学会、5) 日本老年看護学会、6) 日本高齢者虐待防止学会(機関紙査読委員)

6. 担当授業科目(2016年度)

〈学部：人間社会学部〉

- 1)「相談援助の基盤と専門職Ⅱ」(2単位・1年後期)、2)「相談援助実習指導」(3単位・3年通年・共同)、3)「相談援助実習」(4単位・3年通年)、4)「相談援助実習指導」(3単位・2年通年・共同)、5)「相談援助の理論と方法B」(2単位・2年前期)、6)「社会福祉学演習」(4単位・3年後期～4年前期・通年)、7)「卒業論文」(6単位・4年次後期)、8)「相談援助演習A」(2単位・2年通年)、9)「相談援助演習C」(1単位・3年後期)

〈大学院:人間社会学研究科(社会福祉専攻)〉

- 10)「高齢者福祉研究」(2単位・1年後期)、11)「高齢者福祉演習」(2単位・1年前期)、12)「特別研究」(4単位・1-2年通年)、13)フィールドワーク(2単位・1年後期)、14)「量的研究法」(1単位・1年前期)

7. 社会貢献活動(2016年度のみ)

- 1) 篠栗町地域福祉計画策定委員会 委員長(福岡県、平成 27-29 年 3 月迄)
- 2) 篠栗町社会福祉協議会 地域福祉活動計画策定委員会 委員長(福岡県、平成27-29年3月迄)
- 3) 福岡県社会福祉協議会 外部評価審査委員会 委員(平成27年-29年3月迄)
- 4) 田川市市民生活部所管施設等整備事業者選定委員会 委員長(平成 27 年-29 年 4 月迄)
- 5) 「田川市地域支え合い体制作り会議」委員会 委員(平成 27-29 年 3 月迄)
- 6) 「田川市地域支え合い体制作り会議」地域包括ケア部会[地域包括ケア会議] 委員(平成 27-29 年 3 月迄)
- 7) 嘉麻市地域福祉計画 策定委員(平成 28 年 5 月～平成 30 年 5 月迄)
- 8) 小竹町施設等整備事業者選定委員会 委員長(平成 28 年 9 月迄)
- 9) 福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 委員(平成28-30年3月迄)
- 10) 福岡県社会福祉協議会 運営適正化委員会 苦情解決小委員会 委員(平成 30 年 3 月迄)

- 11) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費等審査委員会 副会長(平成28-30年3月迄)
- 12) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護サービス苦情処理委員会 委員
(平成28年4月-平成30年4月迄)
- 13) 日本社会福祉学会 九州ブロック担当理事・運営委員(平成28-30年3月迄)
- 14) 日本社会福祉学会九州部会発行誌、『九州社会福祉学』編集委員長・査読委員
(平成27-30年3月迄)
- 15) 日本高齢者虐待防止学会機関誌『高齢者虐待防止研究』査読委員(平成27-29年3月迄)
- 16) 田川市教育委員会 青少年問題協議会 会長(平成28-30年3月迄)
- 17) 福岡県青少年健全育成協議会 会長(平成28-30年3月迄)
- 18) 福岡県人権施策推進講話会 委員(平成28-30年7月31日迄)
- 19) 福岡県立大学社会福祉学会 理事・事務局長
- 20) 特定非営利活動法人 地域たすけあいの会 代表理事(理事長)
(活動概要:サポート付き高齢者住宅、住宅型有料老人ホーム、通所介護(2)、訪問介護、居宅介護支援、居宅介護、重度訪問介護、就労支援A、日中一時支援、同行援護、学童保育(2)、高齢・障がい者配食サービス事業、特定相談支援事業、福祉有償運送、人材育成、地域縁がわ事業、独自生活支援事業、被災地支援等)
- 21) 荒尾玉名地区「障害者児の生活を豊かにする会」会計監査 ※以下略.

8. 学外講義・講演

- 1) 福岡県国民健康保険団体連合会 介護給付費審査委員会 研修講師、テーマ「福岡県における高齢者問題 -虐待・認知症高齢者の家族支援・成年後見制度を巡る課題-」(会場:福岡県国民健康保険団体連合会)
- 2) 佐賀西高校出前講義「社会福祉士の仕事」(入試業務)
- 3) 平成28年度不登校・ひきこもり支援フォーラム「妊娠期から学齢期までの切れ目ない支援の仕組みを考える-虐待予防と発達障害支援を中心に-」(福岡県立大学＝飯塚病院連携プロジェクト)、課題解決に向けたグループワーク、ファシリテーター。(2月12日)
- 4) 平成27年度 中間市地域密着型サービス事業所等研修会 講師、テーマ「高齢者虐待と介護支援専門員一家庭内虐待の動向・要因と各種調査結果の概観」(2017年3月10日、13:30-16:00)

9. 附属研究所の活動等

- 1) 福岡県立大学 不登校・ひきこもりサポートセンター長
(活動概要:不登校・ひきこもり児童等に対する各種支援、各種支援会議、公開講座関連業務(司会等)、フォーラム支援等)
- 2) 学位・資格等
博士(社会福祉学)、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、救急救命士、専門社会調査士他.

所属	人間社会学部総合人間社会コース	職名	教授	氏名	森脇 敦史
----	-----------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

憲法学を専攻しており、特に情報と法との関わり合いを中心的な研究課題としている。電子通信技術の発達（特にインターネットの爆発的拡大）は、誰もが情報を発信することを可能とした。これは、思想の自由市場への参入者を拡大し、多様な情報が発信されるという面を持つ。一方で、発信者が限定的であったがゆえに成立していた従来の規律を破壊し、人々の権利を侵害する（名誉毀損やプライバシー侵害、著作権侵害など）という一面をも有している。このような問題に対して、表現の自由という観点から個別事例においてどのような解決を図るべきなのか、またどのような制度設計を行うことが最も適切な権利配分を人々に行うことになるのかということを考察している。

また近年は、アメリカの表現の自由法理が形成された歴史的背景についても研究を進めている。合衆国憲法において表現の自由が一定の保護を受けるようになったのは1940年代頃からであるが、無制限の保護が不可能である以上、規制されうる言論と規制され得ない言論の線引きが必要となる。個人・社会の多様化が進む日本において、あるべき言論の自由法理を提示するため、そのような線引きをいかなる理論的枠組みにより行おうとしたのかを検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・大隈義和、大江正昭、井田洋子、井上禎男、植木淳、近藤敦、森脇敦史、湯浅塾道、奈須祐治、太田周二朗、日野田浩行『憲法学へのいざない 第3版』第8章（経済的自由）、第15章（内閣・行政組織）、青林書院、2015年4月

②その他最近の業績

<判例研究>

・森脇敦史「市議会議員の議会質問が市長の名誉を毀損するとして謝罪広告の掲載を命じた事例」新・判例解説 Watch Vol.13、2013年9月

③過去の主要業績

森脇敦史「言論活動への政府資金助成に対する憲法上の規律」、阪大法学第53巻1号113～142頁、2003年

森脇敦史「図書館に対するフィルタリングの義務づけと今後のインターネット上における表現規制の態様—CDA、COPA、CIPAの事例から—」、阪大法学第53巻3=4号393～419頁、2003年

森脇敦史「発言する政府、設計する政府」松井茂記、市川正人、紙谷雅子、鈴木秀美、福島力洋、森脇敦史、渡辺武達、宮崎寿子、田中智佐子、野原仁、ミッシェル・マクレラン、丹羽俊夫、木村哲也『メディアの法理と社会的責任』127-150頁、ミネルヴァ書房、2004年

森脇敦史「キャス・サンステイン リスクと不確実性の憲法学」駒村圭吾、大林圭吾、葛西まゆこ、平地秀哉、奈須祐治、尾形健、大江一平、大河内美紀、中川律、山本龍彦、森脇敦史、横大道聡『アメリカ憲法学の群像 理論家編』255-274頁、尚学社、2010年1月

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

関西アメリカ公法学会、関西憲法判例研究会、九州公法判例研究会、情報ネットワーク法学会、合衆国最高裁判所判例研究会

6. 担当授業科目

法学・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年、前期、憲法・2単位・1年・後期、現代社会論C（情報社会と法）・2単位・2年、法律学概論I・2単位・3年・前期、法律学概論II・2単位・3年・後期

7. 社会貢献活動

田川市情報公開・個人情報保護審議会委員
築上町個人情報保護審査会委員
福智町情報公開審査会委員（会長）
福智町個人情報保護審査会委員（会長）
福智町地方創生推進委員会（委員長）
福智町旅費規定検討委員会（委員長）
福智町補助金等交付規則見直し検討委員会委員（委員長）

8. 学外講義・講演

森脇敦史「日本の憲法、世界の憲法ー比較憲法の世界」（筑豊市民大学、2016年12月10日）

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	岩橋 宗哉
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1992年 九州大学大学院教育学研究科教育心理学専攻博士課程単位取得後退学。九州大学教育学部助手（心理教育相談室主任兼務）、緑風会水戸病院臨床心理士、久留米大学医学部神経精神医学講座助手を経て、2001年より福岡県立大学に勤務。

(1) 現在まで、主に病院において精神分析的な心理療法を行ってきた。治療関係の中でクライアントの内的世界をともに体験しながら、対象関係論的な観点からクライアントの転移を理解し、その理解をもとにどのようにクライアントに関わり、理解を伝えていくことが治療的であるのかを明確にしていくことを最も重要な研究分野としている。(2) どのような立場に立つ心理療法であれ、クライアントが主体になることを援助している側面があると考え。主体的になることを援助するかかわりとはどのようなものか、つまり、多様な心理療法に共通する中核的なかかわりとはどのようなもので、それを現実に行っていくためにはどのような条件が必要かということをも明らかにしていきたいと考えている。それは、臨床心理行為を明確化することでもある。(3) 臨床心理士養成の初期段階で、臨床心理行為の重要性と特性を習得するための養成モデルを構想していきたいと考えている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

論文

- ・下地まどか・岩橋宗哉「窪地」による気分の変化—特性不安に着目して—
『福岡県立大学心理臨床研究』第7巻 2017年3月
- ・岩橋宗哉「同一化を創造的に機能させる基盤としての結合対象へ—よい対象との失われた共通基盤を求めて—」『福岡県立大学心理臨床研究』第7巻 2015年3月

② その他最近の業績

- ・村田節子・岩橋宗哉・岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム第3報—ロールプレイ演習とリフレクションによる評価—」第30回日本がん看護学会学術集会 高知 2017年2月
- ・岩橋宗哉「かたちになる部分とかたちにならない部分」『福岡県立大学心理臨床研究』第8巻 2016年3月
- ・村田節子・岩橋宗哉・岩崎玲奈「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム第2報—ロールプレイ演習とリフレクションによる評価—」第30回日本がん看護学会学術集会 千葉 2016年2月
- ・村田節子・岩橋宗哉「患者に寄り添うコミュニケーション技術を高めるプログラム—ロールプレイ演習のリフレクションによる評価—」第29回日本がん看護学会学術集会 横浜 2015年2月

③ 過去の主要業績

- ・岩橋宗哉「結合両親像によって破壊され創造される自己の方向感覚—精神分裂病者との心理療法過程から—」『心理臨床学研究』第17巻第6号 2000年2月
- ・岩橋知子・岩橋宗哉「重度痴呆性老人の体験を共有しようとする試み—抱える環境としてのプレバーバルな関わり—」『心理臨床学研究』第17巻第1号 1999年4月
- ・岩橋宗哉・大崎知子「間主観的な場における体験の具体化とそれへの主観的妥当性確認について」『心理臨床学研究』第16巻第2号 1998年6月

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本心理臨床学会、日本精神分析学会、日本人間性心理学会

6. 担当授業科目

臨床心理学・2単位・3年・前期、演習・2単位、3～4年、通年、教育相談・2単位・4年・前期、カウンセリング・2単位・4年・前期、卒業論文、6単位、4年・通年、臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年、臨床心理学特論・4単位・1,2年・通年、臨床心理実習・2単位・2年・通年、心理臨床実習（施設）・1単位・2年・前期、特別研究・4単位・1～2年・通年、臨床心理学特論（看護学研究科）・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・久留米大学病院精神神経科附属カウンセリングセンター臨床心理士
- ・飯塚市子どもなんでも相談事業専門相談員
- ・福岡県臨床心理士会代議員
- ・福岡県臨床心理士会研修委員

8. 学外講義・講演

- ・教員免許状更新講習 教育の最新事情 「『子どもの心』をはぐくむための関わり方」
講師 2016年8月24日

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学心理教育相談室 室長

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	大久保 淳子
----	---------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

近年、幼児教育から高等教育に至るまで、様々な教育政策が打ち出され改革が行なわれております。現在、保育現場では、「保育の質」が問題となっております。

「保育の質」は、保育者の生活体験・自然体験やコミュニケーション能力とも関連があると考え、保育者の子どもの頃の体験やコミュニケーション能力の実態について、調査・研究をしております。また、昨年は、ベトナムのホーチミン市の幼稚園を視察する機会があり、東アジアの幼児教育にも関心を持っております。

2. 研究業績

①論文

- ・大久保淳子：「保育を専攻する学生の生活体験・自然体験の実態-A 短期大学保育学科学生の生活体験の現状と課題-」，総合学術研究論集，第6号，21 - 24，西日本短期大学，2016
- ・大久保淳子：「保育専攻学生の保育者たる職業意識と保育の質 - 保育者としての資質と専門性の捉え方における学生への質問紙調査から - 」，総合学術研究論集，第4号，69 - 73，西日本短期大学，2014

②その他最近の業績

[報告]

- ・伊勢慎・大久保淳子・櫻井 国芳・池田 孝博：子どもの「生きる力」と学校内での遊び方の関連，福岡県立大学人間社会学部紀要，25(2)，41-48，2016
- ・大久保淳子・伊勢慎・櫻井 国芳・池田 孝博：「幼児期における性役割の形成 - 性的ラベリングとその関連要因 - 」，福岡県立大学人間社会学部紀要，25(2)，49-58，2016

[自主シンポジウム]

- ・桑原広治・前田志津子・大久保淳子・井上和子：「保育を専攻する学生の生活体験・自然体験の実態」，自主シンポジウム，日本乳幼児教育学会，第24回大会，広島大学，2014

[口頭発表]

- ・大久保淳子：「保育専攻学生の保育者たる職業意識と保質の質」，口頭発表，日本保育学会，第66回大会，中村学園大学，2013

③過去の主要業績

- ・大久保淳子：「保育現場における特別支援教育の現状と課題 - 保育の質の視点から - 」，総合学術研究論集，第3号，69 - 75，西日本短期大学，2013
- ・大久保淳子・井上和子・余公敏子・熊谷節子：「保育現場における特別支援教育の現状と課題 - 保育の質の視点から - 」，自主シンポジウム，日本乳幼児教育学会，第21回大会，東京成徳大学，2011
- ・大久保淳子：「幼児教育を専攻する学生のコミュニケーションの育成について」，日本生活体験学習学会誌，第10号，69 - 75，2010
- ・大久保淳子：(共著)「実例から学ぶ子ども福祉学」，山根正夫，七木田敦編著，第2章児童福祉施設(分担)，保育出版社，125 - 130，2010
- ・大久保淳子：(共著)「こころを育てる人間関係」寺見陽子編著，人との関わりを育てる環境構成(分担)，保育出版社，39 - 40，1999

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本保育学会, 日本乳幼児教育学会, 日本生活体験学習学会, 日本発達心理学会

6. 担当授業科目

・教養演習・1単位・1年・前期, 保育者論・2単位・1年・後期, 保育学・2単位・2年・前期
・児童文学・2単位・3年・前期, 子どもと遊び・2単位・3年・前期, 保育方法論・2単位・3年・後期, 幼稚園教育実習Ⅰ・2単位・3年後期, 幼稚園教育実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 幼稚園教育実習Ⅱ・2単位・4年前期, 保育・教職実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期, 保育内容演習・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

・「カンボジアの子ども達の教育を支援する会」

8. 学外講義・講演

・福岡私立幼稚園連盟 「平成28年度新規採用教師研修会」講師 2016年8月23日
・「あしたばの会」(田川市立図書館読み聞かせの会) 研修会講師 2016年10月29日

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	岡本 雅享
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年横浜市立大学大学院国際文化研究科修士課程修了。2000年一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了。国際学修士。社会学博士。1991～93年、中国の北京師範学院（現在、首都師範大学）、中央民族大学民族語言三系（現在、中央民族大学少数民族語言学院）に留学、少数民族二言語教育の研究・調査を行う。2008年度、San Francisco State University (College of Ethnic Studies, Japanese American Studies) でVisiting Scholar。学内外で”Hidden Diversity of the Japanese People”に関する講演等を行う。

1989年以来、在日韓国・朝鮮人問題を起点とし、マイノリティの権利保障のための研究・活動に従事してきた。国連ECOSOC NGOでの3年間の勤務を含め、ジュネーブ国連欧州本部を中心とした国連人権活動に報告・提言の提出、会議への参加・発言等を通じて参加。

現在は、日本社会がますます多民族、多文化化する中で、あらためて明治以降の日本におけるNationの創造、混合民族論から単一民族論への変遷など、民族、言語、宗教、文化の各方面から、日本人（国籍者）内部の多様性を解き明かす作業を、出身地である出雲の視点から、試みている。

2. 研究業績

①著書・論文（2014～2016年度）

<著書>

- ・『民族の創出』（単著）岩波書店、2014年
- ・『出雲を原郷とする人たち』（単著）藤原書店、2016年

<論文>

- ・「多元社会日本」別冊環20『なぜ今、移民問題か』藤原書店、2014年
- ・「日本的民族認同一從「出雲民族」案例看多元民族國家觀的建構」『民族学界』第36期、2015年、台湾国立政治大学

②その他の業績（2014～2016年度）

- ・新聞連載「出雲を原郷とする人たち」『山陰中央新報』2011年4月～2016年1月（全104回）
- ・書評『日本型排外主義』（樋口直人著）『大原社会問題研究所雑誌』675号、2015年1月
- ・週刊誌「神話と日本の民族意識」『週刊金曜日』23巻5号、2015年2月6日
- ・新聞連載「越佐と出雲—交流をたどって」『新潟日報』2016年2月～5月（全7回）
- ・招聘報告「日本的多元文化格局与教育问题」新疆师范大学国际研讨会《多元文化与教育：一带一路与教育发展》2016年6月26日、中華人民共和国新疆ウイグル自治区ウルムチ市
- ・新聞連載「出雲を原郷とする人たち・番外編」『山陰中央新報』2016年10月（2回）

③過去の主要業績（2014年度以前、3点）

- ・『日本の民族差別一人種差別撤廃条約からみた課題』明石書店、2005年（監修・編著）
- ・『中国の少数民族教育と言語政策（増補改定版）』社会評論社、2008年（単著）
- ・「日本におけるヘイトスピーチ拡大の源流とコリアノフォビア」『レイシズムと外国人嫌悪』明石書店、2013年

3. 外部研究資金（今年度）

4. 受賞（今年度）

5. 所属学会（今年度）

- ・日本平和学会、エミシ学会

6. 担当授業科目 (2016年度)

国際政治学・2単位・1年・前期、多文化社会論・2単位・2年・前期、東アジア関係史・2単位・2年・後期、政治学Ⅰ・2単位・2年・前期、政治学Ⅱ・2単位・2年・後期、国際共生研究・4単位・2年・通年、公共社会学研究・4単位・3年・通年、卒論指導・4単位・4年・通年

7. 社会貢献活動 (2016年度)

8. 学外講義・講演・インタビュー・新聞記事 (2016年度)

- ・安来市立図書館歴史講座「出雲を原郷とする人たち—安来とのつながり」2016年10月1日、島根県安来市
- ・新年企画「我々はどこから来てどこへ向かうのか」vol.2「日本人」『朝日新聞』2017年1月3日
- ・「『海の道』通した移住史、出雲文化の広がり解明、越前海岸沿いも調査」『福井新聞』2017年1月18日
- ・「出雲のルーツ訪ねる」『北日本新聞』2017年1月18日
- ・「ヒト、文化追って各地へ」『西日本新聞』2017年2月20日
- ・「全国の出雲歩いて探った一亀岡・太古に丹波開拓、京都市・寺社の背景説明」『京都新聞』2017年2月28日

9. 附属研究所の活動等 (2016年度)

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	奥村 賢一
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私が現在行っている主要な研究分野は、以下の三点になります。

一つ目は、「学校ソーシャルワーク実践に関する研究」です。近年、複雑多様化する不登校・いじめ・非行等の学校教育問題を解決していくためにスクールソーシャルワーカーに課せられた専門的役割や機能について実践研究を行っています。

二つ目は、「児童虐待防止に向けた支援方法に関する研究」です。わが国の深刻な社会問題である児童虐待を早期発見・未然防止していくための支援方法として、アウトリーチを中心としたソーシャルワークについて研究を行っています。

三つ目は、「知的障害・発達障害（児）者の地域生活支援に関する研究」です。ノーマライゼーションの理念普及から知的障害・発達障害（児）者においても地域生活の充実を推進していく動きが高まりを見せていますが、現実的には利用可能な社会資源は限られており、障害特性に対応した専門的支援も不足しています。これらの状況から、地域生活の質を向上させる専門的支援方法等の研究に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵。野尻紀恵編『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』, 学事出版, 2016年5月.
- ・門田光司・奥村賢一監修、福岡県スクールソーシャルワーカー協会編集『スクールソーシャルワーカー実践事例集—子ども・家庭・学校支援の実際』, 中央法規出版, 2014年4月.

<論文>

- ・住友雄資・畑 香理・平林恵美・奥村賢一・平川明美「2015年度教育実践報告：「精神保健福祉援助実習指導—新カリキュラム完成年度の取り組みについて—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻, 第1号, 2016年9月.
- ・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーが相談対応する児童虐待の実態と実践課題—配置型と派遣型の活動形態に焦点化して—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻, 第2号, 2016年2月.
- ・住友雄資・畑 香理・平林恵美・奥村賢一・梶原浩介「2014年度教育実践報告：旧カリ「精神保健福祉援助実習」・新カリ「精神保健福祉援助実習」」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻, 第1号, 2015年9月.
- ・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン」『学校ソーシャルワーク実践の動向と今後の展望』日本学校ソーシャルワーク学会10周年記念誌, 2015年6月.
- ・住友雄資・畑 香理・平林恵美・奥村賢一「2013年度教育実践報告：「精神保健福祉援助実習指導—新カリキュラム導入を目前としたシラバス等の改変について—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻, 第1号, 2014年7月.

②その他最近の業績

<報告書>

- ・奥村賢一「福岡県スクールソーシャルワーカー協会5周年を迎えての回顧録」『福岡県スクールソーシャルワーカー協会5周年記念誌』, 2017年3月.
- ・奥村賢一『ネグレクト防止に向けた学校ソーシャルワーク実践に関する基礎的研究』科学研究費助成事業（若手研究B）研究報告書, 2016年3月.
- ・門田光司・鈴木庸裕・半羽利美佳・比嘉昌哉・大門俊樹・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのスーパービジョン・プログラム』科学研究費助成事業（基盤研究B）研究報告書, 2016年3月.

<学会講演・シンポジウム・報告等>

- ・奥村賢一「校種の違いによる学校で見えるネグレクトと対応方法の実際―スクールソーシャルワーカーの実践から―」日本子ども虐待防止学会第22回学術集会おおさか, 応募シンポジウム(大阪国際会議場), 2016年11月.
- ・奥村賢一「子どもの貧困とスクールソーシャルワーカーの役割―子ども中心の支援について考える―」日本学校ソーシャルワーク学会九州沖縄部会第9回研究大会, 基調講演(沖縄国際大学), 2016年9月.
- ・奥村賢一「子どもの貧困と学校ソーシャルワーク」第30回自治体学会, 分科会(日田市民文化会館), 2016年8月.
- ・奥村賢一「学校ソーシャルワーク研究の展望と課題」日本ソーシャルワーク学会セミナー2015, シンポジウム(大妻女子大学), 2015年11月.
- ・奥村賢一「スクールソーシャルワーカーの組織化を図る―福岡県スクールソーシャルワーカー協会の活動を通して―」日本学校ソーシャルワーク学会第10回記念全国大会, 基調報告(福岡国際会議場)2015年7月.

<書評>

- ・山下英三郎監修, 日本スクールソーシャルワーク協会編『子どもにえらばれるためのスクールソーシャルワーク』『ソーシャルワーク研究』, 第42号, 第3巻, 2016年10月.

③過去の主要業績

<著書>

- ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと―スクールソーシャルワーカーのための実践ガイド』中央法規出版, 2009年9月.

<論文>

- ・奥村賢一「不登校児童生徒の状況改善に向けた家族支援の有効性に関する一考察―パワ―相互作用モデルを基盤にした学校ソーシャルワーク」『学校ソーシャルワーク研究』第4巻, 2009年6月.
- ・奥村賢一「ストレングスの視点を基盤にしたケースマネジメントの有効性に関する一考察―軽度知的障害者の地域生活支援実践を通して」『社会福祉学』第50巻, 第1号, 2009年5月.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費(基盤研究C)「不登校児童生徒の早期発見・未然防止に向けたスクリーニングシートの開発」208万円, 平成28年度~平成30年度.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本学校ソーシャルワーク学会(理事兼事務局長)、日本ソーシャルワーク学会、日本子ども虐待防止学会、福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

<学部>学校ソーシャルワーク論・2単位・3年・後期、学校ソーシャルワーク実習指導・1単位、4年・前期、学校ソーシャルワーク実習・2単位・4年・後期、相談援助の理論と方法C・2単位・2年・後期、相談援助演習B・4単位・3年・通年、社会福祉学演習・4単位・3年~4年・後期~前期、卒業論文・6単位・4年・後期、家族福祉論・2単位・3年・後期、精神保健福祉援助実習・8単位・4年・通年、精神保健福祉援助実習指導・3単位、3~4年・通年、不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期、子供学習支援論・1単位・1年・後期

<大学院>子ども家庭福祉研究・2単位・1・2年・前期、子ども家庭福祉演習・2単位・1・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本学校ソーシャルワーク学会・理事兼事務局長
- ・福岡県スクールソーシャルワーカー協会・副会長
- ・福岡県教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- ・福岡市教育委員会スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー
- ・福岡県教育委員会 不登校児童生徒学校等復帰支援事業運営協議会・委員
- ・田川市要保護対策地域協議会代表者会議・委員
- ・福岡市いじめ防止対策推進委員会・副委員長
- ・香春町いじめ防止等対策委員会・副委員長
- ・糸島市いじめ防止等対策委員会・委員
- ・糸島市・市政アドバイザー
- ・福岡県社会福祉審議会・臨時委員
- ・北九州市立今町小学校・学校評議員・学校関係者評価委員
- ・福岡県立博多青松高等学校・学校関係者評価委員

他

8. 学外講義・講演

<講演>

- ・平成28年度福岡市立小中学校長人権教育研究会全体研修会「子どもの貧困の現状を学ぶ—学校ができることを考える—」福岡市教育センター，2017年2月。
- ・平成28年度みやま市子ども健やかネットワーク研修会「子どもと家庭をチームで支える—機関連携と協働—」まいピア高田，2017年2月。
- ・平成28年度筑紫地区小学校生徒指導研究会第2回研修会「子どもを守るために今、学校にできること—ネグレクト問題について考える—」ミリカローデン那珂川，2017年2月。
- ・第35回北谷町PTA研究発表大会「スクールソーシャルワーカーとは何者？—子どもの教育保障に向けた役割と機能—」ちゃたん二ライセンター，2017年1月。
- ・平成28年度筑豊教育事務所第4回所内人権・同和教育研修会「子どもの貧困と児童生徒理解—学校ソーシャルワークの視点から—」筑豊教育事務所，2016年12月。
- ・福岡市医師会研修会「多問題家族の支援とソーシャルワーク—エコロジカルの視点を用いて—」福岡市医師会館，2016年12月。
- ・平成28年度児童虐待防止講演会「子ども虐待防止に向けた家族支援—支援者として今私にできること—」福岡県立大学，2016年12月。
- ・第52回市民福祉のつどい&福祉活動実践者合同研修会「子ども・若者の貧困を考える—地域の若者を支える視点—」サザンクス筑後，2016年9月。
- ・玉名郡市学術講演会「子どものSOSを見逃さないために—学校ソーシャルワークの視点から—」玉名市文化センター，2016年9月。
- ・平成28年度小郡市立小・中学校若年教員研修「気になる子どもの支援について考える—児童生徒をつなぐ学級づくり—」小郡市総合保健福祉センター，2016年8月。
- ・福岡市人権教育研究会・福岡市進路保障研究会共催第22回夏期研究集会「すべての子どもたちが安心して学校生活を送るために—子どもの貧困問題から学校のできることを考えよう—」天神クリスタルビル，2016年8月。
- ・壱岐市人権教育研究会夏期定例研修会「気になる子どもの支援について考える—学校ソーシャルワークの現場から—」農村環境改善センター，2016年7月。
- ・社会福祉法人修光学園飛鳥井ワークセンター20周年記念式典「Heart & Heart—福祉社会の実現に向けて今私にできること—」京都市飛鳥井学園，2016年7月。
- ・田川市要保護児童対策地域協議会実務者会議委員研修会「児童虐待と要保護児童対策地

域協議会の活用について―教育と福祉の効果的な協働連携―」 田川市民会館，2016年7月。

- ・平成28年度小学校・中学校・高等学校・特別支援学校生徒指導主任研修講座「組織で取り組む生徒指導―生徒指導力の向上と指導体制の充実を図るために―」やまぐち総合教育支援センター，2016年7月。
- ・第17回子育てフォーラム「子どもを守るために今、私たちにできること―ネグレクト問題について考える―」 ミリカローデン那珂川，2016年6月。
- ・平成28年度大分市SSWマネージャー研修会「スクールソーシャルワーカーの仕事」大分市教育センター，2016年6月。
- ・2016年度NPO法人ライターステップス講演会「地域で育む対馬の子―子どもに寄り添うソーシャルワークの視点から―」 対馬市交流センター，2016年5月。
- ・平成28年度長崎市スクールソーシャルワーカー派遣事業研修会「スクールソーシャルワーカーとの効果的関係に向けて―子ども虐待と発達障害―」長崎市民会館，2016年5月。
- ・第18回「子どもの心」研修会「学校ソーシャルワークの現状と課題―子どもの教育保障を目指すスクールソーシャルワーカー」九州大学医学部百年講堂，2016年5月。

<メディア>

- ・福岡市政だより「子どもたちの笑顔のために―子どもの権利を守る」2016年12月1日。
- ・公明新聞「社会福祉の専門家を学校へ」3面，2016年11月30日。
- ・有明新報「子どもの話、しっかり聞こう」2016年10月21日。
- ・RKBラジオ「ウィ・ラブ・ヒューマン（子どもの貧困）」，2016年9月12日，13日。
- ・長崎新聞「子どもに関する問題“SSWと解決を”」2016年5月29日。
- ・長崎新聞「子どもを見守るキーマン―離島のスクールソーシャルワーカー」2016年6月26日。

他

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	櫻井 国芳
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

上越教育大学大学院学校教育研究科芸術系コース（美術）修了。1998年、本学に着任。絵画制作を主な研究主題とし、公募展やグループ展、コンクールへの出品を続けている。授業は、保育士や幼稚園教諭養成のための「造形」や「表現」などを担当している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

なし

②その他最近の業績

<作品発表>

- ・ 2015年2月 全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）
- ・ 2015年10月 MBCサムホール美術展（鹿児島・黎明館）
- ・ 2016年2月 全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）
- ・ 2016年10月 MBCサムホール美術展（鹿児島・黎明館）
- ・ 2017年2月 全日本アートサロン絵画大賞展（国立新美術館、大阪市立美術館）

③過去の主要業績

<学術論文>

- ・ 1999年9月 「構成的表現・モダンテクニックに見られる表現過程の在り方」
『福岡県立大学紀要』第8巻第1号 81～93p

<作品発表>

- ・ 2004年10月 第72回独立展（独立美術協会・東京都美術館）
- ・ 2012年4月 2012独立春季選抜展（東京都美術館）

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

- ・ 佳作賞（2017年2月 全日本アートサロン絵画大賞展）

5. 所属学会

なし

6. 担当授業科目

造形Ⅰ・2単位・1年・通年、造形Ⅱ・2単位・2年・通年、保育内容表現Ⅰ・1単位・3年・前期、保育内容表現Ⅱ・1単位・3年・後期、保育実習指導Ⅲ・1単位・3年・後期、保育・教職実践演習（幼稚園）・1単位・4年・後期、保育内容演習・2単位・4年・後期、演習・2単位・3年後期～4年前期、卒業論文・6単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 筑豊地区実習調整会議の取りまとめ（当番校）

8. 学外講義・講演
なし

9. 附属研究所の活動等

- ・附属研究所重点課題研究（地域教育）に関するプロジェクトへの参加

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	佐野 麻由子
----	---------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999年立教大学社会学部社会学科を卒業。2006年3月立教大学大学院社会学研究科社会学専攻博士課程修了。博士（社会学）の学位を取得。お茶の水女子大学非常勤講師、フェリス女学院大学非常勤講師、立教大学社会学部助教等を経て2012年10月に本学着任。

主な研究分野は、社会学の中でもジェンダー、社会運動（変動）。「社会的課題を解決するための意図的な社会変革はどのような条件下で可能か」という関心のもと、(1) ネパール地域をフィールドに社会的達成における男女の非対称性を生み出す社会構造、その維持/変革につながる要因の社会的分析、(2) 左研究の知見の開発援助政策への応用および還元に取り組んでいます。

博士前期課程在籍中の2000～2001年に立教大学派遣交換留学生としてネパール国立パドマ・カンニャ・キャンパス・ウイメンズ・スタディ・コースに在籍。また、2003～2005年の期間に日本学術振興会特別研究員奨励費でネパールでのフィールドワークを実施するなど、長年ネパール社会に関わってきました。現在は、「ネパールにおける市場化・準市場化と男児選好」という研究テーマで「失われた女性たち（男児選好による選択的中絶、少女売買、女兒の育児放棄）」の促進要因を解明することに取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司，2015，『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店。

佐野麻由子，2013，「身体経験にみるジェンダー秩序とその変容」鈴木紀・滝村卓司編『みんなく実践人類学8巻 国際開発と協働-NGOの役割とジェンダーの視点』明石書店，157-192。

佐野麻由子，2013，「北の女性と南の女性—相対化と判断停止」伊藤陽一他編『グローバル・コミュニケーション—キーワードで読み解く生命・文化・社会』ミネルヴァ書房，105-122。

<論文>

佐野麻由子，2015，「ネパールにおける男児選好とその要因」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号，17～32。

佐野麻由子，2015，「途上社会の貧困，開発，公正」宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂編『国際社会学』有斐閣，148～165。

②その他最近の業績

<学会発表>

Mayuko SANO, 13 July 2014, *Economic, Social Change and Son-Preference in Nepal* (oral presentation), RC06 (Committee on Family Research) programme of XVIII ISA (International Sociological Association) World Congress of Sociology, Pacifico Yokohama.

佐野麻由子，「開発教育手法の社会学専門教育との接合—その効果と課題」，2013年12月1日，第24回国際開発学会大会，大阪大学吹田キャンパス。

佐野麻由子，「ネパールにおける性比問題へのアプローチ」，2013年9月7日，国際ジェンダー学会 2013年大会，和洋女子大学。

<書評>

佐野麻由子，2013，「書評：笹岡雄一著『グローバルガバナンスにおける開発と政治—国際開発を超えるガバナンス』明石書店」『国際開発研究』第22巻第2号，73-75。

<報告書>

佐野麻由子・堤圭史郎，2014，『平成25年度研究奨励交付金報告書—持続可能な生計論に依

扱った社会的排除問題への取り組み」。

<研究ノート>

佐野麻由子, 2014, 「ネパールにおける市場化・準市場化と男児選好」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号, 103-116.

③過去の主要業績

<著書>

佐野麻由子, 2012, 「開発・発展におけるジェンダーと公正—潜在能力アプローチから」宮島喬・杉原名穂子・本田量久編『公正な社会とは—教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院, 240-258.

小川(西秋)葉子・川崎賢一・佐野麻由子共編著, 2010, 『〈グローバル化〉の社会学: 循環するメディアと生命』恒星社厚生閣.

佐野麻由子, 2007, 「平和とジェンダー」宮島喬・五十嵐暁郎編『平和とコミュニティ』明石書店140-162.

<論文>

佐野麻由子, 2012, 「開発援助プロジェクトとサステナビリティ—社会学的制度論からのサステナビリティの検討」『国際開発研究』第21巻1/2号, 47-57.

佐野麻由子, 2011, 「ネパールの社会運動組織の資源動員源にみる社会構造—予備的考察」『立教大学社会学部・応用社会学研究』第53号, 227-236.

佐野麻由子, 2010, 「社会学的制度論の開発プロジェクトへの応用可能性—「組織・制度づくり」の評価項目に向けて」『国際開発研究』第19巻第1号, 13-22.

<学会発表>

佐野麻由子, 「オープンシステムサイエンスからの開発とジェンダー再考」, 2011年9月18日, 第84回日本社会学会大会, 関西大学千里山キャンパス.

佐野麻由子, 「開発援助研究における社会学の立ち位置」, 2011年11月27日, 第22回国際開発学会大会, 名古屋大学東山キャンパス.

3. 外部研究資金

文部科学省科学研費補助金・若手研究B、研究課題名「ネパールの男児選好にみるジェンダー、カースト・民族、機能分化的社会関係」(課題番号15K117189)、(平成27~29年度)、3900千円(研究代表者)。

文部科学省科学研究費補助金基盤研究B「戦後日本の「開発経験」を編み直す~日本から発信する開発社会学研究として」(平成28~30年度)(研究分担者)。

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会学会、関東社会学会、国際開発学会

6. 担当授業科目

国際社会学Ⅰ・2単位・1年・前期、国際社会学Ⅱ・2単位・1年・後期、国際協力論・2単位・3年・後期、NPO論・2単位・3年生・後期、国際共生研究Ⅰ・1単位・2年・前期、国際共生研究Ⅱ・1単位・2年・後期、社会調査実習・2単位・3年・通年、公共社会学研究・2単位・3年・前期、公共社会学研究・2単位・3年・後期、卒業論文・6単位・4年・通年、地域教育支援研究ⅡB。

7. 社会貢献活動

国際開発学会編集委員会 委員

田川郡添田町総合戦略策定推進会議 副委員長 (2015年)

田川郡福智町男女共同参画審議会 委員長 (2015年)

8. 学外講義・講演

佐野麻由子「アジア女性交流・研究フォーラム (KFAW) 主催アジア研究者ネットワークセミナー「ネパールの失われた女性たち」(2014年7月25日 18:30~20:00 於北九州市立男女共同参画センター・ムーブ小セミナールーム)。

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	杉野 寿子
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私はこれまで国内外で、さまざまな困難な状況で生活をされている人々と出会ってきたことから、「誰もが安心して主体的に暮らす」ことを研究テーマにしています。地域に根ざした取り組みやネットワーク構築に関する研究、開発途上国における福祉課題に関する研究、障がいのある子どもの地域療育に関する研究、対人援助専門職のソーシャルワークスキルに関する研究を行っています。とくにこれからの子ども・子育て支援において鍵ともなる、保護者支援や地域における子育てを重視できる保育士養成を進めていくため、保育士のソーシャルワークスキルに関する研究も行います。

福祉社会科学修士。保育士・社会福祉士・介護福祉士・精神保健福祉士。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・ 杉野寿子（共著）「第8章これまでの障害児保育・教育 第2節 「障害」概念の到達点」『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』小林徹・栗山宣夫（編著）他著者，みらい，2016年
- ・ 杉野寿子（共著）「第5章 地域社会の変容と家庭支援」『保育と家庭支援論』井村圭壯・相澤譲治（編著）他著者，学文社，2015年
- ・ 杉野寿子（共著）「第13章 相談援助の事例Ⅲ-福祉型入所施設-」『児童家庭福祉の相談援助』相澤譲治・井村圭壯・安田誠人（編著）他著者，建帛社，2014年

<論文>

- ・ 杉野寿子・稲葉美由紀（共著）「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチあるソーシャルビジネスの取り組みから」地域福祉サイエンス第3号，2016年
- ・ 杉野寿子（単著）「ヨルダンにおける障害に関する意識調査ー近年の意識傾向を探るー」社会福祉科学研究第4号，2015年
- ・ 杉野寿子（単著）「CBRマトリックスを活用した地域福祉活動分析に関する一考察ー日本のA事業所の取り組みとBさんの生活を事例にー」別府大学短期大学部紀要第33号，2014年

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 「フィリピンの貧困と社会開発的アプローチあるソーシャルビジネスの取り組みから」日本社会福祉学会九州地域部会第57回研究大会口頭発表，2016年
- ・ 「ヨルダンにおける障害に関する意識調査」日本地域福祉学会第29回大会口頭発表，2015年
- ・ 「CBRマトリックスを活用した地域福祉活動分析」日本地域福祉学会第28回大会口頭発表，2014年

③過去の主要業績

- ・ 杉野寿子（単著）「保育士養成課程におけるソーシャルワーク教育ー倫理綱領作成演習からの考察ー」別府大学短期大学部紀要第31号，2013年
- ・ 杉野寿子（単著）「インクルージョンをめざす地域生活における障害者歯科医療の検討ー歯科治療における児童デイサービスの実践例から学ぶー」別府大学短期大学部紀要第28号，2009年
- ・ 杉野寿子（単著）「ヨルダンの障がい者事情とジェンダー」アジア女性研究第17号，2008

年

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

- ・ 日本社会福祉学会
- ・ 日本地域福祉学会
- ・ 日本保育ソーシャルワーク学会
- ・ 日本社会福祉士会

6. 担当授業科目

- 社会福祉Ⅰ（2単位・1年前期）
- 教養演習（1単位・1年前期）
- 児童家庭福祉（2単位・2年前期）
- 相談援助（1単位・2年後期）
- 社会的養護（2単位・2年後期）
- 保育実習指導Ⅰ（2単位・2～3年通年）
- 保育実習Ⅰ（4単位・3年前期）
- 保育実習指導Ⅲ（2単位・3年後期）
- 保育実習Ⅲ（2単位・3年後期）
- 家庭支援論（2単位・3年後期）
- 演習（2単位・3年通年）
- 保育相談支援（2単位・4年前期）
- 施設養護論（2単位・4年前期）

7. 社会貢献活動

- ・ 大分県介護保険審査会委員
- ・ 大分県福祉のまちづくり推進協議会委員
- ・ NPO 法人やまびこクラブ理事

8. 学外講義・講演

- ・ 平成28年度大分市介護支援専門員協会多職種連携研修会講師（第1回7月，第2回9月，第3回11月）
- ・ 西日本短期大学保育学科リカレント教育講演会講師（6月）

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・基盤教育センター	職名	准教授	氏名	Stuart Gale
----	-----------------	----	-----	----	-------------

1. 教員紹介・主な研究分野

Stuart Gale was born and raised in Hertfordshire, England. After graduating from The University of Leeds with a BA in history, he briefly worked in London before pursuing a teaching career in Japan. He returned to London to study for a Master's degree in English language teaching, passing with a distinction grade in 2002. Since then, he has taught at Fukuoka Women's University, Fukuoka University, Kyushu University, Kyushu Sangyo University, and Seinan Gakuin University. He joined the staff at Fukuoka Prefectural University in the spring of 2007.

His research activities are focused upon two related areas. The first concerns the development of critical thinking skills in Japanese university students. Aside from developing methodologies and courses in pursuit of this objective, Stuart Gale has also authored a textbook *Provoke A Response: Critical Thinking through Data Analysis* (2016) to accompany his courses at FPU. His second area of research concerns academic writing and how it may be taught more effectively to Japanese university students. This (action) research is conducted in university writing classes and involves a process of ongoing evaluation and modification in pursuit of more effective teaching. The results of this research have been incorporated into an academic writing textbook *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever* (2012), the virtual learning website, and writing classes and academic writing seminars at FPU.

Stuart Gale was invited as a guest speaker to present on the teaching of writing and critical thinking skills at the Fukuoka ALT Skills Development Conference in 2012, 2013 and the Oita ALT Skills Development Conference in 2014.

Online profile on the FPU website: <http://www.fukuoka-pu.ac.jp/english/graduate/human/staff/gale.html>

2. 研究業績

①最近の著書・論文

Gale, S., Fukuhara, S. (2016). *Provoke A Response: Critical Thinking through Data Analysis*. Tokyo: Nan'un-do.

Gale, S., Fukuhara, S. & Cross, T. (2012). *Structure, Structure, Structure: The Best Guide to Reading and Writing Ever*. Tokyo: Nan'un-do.

②その他最近の業績

- Designer and teacher, UK-study abroad programme.
- Designer and author, Fukuoka Prefectural University's online *Virtual Language Laboratory*.
- Designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*.
- Author, *Fukuoka Prefectural University's Entrance Exam* (English).
- Author, *Fukuoka Prefectural University's official English language version website*.

③過去の主要業績

Gale, S. (2011, July). L1, consensus nil: Factors affecting the erratic application of oral translation as an EFL vocabulary teaching techniques at Japanese universities. *Journal of the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences Fukuoka Prefectural University*, Vol. 20, No. 1, pp. 1-13.

Gale, S. (2010) “編著, 楽しみながら英語力アップ 大学生になったら洋書を読もう!”, アルク.

Mori, R. and Gale, S. (2009). Teacher development and reflecting on experience. *The Language Teacher*, Vol. 33, No. 5.

University Journals

Gale, S. (Sept. 2002). Standing in the way of progress: the social and pedagogic implications of Japan's hidden curriculum. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 34, No. 2 (No. 133), pp. 733-747.

Gale, S. (Dec. 2002). A wealth of limited potential: thoughts on the Internet and the extent and nature of its impact upon the language learning programmes of the future. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 1, pp. 17-22.

Gale, S. (Sept. 2003). A nice idea in theory: examining the conflict between progressive learning theory and conservative practice in Japanese schools. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 35, No. 2 (No. 137), pp. 611-621.

Gale, S. (Dec. 2003). Make of it what you will: a brief evaluation of the principles behind Communicative Language Teaching and the role of Task-Based Learning. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 2, pp. 17-24.

Gale, S. (Dec. 2003). Persistent, if nothing else: evaluating Situational Language Teaching and the extent of its contribution to communicative competence. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 35, No. 3 (No. 138), pp. 1137-1145.

Gale, S. (June 2004). No substitute for the real thing: the future of online learning, a virtual reality check. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 36, No. 1 (No. 140), pp. 175-186.

Gale, S. (Dec. 2004). Mistakes are good, but failure is better: devising an appropriate classroom response to the pragmatic dilemma. *FULERC: Annual Review of Language Learning and Teaching*, No. 3, pp. 29-36.

Gale, S. (March 2005). The nature and implications of language change and its impact upon teaching practice. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 36, No. 4 (No. 143), pp. 1081-1097.

Gale, S. (June 2005). Feed the medium: reconciling the nature of language with pedagogic practice. *Fukuoka University Review of Literature and Humanities*, Vol. 37, No. 1 (No. 144), pp. 83-96.

Gale, S. (2007). Towards a culture-sensitive pedagogy: critical awareness versus student-ethnocentric learning. *Gengo Bunka Ronkyu (Kyushu University Studies in Languages and Cultures)*, No. 22, pp. 67-88.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

Member, *Japan Association of Language Teachers* (Fukuoka Chapter).

6. 担当授業科目

英語 I 1単位 1年 前期 後期 (3 classes per semester)

英語 III 1単位 2年 前期 後期 (3 classes per semester)

海外語学実習事前指導 (UK programme preparation course, first semester only)

海外語学実習 (UK programme, second semester only)

Introduction to studying in English (英語で学ぶ ; 入門編) (教養演習, second semester only)

In addition, I have also taught the following 4-part skill-up seminars:

The basic essentials of academic essay writing

International languages: Reading about and listening to music in English

Data analysis and discussion on social issues

Critical thinking and discussion on Japanese pop culture

7. 社会貢献活動

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's English Conversation Class for Local Japanese-national English Teachers*. This class meets on one evening every other week for 2 hours.

Course designer and teacher (volunteer community service), *Fukuoka Prefectural University's (koukai kouza) English Travel Class for Local Citizens* (April-May, 2008). This course consisted of 4 evening classes of 90 minutes each.

Gale, S. (2012) Community in the UK. Presentation to local citizens at the 国際交流セミナー organized by the Akamura Board of Education (赤村教育委員会), March 28th, 2012.

8. 学外講義・講演

- Gale, S. (2006) A comparative analysis of direct oral translation as a vocabulary teaching technique. Academic society lecture at the *2006 Temple University/Fukuoka JALT Applied Linguistics Colloquium*, Jogakuin University Tenjin Satellite Campus, June 11, 2006.
- Gale, S. (2012) Community in the UK. Presentation to local citizens at the 国際交流セミナー organized by the Akamura Board of Education (赤村教育委員会), March 28, 2012.
- Gale, S. (2012) How to teach writing. JTE/ALT training presentation at the *2012 ALT Skills Development Conference*, Fukuoka Prefectural Education Center, December 3, 2012.
- Gale, S. (2013) Teaching critical thinking skills. JTE/ALT training presentation at the *2013 ALT Skills Development Conference*, Fukuoka Prefectural Education Center, November 25, 2013.
- Gale, S. (2014) Developing critical thinking skills among Japanese junior high and high school students. JTE/ALT training presentation at the *2014 ALT Skills Development Conference*, Oita Prefectural Board of Education, November 20, 2014.

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	堤 圭史郎
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2008年、大阪市立大学大学院文学研究科後期博士課程単位取得退学。同大学都市文化研究センター研究員、同大学都市研究プラザ GCOE 特別研究員に従事。2009年、博士（文学）を取得。2010年4月より本学に着任。2011年、共著書『ホームレス・スタディーズ—排除と包摂のリアリティ』により、第7回日本都市社会学会賞（磯村記念賞）を共同受賞。2014年、一般社団法人社会調査協会より、第4回社会調査協会賞『社会と調査』賞を受賞。

主な研究分野：社会学の立場から貧困問題・都市問題・地域問題を研究している。とりわけホームレスの人々をめぐる様々な「問題」について研究してきた。近年は、公式統計を用いた社会的排除地域析出に関する研究・生活困窮者支援モデルに関する研究・大都市都心のコミュニティ状況把握等を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

奥田知志・稲月正・垣田裕介・堤圭史郎, 2014, 『生活困窮者への伴走型支援—経済的困窮と社会的孤立に対応するトータルサポート』明石書店.

〈論文〉

鯉坂学・丸山真央・上野淳子・加藤泰子・堤圭史郎, 2015, 「『都心回帰』時代の名古屋市都心部における地域コミュニティの現状—マンション住民を焦点として」同志社大学社会学部『評論・社会科学』113:1-106.

鯉坂学・上野淳子・丸山真央・加藤泰子・堤圭史郎・徳田剛, 2014, 「『都心回帰』時代の東京都心部のマンション住民と地域生活—東京都中央区での調査を通じて」同志社大学社会学部『評論・社会科学』111:1-112.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

内田龍史・堤圭史郎, 「社会的排除地域析出の試み—2010年国勢調査から」日本都市社会学会第33回大会, 静岡県立大学, 2015年9月.

妻木進吾・西田芳正・堤圭史郎・内田龍史, 「被差別部落の現在(1)—2010年国勢調査から見る大阪府の部落の実態」日本社会学会第86回大会, 神戸大学, 2014年11月.

内田龍史・西田芳正・斎藤直子・妻木進吾・堤圭史郎, 「被差別部落の現在(2)—部落青年の雇用・生活実態」日本社会学会第86回大会, 神戸大学, 2014年11月.

堤圭史郎, 「『都心回帰』時代の地域コミュニティの動態—福岡市におけるマンション住民と行政の対応」地域社会学会第38回大会, 立命館大学, 2013年5月.

内田龍史・西田芳正・妻木進吾・堤圭史郎, 「児童自立支援施設と社会的排除—ケース記録調査から」日本社会学会第86回大会, 慶應義塾大学, 2013年10月.

〈討論者〉

日本社会病理学会第32回大会公開シンポジウム「生活困窮問題の現状と課題」にて討論者(2016年9月24日。於福岡県立大学)

〈研究報告書等〉

堤圭史郎, 2016, 「経済・就労の状況」福岡県福祉労働部人権・同和対策局調整課『平成27年度隣保館人権課題把握調査報告書』, 17-32.

特定非営利活動法人 抱樸, 2016, 『地域連携型就労訓練事業所の運営推進事業報告書』独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業報告書. (第1章・第4章を執筆)

特定非営利活動法人 抱樸, 2015, 『生活困窮者に対する就労訓練事業(社会的就労提供事

業所)を支える伴走型支援体制、地域社会資源体制の仕組み作り、及び地域における相互多重型支援ネットワーク構築に関する調査・研究事業』厚生労働省平成26年度社会福祉推進事業報告書。(第3章を執筆)

特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構, 2014, 『若年生活困窮者に対する社会的就労提供事業』独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業報告書。(第1章第1節、第2章を執筆)

特定非営利活動法人北九州ホームレス支援機構, 2014, 『生活困窮者に対する生活自立を基盤とした就労準備のための伴走型支援事業の実施・運営、推進に関する調査研究事業報告書』厚生労働省平成25年度社会福祉推進事業報告書。(第3章第1節・第2節を執筆)

〈調査実習の事例報告〉

堤圭史郎, 2014, 「多重債務経験者等の生活問題に関する調査研究- 福岡県立大学人間社会学部公共社会学科の社会調査実習」『社会と調査』12:85-89.

〈書評〉

堤圭史郎, 2016, 「友枝敏雄編『リスク社会を生きる若者たち- 高校生の意識調査から- 』」『西日本社会学会年報』14:95-6.

堤圭史郎, 2014, 「書評 町村敬志編著『都市空間に潜む排除と反抗の力』明石書店」『日本都市社会学会年報』32:198-201.

〈エッセイ〉

堤圭史郎, 2016, 「『ヤマちゃん』は語ることができるか- ホームレスの人々と人権- 」福岡県福祉労働部人権・同和对策局調整課『私たちはなぜ、人権について学ぶのか』, 61-4. (若者人権講座テキスト)

〈講演録〉

堤圭史郎, 2016, 「生活困窮が深まる中で、学校に期待すること」田川地区子どもの人権・進路保障確立協議会『2016年度報告書』.

③過去の主要業績

〈国際会議での報告〉

Tsutsumi, Keishiro, “Invisible Homelessness in Osaka: New Phases of Japanese Homeless Issue in Globalization,” ‘The 2nd International Conference on Locality and Humanities--Locality, Beyond the border of Space and Cognition,’ Pusan National University, June 18 2010.

〈著書・論文〉

堤圭史郎, 2013, 「多重債務世帯への社会的介入- 『伴走型支援』を通じた当事者の主観的意味への働きかけ」日本社会分析学会『社会分析』40:5-20.

青木秀男編, 2010, 『ホームレス・スタディーズ- 排除と包摂のリアリティ』, ミネルヴァ書房. (序章「ホームレス・スタディーズへの招待」5章「家族規範とホームレス- 扶助か桎梏か」(妻木進吾との共著)を執筆)

堤圭史郎, 2006, 「『善意』に支えられた『ホームレス支援』」『市大社会学』7:46-61.

3. 外部研究資金

- ・文部科学省、科学研究費補助金(若手研究B)『旧産炭地における定着・流出・還流- 貧困・生活不安定層の移動経験と労働=生活過程』, 221万円、2014~16年度、研究代表者.
- ・文部科学省、科学研究費補助金(基盤研究C)『生活困窮者支援組織を核とした参加包摂型地域社会の形成過程』, 2015~17年度、研究分担者(研究代表者: 稲月正・北九州市立大学).

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、関西社会学会、日本社会病理学会、日本都市社会学会（編集委員）、地域社会学会、西日本社会学会（編集委員等）、ソシオロジ同人、貧困研究会

6. 担当授業科目

社会学A・2単位・1年・前期	社会学B・2単位・1年・後期
社会病理学・2単位・2年・前期	社会調査の設計・2単位・2年・後期
社会変動と社会問題・2単位・3年・後期	卒業論文・6単位・4年・通年
地域社会研究Ⅰ・1単位・2年・前期	地域社会研究Ⅱ・1単位・2年・後期
公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期	公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期
社会調査実習・2単位・3年・通年	日本事情B・2単位・留学生・前期（分担）
地域問題研究・2単位・大学院・後期	

7. 社会貢献活動

- ・大阪市国勢調査を活用した実態把握プロジェクトチーム委員
- ・添田町子ども・子育て会議・会長
- ・田川市社会教育委員
- ・田川市生活困窮者自立支援協議会・会長
- ・特定非営利活動法人社会理論・動態研究所・編集委員
- ・特定非営利活動法人抱樸・2016年度厚生労働省社会福祉推進事業・研究員
- ・

8. 学外講義・講演

- ・NHK福岡放送局制作・なるほど実感報道ドドド! 「どうする?子どもの貧困（前編）」に出演（2016年5月13日放送）
- ・公益社団法人福岡県人権研究所・啓発担当者のための人権講座シンポジウム「住民の人権意識と啓発の課題」にて、コーディネーター及び提起者（2016年10月21日。於一般財団法人福岡県部落解放センター4階）
- ・田川地区子どもの人権・進路保障確立協議会・教育講演会にて講演（論題・「生活困窮が深まる中で、学校に期待すること」。2016年11月21日。於田川文化センター）

9. 附属研究所の活動等

附属研究所副所長

所属	人間社会学部 総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	中村 晋介
----	------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- 1.若者の意識・世代間ギャップに関する研究 「他者」を理解するための技法を洗練させてきた社会学や社会人類学に基づいて、現代の日本に生きる若い世代の社会意識（恋愛観、社会観、就業観、web に対する意識など）の解読を試みています。
- 2.ジェンダー論・結婚観に関する研究 日本社会における「女性の社会進出」や「非婚社会の行く末」について、社会学的な観点から研究しています。
- 3.社会学理論に関する研究 主にフランスの社会学者ピエール・ブルデューの業績や思想についての研究をおこなっています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 1.中村晋介「大学生と恋愛—恋愛に対する積極性の促進要因と阻害要因に着目して」『現代の社会病理』No.31,2016年9月.
- 2.中村晋介「『体育会系』女子学生のジェンダー観—「大学生のスポーツ・価値観に関する調査」より」(単著),一般社団法人社会調査協会提出論文,2014年10月.

②その他最近の業績

<研究ノート等>

1. Shinsuke Nakamura, "Actual Conditions of Web Security Practice: From Survey of University Students /Survey of Local Government Employees," Proceedings of Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2016, December 2016.
- 2.中村晋介・池志保「福岡県立大学「就業力アンケート調査」の再検討」(共著)『福岡県立大学心理教育相談室紀要』vol.7, 2016年3月.
3. Shinsuke Nakamura "Obstruction actor of Self-Support among Public Assistance Recipients: From the Statistical Analysis of Recipients in Tagawa Counties, Fukuoka Prefecture," Proceedings of Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015, October 2015.

<学会等発表>

- 1.池志保・中村晋介・石崎龍二「大学生の『就業力』についての縦断的研究」日本発達心理学会第28回大会(広島国際会議場)2017年3月.
2. Shinsuke Nakamura, "Actual Conditions of Web Security Practice: From Survey of University Students /Survey of Local Government Employees," Proceedings of Joint International Symposium on Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2016, (Tagawa City Hall), December, 2016.
- 3.中村晋介「福岡県立大学福祉用具研究会—福祉用具に関する啓発と開発支援のあゆみ」第18回西日本国際福祉機器展(西日本総合展示場),2016年11月.
- 4.中村晋介「若者の恋愛離れの実態と背景」玉川大学人文科学研究センター学術公開シンポジウム(玉川大学),2015年5月.
- 5.Shinsuke Nakamura, "Obstruction actor of Self-Support among Public Assistance Recipients: From the Statistical Analysis of Recipients in Tagawa Counties, Fukuoka Prefecture," Joint International Symposium on Regional Revitalization

and Innovation for Social Contribution and e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015, (Fukuoka Prefectural University), October 2015.

- 6.中村晋介「恋愛への積極性／消極性の規定要因」日本社会学会第 87 回大会（神戸大学）,2014 年 11 月.
- 7.中村晋介「『若者の恋愛離れ』についての考察——大学生を対象とする量的調査より」日本社会病理学会第 30 回大会（下関市立大学）,2014 年 10 月.
- 8.中村晋介「福岡県立大学福祉用具研究会——これまでとこれから」第 16 回西日本国際福祉機器展（西日本総合展示場）,2014 年 10 月.

③過去の主要業績

- 1.中村晋介「大学生のwebセキュリティ実践」『福岡県立大学人間社会学部紀要』vol.21-2,2013年.
- 2.中村晋介「ジェンダー・トラックの再生産」友枝敏雄・鈴木讓編『現代高校生の規範意識（第2版）』九州大学出版会,2005年.
- 3.中村晋介「社会学者と社会参加——ピエール・ブルデューのネオリベラリズム批判」『西日本社会学会年報』No.3, 2005年.

3. 外部研究資金

日本学術振興会,科学研究費基盤研究(C),「大学生のITセキュリティに関する新たな教育プログラムの構築」3,380,000円,平成28年度～平成30年度,研究代表者.

5. 所属学会

日本社会学会、日本社会病理学会、日本社会分析学会、西日本社会学会

6. 担当授業科目

- ・プレ・インターンシップ・2単位・1～2年・通年
- ・社会調査法・2単位・2年・前期
- ・質的調査法・2単位・2年・後期
- ・現代社会論A（ジェンダー・世代）・2単位・2年・前期
- ・社会学の分析法C（マクロ理論）・2単位・3年・後期
- ・日本事情A・2単位・留学生・分担・前期

7. 社会貢献活動

- 1.川崎町子ども・子育て会議 会長
- 2.川崎町子どもの権利条例策定委員会 副会長
- 3.行橋市総合計画審議会 副会長
- 4.行橋市湾岸地域観光振興審議会 副会長
- 5.福岡県立飯塚研究開発センター 入居審査委員
- 6.NPO 福祉用具ネット 理事
- 7.地域総合型スポーツクラブ EAST クラブたがわ 運営委員・会計監査
- 8.筑豊市民大学 アドバイザー
- 9.日本語くらぶ・たがわ アドバイザー

9. 附属研究所の活動等

- 1.生涯福祉研究センターの運営に関する活動 生涯福祉研究センター運営部会・副部会長
- 2.生涯福祉地域支援事業・教育研修事業への参加
「福岡県立大学福祉用具研究会」代表、「さわやかな自己表現塾」運営責任者
「PCスキル養成講座2016」運営責任者、「日本語くらぶ・たがわ」アドバイザー
「筑豊市民大学」アドバイザー

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	平部 康子
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

【日英の子ども支援の在り方に関する法的検討】

近年、「子どもの貧困」問題が顕在化し、我が国の社会保障制度が子どものニーズに対応できていないことが指摘されている。従来の社会保障制度において、子どもへの支援は親の状況と連動して支給を決定する仕組みをとることが多く、親の扶養責任と強く関連する給付や支給要件、子どもへの援助を世帯（主）への給付に包含するような給付、親の選択が重視される給付手続き等が定められてきた。しかし、親自身が非正規雇用であり1人で家族を養うことが難しい例や、離婚をしたが別居親から必要な養育費の分担を得られない例など、不利な状況の負担が親を通して、子にも課せられている状況が多くある。また、親子の利益が相反する場合、親が給付を適切に子どものニーズの充足に使用することができない場合など、子どもが必要な支援を受けられない事態が生じているにもかかわらずそれが見過ごされてきた。このような問題関心から、日英の比較法的研究を通じて、変容する社会経済や家族関係の中で、いかに「子ども」を社会保障法制に位置付けるかを検討する。

【日英の社会保障制度における家族負担】

家族形態の変容（核家族、単親家族）および労働市場への女性の参加が進むと、子の養育や家族の介護は、それを担う者にとって2重の負担（労働機会の喪失、養育や介護のための出費）となる。日英の比較を通じて、社会保障法上にちらばっている家族給付や福祉サービス（児童手当、介護手当や各種加算、介護および保育サービス）と負担（所得制限、費用負担）において家族負担がどのように位置づけられてきたかを把握するとともに、アンペイドワークを担う者が適切に評価され、他人の世話を要する者の支援を家族と社会で分担しうる社会保障法制を検討する。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・ 平部康子「社会福祉の財政と利用者負担」 河野正輝編『社会福祉法入門 第3版』（2015年、有斐閣）
- ・ 平部 康子「イギリスの介護保障」 増田雅暢編『世界の介護保障』（2014年、法律文化社）

<論文>

- ・ 平部康子「児童相談所長による里親委託等の承認の申立て」 岩村正彦他編『別冊ジュリスト 社会保障判例百選 第5版』（2016年、有斐閣）

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・ 平部 康子「子どもに対する給付の形式」 日本社会保障法学会第69回春季大会 2016年5月

③過去の主要業績

- ・ 平部 康子 「虐待・暴力と社会的支援」 日本社会保障法学会編『新・講座社会保障法 地域生活を支える社会福祉』（2012年、法律文化社）

- ・ 平部 康子 「福祉サービス給付と所得保障給付との制度間調整—障害のある児童に着目して—」 山田晋・有田謙司他編『社会法の基本理念と法政策—社会保障法・労働法の現代的展開』（2011年、法律文化社）

・平部 康子「イギリスにおける高齢女性の所得保障—年金における『女性の貧困リスク』への対応」 海外社会保障研究179号（2011年）

3. 外部研究資金

・科学研究費基盤研究（C）「子どもの法益主体性を支える社会保障法制に関する比較法的検討」（2016年—2019年）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会保障法学会（学会誌編集委員）、日本労働法学会、障害法学会

6. 担当授（学部）

教養演習・2単位・1年・前期、公的扶助論・2単位・2年・後期、社会福祉援助技術現場実習指導・3単位・2年後期～3年通年、権利擁護と成年後見制度・2単位・3年・前期、社会福祉法制論Ⅰ・2単位・3年・前期、3年・前期、外書講読A・2単位・前期、社会福祉法制論Ⅱ・2単位・3年・後期、3年・通年、社会福祉援助技術現場実習・4単位・3年・前期、相談援助演習C・2単位・3年・後期、社会福祉学演習・2単位・3年後期～4年前期、卒論指導・6単位・4年・後期、日本事情Ⅰ・2単位・留学生・後期、

（大学院）

社会保障制度研究・2単位・後期

業科目

7. 社会貢献活動

- ・福岡県行政改革審議会・委員
- ・福岡県職業能力開発審議会・委員
- ・福岡県営住宅管理審議会・委員
- ・福岡県県土整備部・建築都市部公共事業再評価検討委員会・委員
- ・田川市男女共同参画審議会・委員長
- ・田川市国民健康保険運営協議会・委員
- ・香春町次世代育成支援対策協議会・委員長
- ・香春町立小中学校再編推進審議会・委員長
- ・飯塚市指定管理者選定委員会・委員長

8. 学外講義・講演

- ・救急救命士養成研修 救急救命九州研修所「社会保障と社会福祉」

9. 附属研究所の活動等

・なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	藤澤 健一
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育学、教育制度・政策史、教員史

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

(著書)

藤澤健一編『沖縄の教師像—数量・組織・個体の近代史』榕樹書林、2014年

藤澤健一編『移行する沖縄の教員世界—戦時体制から米軍占領へ』不二出版、2016年

(論文)

藤澤健一・近藤健一郎「追補遺(二) あらたに見出された『沖縄教育』に関する解説、ならびに附表の再改訂」『復刻版 沖縄教育』第39巻、不二出版、2015年6月

② その他最近の業績

(書評) 照屋信治著『近代沖縄教育と「沖縄人」意識の行方—沖縄県教育会機関誌『琉球教育』『沖縄教育』の研究』溪水社、2014年、日本歴史学会編『日本歴史』803号、吉川弘文館、2015年4月

(記事) 「あらたに見出された「『沖縄教育』(上)」『沖縄タイムス』2015年4月7日

(記事) 「米軍占領初期の教員団体機関誌①」『沖縄タイムス』2015年9月7日

(書評) ひめゆり平和祈念資料館『戦後70年特別展 ひめゆり学徒隊の引率教師たち』2016年、『琉球新報』2016年5月22日

(書評) 山本和行著『自由・平等・植民地性—台湾における植民地教育制度の形成』国立台湾大学出版中心、2015年、日本教育学会編『教育学研究』第83巻第3号、2016年9月

(解説) 『占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成 解説・総目次・索引』不二出版、2016年10月

(記事) 「『占領下の奄美・琉球における教員団体関係史料集成』が完結」『琉球新報』2016年12月1日

③過去の主要業績

藤澤健一『近代沖縄教育史の視角—問題史的再構成の試み』社会評論社、2000年

藤澤健一『沖縄／教育権力の現代史』社会評論社、2005年

3. 外部研究資金

研究代表者：科学研究費補助金基盤研究(B)「沖縄における教育指導者層の変容過程に関する研究—沖縄戦前後の人的構成に着目して」15H03475(2015年度～2019年度)、総額(直接経費)660万円

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本教育制度学会 日本教育政策学会 日本教育行政学会 日本教育史研究会

6. 担当授業科目

教育学概論B・2単位・1年前期、教育史・2単位・2年前期、教育思想論・2単位・2年後期、教育実習事前事後指導・2単位・3年後期から4年前期、公共社会学研究Ⅰ・2単位・3年前期、公共社会学研究Ⅱ・2単位・3年前期、卒業研究・4年、「日本事情B」(近現代史)・留学生対象

7. 社会貢献活動

田川市教育委員会学力向上にかかわる有識者会議委員
教員免許更新講習(教育の最新事情)講師
添田町教育委員会の事務に関する事務点検評価委員

8. 学外講義・講演

那覇市歴史博物館ギャラリー文化講座講師

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	許 棟翰
----	---------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年3月慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。博士（商学）。専門分野は、労働経済学、人的資源管理論、労使関係論。

1998年4月から九州国際大学経済学部経済学科で「労働経済学」を担当（大学院では「企業政策研究」を担当）。2008年3月から韓国明知大学経営学部経営学科で「労使関係論」、 「人的資源管理論」、 「経営組織論」を担当（大学院では人事・組織関連の科目を担当）。2015年4月より本学に着任。

私の初期研究は、満足度の高い働き方と効率的な人事管理のあり方について「賃金支給システム」に焦点を当てて行われた。企業の賃金支給システムを「配分の仕方」という観点からアプローチした。いまは「成果主義賃金」をその分析対象とし、どのような合理的基準による配分の仕方であるのか、について研究を行っている。

働き方の変化、すなわち非正規職の増加や雇用形態の多様化によって企業内部の技能養成方式はどう変わっていくのか。また技能伝授は機能しているのか。私に関心を持っている2つ目の研究課題である。雇用形態の多様化が企業内部の技能養成方式や技能伝授の様子をどう変えたのかを究明するため、日本の生産現場の調査を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

(単著)「企業経営管理側面からの休憩制度検討及び運営戦略」『KEF Compensation Quarterly』22(1), 2014年, pp. 20~31.

(共著)Gyuchang Yu, Woosung Park, Donghan Hur, Dongbae Kim & Jiyoung Chang, 「労働環境の変化と賃金体系改編」『KEF Compensation Quarterly』22(2), 2014年, pp. 20~47.

(単著)「韓国の労働市場の変化と若者の雇用問題」『アジア共生学会年報』No. 11, 2015年, pp. 34~38.

②その他最近の業績

<専門誌論稿>

(単著)「日本企業における人員規模の決定 - 適正人件費との連携を中心に - 」『人事管理』第318号, 2016年.

(単著)「柔軟勤務制度導入拡大の実態とその背景」『人事管理』第327号, 2016年.

(単著)「新卒一括採用から多様な採用制度への拡大」『人事管理』第331号, 2017年.

<学会発表>

(単著)「韓国における社会的企業の持続可能性と経済的自立」, 第3回韓国日本研究団体国際学術大会, 2014年8月22日.

<シンポジウム>

(単著)「韓国の労働市場の変化と若者の雇用問題」, アジア共生学会日韓シンポジウム, 2014

年 11 月 15 日.

<調査報告>

(共同)Jaegu Kim, Jeonghyun Lee, Donghan Hur & Sangmin Lee, 「グローバル自動車メーカーの弾力的人員運営の事例研究」, 韓国自動車産業協会, 2016 年 10 月 31 日.

<コラム>

(単著)「100 歳時代の賃金革命: 長期雇用と成果主義の両立模索」『韓経ビジネス』(韓国経済新聞社), 2014 年 3 月 19 日.

(単著)「企業の高齢化と望ましい賃金体系」『自動車経済』480 号(韓国自動車産業研究所), 2014 年 10 月 15 日.

③過去の主要業績

(単著)「同一価値労働同一賃金原則と企業内男女間賃金格差の実証分析」『三田商学研究』第 37 巻第 4 号, 1994 年, pp. 51~67.

(単著)「日本における長期雇用慣行の変容と雇用形態の多様化」『九州国際大学経営経済論集』第 7 巻第 3 号, 2001 年, pp. 89~126.

(単著)「日本の雇用形態多様化と知的熟練の必要性」『Journal of Knowledge Studies』7(2), 2009 年, pp. 113~139.

3. 外部研究資金

寄託者: 韓国自動車産業協会

研究種別: 政策提言のための委託調査&研究

研究課題: グローバル自動車メーカーの弾力的人員運営の事例研究

交付金額: 75,000,000₩ (円換算、約 7,464,097 円)

研究期間: 2016 年 5 月 2 日~2016 年 10 月 31 日

研究メンバー: Jaegu Kim, Jeonghyun Lee, Donghan Hur & Sangmin Lee

4. 受賞

5. 所属学会

日本労務学会, 日本組織学会, 韓国人事組織学会, 韓国人事管理学会(理事), 韓国企業経営学会(理事), 韓国経営教育学会, 韓国生産性学会(常任理事), 韓国国際地域学会, 韓国労使関係学会, 韓日経商学会(常任理事), 韓国日本学会(常任理事)

6. 担当授業科目

経済学・2 単位・1 年・前期, 教養演習・1 単位・1 年・前期, 経済学 B・2 単位・1 年・後期, グローバル社会論・2 単位・1 年・後期(分担), 仕事の経済学・2 単位・2 年・前期, 暮らしの経済学・2 単位・2 年・後期, 社会調査実習・2 年・2 単位・通年, 公共社会学研究 I・1 単位・3 年・前期, 公共性研究 C-I(社会保障論 I)・2 単位・3 年・前期, 公共社会学研究 II・1 単位・3 年・後期, 公共性研究 C-II(社会保障論 II)・2 単

位・3年・後期, 卒業論文・6単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

あか村まち・ひと・しごと総合戦略策定委員会委員 (2015年6月12日～2017年6月11日)

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部/ 総合人間社会コース	職名	准教授	氏名	水野 邦太郎
----	-------------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

「英語を学ぶ・使う」という実践の背後に多くの「仲間」が存在し、多様な人々が差異によって響き合う「学びの共同体(未知の世界と出会い, 他者と出会い, 自らの存在と出会い対話する対話的実践を遂行するコミュニティ)」を, いか「教室」という場と, 「インターネット」を活用して創出できるか, その教育方法に取り組んでいる。これまで, 以下の3つのサイトを立ち上げ実践してきた: **Interactive Writing Community, Interactive Reading Community, Writing for the TOEFL Test.**

今後, これら3つの「学びの共同体」を充実させていくために, 世界中の教育機関とネットワークを結び, さらに, マルチメディアをフルに活用して様々な機能を実装していき, 新しい英語学習環境の創出の研究と実践に従事していきたい。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

水野 邦太郎. (単著). 2016. 「Graded Readers における “Graded” の文化的・教育的価値の探求」『英語教育』10月号. pp.66-68.

Kuniatro Mizuno. (単著) 2015. From reading books to sharing books: Going beyond the virtuous circle of the good readers. JALT. 39. pp.16-21.

水野 邦太郎. (単著). 2015. 「活動的で, 協同的で, 反省的な「読書コミュニティ」の創出 ~ 学生一人ひとりが想像の翼を広げる教養教育を目指して」『第21回 大学教育研究フォーラム』pp.262-263.

水野 邦太郎・東矢光代・川北直子・西納春雄. (共著). 2013. 「プロジェクト IRC : 多読授業における社会文化的アプローチの効果」『外国語教育メディア学会九州・沖縄支部紀要』第133号. pp.41-69.

②その他最近の業績

<学会発表>

Kuniatro Mizuno. (単独). 2015. Blended learning of extensive graded reading and data-driven learning. FLEAT IV Conference, Harvard University, Cambridge MA.

Kuniatro Mizuno. (単独). 2014. Constructing linguistic knowledge utilizing the Oxford Bookworms library series corpus designed for data driven learning. AILA World Congress 2014, Brisbane Australia, The Brisbane Convention & Exhibition Centre.

<開発したサイト>

Interactive Reading Community

<http://www.interactive-l-community.com/IRC6/Login.php>

Interactive Writing Community

http://133.130.75.57/iwc/IWC/index_2008s.html

Writing for the TOEFL Test.

<http://133.130.75.57/iwc/TOEFL/2008s/index.shtml>

③過去の主要業績

水野 邦太郎. 2005. 「本と人・人と人との絆を結ぶ互恵的な読書環境の創出」『コンピュータ & エデュケーション』Vol. 19. 75-84. 2007年度 CIEC 学会賞・論文賞 受賞.

田中茂範 編集主幹. 2003 『E ゲイト英和辞典』他多数. 共著. ベネッセコーポレーション.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金基盤研究(C)) (課題番号 23520689) (至平 26.3). 「意識的な語彙・文法学習を取り入れた多読プログラムの開発とその教育的効果の検証」

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金基盤研究(C)) (課題番号 26370670) (至平 30.3). 「認知的/社会文化的アプローチを融合した多読プログラムの開発とその教育的効果の検証」

4. 受賞

2013. 福岡県立大学 第一回ベスト・ティーチャー賞

5. 所属学会

大学英語教育学会, 全国英語教育学会, 外国語教育メディア学会, 認知言語学会, 日本英語学会, 英語コーパス学会, コンピュータ利用教育協議会, 教育工学会

6. 担当授業科目

英語Ⅱ(1)・1単位・1年・前期, 英語Ⅱ(2)・1単位・1年・後期, 英語Ⅳ(1)・1単位・1年・前期, 英語Ⅳ(2)・1単位・1年・後期, 教養演習・1単位・1年・前期.

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	三隅 譲二
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

集合行動論、社会的コミュニケーション論、情報社会論

2. 研究業績

①最近の著書・論文

2009 地域生活の総合的満足度の意味及び生活の質に関する質問項目との関係
福岡県立大学人間社会学部紀要 18号

②その他最近の業績

2009 犯罪社会学会発表(大阪市立大学)「田川郡における被保護者の自立阻害要因と貧困の世代的再生産にかかる分析」

2008 田川住民の地域満足度調査(平成17年度社会調査実習調査報告書)

2009 大学生の職業意識調査(平成19年度社会調査実習調査報告書)

2010 大学生の友人調査調査(平成21年度社会調査実習調査報告書)

2011 福岡県立大学における携帯電話に関する調査(平成22年度社会調査実習報告書)

2012 大学生の居留意識に関する調査(平成23年度社会調査実習報告書)

③過去の主要業績

3. 外部研究資金

福岡県監査保護課・受託研究「田川郡における被保護者の自立阻害要因と貧困の世代的再生産にかかる分析」

(5,168,354円：2007年8月～2008年3月)

4. 受賞

5. 所属学会

日本社会学会、西日本社会学会

6. 担当授業科目

集合行動論、情報社会論、現代社会(ミクロ理論)、公共社会研究(組織・集団)

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	准教授	氏名	美谷 薫
----	---------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2005年 筑波大学大学院博士課程生命環境科学研究科地球環境科学専攻（5年一貫制）修了，博士（理学）。宇都宮市役所市政研究センター専門研究嘱託員，埼玉大学教養学部非常勤講師などを経て，2009年，宇都宮市役所入庁，上下水道局経営企画課などに勤務。2016年4月より本学に着任。専門分野は人文地理学，地域行政論。

大学院在籍時には，1950年代の「昭和の大合併」後の市町村行政における地域経営の特徴を，長期スパンでの事業費配分などに着目して明らかにすることを研究課題とした。

その後，宇都宮市役所市政研究センター在職時には，「平成の大合併」の時期にあわせて導入された地域自治制度の実態調査のほか，大都市制度や道州制といった地方制度の再編とその宇都宮市への影響に係る研究などを担当した。また，宇都宮市役所在籍時には（あくまで担当業務としてであるが）行政サービスの地域差などについての調査に取り組んできた。

今後は，「平成の大合併」が落ち着いてから10年程度が経過することもあり，市町村合併に伴う行政体制の再編や，合併の地域社会・地域経済への影響について，丁寧な事例調査に基づき明らかにしていきたいと考えている。その一環として，2016年度には，「社会調査実習」（3年次）において，飯塚市における合併後の行政の取組とそれらに対する住民意識に関する調査を実施した。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

【著書】

- ・ 美谷 薫・梶田 真 2017. ローカル・ガバナンスをめぐる政策的展開－市町村行政の「守備範囲」と「公共」の担い手を中心に. 佐藤正志・前田洋介編『ローカル・ガバナンスと地域』ナカニシヤ出版，20-38.

②その他最近の業績

【報告書】

- ・ 美谷 薫編 2017. 『社会調査実習報告書2016 飯塚市における合併後のまちづくりと住民意識』福岡県立大学人間社会学部公共社会学科.

【学会発表】

- ・ 美谷 薫 2017. 水道料金の地域差とその要因に関する一考察. 日本地理学会2017年春季学術大会「新しい公共」の地理学研究グループ研究集会（筑波大学）.

【その他】

- ・ 日本地理学会「新しい公共」の地理学研究グループ2016年度冬季研究会（福岡県立大学） 巡検「炭都・田川の現在をあるく」（企画・実施担当）.

③過去の主要業績

【著書】

- ・ 神谷浩夫・梶田 真・佐藤正志・栗島英明・美谷 薫編著 2012. 『地方行財政の地域的文脈』古今書院.

【論文】

- ・ MITANI, Kaoru 2005. A Geographical Study on Areal Management of Municipalities in Terms of Distribution of Public Investment: A Case Study of Utsunomiya City and Kawachi Town, Tochigi Prefecture, Japan. 筑波大学大学院生命環境科学研究科博士論文.
- ・ 美谷 薫 2003. 千葉県市原市における都市経営の展開と公共投資の配分. 地理学評論 76 : 231-248.

【報告書】

- ・ 美谷 薫 2008. 『「平成の大合併」直後の合併市町村における地域自治・地域行政の動向―「市町村合併と地域内分権に関するアンケート」調査報告書（2）―』うつのみや市政研究センター.

3. 外部研究資金

該当なし

4. 受賞

該当なし

5. 所属学会

日本地理学会（「新しい公共」の地理学研究グループ事務局担当）、人文地理学会、経済地理学会、地理空間学会、日本行政学会、日本公共政策学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期	社会政策論・2単位・1年・後期
地理学概論・2単位・2年・前期	地域社会研究Ⅰ・1単位・2年・前期
地域社会研究Ⅱ・1単位・2年・後期	社会調査実習・2単位・3年・通年
地域社会分析法C・2単位・3年・前期	公共社会学研究Ⅰ・1単位・3年・前期
地域計画論・2単位・3年・後期	公共社会学研究Ⅱ・1単位・3年・後期
卒業論文・6単位・4年・通年	

7. 社会貢献活動

添田町地域福祉計画策定委員会委員（副委員長）

8. 学外講義・講演

該当なし

9. 附属研究所の活動等

該当なし

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	准教授	氏名	麦島 剛
----	---------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

発達障害・ストレス関連疾患・加齢についての生理心理学的研究

ADHDや自閉症などの発達障害、統合失調症等に見られる注意に関する障害、ストレスに関連する疾患、および認知症には、中枢神経機能の変化が関与する。そこで、神経生理学・行動薬理学・学習心理学の手法と理論を用いて、薬物による中枢神経系の活動変化・ストレス負荷・神経系の先天的異常が、電気生理学的神経活動・学習・社会行動・不安に対してどのような影響をもつのかを検討している。具体的には、おもに、以下について探求している。1) ADHD・統合失調症にみられる前注意過程を含む注意障害とcatecholamine神経系の活動異常との関連を電気生理学的に解明すること。2) ADHDを併発するとみられるてんかんモデル動物を用いて、ADHDにおける衝動性と不注意をオペラント学習理論と行動薬理学により解明すること。3) benzodiazepine受容体サブタイプによる不安やストレス反応への関与の違いの解明。4) 老齢動物の注意機能・情動行動・記憶への認知改善薬（認知症治療薬）等の効果の解明と、これに基づく老年心理学領域での考察。これらの研究は、理論的進歩のみならず、より効果的な治療薬の開発や、より構造化された心理療法（行動療法）の開発の一助となると考えられる。また老年学や進路指導論（教育心理学）の立場から総合科学的考察を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・春木 豊・麦島 剛 (2014) 学習 梅本堯夫・大山正(編著) 心理学への招待 [改訂版] サイエンス社 Pp. 97-132.
- ・麦島 剛 (2014)注意欠陥・多動性障害 (ADHD) の注意障害の行動神経科学—ミスマッチ陰性電位を中心としたモデル動物研究の動向— 福岡県立大学心理臨床研究, 6, 137-144.
- ・麦島 剛 (2015)アルツハイマー病の動物モデル—高齢期の生理心理学における研究法の一方性— 福岡県立大学心理臨床研究, 7, 67-76.
- ・麦島 剛 (2016) 神経経済学の進展と視座：衝動性をめぐる心理臨床・エネルギー政策・組織経営への応用と視座, 福岡県立大学心理臨床研究, 8, 25-35.

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・麦島剛・久保浩明・林奈津美・野見山遥・永井友幸・中野昂一・木村裕・中本百合江・吉井光信. ADHD モデル動物EL マウスの衝動的選択行動に対する治療薬atomoxetine 投与の効果. 2014年6月, 日本行動分析学会第32回年次大会.
- ・Saka, N., Shinba, T., Kubo, H., Nabeta, M., Hayashi, M., Kimura, H., Mugishima, G. (2014) Mismatch negativity-like response on stream segregation in spontaneously hypertensive rat (SHR) as an animal model of ADHD. 2014年7月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- ・Kubo, H., Kimura, H., Nakano, K., Nagai, T., Nomiya, H., Hayashi, N., Nakamoto, Y., Yoshii, M., Mugishima, G. (2014) On the subjective equivalence between amount and delay in EL mouse as an animal model of ADHD. 2014年7月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- ・Mugishima, G., Kubo, H., Saka, N., Nabeta, M., Hayashi, M., Kimura, H., Sinba, T. (2014) Effects of methylphenidate administration on mismatch negativity-like response in spontaneously hypertensive rat (SHR) as an animal model of ADHD. 2014年7月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- ・麦島剛・久保浩明・木村裕・中本百合江・吉井光信. ADHDモデル動物ELマウスの遅延価値割引事態における衝動的選択に対する治療薬atomoxetine投与の効果. 2015年8月, 日本行動分析学会第33回年次大会.
- ・永井友幸・久保浩明・木村裕・林奈津美・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 環境明瞭度の増大が報酬比の大きい遅延価値割引下のELマウスの選択行動に与える影響. 2015年8月, 日本行動分析学会第33回年次大会.
- ・久保浩明・木村裕・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引課題におけるELマウス (ADHDモデル) の主観的等価点および不注意に関する考察. 2015年8

月, 日本行動分析学会第33回年次大会.

- Mugishima, G., Kubo, H., SAKA, N., NAGAI, T., ISOZAKI, S., KIMURA, H., SHINBA, T. Attenuated latent inhibition of taste aversion learning in EL mouse as an animal model of ADHD. 2015年9月, The 75th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- Saka, N., Shinba, T., Kubo, H., Miyagawa, Y., Hayashi, M., Kimura, H., Mugishima, G. The effect of methylphenidate on the evoked potential to auditory paired stimulation in SHR as an animal model of ADHD. 2015年9月, The 74th Annual Meeting of the Japanese Society for Animal Psychology.
- 森寺亜伊子・坂徳子・麦島剛. 高血圧自然発症ラット(SHR)の大脳皮質および海馬の自発脳波に対するmethylphenidate投与効果 -Attention deficit hyperactivity disorder (ADHD) モデル動物を用いた脳波学的検討- 2015年9月, 日本心理学会第79回大会.
- 麦島剛・坂徳子・久保浩明・林美穂・榛葉俊一. ADHDモデルラットSHRの大脳皮質およびCA1における音脈分凝知覚に関連したミスマッチ陰性電位様反応に対する methylphenidate 投与の効果. 2016年5月, 第34回日本生理心理学会.
- Moridera, A., Saka, N., Mugishima, G. Effect of methylphenidate on the electroencephalogram (EEG) frequency patterns at cerebral cortex and hippocampus in spontaneously hypertensive rat (SHR) as a model of attention deficit hyperactivity disorder (ADHD). 2016年7月, The 31st International Congress of Psychology.
- 麦島剛・久保浩明・木村裕・中本百合江・吉井光信. ADHDモデル動物ELマウスの遅延価値割引事態における衝動的選択に対する治療薬atomoxetine投与の効果. 2016年9月, 日本行動分析学会 第35回年次大会.
- 永井友幸・久保浩明・木村裕・林奈津美・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 環境明瞭度の増大が報酬比の大きい遅延価値割引下のELマウスの選択行動に与える影響. 2016年9月, 日本行動分析学会 第35回年次大会.
- 久保浩明・木村裕・永井友幸・森寺亜伊子・中本百合江・吉井光信・麦島剛. 遅延価値割引課題におけるELマウス (ADHDモデル) の主観的等価点および不注意に関する考察. 2016年9月, 日本行動分析学会 第35回年次大会.

<学会シンポジウム>

- 麦島剛 (2014) ADHDモデル動物による薬物療法と行動療法の理解 山口哲生・高瀬堅吉・柳井修一 (企画) 発達障害の理解に向けて -基礎研究の役割とその有用性を考える- 2014年9月, 日本心理学会第78回大会.

③過去の主要業績

- Shinba, T., Yamamoto, K., Cao, G.M., Mugishima, G., Andow, Y., Hoshino, T.. (1996) Effects of acute methamphetamine administration on spacing in paired rats: Investigation with an automated video-analysis method. *Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry*, 20, 1037-1049.
- 麦島 剛・榛葉俊一・山本健一・星野忠夫 (1997) 自動画像解析で捉えたdopamine系活動亢進によるラットの行動変化. *動物心理学研究*, 47, 91-98.
- 麦島 剛 (1998) ラットの社会的行動と常同行動に関する自動画像解析システムの開発 -行動薬理実験への応用- 早稲田心理学年報, 30, 55-62.
- Shinba, T., Shinozaki, T., Mugishima, G. (2001) Clonidine immediately after immobilization stress prevents long-lasting locomotion reduction in the rats. *Progress in Neuro-Psychopharmacology and Biological Psychiatry*. 25, 1629-40.
- 麦島 剛. 注意欠陥多動性障害 (ADHD) をめぐる動向: 新たな研究法の確立に向けて. (2006) 福岡県立大学人間社会学部紀要, 14 (2), 51-63.
- 中本百合江・麦島 剛・佐藤弥都子・中山 繁・高松幸雄・池田和隆・吉井光信 (2007) ADHDモデル動物としてのEL(てんかん)マウス. *日本神経精神薬理学雑誌*. 27(5), 297, 11-25.
- Ishizaki, R., Shinba, T., Mugishima, G., Haraguchi, H., Inoue, M. (2007) Time-series analysis of sleep-wake stage of rat EEG using time-dependent pattern entropy. *Physica A: Statistical Mechanics and its Applications*, 87 (13), 3145-3154.
- 麦島 剛 (2009) 第10章 学習. 西本武彦・大藪泰・福沢一吉・越川房子 編著『現代心理学入門 進化と文化のクロスワード』川島書店.

3. 外部研究資金

- ・日本学術振興会 科学研究費 基盤研究C (単独取得) 「ADHDマウスの衝動性と前注意機能を指標とした応用行動分析と薬物療法の統合の試み」 481万円, 2014~2016年度

5. 所属学会

- ・日本心理学会、日本生理心理学会、日本動物心理学会、日本神経精神薬理学会、日本行動分析学会、早稲田大学心理学会

6. 担当授業科目

生理心理学Ⅰ 2単位, 2年前期、生理心理学Ⅱ 2単位, 2年後期、心身科学A 2単位, 2年前期、加齢基礎論 2単位, 2年後期2年、実験測定法Ⅰ 2単位, 2年前期、実験測定法Ⅱ 2単位, 2年後期、老年心理学 2単位, 3年後期、演習 2単位, 3年後期・4年前期、卒業論文指導 6単位, 4年、教養演習 2単位, 1年前期、神経生理学特論 2単位, 修士1年、老年心理学特論 2単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士1年、特別研究 4単位, 修士2年

8. 学外講義・講演

- ・職業訓練法人福岡地区職業訓練協会 福祉用具専門相談員養成課程「高齢者等の心理」 2016年9月.

9. 附属研究所の活動等

- ・生涯福祉研究センター兼任研究員

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	准教授	氏名	村山 浩一郎
----	---------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

私の研究分野は「地域福祉」です。「地域福祉」は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野ではなく、地域住民が主体となり、行政や専門職と協働しながら、援助を必要とする人を地域で支えたり、地域の共通課題の解決に取り組んだりする、地域を基盤とした福祉実践のあり方を意味しています。私の研究テーマは、このような「地域福祉」を推進するための様々な実践や方法を検討することです。具体的には、住民による小地域福祉活動、福祉NPO、コミュニティワーク、地域福祉計画など、地域福祉を推進するための住民活動、援助技術、計画・政策などについて研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・村山浩一郎「第9章 地域福祉」, 鬼崎信好・本郷秀和編著『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』, 講談社, 2016年2月
- ・永松美菜子・村山浩一郎「特別養護老人ホームにおける介護職員への職場内集合研修の現状と課題ー北九州市における特別養護老人ホーム(介護老人福祉施設)を中心にー」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第1号, 2016年9月

②その他最近の業績

<調査報告書>

- ・共著・科研費調査報告書『利用者本位の介護サービス評価システムの開発に関する研究』(研究代表: 鬼崎信好, 久留米大学), 2015年3月

<実践プログラム開発>

- ・北九州市社会福祉協議会, 村山浩一郎監修『つくってみよう! わたしたちのまちのふくしプラン〜小地域福祉活動計画策定の手引き(改訂版)〜』, 北九州市社会福祉協議会, 2014年3月

<辞典>

- ・共著(編集委員), 九州社会福祉研究会編『21世紀の現代社会福祉用語辞典』, 学文社, 2013年4月

③過去の主要業績

- ・村山浩一郎「『進行管理』の視点から見た地域福祉計画の特徴と課題: 3自治体の第1期計画と第2期計画の比較から」, 『リハビリテーション連携科学』第14巻2号, リハビリテーション連携科学学会, 2013年12月
- ・村山浩一郎「小地域ネットワーク活動の課題に関する研究ー北九州市のふれあいネットワーク事業を担う福祉協力員に対する質問紙調査の分析からー」, 『福岡県立大学人間社会学部紀要』第18巻第2号, 2010年
- ・村山浩一郎「北九州市における小地域福祉活動の活動実態と課題に関する研究」, 『西南女学院大学紀要』第13巻, 2009年

3. 外部研究資金

- ・平成26-29年度 文部科学省科学研究費補助金【基盤研究C】(共同) ※研究代表: 本郷秀和(福岡県立大学), 研究課題: 「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」

4. 受賞 なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会, 日本地域福祉学会, 日本社会学会, 福祉社会学会, 地域社会学会, リハビリテーション連携科学学会

6. 担当授業科目

- <学部>福祉行財政と福祉計画（2単位・3年・前期），社会福祉計画論（2単位・3年・前期），地域福祉論Ⅰ（2単位・3年・前期），地域福祉論Ⅱ（2単位・3年・後期），相談援助実習指導（3単位・2年～3年・通年），相談援助実習（4単位・3年・通年），相談援助演習B（2単位・3年・通年），相談援助演習C（1単位・3年・後期），社会福祉学演習（2単位・3年～4年・後期～前期），卒業論文（6単位・4年・後期）
- <大学院>地域福祉研究（2単位・1・2年・前期），地域福祉演習（2単位・1・2年・後期）

7. 社会貢献活動

- ・福岡県多重的見守り活動強化検討会議・委員長
- ・福岡県社会福祉協議会 市町村社協委員会 専門委員会・委員長
- ・福岡県共同募金会 共同募金推進委員会 作業部会・部会長
- ・北九州市地域福祉計画推進懇話会・座長
- ・北九州市社会福祉協議会総合企画委員会・委員
- ・北九州市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センター運営委員会・委員長
- ・みんなで支えあう行橋市福祉のまちづくり推進実務者会議・座長
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会・見守り部会・部会長
- ・大牟田市地域福祉計画推進委員会・委員長
- ・福智町地域福祉活動計画推進委員会・アドバイザー
- ・苅田町地域福祉推進委員会・委員長
- ・志免町地域福祉計画・地域福祉活動計画策定審議会・会長
- ・宗像市社会福祉協議会第3次福祉教育推進計画策定委員会・委員長

8. 学外講義・講演

- ・北九州市・いのちをつなぐネットワーク推進会議「見守り部会」実務担当者意見交換会
- ・北九州市・八幡西区ケアマネジメント研修会
- ・北九州市社会福祉協議会・小地域福祉活動計画策定研修、地域福祉活動専門研修
- ・北九州市社会福祉協議会・地域支援コーディネーター研修
- ・北九州市社会福祉協議会、小倉南区社会福祉協議会・現任福祉協力員等研修
- ・北九州市若松区社会福祉協議会・若松区ボランティア養成講座
- ・北九州市教育委員会・生涯学習指導者育成セミナー
- ・北九州市立生涯学習総合センター・北九州市民カレッジ
- ・福岡市社会福祉協議会・福祉施設等のための「地域とのつながり」講座
- ・大野城市・地域包括ケアシステム体制整備に関する研修会
- ・春日市・民生委員児童委員連合協議会合同定例会における研修
- ・宗像市社会福祉協議会・宗像市福祉教育セミナー
- ・筑後地区社協職員連絡会・課題別研修会
- ・柳川市社会福祉協議会・地区社会福祉協議会役員研修会
- ・筑豊ブロック民生委員・児童委員協議会・研修会
- ・福智町社会福祉協議会・第2次地域福祉活動計画策定住民説明会
- ・福智町社会福祉法人地域連携協議会設立式記念講演
- ・福智町社会福祉協議会・ふれあい交流代表者・世話役研修会
- ・苅田町・苅田町社会福祉協議会・支え合いフォーラム基調講演
- ・篠栗町社会福祉協議会・福祉協力員全体研修会
- ・篠栗町社会福祉協議会・これからの介護保険を考える住民交流会
- ・日本ボランティアコーディネーター研究集会（2017）B－5分科会・講師

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	吉岡 和子
----	--------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に九州大学大学院人間環境学府博士後期課程を満期退学。臨床心理士として、病院（精神科）、保健福祉センター、学生相談室などに勤務後、2006年10月に本学に着任。

2007年2月に九州大学より博士（人間環境学）の学位を取得。

現在の主な研究領域は、①対人関係における自己表出の在り方に関する研究②アサーション・トレーニング・プログラムの実践研究③心理アセスメントを用いた強迫性障害理解のための研究です。また、大学院で臨床心理士養成を行う上でケース・カンファレンスの進め方に関する研究も行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・富田真弓・吉岡和子・河本 緑（2014）強迫性障害の心理アセスメント 高橋靖恵（編）『「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際－クライアント理解と支援のために』（第3章）金子書房
- ・吉田加代子・吉岡和子（2014）ロールシャッハ法の学び方－研修会が担う役割について 高橋靖恵（編）『「臨床のこころ」を学ぶ心理アセスメントの実際－クライアント理解と支援のために』（第8章）金子書房
- ・吉岡和子（2014）社会的スキル 後藤宗理・二宮克美・高木秀明・大野 久・白井利明・平石賢二・佐藤有耕・若松養亮（編）『新・青年心理学ハンドブック』福村出版

<論文>

- ・吉岡和子（2016）千島・村上論文「現代青年における"キャラ"を介した友人関係の実態と友人関係満足感の関連」についてのコメント 青年心理学研究, 27 (2), 177-181.
- ・久保山明梨・吉岡和子（2015）「自己アピールの苦手意識に対するアサーション・トレーニングの効果：「自分のこだわり」を語るワークを取り入れて」『福岡県立大学心理臨床研究』7, 21-30.
- ・大和美季子・吉岡和子（2015）「相手との関係性から捉えた間接的攻撃言動表出と心情」『福岡県立大学心理臨床研究』7, 53-65.
- ・吉岡和子（2014）「譚・今野論文「中国人留学生における日本人への信頼感と適応の関連」を読んで」『青年心理学研究』25 (2), 137-141.
- ・小野田瑠璃・吉岡和子（2014）「家庭における居場所感が思春期の子どもに与える影響：自己肯定感と友人に対する「甘え」との関係に注目して」『福岡県立大学心理臨床研究』6（退官記念号）, 75-84.
- ・寺嶋 愛・吉岡和子（2014）「母子関係における愛着と依存・自律の関連：情緒的側面に焦点を当てて」『福岡県立大学心理臨床研究』6（退官記念号）, 93-102.

②その他最近の業績

<研究報告>

- ・吉岡和子（2016）グループ・ファシリテーターの養成方法の検討－発達障がいの子どもの育てる親グループでの体験報告を通して－ 福岡県立大学心理臨床研究, 8, 49-67.

<学会報告>

- ・富田真弓・吉岡和子（2014）強迫症者のロールシャッハ2事例の検討－反応数が多い事例に表れた特徴 日本ロールシャッハ学会第18回大会

③過去の主要業績

- ・高橋紀子・吉岡和子編（2010）「心理臨床、現場入門：初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版.
- ・吉岡和子・高橋紀子編（2010）「大学生の友人関係論：友だちづくりのヒント」ナカニシヤ出

版.

- ・吉岡和子 (2007) 「友人関係での自己表出における葛藤」『心理臨床学研究』24 (6), 日本心理臨床学会.
- ・吉岡和子 (2002) 「友人関係の理想と現実のズレ及び自己受容から捉えた友人関係の満足感」『青年心理学研究』13, 青年心理学会.

3. 外部研究資金

4. 受賞

5. 所属学会

九州臨床心理学会 日本人間性心理学会 日本青年心理学会 日本心理臨床学会
日本教育心理学会 日本ロールシャッハ学会 日本パーソナリティ心理学会
日本精神分析学会 各会員

6. 担当授業科目

- <学部> 教養演習・1年・前期、人格心理学・2単位・1年・後期、カウンセリング・2単位・4年・前期、家族心理学・2単位・4年・前期、教育相談(幼児教育)・2単位・4年・前期、演習・2単位・3年後期・4年前期、卒業論文・6単位・4年・後期
- <大学院> 臨床心理基礎実習・2単位・1年・通年、臨床心理学特論・2単位・1年・前期、臨床心理査定演習・2単位・1年・後期、臨床心理実習(学内)・1単位・2年・通年、臨床心理実習(施設)・1単位・2年・前期、特別研究・4単位・1-2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・一般社団法人 福岡県臨床心理士会 事務局長
- ・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室 理事/相談員
- ・福岡女学院大学 心理査定委託相談員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県女性相談所 婦人保護事業新任者研修「DV相談と支援」6月27日
- ・放送大学面接授業 専門科目：心理と教育「アサーション」7月2日-3日
- ・産業カウンセラー養成講座「コミュニケーションの理論と活用」7月23日
- ・福岡県市町村職員研修所「カウンセリング・マインド養成研修」8月8-9日
- ・小郡市職員のメンタルヘルス研修 8月18日
- ・産業カウンセラー養成講座「パーソナリティ理論・アセスメント」8月20日/21日
- ・NPO法人九州大学こころとそだちの相談室 ロールシャッハ研修会講師(8月~3月:計6回)
- ・平成27年度教職免許状更新講習会「『子どもの心』をはぐくむための関わり方」(岩橋宗哉教授と共同担当) 8月24日
- ・九州国際大学附属高校 出前講義「自分も相手も大切にするコミュニケーション」
- ・人権相談従事職員研修カリキュラム「人権相談I(対人援助の技法)」「人権相談IV(演習)」9月27日
- ・人権相談従事職員研修カリキュラム「人権相談I(対人援助の技法)」9月29日
- ・鳥栖高校 出前講義「性格検査で自分を知ろう」10月24日
- ・北九州LD等発達障害親の会 すばる勉強会 11月20日
- ・宮崎北高校 出前講義「性格検査で自分を知ろう」1月21日

9. 附属研究所の活動等

- <生涯福祉研究センター> 地域支援員
- ・お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)の企画と運営
- ・さわやかな自己表現塾の企画と運営
- <心理教育相談室>
- ・相談室委員

・相談室紀要編集委員幹事

所属	人間社会学部 人間形成学科	職名	准教授	氏名	鷺野 彰子
----	---------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大阪教育大学教育学部教養学科芸術専攻音楽コース卒業。ニューヨーク州立大学パーチェス・カレッジ大学院及びデン・ハーグ王立音楽院大学院修了。大阪大学大学院文学研究科博士課程後期修了。文学博士。

ピアノ及び歴史的楽器（クラヴィコード、フォルテピアノ）の演奏家。19世紀の演奏様式を研究しており、20世紀初期録音やピアノロール等の資料を用いた演奏分析を行っている。本学では、ピアノの個人指導や音楽理論等音楽関係の授業のほか、幼児教育（音楽表現）等の授業を担当している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- 鷺野彰子 2015 「ピアノロールのデータ分析の試み：パデレフスキによるショパン《ワルツ Op. 34-1》演奏のワルツのリズム部分に着目して」『福岡県立大学紀要』24/1, 55-71
- 中藤広美・鷺野彰子 2015 「実習前教育における学生教育の課題と方法：環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて」『福岡県立大学紀要』24/2, 17-31
- 鷺野彰子 2016 「パデレフスキのルバート：ピアノロールの分析試論(1)」『フィロカリア』33, 27-58
- 鷺野彰子 2016 「パデレフスキのルバート：ピアノロールの分析試論(2)」『阪大音楽学報』14, 1-33

②その他最近の業績

【学会発表】

- 鷺野彰子 「シューマンの書法における「ズレ」の読み方を考える：ブラームス作品における「ズレ」との比較」日本音楽表現学会 帝塚山大学（奈良）2014年6月
- 鷺野彰子 「ピアノロールの計量的解析によるパデレフスキのルバート奏法分析」日本音楽表現学会 沖縄県立芸術大学（沖縄）2015年6月
- 中藤広美・鷺野彰子 「実習前における学生の環境構成についての意識の現状と課題」全国保育士養成協議会第54回研究大会 ロイトン札幌（北海道）2015年9月

【書評】

- 鷺野彰子 2015 「シューマンの結婚：語られなかった真実」『週刊読書人』2015年6月19日版, 6
- 鷺野彰子 2016 「ピアノ、その左手の響き」『週刊読書人』2016年4月22日版, 6

【新聞】

- 鷺野彰子 2015 「民音音楽博物館西日本館」『大阪日日新聞』2015年9月9日版, 18

【雑誌】

- 鷺野彰子 2014 「音楽家とサロン」『Music Friends』（韓国）80, 18-22
- 鷺野彰子 2014 「19世紀におけるユダヤ人音楽家の存在」『Music Friends』（韓国）81, 18-22
- 鷺野彰子 2014 「同一曲の出版譜が複数ある理由」『Music Friends』（韓国）82, 18-22
- 鷺野彰子 2014 「チェコ人作曲家ヤン・ヴァーツラフ・ヴォジーシェク」『Music Friends』（韓国）83, 18-22
- 鷺野彰子 2014 「安城男寺党（アンソン・ナムサダン）」『Music Friends』（韓国）84, 18-22
- 鷺野彰子 2014 「和音を同時に弾かない19世紀のピアニスト」『Music Friends』（韓国）85, 18-22
- 鷺野彰子 2014 「味わいある作品。そしてその制作者」『Music Friends』（韓国）86, 18-22
- 鷺野彰子 2014 「間合い」『Music Friends』（韓国）87, 18-22

- 鷺野彰子 2014 「練習」『Music Friends』（韓国）88, 20-23
- 鷺野彰子 2015 「魔法的要素と錯覚」『Music Friends』（韓国）89, 20-23
- 鷺野彰子 2015 「土地に根づいた芸術」『Music Friends』（韓国）90, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「ショパン《ワルツ Op. 34-1》の楽譜比較」『Music Friends』（韓国）91, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「ショパン《ワルツ Op. 34-1》の作品比較」『Music Friends』（韓国）92, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「もうひとつのショパン《ワルツ Op. 34-1》：2つの楽譜からショパンの作曲行程を探る」『Music Friends』（韓国）93, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「トリルをどう弾くか？」『Music Friends』（韓国）94, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「シューマンの実像」『Music Friends』（韓国）95, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「作曲家による自作自演」『Music Friends』（韓国）96, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「ショパンの《ノクターン》に見られる旋律の「歌い回し」方」『Music Friends』（韓国）97, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「マルコム・ビルソン名誉教授」『Music Friends』（韓国）98, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「技術」『Music Friends』（韓国）99, 20-24
- 鷺野彰子 2015 「楽器博物館」『Music Friends』（韓国）100, 20-24
- 鷺野彰子 2016 「アルバート・ロトというピアニスト」『Music Friends』（韓国）101, 20-24
- 鷺野彰子 2016 「子どものための音楽教育（1）：何を教えるか？」『Music Friends』（韓国）102, 20-25
- 鷺野彰子 2016 「子どものための音楽教育（2）：どのように教えるか。」『Music Friends』（韓国）103, 20-24
- 鷺野彰子 2016 「新しい視点」『Music Friends』（韓国）104, 20-23
- 鷺野彰子 2016 「スタンフォード大学滞在記：スタンフォード大学」『Music Friends』（韓国）105, 20-23
- 鷺野彰子 2016 「演奏法の授業」『Music Friends』（韓国）106, 20-23
- 鷺野彰子 2016 「アメリカにおける古楽演奏の学会と古楽音楽祭」『Music Friends』（韓国）107, 20-24
- 鷺野彰子 2016 「スタンフォードの夏休み：サンフランシスコ」『Music Friends』（韓国）108, 22-27
- 鷺野彰子 2016 「スタンフォードの夏休み：サンノゼのベートーヴェン・センター」『Music Friends』（韓国）109, 22-28
- 鷺野彰子 2016 「AMICA」『Music Friends』（韓国）110, 23-28
- 鷺野彰子 2016 「スタンフォード・シアターで観た2つの『メリー・ウィドウ』」『Music Friends』（韓国）111, 23-28
- 鷺野彰子 2016 「スタンフォード大学音楽図書館」『Music Friends』（韓国）112, 23-28
- 鷺野彰子 2017 「スタンフォード大学音楽図書館(2)：Archive of Recorded Sound」『Music Friends』（韓国）113, 26-31
- 鷺野彰子 2017 「平成28年度【音楽振興部門】ピアノロールの計量的解析によるルバート奏法分析」『サウンド』32, 22-24
- 鷺野彰子 2017 「風光明媚なシリコンバレー」『Music Friends』（韓国）114, 25-29

③過去の主要業績

【ラジオ】

リューベン・ヘルソン (Bas) 鷺野彰子 (Pf) 北オランダ放送 2000年6月

【演奏会】

鷺野彰子 「シューベルトとヴォジーシェク」

ザ・フェニックスホール 2007年2月 大倉山記念館 2007年1月

鷺野彰子「モーツァルトとショパン～隠れた水脈～」

衍芸館 2008年10月 ザ・フェニックスホール 2008年10月

鷺野彰子「クラヴィコードand/orピアノ」ザ・フェニックスホール 2009年12月

3. 外部研究資金

平成27-29年度 科学研究費補助金・若手研究(B)

「ピアノロールの計量的解析によるワルツ作品の演奏分析」(課題番号:15K16642)

研究代表者 364,000円

一般財団法人カワイサウンド技術・音楽振興財団 平成28年度音楽振興部門研究助成金

「ピアノロールの計量的解析によるルバート奏法分析」研究代表者 650,000円

4. 受賞

5. 所属学会

日本音楽学会 日本音楽表現学会

6. 担当授業科目

(平成28年度は海外長期研修のため該当項目なし)

7. 社会貢献活動

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	人間社会学部／人間社会学研究科	職名	講師	氏名	池 志保
----	-----------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

医療（精神科・神経科・心療内科）及び教育を主な心理臨床のフィールドとしています。医療では、医療法人おくら会藤戸病院の常勤心理職を経て、医療法人弘恵会ヨコクラ病院非常勤心理職、現在は川谷医院で非常勤心理職として従事しています。教育では、福岡県中学校スクールカウンセラーを経て、現在も本学の学生相談室にて相談員を務めています。

研究では、「臨床及び発達における創造性」を研究の柱とし、1. 創造性とパーソナリティとの関連、2. 創造性と発達促進的環境との相互作用を主な研究テーマとしています。

2007年九州大学大学院人間環境学府博士後期課程単位取得後退学。2014年より、福岡県立大学人間社会学部・人間社会学研究科専任講師。その他、中村学園大学短期大学部幼児保育学科非常勤講師（2009年度後期「精神保健学」、2015年度前期「保育内容人間関係」）、西南学院大学大学院非常勤講師（2016年度集「発達心理学特論」）など。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

[著書]

- 池志保（共著）「8章2節 タイプ分けと得点化ー類型論と特性論」「10章3節 心の状態を判断するー心理アセスメント過程ー」「あなたも実感No.19」「こんなところにNo.20」、『自ら実感する心理学ーこんなところに心理学』土肥伊都子編著、他共同執筆、保育出版社、pp.107-109, p.73, 2016.

[論文]

- 渡邊つかさ・池志保（共著）「他者に頼りたくても頼れない要因～自己愛と友人との付き合い方の観点から～」、福岡県立大学心理臨床研究、第9巻、2016. 査読有
- 池志保・山本斉（共著）「バウムテストに見られる創造性の特徴ーM-GTAによる理論生成の試み」、福岡県立大学人間社会学部紀要、第24巻第1号、pp.85-102, 2015. 査読有
- 池志保・山本斉・伊藤俊輔（共著）「バウムテストによる創造性の特徴ー青年期女子を対象にした理論生成の試みー」、松山東雲女子大学人文科学部紀要第22巻、2014.
- 伊藤俊輔・池志保・佐々木将太・桧田千裕（共著）、「運動後の食事がヒト身体に及ぼす影響について」、松山東雲短期大学研究論文第44巻、2014.

②その他最近の業績

[特集]

- 池志保（共著）「障害と創造性の臨床心理学」、『特集1 アウトサイダーアート入門』北山修編集、他共同執筆、日本心理臨床学会 心理臨床の広場、8巻2号、2016.

[学会発表]

- 池志保（単独）「創造性はパーソナリティと関連するかー青年期を対象にした創造性カテゴリ及びTEG II の分析ー」、日本教育心理学会第58回総会、2016.
- 池志保・中村晋介・石崎龍二（共同）「大学生の「就業力」についての縦断調査研究」、日本発達心理学会第28回大会、2017.

[報告]

- 池志保・池永真義（共著）「大学生の創造性を発揮させる教育とは：対話型鑑賞事例のCFBS分析」、福岡県立大学心理臨床研究第9巻、2016.
- 中村晋介・池志保（共著）「就業力アンケート調査の再検討」研究ノート、福岡県立大学心理臨床研究、8巻、2016.
- 池志保（単独）症例検討、福岡精神分析研究会、2016.
- 池志保（単独）「創造性とパーソナリティとの関連ーバウムテスト及びTEGを用いてー」、The relationship between creativity and personality: Analyses of the Baumtest and TEG、福岡県立大学研究奨励交付金（個別研究）平成27年度採択分報告書、2016.

- ・ 池志保 (単独) 「バウムテストによる創造性の特徴－青年期を対象とした理論生成の試み」, Characteristics of creativity determined by the Baum test: creating new theories targeted at adolescents, 福岡県立大学研究奨励交付金 (個別研究) 平成26年度採択分報告書, 2015.
- ・ 池志保 (単著) 「子どもの発達促進的環境を考える」, 福岡県立大学公開講座 I 『現代を生きる子どもたち』 第1回報告書, 福岡県立大学附属研究所, 2015.

③過去の主要業績

[辞典]

- ・ 池志保 (共著) 「創造」, 『日常臨床語辞典』北山修監督・妙木浩之編, 他共同執筆者, 誠信書房, pp.266-270, 2006.

[論文]

- ・ 池志保 (単著) 「「非創造的」に生きていた芸術活動者－3種に分類した創造性の観点から事例理解を試みる－」, 心理臨床学研究第30巻第6号, pp.899-910, 2013. 査読有
- ・ 池志保 (単著) 「鬱を呈する引きこもり青年との面接過程」, 精神分析研究第51巻第2号, pp.85-90, 2007. 査読有
- ・ 池志保 (単著) 「心理臨床における芸術と創造性について」, 九州大学心理臨床研究第26巻, pp.217-225, 2007. 査読有

[書評]

- ・ 池志保・北山修 (共著) 「『ウィニコット著作集4 子どもを考える』D.W.ウィニコット著・牛島定信・藤山直樹・生地新監訳」, 精神分析研究第53巻第2号, pp.232-233, 2009.

3. 外部研究資金

[その他 (学内研究助成金) 2016年度]

- ・ 福岡県立大学 平成28年度研究奨励交付金 (若手奨励研究)、研究課題名「創造性とパーソナリティとの関連②－バウムテスト及びTEGを用いて－」、研究代表者：池志保 (平成28年度期間、82,080円)。
- ・ 福岡県立大学 平成28年度研究奨励交付金 (全学横断型プログラム)、研究課題名「キャリア形成支援プログラムにおける教育効果の向上及びインターンシップ推進を目的とした調査研究」、研究代表者：石崎龍二、研究協力者：中村晋介・森脇敦史・松岡佐智・池志保 (平成28年度期間、306,052円)。

4. 所属学会

[学会]

日本心理臨床学会、日本発達心理学会、日本精神分析学会、日本教育心理学会、日本病蹟学会 (各正会員)。

[その他の研究会]

日本精神分析学会認定 福岡精神分析研究会、コフート研究会、日本精神分析的自己心理学協会 (各正会員)。

5. 担当授業科目

[学部]

発達心理学 I -A (2単位・1年・前期)、発達心理学 I -B (2単位・1年・前期)、発達心理学 II (2単位・1年・後期)、演習 (2単位・3年前期・4年前期)、卒業論文 (6単位・4年後期)。

[大学院]

臨床心理実習 (学内) (1単位・2年・通年)、臨床心理基礎実習 (2単位・1年・通年)、発達心理学特論 (2単位・1・2年・前期)、臨床心理実習 (施設) (1単位・2年・前期)、臨床心理学研究法特論 (2単位・1・2年・後期)。

6. 社会貢献活動

- ・ (査読) 福岡県立大学心理臨床研究

7. 学外講義・講演

- ・ 福岡県立中間高等学校 公開講義「性格検査で自分を知ろう」2016年6月8日
- ・ 八女学院高等学校 公開講義「性格検査で自分を知ろう」2016年8月1日

8. 附属研究所の活動等

- ・ 心理教育相談室 相談室委員
- ・ 学生相談室 学生相談員

所属	人間社会学部・人間形成学科	職名	講師	氏名	伊勢 慎
----	---------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

保育者として現場経験が3年あります。授業や研究においてもその時の経験を活かし、子どもの育ちに寄与できるよう取り組んでいます。特に、初めての実習である保育実習Ⅰを担当しているため、現場での基本的なことから核となる子ども理解、書類等の書き方など指導に力を入れています。主な研究分野は、幼児教育、保育の内容に関すること、保育者養成に関することなどです。近年では、園内研修や保育者の働き方にも研究テーマを広げています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

【著書】

- ・森英子, 伊勢慎, 斉藤健司:『子育て考—子ども集団の中で一人ひとりを大切にしたい人的・物的環境の一例』, ふくろう出版, 2016
- ・伊勢慎, 森英子:『子育て考—特に三歳未満児までの大切な育児法—』, ふくろう出版, 2014

【論文】

- ・伊勢慎, 大久保淳子, 櫻井国芳, 池田孝博:「子どもの「生きる力」と学校内での遊び方の関連」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 25(2), 2017
- ・伊勢慎, 中坪史典, 境愛一郎, 保木井哲史, 濱名潔:「KJ法を用いた園内研修において保育者はどのような振る舞いをしているのか」, 幼年教育研究 38, 2016

②その他最近の業績

- ・伊勢慎, 永淵美香子:「保育者の勤務について」, 第10回九州保育研究会, 2016
- ・伊勢慎:保育職における長期勤務の継続要因への着目. 日本保育学会第68回大会, 2015
- ・Makoto ISE: Factors behind Long-Term Employment in Child Care in Japan. Pacific Early Childhood Education Research Association 16th Annual Conference, 2015
- ・木戸彩恵, 伊勢慎, 野田敦史, 正岡里鶴子, 奈良修三, 香曾我部琢, 中坪史典:ケア労働者のよそおいによる専門性の表出と感情労働. 日本質的心理学会第12回大会, 2015
- ・Makoto ISE: Laying the Groundwork New Kindergarten Teachers in Career, The 8th KSECE Biennial International Conference, 2014
- ・伊勢慎, 境愛一郎, 保木井啓史, 濱名潔:園内研修は保育所から幼稚園に異動した保育者に何をもたらしたか—「プレッシャー」を緩和する「コミュニケーションの場」としての役割—, 第67回日本保育学会, 2014
- ・伊勢慎, 境愛一郎, 保木井啓史, 濱名潔, 中坪史典:園内研修における対話を促進させる要因—保育者個々の発言の特徴に着目して—. 第25回日本発達心理学会, 2014

③過去の主要業績

- ・Makoto ISE, Miho KURAMITSU: The Attitude of Nursery School Teachers' Toward Internship Guidance at Nursery Schools: A Research Paper, Pacific Early Childhood Education Research Association 14th Annual Conference, 2013
- ・伊勢慎, 倉光美保:保育士の実習指導姿勢について3. 第66回日本保育学会, 2013
- ・伊勢慎:『保育暦』, ふくろう出版, 2012
- ・後藤善友, 仲嶺まり子, 伊勢慎(他3名):保育士養成校における初年次教育の成果と課題—九州ブロック保育士養成校である大学・短期大学に対する訪問調査をとおして—, 全国保育士養成協議会第51回研究大会, 2012

- ・阿部敬信, 仲嶺まり子, 伊勢慎 (他 3 名) : 保育士養成校における初年次教育の実態—九州ブロック保育士養成校である大学・短期大学に対するアンケート調査をとおして—, 全国保育士養成協議会第51回研究大会発表, 2012
- ・横松友義, 渡邊祐三, 伊勢慎, (他 3 名) : 保育目標のとらえ方と保育実践の両者を質的に向上させる保育実践開発に関する考察, 『岡山大学大学院教育学研究科研究集録』第147号, 125-133頁, 2011
- ・横松友義, 安達保雄, 伊勢慎 (他 2 名) : 異年齢保育に関する体系的研究の重要性, 『岡山大学教育学部研究集録』, 第132号, 69-76頁, 2006
- ・伊勢慎, 横松友義 : 子育ての知恵に基づく和多美知子の保育論構築—家庭教育研究の成果に基づく保育論構築—, 日本家庭教育学会誌『家庭教育研究』第 9 号, 23-31頁, 2004

3. 外部研究資金

なし。

4. 受賞

なし。

5. 所属学会

日本保育学会, 日本子ども社会学会, 日本質的心理学会, 日本発達心理学会, 日本乳幼児教育学会, 日本混合研究法学会

6. 担当授業科目

- ・教育学概論A・2単位・1年・前期
- ・保育内容総論・2単位・2年・前期
- ・保育課程論・2単位・2年・後期
- ・保育実習指導I・2単位・2～3年・通年
- ・保育実習I・4単位・3年・前期
- ・乳児保育・2単位・3年・前期
- ・保育実習指導II・1単位・3年・後期
- ・保育実習II・2単位・3年・後期
- ・演習・2単位・3年～4年・後期・前期
- ・保育・教職実践演習(幼稚園)・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・香春町教育委員会評価委員委員長

8. 学外講義・講演

- ・北九州市社会福祉研修所保育士研修・領域『言葉』「こどもにとっての言葉とは？」講師

9. 附属研究所の活動等

- ・伊田小学校3年次講義「大学ってどんなところ」

所属	人間社会学部	職名	講師	氏名	河野 高志
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2006年3月京都府立大学福祉社会学部卒業。2012年3月京都府立大学大学院公共政策学研究科博士後期課程修了。博士（福祉社会学）。京都府立大学、京都女子大学、神戸親和女子大学の非常勤講師を経て、2012年10月に本学着任。専門はソーシャルワーク論、ケアマネジメント論です。これまでの研究では、①英米を中心としたケアマネジメント発展過程の整理、②ミクロ・レベルからマクロ・レベルにおけるケアマネジメントの特徴の抽出、③ソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の検討を行ってきました。今後は、地域包括ケアシステムにおける多職種連携を中心に、ソーシャルワーク実践として多分野で活用可能なケアマネジメント方法の構築を目指して研究を進めていきます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

太田義弘・中村佐織・安井理夫編著、太田義弘・中村佐織・安井理夫・西内章・西梅幸治・小柴住まゆ子・山口真里・伊藤佳代子・長澤真由子・溝渕淳・菊池信子・河野高志他著『高度専門職業としてのソーシャルワーク 理論・構想・方法・実践の科学的統合化』光生館、2017年

河野高志「多分野のソーシャルワーク実践におけるケアマネジメント展開の比較 —福岡県内の相談支援事業所へのアンケート調査から—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻 第1号、福岡県立大学人間社会学部、2015年

②その他最近の業績

《調査報告》

河野高志「日本のソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の状況（2） —展開内容の枠組みと分野ごとの比較—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻 第1号、福岡県立大学人間社会学部、2016年

河野高志・中村佐織「離島における福祉施設職員の研修の実態に関する一考察 —伊豆大島でのヒアリング調査による質的分析—」『福祉社会研究』第16号、京都府立大学福祉社会研究会、2016年

河野高志「日本のソーシャルワークにおけるケアマネジメント展開の状況（1） —ケアマネジメントに関わる問題と実施方針—」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻 第2号、福岡県立大学人間社会学部、2016年

《学会発表》

河野高志・中村佐織「離島における福祉施設職員の研修の実態 —A島でのヒアリング調査からの考察—」日本社会福祉学会 第64回秋季大会、佛教大学、2016年9月11日

河野高志「多分野のソーシャルワーク実践にみるケアマネジメント展開の特徴 —相談支援機関へのアンケート調査から—」日本ソーシャルワーク学会 第32回大会、日本社会事業大学、2015年7月19日

③過去の主要業績

河野高志『ソーシャルワークにおけるケアマネジメント方法の構築 —実践研究による方法の理論的検証—』京都府立大学大学院公共政策学研究科博士学位論文、2012年3月、pp.1-191

河野高志「海外のソーシャルワーク事情 - 英米の比較からみる日本のケアマネジャーの課題 -」『月刊ケアマネジメント』12月号、環境新聞社、2010年、pp.12-14

太田義弘編、太田義弘・溝渕淳・長澤真由子・西内章・安井理夫・山口真里・西梅幸治・丸山裕子・伊藤佳代子・小柴住まゆ子・菊池信子・中村佐織・加藤由衣・河野高志・梅木真寿郎著『ソーシャルワーク実践と支援科学 - 理論・方法・支援ツール・生活支援過

程 - 』相川書房、2009年

3. 外部研究資金

平成27年度～29年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）基盤研究（B）「ハイリスクな状態にある利用者システムへのコンピテンス志向実践過程支援モデルの研究」（研究代表者：丸山裕子、研究分担者：西梅幸治、伊藤佳代子、安井理夫、加藤由衣、河野高志、中村佐織、西内章）

平成28～30年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）挑戦的萌芽研究「日本式ソーシャルワーカー教育プログラムの発信 —中国・韓国・台湾を中心に—」（研究代表者：中村佐織、研究分担者：齋藤順子、西梅幸治、加藤由衣、河野高志）

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会、日本ソーシャルワーク学会、日本リハビリテーション心理学会

6. 担当授業科目

《学部》

「社会福祉学概論Ⅱ」（2単位・1年・後期）、「相談援助演習A」（2単位・2年・通年）、「相談援助実習指導」（3単位・2～3年・通年）、「相談援助の理論と方法A」（2単位・2年・前期）、「相談援助実習」（4単位・3年・通年）、「相談援助の理論と方法D」（2単位・3年・前期）、「相談援助演習C」（1単位・3年・後期）、「社会福祉学演習」（4単位・3年後期～4年前期）、「卒業論文」（6単位・4年・後期）、「日本事情A」（2単位・留学生・後期）

《大学院》

「ソーシャルワーク研究」（2単位・1～2年・前期）
「ソーシャルワーク演習」（2単位・1～2年・後期）

7. 社会貢献活動

田川市男女共同参画センター運営委員会 委員
田川市地域人づくり事業に係る選考委員会 委員
一般社団法人日本社会福祉学会 第4期代議員

8. 学外講義・講演

福岡県社会福祉士会 認定社会福祉士基礎研修Ⅱ・Ⅲ（実践評価・実践研究系科目Ⅰ）講師
法務省 矯正研修所福岡支所 障害者に関する人権研修（法務教官・刑務官等） 講師

9. 附属研究所の活動等

生涯福祉研究センター運営部会 部会員
公開講座小部会 部会員

所属	人間社会学部・一般教育	職名	講師	氏名	金 恩愛
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は、日韓対照研究。とりわけ、日本語と韓国語における表現様相の相違点の解明を中心テーマとする。韓国語と日本語は、同じ漢字文化圏という背景とともに、文法的な類似性もあって、両言語間に存在する表現様相の違いにはなかなか気づきにくい。私は、日本語と韓国語のこうした違いを、表現のあり方を問う表現様相という観点から捉えなおしている。表現様相という観点から見たとき、まず言えるのは、日本語は韓国語に比べ相対的に名詞的な表現が好まれ、韓国語は日本語に比べ相対的に動詞的な表現が好まれるという点である。こうした日韓表現様相論に立脚した研究成果は、言語教育にも即応できるものである。今後は、韓国語と日本語における表現様相の違いを明らかにしていく研究とともに、そこから得られた研究成果を、言語教育の現場にどのように還元できるか、教材作りや、辞書編纂、日韓翻訳という角度から考えていきたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・金恩愛(2014)「日本語と韓国語における主語の現れ方について」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、55-62頁(総8頁)、福岡県立大学、2014年1月
- ・金恩愛(2015)「일본어 -사에 대응하는 한국어 표현(日本語の「-さ」に対応する韓国語の表現)」『일본의 한국어학(日本韓国語学)』、韓国:삼우출판사、2015年3月(金恩愛(2006)「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか—翻訳テキストを用いた表現様相の研究—」東京:日本語教育学会、『日本語教育』129号の再録(一部修正後・翻訳))
- ・金恩愛(2015)『間違いやすい韓国語表現 100 上級編(韓国語実力養成講座3)』、東京:白帝社、2015年6月

②その他最近の業績

<口頭発表>

- ・金恩愛(2014)「名詞志向の日本語vs. 動詞志向の韓国語」、麗澤大学言語研究センター・シンポジウム「名詞的表現の機能に関する対照言語学的研究」2014年1月11日(土)
- ・金恩愛(2014)「日本語と韓国語の対照からみた名詞分類」、韓国日本語学会・第29回春季学術大会、韓国:ペックイェスル大学、2014年3月22日(土)

<研究ノート>

- ・金恩愛(2016)「日本語と韓国語の名詞についての研究ノート」『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第25巻第1号、2016年9月

<報告書>

- ・金恩愛(2014)「韓国ユネスコ世界記憶遺産調査報告:「5・18民主化運動記録物」を中心に」『福岡県立大学附属研究所 生涯福祉研究センター 研究報告叢書』vol. 52、福岡県立大学附属研究所生涯福祉研究センター、2014年3月

<翻訳>

- ・金恩愛(2015.4~2017.3)「日本 와시노 아키코 선생님의 음악교육열전(鷺野彰子先生の)音楽教育熱伝『Music Friends』韓国:ヒョンデウマク(現代音楽)全24回

<エッセイ>

- ・金恩愛(2014.4~2017.3)「日本の風景」(原文は韓国語)『福岡韓国教育院 心』全36回

③過去の主要業績

- ・金恩愛(2003)「日本語の名詞志向構造と(nominal-oriented structure)と韓国語の動詞志向構造(verbal-oriented structure)」『朝鮮学報』第188輯。天理：朝鮮学会
- ・金恩愛(2006)「日本語の「-さ」派生名詞は韓国語でいかに現れるか- 翻訳テキストを用いた表現様相の研究-」『日本語教育』129号。東京：日本語教育学会
- ・油谷幸利、金恩愛(2007)『韓国語実力養成講座1間違いやすい韓国語表現100 初級編』東京：白帝社 総233頁

3. 外部研究資金

なし

4. 受賞

なし

5. 所属学会

- ・朝鮮学会、朝鮮語教育研究会、福岡朝鮮語教育研究会、日本語教育学会、韓国日本語教育学会、韓国日本語学会

6. 担当授業科目

- ・コリア語Ⅰ-(1)・コリア語Ⅰ-(2)・2単位・1年・通年、コリア語Ⅱ-(1)・コリア語Ⅱ-(2)・2単位・2年・通年、コリア語Ⅲ-(1)・コリア語Ⅲ-(2)・2単位・3年・通年、教養演習・1単位・1年・前期、韓国の社会と文化・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・「第3回九州ハングル学校韓国語弁論大会」(審査員) 2016年10月29日
- ・「第7回「話してみよう韓国語」福岡大会」(審査員) 2016年12月17日

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

所属	人間社会学部人間形成学科	職名	講師	氏名	小山憲一郎
----	--------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2013年3月鹿児島大学大学院医歯学総合研究科を修了。摂食障害患者の知能に関する研究を行い、医学博士を取得しました。また臨床心理士として、心療内科にて心身症、精神科において主にうつ病、不安障害に対する認知行動療法を実践し、研究を行ってききましたが、2015年10月に本学に着任しました。現在は、ストレス関連疾患における認知行動療法の研究、不安の受容を促す心理療法の作用機序に関する実証研究を主に行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

・Ken Ichiro Koyama, Haruka Amitani, Ryo Adachi, Toshiki Morimoto, Megumi Kido, Yuka Taruno, Keizaburo Ogata, Marie Amitani, Akihiro Asakawa & Akio Inui. Good appearance of food gives an appetizing impression and increases cerebral blood flow of frontal pole in healthy subjects International Journal of Food Sciences and Nutrition 67,1, 2016

・小山憲一郎 乾明夫 FD診療ガイド 「困った症例」問診や信頼関係の構築がうまくいかない患者にはどう対応すればよいか？, 株式会社 ヴァンメディカル, 2015年, 単行本 (学術書)

・小山憲一郎 肥満症患者への適切な心理的アプローチ：臨床心理士の立場から (特集 現在の肥満症治療のあり方), 日本医事新報, 4698, 36-42, 2015

・小山憲一郎・乾明夫 認知機能アセスメントを活かした過敏性腸症候群の治療：WAIS-IIIを利用した心理社会的アプローチ (特集 過敏性腸症候群の病態と診療) Psycho-social approach to the treatment of IBS using the assessment of cognitive functions 消化器内科59 (3), 237-241, 2014

・小山憲一郎 浅川明弘 地方都市における若年の肥満症治療—Eメールを使った低強度認知行動療法—, 認知療法研究, 6(2), 155-156, 2013

・心身医学分野で若年の心理士が高齢者の心理的援助について悩み, 学んだこと：認知行動療法の理論, 技法を活かしながら (高齢者医療に必要な心身医学的知識, 2012年, 第53回日本心身医学会総会ならびに学術講演会(鹿児島)) 心身医学 53(4), 325-333, 2013

②その他最近の業績

・第31回日本肥満症治療学会, 国内会議, 2013年06月, 東京, シンポジウムⅢ「肥満症の治療—集学的治療の確立・普及を目指して—」肥満症への認知行動療法—アセスメントから技法選択まで—,

・第19回日本行動医学会, 国内会議, 2013年03月, 東京, 重度神経性食欲不振症制限型患者の体重回復前後におけるIQと認知機能の検討,

・第19回日本行動医学会, 国内会議, 2013年03月, 東京, シンポジウム2 心身症の行動医学とCBT：摂食障害治療—認知・行動からのアプローチ—,

・第99回日本消化器病学会, 国内会議, 2013年03月, 鹿児島, 認知機能アセスメントを活かした過敏性腸症候群の治療—WAIS - IIIを利用した心理社会的アプローチ—, その他

③過去の主要業績

・職場での社交不安と関連した機能性消化管障害に認知行動催眠療法を用いた一症例, 消化器心身医学, 19 (61-68) , 2012年04月, 小山憲一郎、網谷東方、小木曾和磨、春田いづみ、雑敷孝博、浅川明弘、乾明夫

・Ken Ichiro Koyama, Akihiro Asakawa, Toshiro Nakahara, Hruka Amitani, Marie Amitani, Masaki Saito, Yuka Taruno, Takahiro Zoshiki, Kai-Chun Cheng, Daisuke Yasuhara, Akio Inui. Intelligence quotient and cognitive functions in severe restricting-type anorexia nervosa before and after weight gain, Nutrition, 28 (1132-1136) , 2012

・KI. Koyama, D. Yasuhara, T. Nakahara, T. Harada, M. Uehara, M. Ushikai, A. Asakawa, A. Inui. Changes in Acyl Ghrelin, Des-acyl ghrelin, and Ratio of Acyl Ghrelin to Total Ghrelin with Short-term refeeding in Female Inpatients with restricting-type Anorexia Nervosa., Hormone and Metabolic Research , 42 (595-598) , 2010

3. 外部研究資金

特記なし

4. 受賞

特記なし

5. 所属学会

日本心理臨床学会 日本認知療法学会 日本心身医学会 日本摂食障害学会 日本肥満症治療学会 日本ポジティブサイコロジー医学会 日本森田療法学会

6. 担当授業科目←助手の方は、担当授業科目（補助）としてください。

障害者（児）心理学・2単位・4年次・後期

7. 社会貢献活動

日本心身医学会九州沖縄地区地方代議員

8. 学外講義・講演

特記なし

9. 附属研究所の活動等

・お父さんとお母さんの学習室（ペアレントトレーニング）

所属	人間社会学部	職名	講師	氏名	柴田 雅博
----	--------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

1999年九州大学システム情報科学研究科修士課程を修了、2005年同大学同研究科博士後期課程を単位取得退学。1年間財団法人九州システム情報技術研究所に勤務後、九州大学システム情報科学研究科に戻り研究員を勤める。2012年フェリス女学院大学情報センター助手を勤めたのち、2015年本学人間社会学部講師に着任する。

専門は自然言語処理という人間が日常使っている言葉（自然言語）をコンピュータで解析し他の処理に応用する研究である。その中で私は特にWWW上にある膨大なテキストデータ（HTMLやPDFなど）を利用し、そこから言語知識を獲得し、英日のフレーズ翻訳知識を収集したり対話処理に応用したりといったことを行っている。

本学では情報学教育を中心として、保健福祉情報教育プログラムに携わっている。

2. 研究業績

① 最近の著書・論文

- 柴田雅博：福岡県立大学人間社会学部における初年次情報リテラシー教育の効果（2016年度），福岡県立大学人間社会学部紀要，Vol.25, No.2, pp.69-80, (2017.2).

② その他最近の業績

- 柴田雅博，内田奈津子，春木良且：ICT スキルの可視化と対策 ～初年次から卒業までのスキルアップ計画～，教育改革ICT戦略大会，D-15, (2014.9).
- 内田奈津子，柴田雅博，春木良且：新入生 ICT 活用能力に関する実態調査とその対応，大学ICT推進協議会2014年度年次大会，W3E-1, (2014.12).
- 柴田雅博，石崎龍二：保健福祉系大学における全学横断型での統計・情報教育拡充への取り組み,第134回コンピュータと教育研究会, (2016.3).

③ 過去の主要業績

(論文)

- 柴田雅博，富浦洋一，田中省作：Web上の語の共起性に基づいたコロケーションの翻訳支援，情報処理学会論文誌，Vol.46, No.6, pp.1479-1491, (2005.6).
- 行野顕正，田中省作，富浦洋一，柴田雅博：統計的アプローチによる英語スラッシュ・リーディング教材の自動生成，情報処理学会論文誌，Vol.48, No.1, pp.365-374, (2007.1).
- 富浦洋一，青木さやか，柴田雅博，行野顕正：仮説検定に基づく英文書の母語話者性の判別，自然言語処理，Vol.16, No.1, pp.25-46, (2009.1).
- 柴田雅博，富浦洋一，西口友美：雑談自由対話を実現するためのWWW上の文書からの妥当な候補文選択手法，人工知能学会論文誌，Vol.24, No.6, pp.507-520, (2009.9).
- M. Shibata, T. Nishiguchi, Y. Tomiura: "Dialog System for Open-Ended Conversation Using Web Documents", Informatica, Vol.33, No.3, pp.277-284, (2009.10).
- 田中省作，柴田雅博，富浦洋一：Webを源とした質情報付き英語科学論文コーパスの構築法，英語コーパス研究，No.18, pp.61-71, (2011.6).
- M. Shibata, T. Funatsu, Y. Tomiura: "Extraction of Alternative Candidates for Unnatural Adjective-Noun Co-occurrence Construction of English", Procedia - Social and Behavioral Sciences, Vol.27, pp.32-41, (2011.11).

(国際会議)

- M. Shibata, Y. Tomiura, S. Tanaka: "A Method for Retrieving Translation of Collocation in Web Data", Asian Symposium on Natural Language Processing to Overcome Language Barriers, pp.1-8, (2004.3).

- T. Ienaga, M. Matsumoto, N. Toyoda, Y. Kimura, H. Gotoh, M. Shibata, T. Yasukouchi: “Travel Aid System with Auditory-map and Video Phone for the Visually Impaired”, The 21st Annual International Technology and Persons with Disabilities Conference, (2006.3).
- T. Ienaga, M. Matsumoto, M. Shibata, N. Toyoda, Y. Kimura, H. Gotoh, T. Yasukouchi: “A Study and Development of the Auditory Route Map Providing System for the Visually Impaired”, 10th International Conference on Computers Helping People with Special Needs (ICCHP2006) , LNCS 4061, pp.1265-1272, (2006.7).
- M. Shibata, Y. Tomiura, H. Matsumoto, T. Nishiguchi, K. Yukino, A. Hino: “Developing a Dialog System for New Idea Generation Support”, 21st International Conference on the Computer Processing of Oriental Languages, pp.490-497, (2006.12).
- M. Shibata, T. Nishiguchi, Y. Tomiura: “A Method for Automatically Generating Proper Responses to User’s Utterances in Open-ended Conversation by Retrieving Documents on the Web”, The 2008 IEEE International Conference on Information Reuse and Integration (IEEE-IRI 2008), pp.268-273, (2008.7).
- M. Shibata, Y. Tomiura, T. Mizuta: “Identification among Similar Languages Using Statistical Hypothesis Testing”, PACLING2009, pp.47-52, (2009.9).

(国内発表)

- 柴田雅博, 富浦洋一, 日高達: 翻訳文法を用いた変換主導型機械翻訳, 火の国情報シンポジウム 2001 公演論文集 pp.31-38, (2001.3).
- 富浦洋一, 柴田雅博, 田中省作: WWW ドキュメントからの日本語共起に対する英訳候補の検出, 言語処理学会第 10 回年次大会, pp.616-619 , (2004.3).
- 家永貴史, 松本三千人, 豊田信之, 木村陽子, 後藤拓志, 柴田雅博: 視覚障害者用音声地図の生成規則と有用性の検討, 第 4 回情報科学技術フォーラム(FIT 2005)講演論文集, pp.525-527, (2005.9).
- 富浦洋一, 柴田雅博, 西口友美: 対話における応答文の候補文検索型生成法, 言語処理学会第 13 回年次大会発表論文集, pp.927-930, (2007.3).
- 柴田雅博, 富浦洋一, 西口友美: Web 文書を言語資源とする情報検索型対話システム, 人工知能学会言語・音声理解と対話処理研究会 (第 50 回) pp.71-76, (2007.7).
- 西口友美, 富浦洋一, 柴田雅博: 話題の遷移と意味的関連性を利用した対話システムの開発, JAWS2007 発表論文集, (2007.10).
- 青木さやか, 富浦洋一, 柴田雅博: Web 上からの母語話者英論文・非母語話者英論文の自動収集システム, JAWS2007 発表論文集, (2007.10).
- 田中省作, 小林雄一郎, 徳見道夫, 後藤一章, 富浦洋一, 柴田雅博: 学校英文法の学参例文データベースとその応用, 情報処理学会研究報告 2012-CH-093, pp.1-8, (2012.1) .
- 内田奈津子, 柴田雅博, 春木良且: フェリス女学院大学における新入生の情報教育に関する実態調査とその対応, 大学 ICT 推進協議会 2013 年度年次大会, F3D-4, (2013.12).

他

3. 外部研究資金

- 日本学術振興会, 科学研究費基盤研究 (C) , 「大学生のITセキュリティに関する新たな教育プログラムの構築」 (研究代表者: 中村晋介) 3,380,000円, 平成28年度~平成30年度,, 研究分担者.

4. 受賞

なし

5. 所属学会

情報処理学会，電子情報通信学会，人工知能学会，言語処理学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年前期，情報処理の基礎と演習・2単位・1年前期，情報処理応用演習・1単位・1年後期

7. 社会貢献活動

なし

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

なし

【上記とは別にHP掲載する主な研究内容（1～3の項目数の範囲で）及び保有学位】

（研究内容）

1. 自然言語処理に関する研究
2. 情報教育に関する研究

（保有学位）

博士（工学）

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	寺島 正博
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

主な研究対象については、知的障害者のグループホーム（以下、GHと省略する）従事者における専門職性、障害福祉サービス従事者における無意識の虐待等である。

GH従事者の専門職性については、近年の「地域生活移行」の風潮に伴いGHは増加の一途を辿っている。しかし、利用者の増加に伴いニーズは多様化をみせ、その範囲は拡大し続けているにも関わらず、それを受け止めるGH従事者の専門職性が必ずしも追いついていないとは言えない。「GH従事者は専門職と成り得るのか」といった研究テーマを設定し、歴史研究や理論研究、さらには、実態解明の研究を基に専門職への道筋について探究してGH従事者の専門職性を実証的に検討している。

また、昨今の新聞等が大きく報道するように、障害者への虐待は重大な人権侵害である。このような虐待問題の解消に取り組むため、国内外において未だ明らかにされていない障害福祉サービス従事者が行う無意識の虐待等について研究している。具体的には従事者が無意識の虐待等に対してどのような意識であるのか、無意識の虐待等と従事者の個人属性や労働環境がどのような関係にあるか、また従事者が無意識であることから間接手法を用いて観察従事者による加害従事者の無意識の虐待等について明らかとしている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・（単著）「障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の防止に関する研究－全国アンケート調査による無意識の不適切行為の認識からの検討－」『九州社会福祉学』第13号, 2017年, (校正中).
- ・（単著）「無意識の不適切行為の防止に関する研究－全国アンケート調査における観察従事者の視点－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号, 福岡県立大学人間社会学部, 2015年, 1－16頁.
- ・（単著）「障害福祉サービス従事者による虐待の防止に関する研究－虐待の概念に対する検討－」『東京福祉大学・大学院紀要』(研究ノート) 第3巻第1号, 東京福祉大学, 2013年, 57-65頁.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・「障害福祉サービス従事者における無意識の不適切行為の解消に関する研究－インタビュー調査による無意識の要因と意識化の要素からの検討－」寺島正博『日本社会福祉学会第64回全国大会』査読有, 口頭発表 (2016) .
- ・（単独）「無意識の不適切行為の防止に関する研究－全国障害福祉サービス従事者の意識調査から－」『日本社会福祉学会第62回全国大会 (会場：早稲田大学, 口頭発表)』日本社会福祉学会, 2014年11月.
- ・「A Study on the Prevention of Unconscious Maltreatment of People with Disabilities Committed by Disability Welfare Service Employees－Consideration Based on Occurrence Factors and Resolution Conditions of Practice Sites by a Nationwide Interview Survey－」Masahiro TERAJIIMA, e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015, poster presentation(2015) .

<セミナー>

- ・（単独）「日本・中国・韓国3ヶ国の障害福祉に関するセミナー」主催：韓国障害者開発院「日中韓障害者福祉の現状について」（会場：韓国障害者開発院, 口頭発表）, 2014年5月.

<報告書>

- ・（単独）「일본의 장애인 차별해소법에 관한 현황과 과제」『디 덩 돌』Korea Disabled

people's Development Institute, Vol. 237, 2016, pp28-29.

- ・(単独)「障害福祉サービスで起こる『無意識の虐待』の存在と防止モデルに関する研究」平成25年度科学研究費助成事業(基盤研究C)

<解説集>

- ・(共著)『2017社会福祉士国家試験過去問解説集』(障害者に対する支援と障害者自立支援制度・就労支援サービス)中央法規, 2016年.
- ・(共著)『2017精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2016年.
- ・(共著)『2016社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2015年.
- ・(共著)『2016精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2015年.
- ・(共著)『2015社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2014年.
- ・(共著)『2015精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2014年.
- ・(共著)『2014社会福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2013年.
- ・(共著)『2014精神保健福祉士国家試験過去問解説集』中央法規, 2013年.

③過去の主要業績

<著書>

- ・(単著)『障害者の地域移行への援助ーグループホーム従事者の専門職性』文芸社, 2012年.

<論文>

- ・(単著)「知的障害者のグループホーム従事者による利用者のコンピテンス評価の課題ー全国調査による一人暮らしのニーズに対する阻害要因からー」『東京福祉大学・大学院紀要』第2巻第2号, 東京福祉大学, 2012年, 133-140頁.
- ・(単著)「知的障害者グループホーム利用者と地域住民の交流に対する意義と促進要因の研究ー地域住民と知的障害者グループホーム従事者のインタビュー調査からー」『社会科学論集』第2号, 2010年, 27-108頁.

3. 外部研究資金

- ・「障害福祉サービスで起こる『無意識の虐待』の存在と防止モデルに関する研究」平成25年度科学研究費助成事業(基盤研究C)

4. 受賞

- ・e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015” poster award.

5. 所属学会

- ・日本社会福祉学会
- ・日本ソーシャルワーク学会
- ・障害学会

6. 担当授業科目

障害者福祉論(2単位・2年・前期)、精神保健福祉論I(2単位・2年・後期)、相談援助実習指導(3単位・2年~3年・通年)、社会福祉学演習(2単位・3年~4年・後期~前期)、相談援助演習B(2単位・3年・通年)、相談援助演習C(1単位・3年・後期)、教養演習(2単位・1年・前期).

7. 社会貢献活動

- ・糸田町地方創生・人口減少対策委員

8. 学外講義・講演

- ・福岡県障害者相談支援従事者初任者研修講師
- ・熊本県障害者相談支援従事者初任者研修講師

- ・宗像市虐待防止研修会（障害者虐待防止と障害者差別解消法～無意識の不適切行為の防止）
- ・宗像市社会福祉協議会職員人権研修会（無意識の不適切行為の防止）
- ・福岡地区地域福祉活動職員連絡会職員研修（障害者差別解消法と無意識の不適切行為の防止）
- ・北九州市立自然史・歴史博物館ユニバサルミュージアム化事業（知的障がい児者の現状と課題）
- ・宗像市社会福祉協議会地区福祉連絡協議会（障害者差別解消法の現状と課題）
- ・戸畑高校（出前講義）
- ・北筑高校（出前講義）

所属	人間社会学部・総合人間社会コース	職名	講師	氏名	中原 雄一
----	------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

国立大学法人 鹿屋体育大学大学院 体育学研究科 博士後期課程 単位取得満期退学
博士（体育学）

運動・スポーツを行うことの重要性について研究を行っており、現在は精神的健康面に及ぼす影響について主に検討している。また、スポーツパフォーマンス向上についても興味を持っており、特にジュニアアスリートについて研究を進めたいと考えている。さらに、健康運動指導士やジュニアスポーツ指導員の資格を活かし、幅広く運動指導も行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・中原（榎藤）雄一、角田憲治、甲斐裕子、朽木勤、内田賢、永松俊哉。勤労者における介護の有無と精神的健康度、身体活動量に関する検討。厚生学指標, 63(5): 1-6. 2016.
- ・中原（榎藤）雄一、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。大学生における運動部活動参加の有無による精神的健康度の相違。体力研究, 114: 42-46. 2016.
- ・中原（榎藤）雄一、永松俊哉。女性勤労者におけるストレッチングが気分ならびにストレスに及ぼす効果の基礎的検討。体力研究, 113: 15-18. 2015.
- ・永松俊哉、中原（榎藤）雄一、角田憲治、甲斐裕子。介護職従事者のストレスに及ぼすストレッチ運動の効果。体力研究, 113: 1-8. 2015.
- ・中原（榎藤）雄一、角田憲治、甲斐裕子、永松俊哉。介護従事者における勤務状況の負担度と腰痛、精神的健康度の関係。体力研究, 112: 22-25. 2014.

②その他最近の業績

<解説>

- ・黒川修行、中原（榎藤）雄一。近年の子どもたちの肥満について～平成 27 年度学校保健統計調査報告書から見てきたこと～。健康教室, 67(8): 76-79. 2016.

<パネルディスカッション>

- ・中原雄一。介護を行っている勤労者の実態～精神的健康度と身体活動量について～。第 35 回日本運動療法学会学術集会（横浜），2016。（招待）

<学会発表>

- ・中原（榎藤）雄一、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。大学生における運動部活動の参加は学生生活の不安を軽減させるか？～1年間の縦断研究からみた検討～。第71回日本体力医学会大会（盛岡），2016.
- ・中原（榎藤）雄一、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。運動部活動実施による大学生の1年間の体力と精神的健康度、ストレス対処能力の変化。日本体育学会第 67 回大会（大阪），2016.
- ・中原（榎藤）雄一、角田憲治、甲斐裕子、永松俊哉。介護を行っている勤労者の精神的健康度と身体活動量。第28回日本保健福祉学会学術集会（京都），2015。
（最優秀学会発表賞 受賞）
- ・中原（榎藤）雄一、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。大学生における過去および現在の運動部活動の参加状況と身体的・精神的健康度。第70回日本体力医学会大会（和歌山），2015.
- ・中原（榎藤）雄一、角田憲治、藤本敏彦、永松俊哉。大学生における体力レベルと精神的健康度、ストレス対処能力とその関係。日本体育学会第66回大会（東京），2015.

- ・ **Nakahara-Gondoh Y**, Tsunoda K, Fujimoto T, Nagamatsu T. Physical and Psychological Status of Participants in Extracurricular Sports Activities at a Japanese University. American College of Sports Medicine 62nd Annual Meeting (San Diego, USA), 2015.
- ・ **中原(権藤) 雄一**、角田憲治、甲斐裕子、永松俊哉. 腰痛緩和を目的としたストレッチングが介護従事者の心身の負担軽減に及ぼす影響. 第69回日本体力医学会大会(長崎), 2014.
- ・ **中原(権藤) 雄一**、角田憲治、永松俊哉. 介護従事者における有酸素能力と精神的健康度とその関係. 日本体育学会第65回大会(盛岡), 2014.

③過去の主要業績

- ・ **Gondoh Y**, Sensui H, Kinomura S, Fukuda H, Fujimoto T, Masud M, Nagamatsu T, Tamaki H and Takekura H. Effects of aerobic exercise training on brain structure and psychological well-being in young adults. J Sports Med Phys Fitness. 49(2): 129- 135, 2009.
- ・ **Gondoh Y**, Tashiro M, Itoh M, Masud M, Sensui H, Watanuki S, Ishii K, Takekura H, Nagatomi R and Fujimoto T. Evaluation of individual skeletal muscle activity by glucose uptake during pedaling exercise at different workloads using positron emission tomography. J Appl Physiol. 107(2): 599-604, 2009.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省 科学研究費補助金 若手研究(B)(代表): 大学生における運動部活動の継続的な実施が精神的健康に及ぼす影響, 377万円, 平成26年度~平成28年度
- ・ 公益財団法人全国大学体育連合 平成29年度大学体育研究助成 一般課題(代表): 大学体育における実技と講義の同時受講は実技のみの受講よりも教育効果を高めるか, 20万円, 平成29年3月~平成30年3月
- ・ 東北大学 高度教養教育開発推進事業(分担): 体育の授業を通じた自主的な身体作りと5段階評価への取組, 240万円, 平成27年度~平成30年度

4. 受賞

- ・ 特になし

5. 所属学会

- ・ 日本体育学会、日本体力医学会、日本運動生理学会、日本発育発達学会、日本学校保健学会、日本保健福祉学会

6. 担当授業科目

- <学部> 健康スポーツ論・2単位・1年前期, 教養演習・1単位・1年前期, 健康科学実習Ⅰ/Ⅱ・各1単位・1年前期/1年後期
- <大学院> 子ども教育研究C・2単位・1年前期, 子ども教育演習C・2単位・1年後期, 子ども教育実践実習Ⅰ/Ⅱ・各1単位・1年後期/2年前期, 地域教育課題演習・2単位・2年前期

7. 社会貢献活動

- ・ 学術論文の査読: Bio-Medical Materials and Engineering
Environmental Health and Preventive Medicine
日本保健福祉学会誌

8. 学外講義・講演

- ・ 特になし

9. 附属研究所の活動等

- ・ 特になし

所属	人間社会学部・社会福祉学科	職名	講師	氏名	松岡 佐智
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は現在、高齢者福祉と社会福祉教育を主な研究分野としています。高齢者福祉分野では、これまで、「高齢者の生きがい支援のあり方」、「認知症高齢者に係る職員の職務意識と資質向上に関する研究」等について取り組んできました。現在は、自らの意見を表明出来にくい認知症高齢者の権利擁護を推進していく必要性を踏まえ、「高齢者虐待の予防・再発防止に向けた課題」について研究を進めています。特に、虐待通報・相談等件数及び虐待判断件数は増加傾向にある入所施設の介護職員に焦点を当て、「高齢者虐待の予防に向けたセルフチェックシステムの開発」について研究に取り組んでいます。

また、社会福祉教育分野では、社会福祉士の実習教育のあり方にも取り組んできました。これまでの具体的な取組みとして、「福岡県内の社会福祉施設におけるボランティアの受入れ実態に関する調査研究」、「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究」及び「社会福祉士養成における相談援助実習の実習内容の課題」等の研究を実施してきました。今後も継続して、社会福祉専門職養成としての実習のあり方や学生に対する実習教育方法、及び実習受入れ側の施設等との連携のあり方等を研究テーマとして取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文 [2014（平成26）年度～2016（平成28）年度]

(1) 松岡佐智「第11章精神保健福祉」、鬼崎信好（編）、『コメディカルのための社会福祉概論 第3版』、講談社、2016年2月

②その他の業績

〈調査報告書〉

(1) 鬼崎信好（研究代表）編集、本郷秀和、村山浩一郎、松岡佐智、永田千鶴、荒木剛「利用者本位の介護サービス評価手法の開発に関する研究」久留米大学発行、2015年3月。
（平成23～26年度科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書）

③過去の主要業績

(1) 松岡佐智・田中将太・袖井智子「社会福祉士養成における相談援助実習の実態と課題（1）－旧相談援助実習ガイドラインからみた実習内容の課題－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第22巻第2号、福岡県立大学、2014年1月1日

(2) 松岡佐智「第9章 社会福祉のニーズとサービス」、鬼崎信好（編）、『コメディカルのための社会福祉概論』、講談社、2012年4月

(3) 本郷秀和、荒木剛、松岡佐智、袖井智子「介護系NPOの実態と課題－平成21年度制度外サービスを実施するNPO法人全国実態調査における自由回答の分析を中心に－」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』、第19巻第2号、福岡県立大学、2011年1月

(4) 松岡佐智・本郷秀和「福岡県立大学社会福祉学科学生のボランティア意識に関する調査研究－福祉ボランティアを通じた経験型実習導入の可能性Ⅱ－」、『福岡県立大学人間社会学部 紀要』第17巻第2号、福岡県立大学、2009年1月

3. 外部研究資金（平成28年度）

(1) 平成26-29年度 科学研究費補助金【基盤研究C】研究代表：本郷秀和、テーマ：「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」468万円（総額） 共同研究者

4. 所属学会

日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本高齢者虐待防止学会

5. 担当授業科目

- (1) 「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」(2単位・1年前期)
- (2) 「教養演習」(1単位・1年前期)
- (3) 「プレ・インターンシップ」(2単位・1・2年通年・共同)
- (4) 「相談援助演習A」(2単位・2年通年)
- (5) 「相談援助実習指導」(3単位・2年通年・共同)
- (6) 「相談援助実習指導」(3単位・3年通年・共同)
- (7) 「相談援助実習」(4単位、3年通年)
- (8) 「相談援助演習C」(1単位、3年後期)
- (9) 「社会福祉学演習」(4単位、3年後期～4年前期・通年)

6. 社会貢献活動

- (1) 福岡県介護保険審査会 三者合議体委員
- (2) 川崎町地域包括ケアシステム推進委員
- (3) 飯塚市指定管理者評価委員会委員

所属	生涯福祉研究センター	職名	助教	氏名	中藤広美
----	------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

15年間幼稚園や保育所で乳幼児保育および保育者養成に携わった経験を基盤とした研究活動です。

① ペアレントトレーニングプログラムに関する研究

これまでプログラムの実施によって親たちはわが子の目標行動に対して特有の養育テクニック（環境の構造化、強化、スケジュールの活用など）を用いるようになり、さらに養育スキルは上達し、それに伴い親自身の養育に伴うストレスや抑うつは減少することが明らかにすることができました。今後は、親の養育態度が質的に変化することを明らかにしていきたいと考えています。

② 子どもの行動と保育環境

①の研究を基に近隣の自治体の保育園で子どもの行動と保育環境についての研究にとりこんでいます。具体的には園児の困った行動を目立たなくしたり、望ましい行動を増やしたりするための物理的・空間的環境の構造化、物的環境の選択、人的環境として保育者の手助けの方法、日課の展開について、実際の保育の場面で実態調査をし、効果的な保育環境のありかたについて検討をしています。今後も協力園と連携して調査や検討をすすめ、その効果の検証にあたりたいと思います。

③ 実習前・後における学生教育の課題と方法

保育を行う際の環境を整えることは、非常に重要かつ有益です。学生が保育・教育実習に臨むにあたって、自分を含めた環境資源をどのように利用しようとしているのかを把握し、よりよい学生教育のありかたを探っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

(論文)

・ 中藤広美、鷲野彰子「実習前教育における学生教育の課題と方法 —環境構成に関する学生の理解状況を踏まえて—」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2015, Vol. 24, No. 1, 17-31

・ 池田孝博、中藤広美、青柳領 「幼児期における「はだし保育」と体力の関連」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2015, Vol. 24, No. 1, 73-83

(報告)

・ 中藤広美、酒井志織「ペアレントトレーニングを保育現場に応用するための講座および研修会の実践報告」, 福岡県立大学人間社会学部紀要 2016, Vol. 25, No. 2 (印刷中)

・ 中藤広美(単著)「子どもの望ましい行動をはぐくむ」, 福岡県立大学公開講座 I『現代を生きる子どもたち』第1回報告書, 福岡県立大学附属研究所, 2015.

②その他 最近の業績

・ 中藤広美、酒井志織, 『ペアレントトレーニングを保育の視点へ汎用するためのプログラムの検討(1)』—A市内における講座の事例を通して—, 日本発達心理学会, (2017.3.27)

・ 酒井志織, 中藤広美, 『ペアレントトレーニングを保育の視点へ汎用するためのプログラムの検討(2)』—A市内における研修の事例を通して—, 日本発達心理学会, (2017.3.27)

・ 中藤広美、渡辺好庸, 『靴の装着が足部骨格および歩容の偏倚などを有する子どもに及ぼす影響』, 第12回子ども学会議(日本子ども学会学術集会)(2015.10.10),

- ・ 中藤広美・鷺野彰子, 『実習前における学生の環境構成についての意識の現状と課題』, 全国保育士養成協議会第54回研究大会(2015.9.23)
- ・ Yoko Korenaga, Kazuko Yoshioka, Hiromi Nakafuji, Emiko Nakamura, Shiori Sakai, Kiyoko Shinaya, & Kyosuke Fukuda, 『IMPROVEMENT OF TEACHERS' SKILL FOR CHILDREN'S BEHAVIORAL PROBLEM IN SCHOOLS THROUGH A COGNITIVE-BEHAVIORAL APPROACH BY PARENT TRAINING』, J.I.S.R.I e-ASIA2015 (2015.10.1)
- ・ 是永陽子・吉岡和子・中藤広美・福田恭介「ペアレントトレーニングが保育士・教師の特別支援教育スキルアップに及ぼす効果」九州心理学会第75回大会 (2014.11.15)

③過去の主要業績

- ・ 「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価」 福田恭介、中藤広美 2000年11月30日
- ・ 「福岡県立大学における発達遅滞児の親訓練プログラムの評価(2)」福田恭介、中藤広美、本多潤子、興津真理子 2005年3月17日
- ・ 西原尚之、中藤広美、『生活保護自立阻害要因の研究～福岡県田川地区生活保護廃止台帳の分析から～/母子世帯・父子世帯』福岡県監査保護課・受託研究報告書、2008・3
- ・ 中藤広美「1部-4, 2部-1, 4, 5, 6, 3部-8」福田恭介編, 『ペアレントトレーニング実践ガイドブック-きつとうまくいく子どもの発達支援-』, あいり出版, 2011年

3. 外部研究資金 4. 受賞 なし

5. 所属学会 日本保育学会、日本発達心理学会、日本こども学会、九州心理学会

6. 担当授業科目
幼児教育心理学(補助)

7. 社会貢献活動 NPO福祉用具ネット理事 福岡県保健所運営協議会委員

8. 学外講義・講演

- ・ 『特別支援教育を行うためのスキルアッププログラム(福岡県立大学)-小学校・養護学校・幼稚園・保育園の先生向け-』, 5月27日, 6月3日, 6月17日, 7月1日, 7月22日
- ・ 嘉麻市公立保育所職員等研修会, 『子どもの望ましい行動をはぐくむ～ほめて、待つ、手だすけを～』, 9月23日
- ・ 潤野保育園職員研修会, 『子どもの望ましい行動をはぐくむ～ペアレント・トレーニングの視点を保育に～』, 11月8日
- ・ 北九州市社会福祉施設研修所 研修事業 領域「健康」, 『足の健康と成長を考える』, 11月17日
- ・ 『保育士・教師のための「ペアレントトレーニングスキルアップ講座」(直方市)』, 1月6日, 1月13日, 1月27日, 2月10日, 2月24日

9. 附属研究所の活動等

- ・ お父さんとお母さんの学習室(ペアレントトレーニング)
- ・ 特別支援教育スキルアッププログラム
- ・ 足と靴の相談室
- ・ おもちゃとしゃかん・たがわ
- ・ 福祉用具研究会
- ・ 生涯福祉研究センターHP更新 その他

所属	人間社会学部	職名	助教	氏名	畑 香理
----	--------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

私は、これまで医療機関でソーシャルワーカーとして患者や家族の方への相談援助を行ってきた経験があることから、医療ソーシャルワーク実践について関心を持ち、研究に取り組んでいます。

近年、我が国の保健・医療・福祉の制度・政策面は大きく変化を遂げています。効率的な医療政策の下で、患者はもちろん、患者を支える家族への経済的・身体的・精神的負担は深刻です。また、入院患者の中には脳卒中・内臓疾患・骨折等の後遺症に伴う機能障害・介護者問題・住宅問題・金銭問題等、様々な理由で在宅生活を断念せざるを得なくなった方も少なくありません。入院患者が地域生活を再び安心して送れるような専門的支援やネットワーク構築等が求められています。医療ソーシャルワーカーは病院と地域社会をつなぎ、患者や家族の方を支援していく役割を担っています。地域での安寧な生活を継続できる社会が求められる中、今後ますます医療ソーシャルワークの専門的支援方法の向上が必要になってくると考えます。

そのため、私は医療ソーシャルワークを基盤とした支援方法に関する研究をすすめ、実践の課題に対する検討等についてもこれから研究していきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・平川明美「2015年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』・『精神保健福祉援助実習』一新カリキュラム完成年度の取り組みについて」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻（1），2016年9月。
- ・畑香理・住友雄資・平林恵美・奥村賢一・梶原浩介「2014年度教育実践報告：旧カリ『精神保健福祉援助実習』・新カリ『精神保健福祉援助実習指導』」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻（1），2015年9月。
- ・住友雄資・畑香理・平林恵美・奥村賢一「2013年度教育実践報告：『精神保健福祉援助実習指導』一新カリキュラム導入を目前としたシラバス等の改変について」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻（1），2014年9月。

②その他最近の業績

- ・畑香理・本郷秀和・永田千鶴・荒木剛「介護支援専門員の高齢者虐待の遭遇経験と兆候察知の現状（その1）－福岡市・北九州市に着目して－」日本社会福祉学会九州地域部会第57回大会 口頭発表（会場：長崎ウエスレヤン大学），2016年6月。

③過去の主要業績

<著書>

- ・畑香理「第15章 社会福祉の実践事例：医療ソーシャルワーカーと多職種連携」鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論（第3版）』講談社，2016年2月。

<論文>

- ・今村浩司・本郷秀和・畑香理「成年後見制度に関する一考察 - 北九州成年後見センターの取り組みを参考に -」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第19巻（2），2011年1月。

3. 外部研究資金

- ・科学研究費助成事業【基盤研究C】研究代表者：本郷秀和（福岡県立大学）「介護支援専門員による高齢者虐待の予兆察知と支援の課題」平成26年度～平成29年度，研究分担者。
- ・科学研究費助成事業【若手研究B】「大腿骨骨折を経験した女性高齢者への支援に関する基礎的研究」平成28年度～平成29年度，研究代表者。

4. 受賞

なし

5. 所属学会

日本社会福祉学会

日本保健福祉学会

日本ソーシャルワーク学会

福岡県立大学社会福祉学会

6. 担当授業科目

精神保健福祉援助実習指導・3単位・3～4年・通年

精神保健福祉援助演習・2単位・3～4年・通年

社会福祉特講C・2単位・3年・前期

精神保健福祉演習・2単位・3年・前期

精神保健福祉援助実習・5単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

・日本社会福祉学会 九州地域ブロック事務局

8. 学外講義・講演

なし

9. 附属研究所の活動等

・平成28年度リカレントセミナー運営担当スタッフ

所属	人間社会学部 生涯福祉研究センター	職名	助教	氏名	二見妙子
----	-------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

障害学研究を土台とした、インクルーシブ教育（保育）の研究を行っています。これまでは、1970年代に日本各地で展開された障害児教育運動の分析を行いました。今後は、インクルーシブ保育（教育）を発展させるための実践内容の研究を進めたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- (1) 『インクルーシブ教育運動の構造分析—大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明』（現代書館;2017年3月出版予定）

<論文>

- (1) 「大阪府豊中市における障害児優先入園(所)運動の経緯—保育者の加配をめぐって」公教育計画学会編『公教育計画研究5』2014年。
(2) 「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970年代の大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」熊本学園大学大学院社会福祉学研究科提出博士論文2016年。

②その他最近の業績

<学会特別報告>

- (1) 「インクルーシブ教育運動の構造分析—1970年代大阪府豊中市における原学級保障運動の分析と教育運動を活性化させる戦略の解明」（障害学研究会九州沖縄部会；九州看護福祉大学2017年3月19日予定）

<学会発表>

- (1) 「大阪府豊中市における原学級保障成立期の障害児教育運動と条件整備」第6回公教育計画学会2014年。

<シンポジウム>

- (1) 「豊中の共に学び、共に育つ教育とは」（『障害』児者の生活と進路を考える会）（2016年9月3日、豊中市）。
(2) 「インクルーシブ教育運動の歴史」（福岡県教育総合研究所田川支部2016年9月11日）
(3) 「インクルーシブ教育をどうすすめるか」（熊本県水俣市子どもの明日を語る会 2017年1月28日）
(4) 「子どもに寄り添うということ」（香原町子どもの福祉を考えるつどい2016年7月30日）

<エッセイ>

- (1) 「『共に生きる教育』の運動に学ぶ」『はらっぱ』2015年6月号2頁- 5頁。
(2) 「第2分科会の報告」『NEWS LETTER』公教育計画学会2015年8月。

③ 過去の主要業績

- (1) 「『共に生きる教育』の運動における条件整備論の陥穽」堀正嗣編『共生の障害学』 2012年 第6章。
(2) 「子どもの声をどのように聞き、どのように伝えるか」堀正嗣編『子どもアドボ

カシー実践講座』2013年158-161頁。

- (3) 「インクルーシブ教育を再活性化する要因－大阪府豊中市1970年代の運動における条件整備論の分析から」公教育計画学会編『公教育計画研究4』2013年76-91頁。

3. 外部研究資金 (なし)

4. 受賞 (なし)

5. 所属学会 障害学会、公教育計画学会

6. 担当授業科目 障害児保育2単位・2年次・通年

7. 社会貢献活動

(1)家庭的保育室「はぐくみ・こころ・めばえ」苦情処理第3者委員会評価委員。

8. 学外講義・講演

「市民活動における子どもアドボカシーの可能性」(民生委員主任児童委員学習会2017年2月16日)

9. 附属研究所の活動等

- (1) アドボチャイルドの活動にて、子どもの権利の促進活動への協力と、障害児者の声を聴く講座を開催。
- (2) アンビシャス親子広場にて、子育て支援の場の提供及び個別相談活動。
- (3) アンビシャス活動への学生及び市民の参画促進。
- (4) ペアレントトレーニング活動に参加。

所属	人間社会学部・公共社会学科	職名	助手	氏名	佐藤 繁美
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

- ・大原孫三郎の研究
- ・地域の権力構造の研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・「統計教育科目における学生の自己評価と学習到達度の分析（2016）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第2号、2017年2月
- ・福岡県立大学人間社会学部における 多変量解析に関する統計演習の教育効果（2015年）、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第25巻第1号、2016年9月
- ・「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果（2015年）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号、2016年2月
- ・「福岡県立大学人間社会学部における統計処理演習の教育効果（2014年）」、『福岡県立大学人間社会学部紀要』第23巻第2号、2015年2月
- ・「福岡県福岡市における地域防災と地域防犯に関する調査研究——福岡県立大学の事例報告」、『社会と調査』第5号、清田勝彦・佐藤繁美、2010年10月
- ・「田川市民意識と防災・防犯行動」、『田川市における地域防災と地域防犯』、2010年3月
- ・「福岡県香春町における防犯意識の構造」、『地域防災と地域防犯に関する調査研究』、2009年3月

②その他最近の業績

- ・『公共社会学入門「公共性研究A（公共性の社会学）」テキスト』2016年4月
- ・『福岡県立大学開学記念誌 ひらく夢 筑豊に生まれて』2012年3月
- ・『公共社会学科開設記念シンポジウム報告書「公共社会学の構想」』2011年3月

③過去の主要業績

- ・『生活研究生成期における生活構造の概念と変容過程』
「大原孫三郎の経営思想」、科学研究費研究成果報告書、2005年6月
- ・『香春町史』、香春町資料編纂委員会 編、香春町史料編纂委員会、2001.3

3. 外部研究資金

- ・科学研究費・基盤研究(B)
「岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究」、260万円、2006年度から2009年度、共同研究（研究代表者：細井勇）
- ・科研費研究・基盤研究(A)
「岡山孤児院の国際性と実践内容の質的分析に関する総合的研究」、600万円、2010年度から2014年度、共同研究（研究代表者：細井勇）

4. 受賞

5. 所属学会

- ・日本社会学会
- ・関西社会学会
- ・社会分析学会

6. 担当授業科目
(学部)

- ・ 社会調査実習 (補助) 2単位・3年・実習・通年
- ・ データ処理とデータ解析Ⅰ (補助) 1単位・3年・演習・前期
- ・ データ処理とデータ解析Ⅱ (補助) 1単位・3年・演習・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 「田川市における地域防災と地域防犯—市民意識調査—」

8. 学外講義・講演

9. 附属研究所の活動等

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	江上 千代美
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

親のレジリエンスを高めるための家族支援に関する介入研究

親の養育レジリエンスの向上：トリプルP (positive parenting program) という認知行動療法を用いて、親の養育レジリエンスの向上を目指す介入とそのメカニズムを明らかにする研究を行っています。また、子育てスタイル、ストレス（生体指標と質問紙）、子どもの行動等の関係性を明らかにすることも行っています。トリプルPを学んだ親は「子育てが楽しくなった。」、「子育てに自信がついた」、「もう一人子どもを産んでみようかな。」という感想がよく聞かれ、未来を担う健全な子どもの育成や少子化対策にもつながっています。トリプルPの名前にも反映しているように子どもをもつ全ての親が楽しく学ぶことで健全な家族づくり、ひいては健全な街づくりを目指すことができます。

観察力に反映する看護アセスメントのシュミレーションシステムの開発

「目は心の鏡」に、代表されるように、**目の動き**は人の精神生理的な指標であり、**目の動き**にはさまざまな人の行動理解や支援の手がかりが含まれています。これまで行ってきた発達障害の対人的視覚認知機能障害や不注意等の解明と支援につながる研究をもとに、現在、看護学生や看護師のセーフティ・マネジメント支援を目標とした臨床に活かせる研究を行っています。さまざまな看護場面におかれたときに看護学生や看護師はどのような目の動きをするのか、教育や経験により異なるのか、変化しない場合には何が影響しているのかという検討を基に、どのようなセーフティ・マネジメント支援の必要性があるのか、どのような集団教育および個人教育につなげる必要があるのか課題提示と支援プログラムの開発に取り組んでいます。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ Egami C, Yamashita Y, Tada Y, Anai C, Mukasa A, Yuge K, Nagamitsu S, Matsuishi(2015). Developmental trajectories for attention and working memory in healthy Japanese school-aged children. *Brain Dev*,37(9),840-8.
- ・ 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014).下腹部と腰部の温罨法が生体に及ぼす効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要,11(2),45-51.
- ・ 江上千代美,長坂猛,近藤美幸,井垣通人,田中美智子(2014).温罨法が末梢と心臓の自律神経系に及ぼす効果,日本看護技術学会,12(3),34-9,2014.
- ・ Ohya T, Morita K, Yamashita Y, Egami C, Ishii Y, Nagamitsu S, Matsuishi T. Impaired exploratory eye movements in children with Asperger's syndrome. *Brain Dev*. 36(3), 241-7, 2014.
- ・ 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子(2012).看護場面における看護学生の危険認知力評価-眼球運動指標の活用-.福岡県立大学看護学研究紀要,10:13-20.
- ・ 江上千代美,近藤美幸,福田恭介,田中美智子,他(2012).看護場面における看護学生の危険認知と眼球運動との関係. 看護人間工学研究誌,12:15-20.

②その他最近の業績

- ・ 江上千代美,山下裕史朗(2015).発達障がい児をもった母親の養育レジリエンス向上に向けた支援~母親の変化と子どもの行動~,第24回日本LD学会,佐賀,349-350.
- ・ 江上千代美,田中美智子他,医療安全教育の有用性-眼球運動から解析した危険認知の変化-,第12回日本看護技術学会 (浜松)
- ・ 江上千代美,田中美智子他,看護場面における看護師と看護学生の眼球運動から類推される危険認知の比較,第39回日本看護研究学会(秋田)

- ・江上千代美,長坂猛,田中美智子他,温罨法除去後の生体反応,第 20 回看護人間工学部会,横浜,2012.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介. 看護場面における看護学生の眼球運動と危険認知の特徴.日本看護研究学会,沖縄,2012.
- ・江上千代美,田中美智子,近藤美幸,福田恭介. 危険認知評価に用いる眼球運動指標の有効性—看護師の危険認知—,福岡,2012.
- ・Yamashita Y, Egami C,et.al . Effects of a Summer treatment program in Japan: used for ADHD battery assessment, The 1st Asian Congress on ADHD,seoul,2012

③過去の主要業績

- ・Yushiro Yamashita , Akiko Mukasa , Chizuru Anai , Yuko Honda , Chie Kunisaki ,Junichi Koutaki, Yahuhiro Tada, Chiyomi Egami, Naoko Kodama, Masayuki Nakashima, Shin-ichiro Nagamitsu , Toyojiro Matsuishi:Summer treatment program for children with attention deficit hyperactivity disorder: Japanese experience in 5 years. Brain Dev. 33, 260-7, 2011.
- ・江上千代美, 森田喜一郎, 石井洋平, 大矢崇志, 山下裕史朗, 松石豊次郎. アスペルガー障害児と健康児における探索眼球運動の比較検討, 臨床神経生理学,38:63-70,2010.
- ・Egami C ,Morita K, Ohya T, Ishii Y, Yamashita Y, Matsuishi T: Developmental characteristics of visual cognitive function during childhood according to exploratory eye movements. Brain Dev. 31(10), 750-7, 2009.

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）(基盤研究(C))27年度～29年度 交付金額 4,810 千円
研究課題、トリプルP介入によって発達障害児をもつ母親の子育てレジリエンスは向上するか

5. 所属学会

日本生理学会会員、日本小児神経学会会員、日本 LD 学会会員、日本看護学教育学会員、日本看護研究学会会員、日本看護技術学会会員、看護人間工学部会員、日本看護科学学会会員

6. 担当授業科目

〈学部〉

生態機能看護学Ⅰ・2単位・1年次・前期, 生態機能看護学Ⅱ・2単位・1年次・後期, 生態・病態看護学実験 2単位・2年次, 専門看護学ゼミ・2単位・3年次・通年, 総合実習・2単位・4年次・前期, 卒業研究・2単位・4年次・通年, 不登校引きこもり応用演習・2単位・4年次

〈大学院〉

Advanced 生理学・病態生理学・2単位・1年次

7. 社会貢献活動

トリプルP実践活動：久留米市・飯塚病院小児科・田川（福岡県立大学）

8. 学外講義・講演

- ・基本的生活習慣を効果的に身に付けさせる「前向き子育て講演会」2016年
- ・トリプルP講演会 主催：飯塚病院 2016年
- ・眼球運動から見える看護 主催：人間工学部会 宮崎 2015年

9. 研究所の活動等

- ・久留米大学小児科学
- ・飯塚病院 小児科
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	小池 祐子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

米国カンザス大学にて教育学（TESL 専攻）修士号、言語学博士号取得。主に語彙意味論、音韻学、第一言語獲得の研究を行ってきた。現在は、1) 日本人英語学習者に対する発音（特に超文節音素）の指導、2) 第二言語／外国語学習者に対する明示的文法指導に焦点を置いた研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

Hayakawa, S., Koike, Y., & Otsu, R. (2016). *Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing*. Tokyo: Nan'un-Do.

〈論文〉

- Koike, Y. (2016). Survey of English Pronunciation Teaching: College teachers' practices and attitudes. In P. Clements, A. Krause, & H. Brown (Eds.), *Focus on the Learner*, 253-261. Tokyo: JALT.
- Koike, Y. (2014). Explicit pronunciation instruction: Teaching suprasegmentals to Japanese learners of English. In N. Sonda & A. Krause (Eds.), *JALT 2013 Conference Proceedings*, 361-374. Tokyo: JALT.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- Koike, Y. Teaching English aspect to Japanese students. 42nd Annual International Conference on Language Teaching and Learning. Nov. 27, 2016
- Koike, Y. & Chamberlain, A. Pronunciation: Teachers' practices and attitudes. 41st Annual International Conference on Language Teaching and Learning. Nov. 22, 2015

〈講演〉

Koike, Y. English Pronunciation instruction: Considering phonological differences between English and Japanese. JALT Ibaraki Chapter December Meeting. Dec. 12, 2015

③過去の主要業績

- Koike, Y. (2009). Telicity, agentivity and lexical information: motion events and the *-te iru* construction in Japanese. *Studies in Language Sciences* 8, 197-211. Tokyo: Kuroshio Publishers.
- Koike, Y. (2002). The acquisition of Japanese motion verbs: lexicalization types and the interaction between verbs and particles. Ph. D dissertation. University of Kansas.
- Koike, Y. (1998). The interaction of pitch accent and syllable structure in Japanese. *1997 Mid-America Linguistics Conference Papers*, 82-93. Columbia: University of Missouri-Columbia.

3. 受賞

A Best of JALT 2015 Award, The Japan Association for language Teaching, Nov. 26, 2016

5. 所属学会

言語科学会、全国語学教育学会（Program Chair）、大学英語教育学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

リーディングⅠ・1単位・1年・前期、リーディングⅡ・1単位・2年・前期、リーディングⅢ・1単位・4年・後期、ライティング・1単位・1年・後期、オーラルコミュニケーションⅢ・1単位・2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期

〈大学院〉

英語文献購読特論・2単位・1年・前期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	教授	氏名	永嶋 由理子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成18年久留米大学大学院心理学研究科（博士課程）人間行動学専攻単位取得満期退学。

主な研究として、看護技術の熟達化を解明するために認知心理学を援用した実証研究に取り組んでいる。この研究は、平成16年度～平成17年度の科研(基盤研究(C))に採択され、引き続き平成18年度～平成20年度科研(基盤研究(C))に採択され、継続的に調査及び実験研究を進めてきた。関連研究で平成23年度～平成25年度科研(基盤研究(C))が採択され、平成24年度は研究計画に沿って、看護技術の熟達化を思考の視点から客観的に解明するため、光イメージング脳機能測定装置を使用しプレ実験を行った。平成25年度は本実験を実施し、一部興味深い結果を与えることができた。平成26年度は、新たに科研(平成26年度～平成28年度挑戦的萌芽研究)が採択され、今後も引き続きメインテーマとしている看護技術の熟達化検証に取り組んでいく。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

永嶋由理子. 特集 意欲と主体性を育てる 実習計画・指導・記録評価のポイント,患者アセスメントと看護過程に関する評価のポイント. 看護人材育成, 8・9月号, p50-55, 2015.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・松枝美智子,渡邊智子,江上史子,村田節子,永嶋由理子.A 県の医療機関等に所属する看護管理者の高度実践看護師に対する雇用ニーズ:雇用中もしくは雇用したい理由. 第46回日本看護学会—看護管理—学術集会, 福岡,2015.
- ・江上史子,松枝美智子,渡邊智子,村田節子,永嶋由理子.APNの雇用ニーズ調査:看護管理者が雇用しない理由. 第46回日本看護学会—看護管理—学術集会, 福岡,2015.
- ・松枝美智子,村田節子,江上史子,松井聡子,永嶋由理子.A 県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師(Advanced Practice Nurse)に提供したいと考えている支援,日本看護研究学会 第41回学術集会抄録集,広島,2015.
- ・森田愛璃香,於久比呂美,永嶋由理子.頸部温罨法と腰部温罨法がもたらす生理的反応の比較.第28回日本看護研究学会 中国・四国地方会学術集会,島根,2015.
- ・山名栄子,田中美智子,永嶋由理子,照屋典子, 當山裕子,清水かおり,中嶋恵美子,斉藤ひさ子,末永陽子,日高艶子,石橋通江.九州沖縄看護系大学8大学の共同連携による科目の統一コード化.第40回日本看護研究学会学術集会,奈良,2015.
- ・山名栄子,江上千代美,田中美智子,松浦賢長,永嶋由理子,矢野雅子,松尾ミヨ子,清水かおり,斉藤ひさ子,中嶋恵美子,正野逸子,石橋通江,宮林郁子,北川明,安酸史子.第34回日本看護科学学会学術集会,愛知,2014.

③過去の主要業績

- ・永嶋由理子,山川裕子. 血圧測定技術を構成する下位スキルの検討. 福岡県立大学看護学部紀要, 2(2),p1-8,2005.
- ・永嶋由理子. 看護過程の考え方と進め方(基礎編). 月刊看護きろく,17(1), p75-84, 2007.
- ・永嶋由理子. フィジカル・アセスメントの基礎知識. 臨床看護臨時増刊号,34(4),p433-454, 2008.

3. 外部資金獲得

研究代表者, 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(挑戦的萌芽研究), 「看護技術の熟達化過程に伴う「感情変化」と「習熟度」に関する実証研究」, 3,510,000円(3年間), 700,000円(平成27年度),平成26年度～28年度

4. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本教育心理学会, 日本協同教育学会

5. 担当授業科目

〈学部〉

基礎看護学概論・2 単位・1 年・前期, ケアリング論・1 単位・1 年・前期, 基礎看護学実習I・1 単位・1 年・前期, 基礎看護技術論・2 単位・1 年・後期, フィジカルアセスメント論・1 単位・2 年・前期, 看護過程・1 単位・2 年・前期, 基礎看護学実習II・2 単位・2 年・前期, シンptomマネジメント論・1 単位・後期, 看護研究・1 単位・3 年・後期, 統合実習・2 単位・4 年・前期

〈大学院〉

看護理論・2 単位・1 年・前期, 看護心理学特論・2 単位・1 年・前期, 看護心理学演習・2 単位・1 年, 基盤看護学特別研究・1~2 年・通年

6. 社会貢献活動

- ・日本看護研究学会評議員
- ・田川市住宅政策審議会委員
- ・福岡県保健所運営協議会委員
- ・田川市国民保護協議会委員
- ・福岡ゆたか中央病院地域協議会委員

7. 学外講義・講演・その他

- ・永嶋由理子. 「看護過程」福岡県看護協会 看護師研修会, 2016 年 8 月
- ・永嶋由理子. 「フィジカルアセスメントの構成と基本技術、観察法」,北九州総合病院 卒後研修会, 2016 年 8 月

9. 附属研究所の活動等

- ・附属研究所長
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	石田 智恵美
----	-------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

九州大学大学院人間環境学府 発達・社会システム専攻 教育学コース 博士後期課程 単位取得退学。

学習者に存在するであろう知識構造を想定し、知識の構造化を促進するための教授方略の研究・開発を行っている。具体的には、講義・演習・実習をつなぐための方略を授業で実践し、「わかる授業」を目指した授業研究を実施している。その他、卒後教育の一貫として、卒後1～2年目の看護職者を対象とした、タスクマネジメント研修を行っている。また、看護実習指導者講習会、認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）の研修において、看護職者の知識の構造化の促進を目指している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

中本亮 石田智恵美 自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴 — 自由記述をコーレスポネンダ分析して —, 福岡県立大学看護学研究紀要 2016年3月

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・石田智恵美 看護基礎教育における看護学生の知識の獲得に関する研究 日本教授学習心理学学会 第10回年会 2014年7月 宮城
- ・生駒千恵 石本佐和子 石田智恵美 看護実践経験豊富な学生の学習経験 - 糖尿病認定看護師教育課程で最も困難を感じた学習経験について - 日本看護学教育学会第24回学術集会 2014年8月 千葉
- ・石田智恵美 稲留由紀子 中山晃志 秦野環 照屋典子 木村弘江 佐藤千春 原田直樹 松浦賢長 看護学生を対象とした、国際活動実施施設における短期研修プログラムに関する研究 第34回日本看護科学学会学術集会 2014年11月 名古屋
- ・石田智恵美 中本亮 看護学氏江の知識の構造化を目指した講義・演習・実習連携授業に関する研究 日本教育工学会 第31回全国大会 2015年9月 東京
- ・中本亮 石田智恵美 自己調整学習を導入した精神看護学の授業効果 日本教育工学会 第31回全国大会 2015年9月 東京
- ・石田智恵美 看護実践力向上を目指した思考トレーニングプログラムの開発に関する研究 第35回日本看護科学学会 12月 広島
- ・石田智恵美 看護学生の体温・血圧測定課題に関する思考とその効果 日本教育工学会 第32回全国大会 2016年9月 大阪
- ・石田智恵美 看護学生を対象とした看護の優先度決定のための思考訓練 第36回日本看護科学学会 12月 東京

③過去の主要業績

- ・石田智恵美 久米弘 看護学生のための知識の構造化のための講義・演習・実習連携評価モデル 大学教育第10号 九州大学高等教育総合開発研究センター pp.77-97. 2004.
- ・石田智恵美 看護学実習における臨床指導者を含めた教材化と教師の役割 九州大学大学院教育学コース院生論文集 飛梅論集第6号 pp.23-48. 2006.
- ・石田智恵美 動的なプログラム学習による学習者の知識の構造化に関する研究—会話による知識構造推測型の発問生成ストラテジーの効果— 教育学習心理学研究 第3巻 第2号 pp.37-53. 2007.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金（基盤研究C） 課題番号：16K119858 看護学生の知識の構造化を目指した演習・実習連携授業の開発

5. 所属学会

日本教育工学会，日本看護科学学会，日本看護学教育学会，日本教授学習心理学会，日本赤十字看護学会 日本教育学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

ケアリングサイエンス・2単位・人間社会学部3年&看護学部4年・後期，看護研究・2単位・3年・前期，看護教育学・1単位・3年・前期，看護実践論・1単位・3年・前期，教師論・2単位・3年・前期，専門看護学ゼミ・2単位・4年・通年，国際看護論・2単位・4年・後期，看護管理論・1単位・4年・後期，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

看護教育学特論・2単位・1年・前期，看護教育学演習・2単位・1年・後期，看護教育学・2単位・1年・後期，基盤看護学特別研究・8単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・福岡赤十字病院 卒後教育（卒後1年目，2年目の看護職者を対象とした，タスクマネージメント研修の開催）卒後1年目：5月，10月，3月 卒後2年目：11月
- ・嘉麻赤十字病院 卒後教育（卒後1年目，2年目，3年目の看護職者を対象とした，タスクマネージメント，実習指導のための研修）：6月・8月・12月
- ・嘉麻赤十字病院 研究指導 6月～3月まで1回/月

8. 学外講義・講演

- ・純真学園大学 非常勤講師 「看護教育論」，「看護教育方法論」，「国際看護論」
- ・ウエストジャパン看護専門学校 非常勤講師 「国際看護論」
- ・糖尿病看護認定看護師教育課程 非常勤講師 「文献検索・文献購読」指導
- ・認定看護管理者教育課程 セカンドレベル講師 「ヘルスケアサービス管理論」
- ・福岡県看護実習指導者講習会 「実習指導の評価」，「実習指導の評価（リフレクション）」
- ・JCOH 病院看護師研修 「教育目標の立て方・評価方法」

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	芋川 浩
----	-------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1987年に大阪大学 大学院医学研究科を修了後、名古屋大学 大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)を経て、岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所にて日本学術振興会・特別研究員(PhD)、科学技術振興機構(JST) ERATO 吉里再生機構プロジェクト・グループリーダー、University College London (UCL) 上級研究員、RIKEN 発生再生総合科学研究センター上級研究員を経て、2005年本学に着任。

現在、再生医療に関する研究を、脊椎動物で唯一手足などを再生できるイモリやプラナリアなどを用いて解析している。ヒトなどは、一度手足や臓器を失うと、元通りに再生させることはできないが、アカハライモリという有尾両生類は、手足やレンズ、網膜などを失っても、完全に再生できるのである(イモリ(井守)はヤモリ(家守)とは違いますよ!)。また、近年のめざましい生命科学の進歩により、手足をつくる重要な遺伝子群もよくわかってきた。その結果、手足をもつ脊椎動物は、全く同じ遺伝子を利用して手足を形成する。では、同じ遺伝子を持っているにもかかわらず、なぜイモリは再生できて、ヒトは再生できないのか?その難問を解明しようと研究を進めている。

近年注目されているiPS細胞を使っても、3次元の臓器の作成には世界で誰も成功していない。このような夢の医療の実現をイモリやプラナリアから教えてもらいたいと考え、今年度、世界で2例目となる「イモリの培養細胞株」の樹立に成功した。日本初の樹立である。

さらに、このような再生医学的アプローチばかりではなく、独自で「スキนครリーム」を開発し、昨年度、福岡県立大学初の特許取得にも成功した。さらに、医療に使える殺菌抗菌効果の解析も進めており、興味深い結果も得ている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・芋川 浩 著
『ライフサイエンス 生命の神秘』
p1-136, 木星舎出版 2016年
- ・芋川 浩, 村瀬美晴, 平神摩紀, 松崎里咲.
『シナモンリーフ精油の殺菌抗菌効果の解析』
福岡県立大学看護学研究紀要 (印刷中)
- ・Imokawa Y., Seikoba M., & Akiyoshi Y.
『Sterilization effect of the alcoholic beverages which aimed at the disaster medical care.』
JISRI 2016, OB6, p1-4, (2016)
- ・芋川 浩.
『皮膚創傷部治療用組成物及び同皮膚創傷部治療用組成物の製造方法』
日本国特許庁・特許公報(B2) p1-20, 2016年
- ・芋川 浩, 平神摩紀, 松崎里咲, 村瀬美晴.
『実用化に向けた精油の殺菌抗菌効果の解析 その1.タイムレッド』
福岡県立大学看護学研究紀要 13: 75-80, (2016)
- ・Imokawa Y., Baba H., Fukada R., Baba Y., & Koyamatsu N.
『Medical applications of green tea using antibacterial effect. 』
JISRI 2015, p1-4, November (2015)
- ・芋川 浩, 今浪 愛里
『精油(ティートリーとラベンダー)の抗菌効果の検討 その1』
福岡県立大学看護学研究紀要 vol.11, p63-p70 (2014)

②その他最近の業績

- ・ (国際シンポジウム)
- ・ Imokawa Y., Seikoba M., & Akiyoshi Y.
『Sterilization effect of the alcoholic beverages which aimed at the disaster medical care.』
Joint International Symposium on 「Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution」 and 「e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2016」 ,
7 December, (2016, Fukuoka)
- ・ Imokawa Y., Baba H., Fukada R., Baba Y., & Koyamatsu N.
『Medical applications of green tea using antibacterial effect.』
Joint International Symposium on 「Regional Revitalization and Innovation for Social Contribution」 and 「e-ASIA Functional Materials and Biomass Utilization 2015」 ,
30 October -1 November, (2015, Fukuoka)
- ・ 芋川 浩.
『純粋ハチミツの抗菌効果の解析』
日本看護研究学会 第42回学術集会 (2016年 つくば)
- ・ 芋川 浩
『本当に緑茶に抗菌効果はあるのだろうか? 緑茶は看護技術に応用できるのだろうか?』
日本看護研究学会 第41回学術集会 (2015年 広島)
- ・ 芋川 浩
『ミョウバンを用いた看護技術開発のための解析 その1』
日本看護研究学会 第40回学術集会 (2014年 奈良)
- ・ 芋川 浩
講演会『生と性』 福岡県立宗像中学校 (2016年 2月22日)
- ・ 芋川 浩
講演会『生命誕生の神秘』 粕屋東中学校 (2014年 2月28日)

③過去の主要業績

- ・ Y. Imokawa & K.Yoshizato. Expression of Sonic Hedgehog Gene in Newt Regenerating Limb Blastemas Recapitulates That in Developing Limb Buds. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* **94**, 9159-9164 (1997).
- ・ Y. Imokawa & J. P. Brockes. Selective Activation of Thrombin is a Critical Determinant for Vertebrate Lens Regeneration. *Curr. Biol.* **13**, 877-881 (2003).
- ・ Y. Imokawa, A. Simon & J. P. Brockes. A Critical Role for Thrombin in Vertebrate Lens Regeneration. *Philos. Trans. R. Soc. Lond. B. Biol. Sci.*, **359**, 765-776 (2004).
- ・ Y. Imokawa, P. B. Gates, Y-T Chang, H-G. Simon & J. P. Brockes. Distinctive Expression of Myf-5 in Relation to Differentiation and Plasticity of Newt Muscle Cells. *Int. J. Dev. Biol.*, **48**, 285-291 (2004).
- ・ 再生一甦るしくみ— 吉里勝利編 (第4-5章) 羊土社

5. 所属学会

日本発生生物学会、日本分子生物学会、日本動物学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

生物学・2単位・1年・前期、遺伝学・2単位・1年・後期、看護生化学・2単位・1年・後期、化学・2単位・1年・後期、生態病態看護学実験A・2単位・2年生・前期、生態病態看護学実験B・2単位・2年生・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、日本事情(科学事情 I&II) ・2単位・交換留学生・後期、がん病態学・2単位・大学院修士1年・前期、老年病診断治療学・2単位・大学院修士1年・前期、老年看護学特論・2単位・大学院修士1年・前期

7. 社会貢献活動

- ・宗像市(教育委員会)・福津市による青少年育成事業のメンバーとして、海とマリンスポーツに親しむ推進事業を小中学生等に指導紹介している
- ・宗像市(環境課)の嘱託事業としての「人づくりでまちづくり事業」において、宗像市の花「かのこゆり」保護活動を行う「かのこゆり研究会」の役員として活動している

8. 学外講義・講演

- ・平成 28 年 06 月 08 日 福岡県立小倉東高等学校 (高校訪問)
- ・平成 28 年 07 月 01 日 福岡県立香椎高等学校 (高校訪問)
- ・平成 28 年 06 月 14 日 ヒルトン福岡シーホーク (入試説明会)
- ・平成 28 年 06 月 16 日 のがみプレジデントホテル (入試説明会)
- ・平成 28 年 09 月 12 日 ホテル日航熊本 (入試説明会)
- ・平成 28 年 09 月 20 日 ソラリア西鉄ホテル (入試説明会)
- ・平成 28 年 10 月 15 日 福岡マリンメッセ (入試説明会)

9. 附属研究所の活動等

- ・特許の取得 (平成 28 年)
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	四戸 智昭
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

アルコール依存症などの依存症問題、児童虐待、不登校・ひきこもりなど主に家族機能に関する行動病理学を主な研究対象としています。具体的には、①不登校・ひきこもりの子を抱えた親の問題、②幼児期に児童虐待を受けた人の複雑性 PTSD に関する問題、③生活保護受給世帯におけるアルコール依存症の問題 などに関して調査研究をしています。

家族のあり方が多様化している一方で、その家族が地域から孤立してしまっているような悲しいニュースを聞かない日はありません。地域保健活動などでこういった分野に関わっていらっしゃる方や学校関係者の方、また、福祉関係者の方、ご要望があればいつでもお話しを伺いに参ります。お気軽にメールでご連絡ください。

(E-MAIL : shinohe@fukuoka-pu.ac.jp)

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書〉

田中哲也編著、四戸智昭著. ”第3章資料を探そうー上手に本を探すテクニクー”. 『旅する大学生のガイドブックーレポートの書き方2016年度版』. (2016). 福岡、福岡県立大学教養演習テキスト出版会.

②その他の業績

〈学会発表〉

四戸智昭. 「不登校・ひきこもりの子を抱える親の心理的特徴とグループミーティングに関する研究」. 日本嗜癖行動学会第25回学術集会. 鳥取. (2014,11).

〈シンポジウム〉

北九州断酒友の会創立 50 周年記念市民公開セミナー、「アルコール健康障害対策基本法と自助グループの役割」パネリスト、2016年11月13日

〈エッセイ〉

- ・福岡市楠の会会報 32、「今の私をつくっているものとは？」(2014,4)
- ・福岡市楠の会会報 33、「回復への旅路」(2014,5)
- ・福岡市楠の会会報 34、「機能不全家族の修復は可能か」(2014,6)
- ・福岡市楠の会会報 35、「どうしてその家族に「ひきこもりの子」が必要なのか？」(2014,7)
- ・福岡市楠の会会報 36、「ひきこもりは社会の窓」(2014,12)
- ・福岡市楠の会会報 37、「人生の選択史を増やす」(2015,1)
- ・福岡市楠の会会報 38、「子どもに話しかけるということ」(2015,2)
- ・福岡市楠の会会報 39、「まずは私から心のルールを書き換えよう」(2015,4)
- ・福岡市楠の会会報 40、「そのいたずらが意味するもの」(2015,6)
- ・福岡県楠の会会報 41、「嘘に隠されたルール」(2015,10)
- ・福岡県楠の会会報 42、「母という役割の衣を脱ぐとき」(2015,12)
- ・福岡県楠の会会報 43、「ありのままを受け入れるということ」(2016,3)

③過去の主要業績

- ・四戸智昭著. (単著). 『浪費を止める小さな習慣』. (2001). 光文社.
- ・丸山久美子編著. 柏木哲夫、佐藤禮子、吉井光信、楯林義孝、石谷邦彦、平山正実、日野原重明、萬代隆、宮崎貴久子、小林美智子、丸山久美子、加藤淳、竹村和久、須田誠、南隆男、木島恒一、四戸智昭、大塚健樹、鈴木則子、小泉晋一、松井洋、西村洋一、作田明、小谷みどり. ”第14章家族の孤立という危機ーディスコミュニケーションが生む家族の苦悩ー”.

『21世紀の心の処方学—医学・看護学・心理学からの提言と実践—』. (2008). 東京、アートアンドブレイン出版.

3. 外部研究資金

科学研究費補助金(基盤研究C) H28~30「不登校・ひきこもりの子を抱える「支援困難な親」のためのセルフチェックリストの研究」(研究代表者 四戸智昭)

4. 所属学会

日本嗜癪行動学会(学会誌編集委員)、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、日本心理臨床学会、日本アルコール関連問題学会、日本看護アディクション学会、子ども虐待防止学会

5. 担当授業科目

情報処理演習・2単位・1年・前期、教養演習・1単位・1年・前期、現代社会と嗜癪・2単位・1年・後期、看護学研究・2単位・3年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年、大学院看護学研究法・2単位・1年・前期、大学院家族社会学特論・2単位・1年・後期

6. 社会貢献活動

- ・福岡県北九州市地域薬物関連問題連絡会議・委員
- ・嘉穂鞍手保健福祉環境事務所「ひきこもり個別相談会」・相談員
- ・福岡県覚せい剤・麻薬禍対策協議会委員
- ・田川市教育委員会審議会委員
- ・田川市いじめ問題対策委員会・委員長

7. 学外講義・講演

- ・大牟田ひきこもり講演会講師、2016年5月28日
- ・福岡市児童主任民政委員研修会、2016年6月7日
- ・久留米楠の会講演会講師、2016年6月24日
- ・筑豊市民大学講座講演講師、2016年6月25日
- ・福岡楠の会講演会講師、2016年9月25日
- ・福岡県市町村研修所ディベート研修会講師、2016年10月13~14日
- ・佐世保市保健所、アディクション講演会、2016年11月12日
- ・福岡市西区児童民政委員研修会、2016年11月18日
- ・福岡アディクションフォーラム基調講演講師、2016年11月27日
- ・北九州LD等発達障害親の会すばるオープンカウンセリング講師、2017年1月20日
- ・柳川市社協ひきこもり研修会講師、2017年2月14日
- ・水巻看護助産学校特別講義講師、2017年2月23日
- ・福岡楠の会講演会講師、2017年3月21日

8. 附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	杉野 浩幸
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

広島大学大学院工学研究科博士課程後期修了、博士（工学）。細菌学演習を中心とした授業改善・教材開発、看護職を対象とした学会発表支援・情報機器操作支援（Microsoft Office Specialist 取得）など、ICT テクノロジーを活用した研究・教育を行っている。現在の研究テーマは、1) 看護系教育機関における効果的な細菌学演習マニュアルの作成、2) 中堅看護従事者のための学会参加支援プログラムの開発、3) 看護師、看護学部教員を対象とした細菌培養実験の指導、4) 看護系教育機関における効率的な細菌学演習を支援するデータベースの構築と運用

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・杉野浩幸、イベント・研修のプランニングに欠かせない！ 医療安全情報を検索するコツ&お役立ちサイト情報、2015年2月、病院安全教育、vol.2 no.4、pp21-28
- ・松井聡子、政時和美、杉野浩幸、村田節子、中井裕子、視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～、福岡県立大学看護学研究紀要、2015年

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・松井聡子、政時和美、杉野浩幸、村田節子、中井裕子：視聴覚教材が成人看護技術演習の事前学習に及ぼす影響～eラーニングシステムを使用して～、日本看護研究学会・学術集会、茨城、2016年

③過去の主要業績

- ・H. Sugino, M. Sasaki, H. Azakami, M. Yamashita, and Y. Murooka, A monoamine-regulated *Klebsiella aerogenes* operon containing the monoamine oxidase structural gene (*maoA*) and the *maoC* gene. 1992. *J. Bacteriol.* **174**:2485-2492
- ・H. Sugino, Y. Terakawa, A. Yamasaki, K. Nakamura, Y. Higuchi, J. Matsubara, H. Kuniyoshi, and S. Ikegami, Molecular characterization of a novel nuclear transglutaminase that is expressed during starfish embryogenesis. 2002, *Eur. J. Biochem.* **269**: 1957-1967
- ・H. Sugino, S. Furuichi, S. Murao, M. Arai and T. Fujii, Characterization of a *Rhodotorula*-lytic enzyme from *Paecilomyces lilacinus* having β -1,3-mannanase activity. 2004, *Biosci. Biotechnol. Biochem.* **68**:757-760

3. 外部研究資金

科学研究費助成事業（基金分）（基盤研究(C)）27年度～29年度 交付金額 4,810 千円
研究課題、高齢者施設の終末期ケアマニュアルの開発-介護付有料老人ホームに焦点を当てて-
（研究分担者）

5. 所属学会

日本看護学教育学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期、感染・免疫看護学演習・1単位・1年・後期、生態・病態看護学演習・1単位・2年・前期、看護研究・1/15単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・1単位・3年・通年

7. 社会貢献活動

田川地区対象 PC 講習会、すぐに使える PC テクニック (全 10 回)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	准教授	氏名	浏野 由夏
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

・基礎看護学教育に関する研究

- ①看護技術の習得過程や習得に関わる諸要因について科学的に検証し、看護技術習得を促進するための効果的な看護技術教育方法の開発を行っている。
- ②基礎看護学実習の実習前後の思考動機、看護師イメージ、学習意欲などの変化の比較から基礎看護学実習の教育効果の検証および評価を行っている。

・看護職の職業性ストレスに関する研究

- ①訪問看護師の職業性ストレス測定尺度を開発し、活用法等について検討を行っている。
- ②看護職の職業性ストレスおよび職場環境等について、法律学的アプローチを加えながら検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・浏野由夏：労働者のメンタルヘルスと労災補償－厚生労働省「労災認定基準」の検討を中心として－，法学論集，21(1・2・3)，p.71-133，2015.
- ・増満誠，藤野靖博，榎直美，村田節子，浏野由夏，松枝美智子，宮城由美子，鳥越郁代，吉田静，坂田志保路，山下清香，阿部真理子，吉田恭子，江上千代美，石村美由起，吉川未桜，柴北早苗，原田直樹，杉本みぎわ：新旧カリキュラムにおける臨地実習での看護技術習得状況，福岡県立大学看護学研究紀要，14，2017（掲載予定）。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・浏野由夏，加藤法子，永嶋由理子：労災認定基準に依拠した看護職業務におけるストレスの実態，第35回日本看護科学学会学術集会，2015.

<報告書>

- ・永嶋由理子，津田智子，浏野由夏，加藤法子，藤野靖博，於久比呂美：看護技術の安楽に関する科学的検証。平成25・26年度研究奨励交付金研究成果報告書，p.45-46，2016.

<その他>

- ・浏野由夏：看護師国家試験対策 e-learning Nプラス，基礎看護学・必修問題 [一部] (第103回看護師国家試験問題解答・解説)，メディカ出版，2014.
- ・浏野由夏：看護師国家試験対策合格パブリ 基礎看護学・必修問題 [一部] (第98～103回看護師国家試験問題解答・解説)，メディカ出版，2014.

③過去の主要業績

- ・浏野由夏，永嶋由理子，加藤法子：在宅酸素療法患者の健康管理行動の実態。福岡県立大学看護学部紀要，3(1)，p.33-37，2005.
- ・浏野由夏：リフレイミング。安酸史子編著，目からウロコの新人ナースプリセプティ指導術，メディカ出版，2007.
- ・浏野由夏：健康診断で肝機能障害を指摘されアルコール性脂肪肝と診断された労働者。安酸史子，奥祥子編，患者がみえる成人看護の実践，メディカ出版，2007.
- ・浏野由夏，永嶋由理子，中野榮子，山名榮子，加藤法子，津田智子：基礎看護実習Ⅱの実習前・後における看護学生の思考動機の実態。福岡県立大学看護学研究紀要，4(2)，p.82-87. 2007.

- ・ 瀧野由夏, 加藤法子, 中野榮子, 永嶋由理子, 津田智子, 山名栄子: 基礎看護実習 I の実習前後における看護師イメージ変化の比較検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 5(2), p.89-96, 2008.

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生学会, 日本産業衛生学会

6. 担当授業科目

基礎看護学概論・2単位・1年・前期, 基礎看護学実習 I ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護学実習 II ・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年, 看護理論・2単位・1年・前期, Advanced フィジカルアセスメント・2単位・1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県看護学会研究発表支援員 (平成 28 年 4～平成 31 年 3 月)
- ・ 平成 28 年度福岡県看護実習指導者講習会講師 (平成 28 年 8 月 22 日)
- ・ 第 50 回 田川市立病院看護研究発表会講評 (平成 28 年 10 月 15 日)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	加藤 法子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 15 年 4 月より本学に着任し、基礎看護学の教育に携わっています。

研究は、看護技術・看護教育をキーワードに、看護技術の科学的検証や科学的根拠に基づいた技術教育プログラムの開発、実習による教育効果の検討など、看護基礎教育の充実を目指した研究に取り組んでいます。現在は特に、気管内吸引の吸引圧、吸引時間の調整指標の開発に向けた研究を行っています。

①最近の著書・論文

<学会報告>

瀧野由夏、加藤法子、永嶋由理子：労災認定基準に依拠した看護職業務におけるストレスの実態、第 35 回看護科学学会学術集会,2015.

<調査研究報告書>

加藤法子：気管内吸引の吸引圧・吸引時間調整指標の開発（平成 25～27 年科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究研究成果報告書）(研究代表者)

<その他>

- ・加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning Nプラス,基礎看護学（第 103 回看護師国家試験問題解答・解説）,一部分担,メディカ出版,2014.
- ・加藤法子:看護師国家試験対策 e-learning Nプラス,基礎看護学（第 103 回看護師国家試験追加試験 問題解答・解説）,一部分担,メディカ出版,2014.

③過去の主要業績

- ・加藤法子, 佐藤友美, 高橋清美, 永嶋由理子, 中野榮子:基礎看護実習 I における実習内容の検討 実習レポートの分析から.福岡県立大学看護学部紀要,1(1),pp71-78,2003.
- ・加藤法子,呼吸困難感により自宅にこもりかちな在宅酸素療養患者.安酸史子,奥祥子編,患者がみえる成人看護の実践,メディカ出版,2007.
- ・加藤法子.呼吸器系器官に問題のある対象へのフィジカルアセスメント.臨床看護,34（4）,457-490.2008.
- ・加藤法子,瀧野由夏,永嶋由理子,津田智子,山名栄子,中野榮子:基礎看護実習 I における教育効果の検討:実習前後の学習意欲の変化から.福岡県立大学看護学研究要,5(2),52-60.2008.
- ・加藤法子:高齢者の栄養管理. 三原博光, 松本百合美編著, 豊かな老後生活を目指した高齢者介護支援, 関西学院大学出版会, 2013.

5. 所属学会

日本看護協会、日本看護科学学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

<学部>

教養演習・1単位・1年・前期, 基礎看護学概論・2単位・1年・前期, 基礎看護実習 I ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・1単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護実習 II ・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 統合実習・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

<大学院>

看護理論・2単位・1年・前期

7. 社会貢献活動

- ・ 田川市男女共同参画委員会委員
- ・ ゆめっせフェスタ実行委員会
- ・ 福岡県看護協会研究発表支援員
- ・ 福岡県看護協会学会委員会委員

9. 附属研究所の活動等

- ・ 看護実践教育センター
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	小出 昭太郎
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

教育については、学生が、社会的な研究方法や「ものの見方」を臨床や政策などの実践に生かすことができるようになることを目標にしています。

主な研究分野は、第1に、保健医療・社会保障の制度・政策に関して、制度・政策策定者サイドの視点よりも市民・患者サイドの視点に基づいた歴史研究・理論的研究・調査研究を行ってきました。現在は、イギリスの医療保障財源の設計根拠に関する歴史研究を行っており、この研究においても主に市民・患者サイドの視点に着目しています。第2に、健康の社会的不平等に関する研究を行ってきました。特に、性・年齢層別の検討を行っています。

2. 研究業績

②その他の業績

- ・岩崎玲奈・村田節子・櫛直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討」、第29回日本がん看護学会、2015年。
- ・岩崎玲奈・村田節子・櫛直美・小出昭太郎、「治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討」、第29回日本がん看護学会、2015年。

③過去の主要業績

- ・小出昭太郎・田村誠、「1991年英国NHS改革後の政府規制とその背景——「病院サービスの購入者」の設定に関する問題」、『病院管理』、第36巻第1号、1999年。
- ・小出昭太郎・田村誠、「イギリスNHS成立時における財源調達方式の設計の根拠に関する考察」、『医療政策に関わる一般市民・医療従事者の価値判断とその論拠（平成10年度～平成12年度科学研究費補助金（基盤研究（B）（2））研究成果報告書）（研究代表者：田村誠）』、2001年。
- ・小出昭太郎・山崎喜比古、「収入と general health perceptions との関連の性・年齢による差異」、『要介護状態及び健康の形成過程における社会経済的要因の役割に関する実証的研究（平成14年度～平成17年度科学研究費補助金（基盤研究（A））研究成果報告書）（研究代表者：武川正吾）』、2006年。

5. 所属学会

日本保健医療社会学会、日本社会福祉学会、日本医療・病院管理学会、日本公衆衛生学会、東北哲学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・1単位・1年・前期、保健社会学・1単位・1年・後期、保健医療福祉行政論Ⅰ・1単位・2年・後期、看護研究・2単位・3年・後期、卒業研究・2単位・4年・通年、保健医療福祉行政論Ⅱ・2単位・4年・後期、日本事情B・2単位・留学生・前期

〈大学院〉

データ解析特論・2単位・修士1年・前期、高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論・2単位・修士1年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	藤野 靖博
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護技術がひとの体に及ぼす影響について、生理学的指標などを用い明らかにして、臨床における看護援助に還元できるように努めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・増満誠、藤野靖博、榎直美、村田節子、淵野由夏、松枝美智子、宮城由美子、鳥越郁代、吉田静、坂田志保路、山下清香、阿部眞理子、吉田恭子、江上千代美、石村美由紀、吉川未桜、柴北早苗、原田直樹、杉本みぎわ：新旧カリキュラムにおける臨地実習での看護技術習得状況。福岡県立大学看護学研究紀要。2017. in press.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・藤野靖博、増満誠、谷多江子、小手川良江、児玉裕美、塚原ひとみ、當山裕子、嘉手苺英子、金城祥教、松浦賢長：「しなやかな使命感」を育成するためのナーシング・キャリアカフェ実施の効果。日本看護学教育学会第24回学術集会。2014.
- ・増満誠、日高艶子、金城祥教、小野逸子、山名栄子、秦野環、谷多江子、砂川洋子、照屋典子、金城芳秀、牧内忍、清水かおり、斉藤ひさ子、下條三和、佐藤亜紀、岡村純、木村弘江、藤野靖博、永嶋由理子、松浦賢長：「しなやか使命感」育成の取組～ナーシング・キャリアカフェと単位互換制度構築の2つの取組紹介～。日本看護科学学会第35回学術集会。2015.
- ・佐藤亜紀、児玉裕美、日高艶子、砂川洋子、照屋典子、金城芳秀、金城忍、伊礼優、下條三和、山口みどり、谷多江子、石本祥子、小浜さつき、小手川良江、藤野靖博、吉田恭子、松浦賢長：大学間連携事業による看護学生のキャリア像形成への支援の評価－NCC 参加者の主観的評価にみる学年別特徴－。日本看護科学学会第36回学術集会。2016.

〈その他〉

- ・永嶋由理子、津田智子、淵野由夏、加藤法子、藤野靖博、於久比呂美：看護師国家試験対策合格パプリ、基礎看護学、メディカ出版。2014.
- ・文部科学省大学間連携共同教育推進事業「多価値尊重社会の実現に寄与する学生を育成する教育共同体の構築」。平成25年度年次報告書。2014.
- ・増満誠、日高艶子、金城祥教、小野逸子、山名栄子、秦野環、谷多江子、砂川洋子、照屋典子、金城芳秀、牧内忍、清水かおり、斉藤ひさ子、下條三和、佐藤亜紀、岡村純、木村弘江、藤野靖博、永嶋由理子、松浦賢長：「しなやか使命感」育成の取組～ナーシング・キャリアカフェと単位互換制度構築の2つの取組紹介～（交流集会）。日本看護科学学会第35回学術集会。2015.

③過去の主要業績

- ・藤野靖博：ウォームアップが歩行運動時の循環応答・深部温度に及ぼす影響。日本人間工学会看護人間工学会誌（8），15-20。2007.
- ・矢崎義雄、篠山重威、藤野靖博他：心不全下巻－最新の基礎・臨床研究の進歩。日本臨床社。2007.

3. 外部研究資金

研究代表者：文部科学省、科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「段ボール離被架とカプサイシンジエルを用いた睡眠導入効果の検証」、平成28～29年度

5. 所属学会

日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本人間工学会看護人間工学部会, 日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

教養演習・1単位・1年・前期, 基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・1単位・1年・後期, 看護過程・1単位・2年・前期, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 統合実習・3単位・4年・通年

8. 学外講義・講演

学校訪問「看護の技について」福岡県立糸島高等学校（6月16日）
出前講義「看護の技について」佐賀県立鳥栖高等学校（10月25日）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	講師	氏名	増満 誠
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

鹿児島大学医療技術短期大学部看護学科卒業後、名古屋大学医学部附属病院（集中治療部・救急部）、医療法人同心会杉田病院（精神科）で看護師として6年、鹿児島大学医学部保健学科、国際医療福祉大学福岡看護学部で教員としての9年を経て、平成25年4月より本学に着任しました。また平成22年に本学看護学研究科を修了しました。

主な研究は、看護における「間」（時間や空間）をどのように解釈するのか、演出するのか、とくに沈黙を中心に探究しています。また、教材としてのコミュニケーション感性トレーニングを開発中です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈著書(分担執筆)〉

渡辺多恵子，渡辺裕一，安梅勅江編著；日本保健福祉学会編集：保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践（第4章6節 いじめ防止に向けた取り組み担当），北大路書房，2015

〈論文〉

- ・増満 誠，松村智大，中本 亮，馬場保子，谷多江子，小浜さつき，石本祥子，姫野深雪，佐藤亜紀：看護大学生の所属大学を超えた交流の効果の検討，福岡県立大学看護学研究紀要，13，51-56，2016.
- ・梶原由紀子，原田直樹，三並めぐる，増満 誠，松浦賢長：特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究，日本保健福祉学会誌，20(1)，21-34，2013.

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・ Makoto Masumitsu, Aki Sato, Hiromi Kodama, Seita Kuzuhara, Naoki Ariyasu, Tomohiro Matsumura, Tomoyuki Ueda, Kazumi Nishimura, Satoshi Ikeda, Tamami Ueno : Learning, Bonds, and Prospects Which Are Seen from Activities for the Improvement of Young Nursing Teachers' Skills, The 3rd International Conference on Caring and Peace in Fukuoka, 2017.
- ・増満 誠，松村智大，有安直貴，佐藤亜紀，石本祥子，小浜さつき，西村和美：看護大学生の所属大学を超えた学生交流会企画運営における協働力発揮の効果，第36回日本看護科学学会学術集会，東京，2016.
- ・増満 誠：精神科看護師の看護を行う上での「こだわり」に関する質的記述的研究，第62回九州精神医療学会，沖縄，2016.
- ・ Makoto Masumitsu : Strengths Obtained by Nursing College Students Through the Planning and Staging of Intercollegiate Exchange, The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo, 2015.
- ・ Aki Sato, Hiromi Kodama, Makoto Masumitsu, Seita Kuzuhara, Nagisa Okada, Tomoyuki Ueda, Naoki Ariyasu, Tomohiro Matsumura : Construction of nursing faculty network for the purpose of teaching force and research force improvement, The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo, 2015.
- ・田出美紀，山崎不二子，増満 誠，二重作清子，一原由美子，金城祥教，上田智之，岡村 純，木村涼平，北川 明，安酸史子，松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討－教員と卒業生の比較による支援体制の考察－，第35回日本看護科学学会学術集会，広島，2015.
- ・木村涼平，一原由美子，山崎不二子，増満 誠，二重作清子，田出美紀，金城祥教，上田智之，岡村 純，北川 明，安酸史子，松浦賢長：大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル

構築の検討ー卒業生との交流からみるメンターの介入時期の検討ー, 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.

- ・ 増満 誠: 看護大学生の PBL を用いた演習科目における医療・看護の改革に対する提言テーマの傾向分析, 日本看護学教育学会第 25 回学術集会, 徳島, 2015.
- ・ 藤野靖博, 増満 誠, 谷多江子, 小手川良江, 児玉裕美, 塚原ひとみ, 當山裕子, 嘉手苺英子, 金城祥教, 松浦賢長: 「しなやかな使命感」を育成するためのナーシング・キャリアカフェ実施の効果, 日本看護学教育学会第 24 回学術集会, 千葉, 2014.
- ・ 増満 誠: 統合失調症患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討, 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.
- ・ 増満 誠, 山崎不二子, 田出美紀, 二重作清子, 一原由美子, 金城祥教, 生野繁子, 岡村純, 北川 明, 安酸史子, 松浦賢長: 大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討ーメンター制導入に対する教員の展望と懸念ー, 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.
- ・ 山崎不二子, 増満 誠, 田出美紀, 二重作清子, 一原由美子, 金城祥教, 生野繁子, 岡村純, 北川 明, 安酸史子, 松浦賢長: 大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討ー教員が捉えた卒業生が求める交流とその対応ー, 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.
- ・ 二重作清子, 一原由美子, 増満 誠, 山崎不二子, 田出美紀, 金城祥教, 生野繁子, 岡村純, 北川 明, 安酸史子, 松浦賢長: 大学教員によるメンター制導入に向けてのモデル構築の検討ー卒業 1 年目看護師が教員と行っている交流状況ー, 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.
- ・ 北川 明, 原田直樹, 増満 誠, 安酸史子, 松浦賢長, 金城芳秀, 二重作清子, 山住康恵, 砂川洋子, 佐藤亜紀, 日高艶子, 吉武美佐子, 當山裕子, 金城祥教, 福嶋龍子, 梅崎節子, 岡村純, 藤川真紀, 正野逸子, 宮林郁子: 看護系大学における特別な支援を必要とする学生の行動特性確認リストの開発, 第 34 回日本看護科学学会学術集会, 名古屋, 2014.
- ・ 増満 誠: 看護大学生がプレゼンテーションをぴあレビューするという試み, 第 19 回日本看護研究学会九州・沖縄地方会学術集会, 熊本, 2014.

<交流集会>

- ・ 増満 誠, 正野逸子, 牧内忍, 山名栄子, 秦野 環, 照屋典子, 斉藤ひさ子, 清水かおり, 木村弘江, 松浦賢長: 「しなやかな使命感」育成のための単位互換・相互受講制度の可能性～遠隔システムを用いた体験授業と効果～, 第 36 回日本看護科学学会学術集会, 東京, 2016.
- ・ 増満 誠, 松村智大, 有安直貴, 上田智之: 若手看護教師コメント力向上プロジェクト (第 2 弾) ～学生目線からことばの力を考え、換言力を磨く～, 日本看護学教育学会第 26 回学術集会, 東京, 2016.
- ・ 増満 誠, 日高艶子, 金城祥教, 正野逸子, 山名栄子, 秦野 環, 谷多江子, 砂川洋子, 金城芳秀, 斉藤ひさ子, 下條三和, 佐藤亜紀, 岡村 純, 木村弘江, 藤野靖博, 永嶋由理子, 松浦賢長: 「しなやかな使命感」育成の取組～ナーシング・キャリアカフェと単位互換制度構築の 2 つの取組の紹介～, 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2015.
- ・ Makoto Masumitsu, Itsuko Shono, Eiko Yamana, Kaori Shimizu, et all : Initiatives for cultivating a “shinayakana sense of mission” The transmission and development of the concept of Kyushu and Okinawa as “caring islands” , The 2nd International Conference on Caring and Peace in Tokyo, 2015.
- ・ 増満 誠, 松村智大, 有安直貴, 上田智之: 若手看護教師はみんな悩んで成長している～実習場面における“ほぐす・つなぐ・つむぐ”ためのコメント力～, 日本看護学教育学会第 25 回学術集会, 徳島, 2015
- ・ 増満 誠, 金城祥教, 砂川洋子, 嘉手苺英子, 下條三和, 佐藤亜紀, 日高艶子, 姫野稔子, 原田直樹, 永嶋由理子, 松浦賢長: 躍進する「ナーシング・キャリアカフェ」しなやかな使命

感育成のための交流の場を創るということ、日本看護学教育学会第 24 回学術集会、千葉、2014.

<シンポジウム>

増満 誠：共同教育推進事業第 2 回しなやかな使命感育成シンポジウム「しなやかなナース育成のキセキとミライ：単位互換・相互受講のキセキとミライ」、エルガーラホール、2016

<雑誌>

- ・増満 誠：看護観の伝承；愉しみつつ、教育の信念を貫き具現化する 安酸史子先生の姿勢から、看護教育、57 (2) , 医学書院、2016.
- ・増満 誠：救急現場の新人教育；新人教育・指導で やる気と成果を導くコメント力、救急看護、6 (5)、日総研出版、2017.

③過去の主要業績

<論文>

- ・増満 誠：看護場面における沈黙に関する看護研究の動向と課題、国際医療福祉大学福岡リハビリテーション学部・福岡看護学部紀要、6, 21-29, 2010.
- ・増満 誠, 堀尾良弘：児童期の学校ストレスの実態と学校心理的ストレス尺度の作成. 鹿児島大学医学部保健学科紀要 (17) , 55-63, 2007.

<翻訳>

増満 誠：小林奈美監訳 はじめて学ぶ質的研究 第 10 章翻訳. 医歯薬出版株式会社, 55-63, 2007.

<学会報告>

- ・増満 誠：精神看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第一報）沈黙の意味の解釈と対応、第 30 回日本看護科学学会学術集会、札幌、2010.
- ・増満 誠：精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第二報）沈黙の解釈と対応の変化要因、第 30 回日本看護科学学会学術集会、札幌、2010.
- ・増満 誠：精神科看護師が語った患者との沈黙場面における沈黙経験の意味（第三報）～場に規定される沈黙の意味と対応の相違～、第 15 回日本看護研究学会九州沖縄地方会学術大会、福岡、2010.

3. 外部研究資金

- ・文部科学省科学研究費補助金、若手研究(B)、うつ病患者の看護師との対話場面における沈黙の意味の検討、平成 26～28 年度、研究代表者.
- ・文部科学省科学研究費補助金、基盤研究(B)、発達障害傾向のある看護学生への現任教育まで含めた適応支援ガイドラインの作成、平成 28～31 年度、研究分担者（研究代表者：安酸史子）.

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護研究学会、日本精神保健看護学会、日本心理学会

6. 担当授業科目

<学部>

不登校ひきこもり援助論・2 単位・1 年・前期、基礎看護学実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期、基礎看護学実習Ⅱ・2 単位・2 年・前期、キャリア像確立講義Ⅰ・1 単位・1~2 年・後期、キャリア像確立講義Ⅱ・1 単位・3~4 年・後期、看護情報学・1 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、統合実習・3 単位・4 年・通年、疫学・2 単位・2 年・後期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

<大学院>

データ解析演習・2 単位・1 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県看護協会看護の進路・進学支援委員会委員
- ・ケアリング・アイランド九州沖縄大学コンソーシアム・戦略連携室教員
- ・日本精神科看護協会教育認定委員会査読委員
- ・日本保健福祉学会査読委員
- ・日本精神科看護協会福岡県支部広報委員長・査読委員
- ・九州思春期研究会 代表幹事
- ・介護労働安定センター福岡支部嘱託ヘルスカウンセラー
- ・鹿児島市立皇徳寺中学校同窓会長

8. 学外講義・講演

- ・増満 誠：一本松すずかけ病院平成 28 年度新規採用者研修会「対象理解のためのコミュニケーション力」講師，一本松すずかけ病院、平成 28 年 4 月 4 日。
- ・増満 誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「看護研究基本の『き』」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成 28 年 4 月 16 日。
- ・増満 誠：大法山病院「ケア力・記録力向上プロジェクト（看護研究含む）」研修講師・グループ指導，平成 28 年 4 月 21 日～平成 29 年 3 月 28 日（計 12 回）。
- ・増満 誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「看護研究基本の『ほ』」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成 28 年 6 月 18 日。
- ・増満 誠，角森輝美，笹山雪子：マイナビ主催「九州夢大学」お仕事研究ゾーン看護師ブース講師，福岡国際センター，平成 28 年 7 月 25 日。
- ・増満 誠：日本精神科看護協会福岡県支部研修「看護研究基本の『ん』」講師，福岡県精神科病院協会会館，平成 28 年 8 月 20 日。
- ・増満 誠：JCHO 九州病院平成 28 年教育方法に関する研修会「現代の若者気質とその対応のしかた～気質を活かした接しかた～」，JCHO 九州病院、平成 28 年 8 月 25 日。
- ・増満 誠：福岡県立大学看護学部教員・実習指導者研修会「ちょっと気になる学生の支援のいろはを考える」、福岡県立大学、平成 28 年 9 月 15 日。
- ・増満 誠：一本松すずかけ病院平成 28 年度現任教育担当者研修会「対象理解のためのコミュニケーション力」講師，一本松すずかけ病院、平成 28 年 9 月 23 日。
- ・増満 誠：福岡県立嘉穂高等学校一日総合大学における出前講義「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」講師，福岡県立嘉穂高等学校，平成 28 年 10 月 20 日。
- ・増満 誠：福岡県立北筑高等学校出前講義「看護の道も一歩から～看護職へのキャリアデザインを考える～」講師，福岡県立北筑高等学校，平成 28 年 11 月 10 日。
- ・増満 誠：高齢者福祉施設なの国研修「介護職のメンタルヘルス」講師，高齢者福祉施設なの国，平成 28 年 12 月 15 日。
- ・増満 誠：介護老人保健施設若杉の里研修「介護職のメンタルヘルス」講師，介護老人保健施設若杉の里，平成 28 年 12 月 16 日。
- ・増満 誠：福岡県精神科病院協会筑豊地区会看護部長会研修会「高齢者虐待について」講師、太陽セランド田川望岳台工場研修室、平成 29 年 1 月 20 日。
- ・増満 誠：日本精神科看護協会福岡県支部「看護研究発表会」講評，福岡国際会議場、平成 29 年 2 月 4 日。
- ・増満 誠：日本精神科看護協会福岡県支部第 8 回福岡地区研修「体験型研修：研究力を磨く、その一歩！」講師，福岡国際会議場、平成 29 年 2 月 4 日。

9. 附属研究所の活動等

- ・不登校ひきこもりサポートセンター教員スタッフ（家族交流会・訪問支援担当）
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	於久 比呂美
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1) 看護技術に関する研究

看護技術の科学的検証を行い、エビデンスに基づいた看護技術教育方法の開発に取り組んでいます。

2) 看護師の自己成長に関する研究

これまで看護師の成長力をもたらす促進因子の一部について検討してきました。今後は、得られた研究知見に詳細な分析を積み重ねるとともに、他の促進因子の解明を引き続き進め、看護師に向けた教育プログラムの開発などを考えています。

2. 研究業績

②その他最近の業績

〈学会報告〉

- ・ 森田愛璃香, 於久比呂美, 永嶋由理子: 頸部温罨法と腰部温罨法がもたらす生理的反応の比較. 日本看護研究学会 第28回中国・四国地方会学術集会, 2015年3月.
- ・ 江口菜々, 於久比呂美: 患者とよい関係を築いている看護師の特徴に関する文献検討, 第47回日本看護学会(看護管理)学術集会, 2016年9月.

③過去の主要業績

〈論文〉

於久比呂美, 永嶋由理子, 宮崎千尋, 藤野靖博, 淵野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10(1), 39-46, 2012.

3. 外部研究資金

於久比呂美, 文部科学省 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)基盤研究(C), 臨床看護師の「自分磨きの極意」と「伝授法」に関する検討. 総額247万円(2014年:91万円、2015年:78万円、2016年:78万円), 2014~2016.

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助教	氏名	清水 夏子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2010年3月福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を卒業。専攻は看護教育学で、経験型実習教育における教員の教授行動と学生に与える影響に関する研究を行った。現在は、看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと受講意欲に関する調査を継続的に実施し、看護基礎教育における東洋（漢方）医学教育の必要性についての検討を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<報告書>

文部科学省，科学研究費補助金（基盤研究B），「経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究」，平成21年度～平成24年度，（研究代表者：安酸史子），研究成果報告書。

2013.4

<大学紀要>

清水夏子，石田智恵美：看護学生の東洋（漢方）医学のイメージと「東洋医学概論」の受講意欲に関する調査研究．福岡県立大学看護学研究紀要．14（1）．2016．（掲載予定）

<その他の執筆>

- ・中野榮子，小野美穂，清水夏子，松枝美智子．安酸史子監修：経験型実習教育の研修プログラム事例ビデオ教材（成人看護編）．2013.4
- ・清水夏子，他．第102回看護師国家試験 学習支援ツール．放送大学．2013.
- ・清水夏子，他．第103回看護師国家試験問題 解説．大阪．メディカ出版．2014.
- ・清水夏子，他．第103回追試看護師国家試験問題 解説．大阪．メディカ出版．2014.
- ・安酸史子編集．清水夏子，他．経験型実習教育．pp240-252．東京．医学書院．2015.

②その他最近の業績

<国内：学会発表>

- ・松枝美智子，安酸史子，安永薫梨，浅井初，坂田志保路，中野榮子，渡邊智子，榎直美，小森直美，吉田恭子，江上史子，清水夏子，小野美穂（2013）．経験型実習教育のプロジェクト学習に参加した臨床指導者と参加しなかった看護師の不安の比較．日本教師学学会第14回大会．秋田．
- ・浅井初，江上史子，坂田志保路，安酸史子，渡邊智子，松枝美智子，安永薫梨，中野榮子，榎直美，吉田恭子，清水夏子，小森直美，小野美穂（2013）．経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討—実習の中間にポートフォリオを活用した学習による体験から—．日本教師学学会第14回大会．秋田．
- ・坂田志保路，浅井初，江上史子，安酸史子，渡邊智子，小森直美，松枝美智子¹⁾，安永薫梨，中野榮子，榎直美，吉田恭子，清水夏子，小野美穂（2013）．経験型実習教育の有効性の検討—4年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから—．日本教師学学会第14回大会．秋田．
- ・江上史子，浅井初，坂田志保路，安酸史子，渡邊智子，小森直美，松枝美智子，安永薫梨，中野榮子，榎直美，吉田恭子，清水夏子，小野美穂（2013）．経験型実習教育の有効性の検討—3年生の看護学生を対象としたフォーカスグループインタビューから—．日本教師学学会第14回大会．秋田．
- ・清水夏子，安酸史子，田原英一．（2013）．看護大学生に対する“東洋医学概論”の試み—看護学生の東洋医学に対する考えの変化と看護観に与える影響—．第64回日本東洋医学会学術総会．鹿児島．

- ・ 清水夏子, 安酸史子. (2013). 新たな分野の授業を受講しての学生の傾向と講義のあり方の検討—看護学生に向けた東洋医学概論を通して—, 第 23 回日本看護学教育学会学術集会. 仙台.
- ・ 清水夏子, 石田智恵美, 松井聡子, 安酸史子. (2013). 看護大学生が抱く実習直前の不安要因についての検討. 第 33 回日本看護科学学会学術集会. 大阪.
- ・ 江上史子, 安酸史子, 渡邊智子, 棟直美, 吉田恭子, 浅井初, 坂田志保路, 松枝美智子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂, 中野榮子, (2014). 経験型実習教育における学生の学びの内容 (第 2 報) —3 年生を対象としたフォーカスグループインタビューから—. 日本教師学学会第 15 回大会. 岡山.
- ・ 清水夏子. (2014). 必修科目化された東洋医学概論の授業の在り方についての検討—受講前後の看護大学生の考えから—. 第 24 回日本看護学教育学会. 千葉.
- ・ 清水夏子, 田原英一, 矢野博美, 土倉潤一郎. (2014). 看護大学生に対する東洋医学概論の試み—選択科目から必修科目への履修変更—. 第 65 回日本東洋医学会学術総会. 東京.
- ・ 中嶋恵美子, 塚原ひとみ, 原田直樹, 清水夏子, 松浦賢長. (2014) 新人看護師の早期離職予防—卒業後 2 年目看護師へのインタビューから—. 第 34 回日本看護科学学会学術集会. 名古屋.
- ・ 清水夏子. (2016). 看護学生の漢方医学に対するイメージと漢方治療経験に関する調査. 第 36 回日本看護科学学会学術集会. 東京.
- ・ 中嶋恵美子, 塚原ひとみ, 清水夏子, 北川明, 日高艶子, 石本祥子, 小浜さつき, 増満誠, 安酸史子, 松浦賢長. (2016). 臨床における新人看護師指導の現状～先輩看護師への質問紙調査から～. 第 36 回日本看護科学学会学術集会. 東京.
- ・ 塚原ひとみ, 中嶋恵美子, 北川明, 山崎不二子, 前田三枝子, 門司真由美, 清水夏子, 増満誠, 松浦賢長, 安酸史子. (2016). 新卒 1 年目看護師の離職願望の推移と離職せずにとどまった理由. 第 36 回日本看護科学学会学術集会. 東京.

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本教師学学会, 日本東洋医学会,

6. 担当授業科目

<学部>

専門看護学ゼミ・2 単位・4 年・通年, 東洋医学概論・1 単位・2 年・前期, フィジカルアセスメント論・1 単位・2 年・前期, 看護実践論・1 単位・3 年・前期, 看護教育学・2 単位・3, 4 年・前期, 教師論・2 単位・3, 4 年・前期, 基礎看護技術論・1 単位・1 年・後期, 看護管理論・2 単位・4 年・後期, ケアリングサイエンス・2 単位・人間社会学部 2 年、看護学部 4 年・後期

<臨地実習>

基礎看護実習Ⅰ・1 単位・1 年・前期, 基礎看護実習Ⅱ・2 単位・2 年・後期, 統合実習・3 単位・4 年・後期,

7. 社会貢献活動

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／基盤看護学系	職名	助手	氏名	宮崎 千尋
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として循環器内科・心臓血管外科病棟で勤務した後、2016年度より本学へ着任する。主な研究として、看護職を目指す学生の主体的学習活動に関する内的要因について検討を行っている。特に主体的学習活動に関する内的要因と考えられている学習意欲と自己効力感に着目し、これら三者の関連性や影響を検討することで、学生の主体的学習活動につながる学習支援に役立てたいと考えている。

2. 研究業績

③過去の主要業績

〈論文〉

於久比呂美, 永嶋由理子, 宮崎千尋, 藤野靖博, 泷野由夏, 加藤法子, 津田智子: 病室環境が生体反応にもたらす影響への検討. 福岡県立大学看護学研究紀要, 10 (1), 39-46, 2012.

5. 所属学会

日本看護研究学会

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

基礎看護学概論・2単位・1年・前期, ケアリング論・1単位・1年・前期, 基礎看護学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 基礎看護技術論・2単位・1年・後期, フィジカルアセスメント論・2単位・2年・前期, 看護過程・1単位・2年・前期, 基礎看護学実習Ⅱ・2単位・2年・前期, シンプトンマネジメント論・1単位・2年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 看護研究・2単位・3年・前期, 統合実習・2単位・4年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	赤司 千波
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

成人看護学（慢性期）を担当しています。これまで、認知症高齢者の看護、高齢者の口腔ケア、終末期看護、介護、循環器疾患の看護等に関する研究を行い、教育や現場への活用を検討してきました。現在は、慢性疾患を有する患者の「自己管理行動」の獲得プロセスに関する研究、終末期ケアと看取りケアに関する研究を行っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ Shinichi Tanihara, Chinami Akashi, Junichi Yamaguchi, Hiroshi Une, Effects of family structure on risk of institutionalization of disabled older people in Japan. Australasian Journal on Ageing, 2013
- ・ 赤司千波, 田中理恵: 終末期患者の退院支援に関して病棟看護師に求められるもの-訪問看護師の思いを分析して-, 第45回日本看護論文集、慢性期看護、2015

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 篠原美菜、赤司千波: 緩和ケア経験の浅い看護師に求められる看護姿勢と支援 - 緩和ケア病棟に配属1年以内の看護師が感じた困難とその対処の分析から -、野本看護研究学会、2016/8、つくば市
- ・ 樋口美穂、赤司千波: 一般病棟で緩和ケア病棟への移行を待機している終末期がん患者の看護に関する研究-病棟看護師が行う心理的支援に焦点をあてて-、日本看護研究学会、2016/8、つくば市
- ・ 田中理恵、赤司千波: 自宅での看取り目的で退院した終末期患者に対する病棟看護師の退院支援の現状-訪問看護師の視点から-、第40回日本看護研究学会、2014/8、奈良市
- ・ 赤司千波、田中理恵: 終末期患者の退院支援に関して病棟看護師に求められるもの-訪問看護師の思いを分析して-, 第45回日本看護学会 慢性期看護、2015/9、徳島市

③過去の主要業績

- ・ 赤司千波、永井あけみ、グループホームにおける痴呆性高齢者に関する情報収集の現状-情報収集担当者を対象とした質問紙調査-、九州大学医学部保健学科紀要1号、89-97、2003
- ・ 赤司千波、豊澤英子、三重野英子、桶田俊光: グループホームにおける痴呆性高齢者の情報収集に関する研究-入居適応に焦点をあてて-、日本看護研究学会誌26(2)、73-88、2003
- ・ 川上千普美、松岡緑、樗木晶子、長家智子、赤司千波、篠原純子、原頼子: 冠動脈インターベーションを受けた虚血性心疾患患者の自己管理行動に影響する要因-家族関係および心理的側面に焦点をあてて-、日本看護研究学会誌29(4)、33-40、2006

5. 所属学会

日本看護学会、日本看護研究学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本循環器看護学会、日本老年看護学会、日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目

<学部>

成人看護概論 (1単位/2年前期)、成人慢性看護学 (2単位/2年後期)、成人看護実践論 (1単位/3年通年)、成人看護学演習Ⅰ (1単位/3年前期)、成人看護学演習Ⅱ (1単位/3年前期)、成人看護実習 (4単位/3年通年)、成人慢性看護学実習 (3単位/3年後期、4年前期)、専門看護学ゼミ (2単位/3年通年)、卒業研究 (2単位/4年通年)、統合実習 (2単位/4年前期)

〈大学院〉

成人看護学特論 (2 単位/1 年前期)、成人看護学演習 (2 単位/1 年後期)、臨床看護学特別研究 (8 単位/1~2 年通年)、終末期高齢者看護論 (2 単位/1 年)

7. 社会貢献活動

- ・ 赤司千波 福岡県田川保健所運営協議会委員 2016/8
- ・ 赤司千波 福岡ゆたか中央病院地域協議会委員 2017/3
- ・ 村田節子、赤司千波、宮園真美、中井裕子、大島操、政時和美、松井聡子、柴北早苗：福岡県立大学主催 平成 28 年度がん看護勉強会
- ・ 赤司千波 中間市役所 保健福祉部介護保険課主催、「介護施設での看取り」について講演、2015/07/03
- ・ 赤司千波 介護老人保健施設ハーモニー聖和・聖和記念病院における職員研修、「介護現場で働く職員のメンタルヘルス」について講演、2015/08/21

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	教授	氏名	鳥越 郁代
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

大学病院で看護師、助産師としての勤務経験を経たあと、助産師教育に携わる。1992年玉川大学大学院文学研究科修士課程修了。1999年に英国のテームズバリー大学大学院に留学、助産実践修士課程修了（2002年）。2003年本学看護学部に着任。2010年兵庫県立大学大学院看護学研究科博士課程修了（博士：看護学）。

現在、帝王切開分娩後の女性が、次の出産を迎えたときの出産様式選択における意思決定支援を主な研究テーマとしている。患者との意思決定の共有（shared decision-making）モデルを根底におくオタワ決定サポート枠組みをもとに帝王切開分娩後の女性の出産選択のための決定援助プログラムを開発し、そのプログラムを用いた介入研究の実施・分析を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・鳥越郁代. (2017). 「第2章 助産師が行うケアの概念, 3. 女性の意思決定を支えるしくみ」. 工藤美子編 『助産師基礎教育テキスト第1巻, 助産概論』 (第1版 2017年版), 54-68. 日本看護協会出版.
- ・鳥越郁代. (2016). 「第2章 助産師が行うケアの概念, 3. 女性の意思決定を支えるしくみ」. 山本あい子編 『助産師基礎教育テキスト第1巻, 助産概論』 (第1版 2015年版), 42-54. 日本看護協会出版.

<論文>

- ・Ikuyo Torigoe, Brett Shorten, Shizuka Yoshida, Allison Shorten. Trends in birth choices after caesarean section in Japan: A national survey examining information and access to vaginal birth after caesarean. (2016). *Midwifery*, 37, 49-56.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代, 鳥越郁代. (2016). 学士課程における助産実践能力（分娩介助技術および健康教育）の到達状況と課題. 13, 1-10.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要, 12, 25-35.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要, 12, 73-84.
- ・Allison Shorten, Ikuyo Torigoe, Lisa Weinstein, Andrey Muto. (2014). Continuity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons learned from Japanese midwives. *Journal of Midwifery & Women's Health*. 59 (5), 551.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・箱崎友美, 鳥越郁代, 佐藤香代. 帝王切開分娩による出産満足度と産褥早期のうつ傾向の関連, 第6回 (30回) 日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・横手直美, 鳥越郁代, 山下恵. VBAC(帝王切開後経膈分娩)に挑戦した女性の出産体験—統合分析の結果—, 第6回 (30回) 日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・鳥越郁代, 横手直美, 山下恵. VBAC(帝王切開後経膈分娩)に挑戦した女性の出産体験—個別分析の結果—, 第6回 (30回) 日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 吉田静. 中国天津地域における大学生の食文化—中国の文化・教育と食の実態との関連—, 第6回 (30回) 日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20

- ・石村美由紀, 佐藤香代, 小林絵里子, 吉田静, 鳥越郁代. 身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験, 第 6 回 (30 回) 日本助産学会学術集会, 京都, 2016.3.19-20
- ・Ikuyo Torigoe, Shizuka Yoshida, Allison Shorten, Evaluation of a decision aid program for women choosing method of birth previous caesarean in Japan. ICM 11th Asia Pasific Regional Conference, 2015. 7.20-22
- ・Ikuyo Torigoe, Shizuka Yoshida, Allison Shorten. Birth choice after cesarean section in Japan: focusing on giving information about VBAC and repeat cesarean. ICM 30th Triennial Congress, Prague, Czech Republic, 2014.6.2
- ・山名栄子, 江上千代美, 田中美智子, 鳥越郁代, 松浦賢長, 松尾ミヨ子, 照屋典子, 清水かおり, 中嶋恵美子, 小池秀子, 石橋通江, 正野逸子. 九州沖縄看護系大学 8 大学の統一コード化からみた慢性看護の現状, 第 8 回日本慢性看護学会学術集会, 2014.7.5-6
- ・Allison Shorten, Ikuyo Torigoe, Lisa Weinstein, Andrey Muto. Continuity, Confidence, Compassion and Culture: Lessons learned from Japanese midwives. The American College of Nurse-Midwives' 59th Annual Meeting. USA., 2014.5

③過去の主要業績

- ・鳥越郁代. (2000). 「第 10 章子どもを産む」, 成山文夫, 石川道夫編著『家族・育み・ケアリング』, 163-178, 北樹出版.
- ・鳥越郁代. (2002). 「第 6 章一対一の助産実践を提供して満足感を得る (Providing one-to-one practice and enjoying it)」 翻訳, Lesley Ann Page 原著『The New Midwifery: science and sensivity in practice』, 鈴木江三子監修『新助産学』, 129-149, メディカ出版.
- ・鳥越郁代. (2009). シンポジウム『帝王切開分娩を経験した女性のための出産選択の支援』を開催して」, 助産雑誌, 63(1), 54-58.
- ・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀. (2012). 助産師学生の分娩期助産課程の到達状況に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 9 (2), 53-61.

3. 外部研究資金

- ・科学研究費 (基盤研究 C) (研究分担者)、横手直美: 緊急帝王切開に対する妊婦の適応力を高める出産準備教育プログラムを用いた介入研究, 平成 24 年度~28 年度
- ・科学研究費 (基盤研究 B) (研究分担者), 横手直美 (研究代表者): 緊急帝王切開における妊婦の適応力を高める教育プログラム PEACE のアプリへの応用, 平成 29 年度~31 年度

4. 所属学会

日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本看護科学学会

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学・2 単位・2 年・後期, 女性看護実践論・2 単位・2 年・前期, 通年, 国際看護論・2 単位・4 年・前期, 女性看護実習・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・前期

<大学院>

助産学特論・2 単位・1 年・前期, 助産実践学Ⅱ・4 単位・通年・1 年, コミュニティ助産学特論・1 単位・後期・1 年, 助産学実習Ⅲ・2 単位・前期・2 年, 助産学実習Ⅴ・2 単位・後期・2 年, 助産実践アドバンス特論・1 単位・後期・1 年, 助産学課題研究・4 単位・通年・1~2 年

7. 社会貢献活動

- ・日本看護科学学会和文誌専任査読委員
- ・全国助産師教育協議会将来構想委員

8. 学外講義・講演

- ・ Midwifery in Japan: Historical viewpoints and current issues. Special Lecture for graduate students, and in Regular Meeting of Clinical Nurse Midwives in New Haven .Yale School of Nursing, Yale University West Campus,USA(2014.9.8)
- ・ 助産診断過程の展開, 福岡県看護協会助産師職能研修会. 福岡県看護協会 (2015.3.6)
- ・ 帝王切開を経験した女性の次子の出産選択における情報提供: 共有意思決定の支援の視点から. シンポジストとして, 帝王切開分娩の情報提供のあり方 (セミナー) : 女性はいつ、どのような情報を必要としているか. 中部大学名古屋キャンパス, 名古屋 (2015.3.8)
- ・ Midwifery in Japan: Special Lecture for Midwives in King Edward Memorial Hospital, Perth, Australia (2015.8.24)
- ・ TOLAC (既往帝王切開経膈分娩) 経験者の語りから分かること. シンポジストとして, 出産準備教育における帝王切開分娩の情報提供を考えるセミナー. 中部大学名古屋キャンパス, 名古屋(2016.3,13)

9. 附属研究所の活動等

- ・ 看護学部ヘルスプロモーション実践研究センター研究員
- ・ 第 21 回世にも珍しいマザークラス in 福岡 企画(2016.10)
- ・ 第 12 回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー 企画・運営(2017.2)

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	榎 直美
----	-------------	----	-----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

研究分野は「虚弱高齢者とその家族の支援」をテーマとし、特に近年は認知症を抱える家族介護者の“持てる介護力”に着目し、潜在的介護力を引き出し向上させていくための多職種が協働した効果的な介入方法について研究中です。介護保険制度が施行され家族の身体的介護負担は軽減された側面もありますが、孤立した家族介護者の寂しさや閉塞感は以前と変わっていないように感じます。本当に必要な看護支援を見出すためには、自ら介護家族者と触れ合いその苦悩を感じ取る感性が必要だと考えます。そのために介護する側とされる側の方々に寄り添った医療・福祉連携の多職種研修会や介護関係の研修会講師など地域での実践活動を積極的に行い、その活動を通して、介護保険制度にはないインフォーマルな関係性を構築していきたいと思えます。そして目指すはエビデンスに基づいた家族介護者のエンパワメント向上への看護支援です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・ 博士論文；家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究—家族介護者の介護力向上のために必要な看護支援の検討—。北九州市立大学大学院社会システム研究科地域社会システム専攻博士後期課程，2015.
- ・ 丸山 泰子・榎 直美・横尾 美智代. 介護老人保健施設の看護職の役割・認識とやりがい感との関連. 日本看護研究学会雑誌, Vol38, No5, P23-32, 2016.
- ・ 尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—。福岡県立大学看護学研究紀要 14(1), 2017.
- ・ 増満誠, 藤野靖博, 榎直美, 村田節子, 淵野由夏, 松枝美智子, 宮城由美子, 鳥越郁代, 吉田静, 坂田志保路, 山下清香, 阿部真理子, 吉田恭子, 江上千代美, 石村美由紀, 吉川未桜, 柴北早苗, 原田直樹, 杉本みぎわ. 新旧カリキュラムにおける臨地自習での看護技術習得状況. 福岡県立大学看護学研究紀要 14(1), P65-73, 2017.

<報告書>

- ・ 文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究 C), 「通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究」報告書, 2015, 研究代表者.
- ・ 文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究 B), 「経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究」報告書, 2014, 共同研究(研究代表者: 安酸史子).

②その他最近の業績

<学会報告>

- ・ 榎直美, 久保哲郎, 杉本みぎわ, 原田和昭, 小林繁, 長江紀子. 医療・介護・福祉の多職種から捉える「介護連携」の在り方と課題(その2)—北九州在宅医療・介護塾研修会でのグループワークより—. 第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会. 久留米, 2017. 2月.
- ・ 久保哲郎, 榎直美, 八田妙子, 讃井一美, 高田芳信, 田代久美枝. 医療・介護・福祉の多職種から捉える「介護連携」の在り方と課題(その1)—北九州在宅医療・介護塾の設立とその歩み—. 第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会. 久留米, 2017. 2月.
- ・ 杉本みぎわ, 久保哲郎, 榎直美, 林田優子, 和田和人, 山本節子. 医療・介護・福祉の多職種から捉える「介護連携」の在り方と課題(その3)—北九州在宅医療・介護塾研修会でのグループワークより—. 第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会. 久留米, 2017. 2月.

- ・ 政時和美,村田節子,宮園真美,今丸満美,吉田恭子,櫛直美, 杉本みぎわ,柴北早苗,吉村美奈子. 訪問看護ステーションのがん支援に関する意識調査～「キャンサー・ナーシング・カフェ」の取り組み～. 第18回日本看護医療学会,名古屋. 2016. 9月.
- ・ 村田節子,宮園真美,政時和美,今丸満美,吉田恭子,櫛直美,杉本みぎわ,柴北早苗,吉村美奈子. がん療養生活の選択に影響を与えるもの～地域で語り合うがんとの向き合い方(第2報)～. 第18回日本看護医療学会,名古屋, 2016. 9月.
- ・ 御手洗裕子, 田中洋子, 渡邊智子, 櫛直美. 精神科病院の看護管理者による認知症高齢者の早期退院に向けた取り組みと今後の課題ー認知症治療病棟における人材育成ー. 第21回日本老年看護学学会, 2016年.
- ・ 野口忍, 尾形由起子, 櫛直美, 岡田麻里. 地域包括ケアシステムの基盤となる人生最期の過ごし方を自ら選択できる住民への教育について. 第35回日本看護科学学会交流集会, 広島, 2015.12月.
- ・ 櫛直美, 尾形由起子, 横尾美智代, 田渕康子. 家族介護者の介護力獲得のための看護支援方法の検討“看護師に対するニーズと介護力の関連性から” 第35回日本看護科学学会, 広島, 2015.12月.
- ・ 岩崎玲奈 村田節子, 櫛直美, 小出昭太郎. 治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援の現状と関連要因の検討. 第29回日本がん看護学会, 横浜, 2015年2月.
- ・ 岩崎玲奈 村田節子, 櫛直美, 小出昭太郎. 治癒が困難になったがん患者の療養上の意思決定支援における家族支援の現状と関連要因の検討. 第29回日本がん看護学会, 横浜, 2015年2月.
- ・ 尾形由紀子, 岡田麻里, 野口忍, 櫛直美. がんの終末期療養者配偶者が行った「在宅看取り」に向うセルフマネジメントプロセス. 第19回日本在宅ケア学会, 福岡, 2014年11月.
- ・ 櫛直美, 尾形由起子, 田渕康子, 横尾美智代「家族介護者の介護力向上における看護支援の検討」第18回日本在宅ケア学会, 東京,2014年3月.

3. 外部研究資金

- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C (平成 26～28 年)「認知症高齢者を抱える家族介護者の介護力獲得支援プログラムの有効性に関する研究」研究代表者 (2,549 千円)
- ・ 文部科学省科学研究費補助金、基盤 C (平成 26～28 年)「地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発」研究分担者 (代表 ; 尾形由紀子)

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本在宅ケア学会、日本健康教育学会、日本老年看護学会、日本看護学教育学会、日本公衆衛生学会、日本地域看護学会

6. 担当授業科目

老年看護学・2単位・2年・後期,老年看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期,老年看護学演習Ⅱ, 1単位・3～4年・通年, 老年看護実習Ⅰ・1単位・2年・通年,老年看護実習Ⅱ・2単位・3～4年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 統合実習・2単位・4年・前期,卒業研究・2単位・4年・後期,老年看護学特論・2単位・修士1年,老年看護学演習・2単位・修士1年, 高齢者医療保健福祉政策・ケアシステム論2単位・修士1年,

7. 社会貢献活動

- ・ NPO 法人「ヘルスアイランドライツサポートうりずん」第三者評価委員会理事
- ・ NPO 法人「福祉・医療機関教育評価機構」理事・第三者評価委員
- ・ NPO 法人「生涯現役支援センター」高齢者健康相談員
- ・ 平成 28 年度「人に優しい町・田川をつくる会」理事

- ・北九州在宅医療・介護塾世話人として年間を通して多職種連携研修会やフォーラム等開催による実践活動.
- ・北九州在宅医療・介護塾「排泄ケアを考える 2017 フォーラム」2017. 3月. コーディネーター.
- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参画し年間を通し地域住民との協同的実践活動.

8. 学外講義・講演

- ・川崎町立病院研修会講師「要介護高齢者の身体の動かし方」. 川崎, 2016年9月.
- ・北九州市介護従事者研修会講師「高齢者の誤嚥予防～あきらめない食事へのアプローチ～」ウエル戸畑, 2016年9月、10月.
- ・職業訓練法人福岡地区職業訓練協会主催, 福祉用具専門相談員指定講習会講師「介護の知識、介護概論」職業訓練法人福岡地区職業訓練協会, 2015年9月.
- ・NPO 法人生涯現役支援センター講師「健やかに老いる」行橋.2016年8月.

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員.
- ・筑豊市民大学ヘルシーエイジングゼミ講師「食事と健康法」, 福岡県立大学. 2016年6月.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	田中 美樹
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 23 年より当大学に就任。主な研究分野は、あらゆる健康段階の子どもたちが地域社会で安全・安楽に成長発達できるための研究および小児看護学教育方法に関する研究である。具体的には、小児科外来・クリニックにおける家族向けプレパレーションツールの開発や、保育所における子どもや家族に対する健康教育、保育士さんに対する保育看護などを通して、子どもと子どもに関わる家族や専門職者の方への支援内容や支援方法の開発および、子どもとの関わり体験が少ない学生が子どもをイメージし、適切な看護につなげられるよう教育方法の工夫や開発を行っている。

2. 研究業績

①著書・論文

- ・江上千代美、田中美智子、柏原やすみ、田中美樹、吉川美桜、青野広子、宮城由美子、「眼球運動指標による新人看護師への看護技術支援の評価」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13no.1、2016 年 掲載決定 (2016 年 1 月 25 日受理)
- ・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子「赤ちゃん先生を活用した小児看護技術演習の効果」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13no.1、2016 年 掲載決定 (2016 年 1 月 12 日受理)
- ・青野広子、吉川未桜、田中美樹、江上千代美、宮城由美子「小児看護技術支援における看護学部 4 年生の医療的看護技術の傾向と感想の検討」福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.13no.1、2016 年 掲載決定 (2016 年 1 月 25 日受理)
- ・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、「小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み」、福岡県立大学看護学部研究紀要、Vol.12 no.1、2015 年
- ・田中美樹、「保育所における食物アレルギーをもつ子どもと保護者に対する看護職の取り組み」、保育と保健、vol.19 no.1.pp45-48、2013 年
- ・田中美樹、「保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援」保育と保健、vol.19 no.2.pp68-72、2013 年

②その他の業績

〈学会発表〉

- ・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、柿木里香、青野広子、吉田麻美、仲村彩「外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーション」、第 25 回日本外来小児科学会、2016 年 8 月、高松
- ・吉川未桜、青野広子、仲村彩、吉田麻美、田中美樹、宮城由美子「赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護学演習の意義と課題～参加したママ講師・トレーナーへのアンケートより～」第 15 回九州・沖縄小児看護教育研究会、2016 年 8 月、沖縄
- ・宮城由美子、吉川未桜、田中美樹、青野広子、「食物アレルギー児の緊急対応に関する保育士の認知について」、第 21 回日本保育保健学会、2015 年 10 月、鹿児島
- ・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、柿木里香、「外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレーションツールの開発」、第 25 回日本外来小児科学会、2015 年 8 月、仙台／第 19 回九州外来小児科学研究会、2015 年、福岡
- ・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、柿木里香、「外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーション」、第 25 回日本外来小児科学会、2015 年 8 月、仙台
- ・吉川未桜、青野広子、田中美樹、宮城由美子、「小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み」、第 15 回九州・沖縄小児看護教育研究会、2014 年 8 月、熊本
- ・田中美樹、宮城由美子、吉川未桜、青野広子、池隅好乃、山田智子、岡田久美子、柿木里香、「外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスター」、第 24 回日本外来小児科学会年次集会、2014 年 8 月、大阪

- ・青野広子、田中美樹、吉川未桜、宮城由美子、「小児看護学外来実習で受け持ち親子制を取り入れた学習効果の検討」、日本看護研究学会第19回九州・沖縄地方会学術集会、2014年11月、熊本
- ・宮城由美子、柏原やすみ、吉川未桜、田中美樹、青野広子、「『保育園におけるアレルギー対応の手引き』導入後の食物アレルギーの認知に関する研究」、第16回日本子ども健康科学学会学術大会、2014年12月、京都

③過去の主要業績

- ・吉川未桜、柏原やすみ、田中美樹、宮城由美子、「小児看護学実習で絵本の読み聞かせを行った学生の学び - 保育所実習のレポートから -」、第32回日本看護科学学会学術集会、2012年12月、東京
- ・田中美樹、吉川未桜、柏原やすみ、宮城由美子、「保育所における慢性疾患をもつ子どもへの支援」、第14回日本子ども健康科学学会学術集会、2012年12月、東京
- ・宮城由美子、吉川未桜、田中美樹、柏原やすみ、「保育士と看護職と協働で行う健康保育 - 保育士から見た健康保育の効果 -」、第14回日本子ども健康科学学会学術集会、2012年12月、東京

3. 外部研究資金

文部科学省研究費助成事業・研究分担者、「気になる子どもを含む発達障がい児の外来受診時における包括的支援プログラム開発」2014～2017（延長）

5. 所属学会

日本小児保健協会、日本外来小児科学会、日本子ども健康科学学会、日本保育園保健協議会、九州・沖縄小児看護教育研究会、日本看護研究学会、日本小児看護学会

6. 担当授業科目

「小児看護学概論」・1単位・2年前期、「小児看護学」・2単位・2年・後期、「小児看護学演習Ⅰ」・1単位・3年、「小児看護学演習Ⅱ」・1単位・3年、「小児看護学実習」・2単位・3年、「専門看護学ゼミ」・2単位・3年、4年前期、「統合実習」・2単位・4年、「卒業研究」・2単位・4年、「小児看護特論」・2単位・大学院1年・前期、「小児看護学演習」・2単位・大学院1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・子どもの検査・処置に対する家族の理解向上のための活動：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション用ポスター・下敷き（吸入編・採血編）を作成し全国の病院・クリニックに配布
- ・田川郡保育士会研修会
- ・前向き子育てセミナー田川市「子どもの事故と子育てのヒント」
- ・健康保育活動「自分のからだ大切に！」（田川市立幼稚園）

8. 学外講義・講演

- ・田川市ファミリーサポート養成講座「子どもの事故防止の基礎知識」2016年11月
- ・福岡県立筑紫高等学校出前講義「子どもの世界～遊びを通して看護しよう！～」2016年8月

9. 付属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	古田 祐子
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

肌トラブルを有する新生児・乳児の皮膚生理機能及び皮膚洗浄法に関する研究や助産師教育、特に、学生の助産技術・健康教育到達度に関する研究を主な研究分野としている。また、月経に関心を持ち、ヘルスプロモーション実践研究センターでは“性の健康に関する事業”の責任者として、女性の健康に関するなんでも相談、月経に関連した講座（布ナプキン作成講座・マンスリーボックス講座等）を開催している。その他、地域貢献活動として、中学生・保護者・教育者を対象とした性教育や子育て講演活動を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・古田祐子.『第106回看護師国家試験対策テスト第1回解答・解説』.メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2016.4
- ・古田祐子.『第106回看護師国家試験対策テスト第2回解答・解説』.メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2016.7
- ・古田祐子. 乳児の皮膚洗浄法が乳児と実施者である養育者に及ぼす影響-異なる3つの洗浄法の分析より-, 福岡県立大学看護学部紀要 15(1), 福岡県立大学,25-33.2016.3
- ・古田祐子, 安河内静子. 簡易型S皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響, 福岡県立大学看護学部紀要 15(1), 福岡県立大学,11-20.2016.3
- ・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代. 学士課程における助産実践能力(分娩介助技術および健康教育)の到達状況と課題-9年間の調査より-, 福岡県立大学看護学部紀要 15(1), 福岡県立大学,1-10.2016.3
- ・古田祐子.『第105回看護師国家試験対策テスト第3回解答・解説』.メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2015.11
- ・古田祐子. 乳児の肌トラブル発症に影響を及ぼす沐浴教育要因, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学,1-11.2015.3
- ・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代.助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究-その要因と回復の促進-, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学, 13-23 .2015.3
- ・安河内静子,古田祐子,佐藤香代. 大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要 14(1), 福岡県立大学, 53-62 .2015.3
- ・古田祐子.『2015年受験者対象第1回看護師国家試験対策テスト解答・解説』.メディカコンクール委員会編集, メディカ出版, 大阪, 2014.

②その他最近の業績

<報告書>

- ・古田祐子. 肌トラブルを有する乳児の皮膚洗浄法に関する研究-S洗浄法の母子に及ぼす影響-. 基盤研究(c)研究成果報告書, 2016.6.

<学会発表>

- ・淵上結香理, 古田祐子. 授乳期の女性に対するハンドマッサージの生理的効果. 日本母性衛生学会, 東京, 2016. 10. 15.
- ・佐藤繭子, 古田祐子. 看護系女子学生の布製ナプキン使用感. 日本助産学会, 京都市, 2016.3.20.
- ・古田祐子, 安河内静子. S洗浄法が実施者と肌トラブルを有する乳児(60日未満)に及ぼす影響. 日本科学学会, 広島市, 2015.12.5.
- ・古田祐子, 安河内静子, 鳥越郁代. 3つの異なる沐浴法が乳児の表皮 pH・角層水分・皮脂量に及ぼす影響. ICM アジア,横浜市, 2015.7.21.

- ・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代. 学士課程における分娩介助技術習得の分析-9年間の分娩介助技術到達度調査から-. ICM アジア,横浜市, 2015.7.20.
- ・古田祐子, 村田千代子. 病産院での沐浴教育が要因と考えられる乳児の肌トラブル事例報告. 日本助産師学会. 福岡. 2014.5.24
- ・古田祐子, 安河内静子, 鳥越郁代. Usefulness of a skin cleansing method developed by midwife M for infants with skin disorders. ICM, Prague Congress center. 2014.6.2
- ・石村美由紀,古田祐子,佐藤香代. 助産実習における学生のパワーレス状態からの回復に必要な要因. 日本母性衛生学会.千葉. 2014.9.14

<印刷物>

- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.62「子育て・女性健康支援センターにおける活動の今」2017.2
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.62「平成28年度表彰者紹介」2017.2
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.62「母子保健活動に関する情報交換会報告」2017.2
- ・一般社団法人助産師会ニュースレターNo.61「副会長挨拶～人を大切にする組織に～」2016.7

<座長>

- ・一般演題：第一群. 福岡母性衛生学会,2014.7.6.福岡市
- ・一般演題（ポスター）：子育て支援.日本助産学会,2014.3.22.長崎県

<査読>

- ・第70回日本助産師学会 査読者 2014.2～3
- ・第29回日本助産学会学術集会 査読者 2014.7～10

<小冊子作成>

- ・古田祐子. 『布ナプキンワークショップ』.2015.9
- ・古田祐子. 『布ナプキン』.2014.8

③過去の主要業績

- ・古田祐子. 第1部第3節「乳児の表皮PH・水分量・皮膚温の測定」, 技術情報協会監修『皮膚の測定・評価法バイブル』初版,技術情報協会,東京, 417-427, 2013.
- ・古田祐子, 安河内静子. 皮膚トラブルを有する生後3ヶ月未満児の表皮 pH・水分量・皮膚温の皮膚洗浄前後の変化.母性衛生 51 (2), 320-328, 2010.
- ・村田千代子, 古田祐子. 『Baby エステ』, 權歌書房. 全124頁. 2008.
- ・古田祐子, 分娩介助技術指導において助産師学生に「わかった」と認識させる指導者の言語的教育技法, 『母性衛生』, 45 (2), 2004.

3. 外部研究資金

平成27年度文部科学省科学研究費助成事業, 科学研究費補助金(基盤(C)), 肌トラブルを有する乳児の皮膚洗浄法に関する研究-S洗浄法の母子に及ぼす影響-, 5,200,000円(平成27年度交付金700,000円), 平成24年度～平成27年度, 研究代表者.

4. 表彰

公衆衛生事業功労者県知事表彰, 2017.2

5. 所属学会

日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本思春期学会, 福岡県母性衛生学会(評議員), 日本看護科学学会, 日本看護技術学会, 日本看護研究学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学概論・1単位・2年・前期, 女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・通年, 女性看護学実習・2単位・3～4年・通年, 統合実習・2単位・4年・前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前年, 助産学演習・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅲ・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅳ・2単位・1年・後期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期, マネジメント助産学・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅰ・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ・8単位・1年・後期, 助産学課題研究・4単位・1～2年・通年, 臨床看護学特別研究・8単位・1～2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県母性衛生学会評議員
- ・0歳期からの親子教室企画運営委員. 田川市教育委員会. 2015.5～2017.3
- ・日本助産師評価機構助産実践個人認証評価部評価委員. 2015.4～2016.6
- ・一般社団法人福岡県助産師会副会長. 2016.5～現在
- ・福岡県助産師会子育て・女性健康支援センター実務責任者. 2016.5～現在

8. 学外講義・講演

- ・福岡県看護実習指導者講習会「助産師養成課程」講師, 福岡県看護協会. 2016.6.28.福岡市.
- ・性の健康に関する事業「マンスリービクス 月経のブルーな気分にはさようなら」講師. 2016.6.29.田川市.
- ・性教育講演「いのちの誕生 男女交際などの思春期の性」講師. 香春町立勾金中学校, 2016.7.5. 田川市
- ・性教育講演「かけがえのない存在、今が未来をつくる」講師、香春中学校, 2016.7.7. 田川市
- ・性の健康に関する事業「布ナプキンって？」講師. 附属研究所, 2016.7.21. 田川市
- ・性教育講演「大切にしたい私たちの性」講師、東穂波中学校, 2016.9.16. 飯塚市
- ・子育て講座「家庭でできる性教育～0歳から中学生まで～」, 2016.10.30. 田川市
- ・ラッキー自動車株式会社研修会「タクシードライバーへの妊婦・出産等に関する研修会」講師. 2016.12.13. 福岡市
- ・性の健康に関する事業「布ナプキン講座」. 福岡県助産師会, 2017.2.21. 福岡市

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・月経の健康に関する事業 (責任者)

〈企画・運営事業〉

- ・マンスリービクス
- ・布ナプキンワークショップ
- ・女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」(運営メンバー)
- ・不妊に悩む女性のホットスポット

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	松枝 美智子
----	-------------	----	-----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1) 学歴

久留米大学医学部看護専門学校で看護の基礎教育を受け、佛教大学通信教育部社会福祉学科にて学士(社会福祉学)を取得。兵庫県立大学大学院看護学研究科で修士(看護学)を取得。神戸大学大学院保健学研究科博士後期課程を満期修了退学。

2) 職歴と教育業績

基礎教育後、久留米大学病院の精神神経科病棟、脳神経外科病棟、放射線科・第4内科病棟にて看護師として勤務。平成7年から5年間、久留米大学医学部看護学科成人・老年看護学講座にて助手として勤務し、主に精神看護学実習を担当。平成16年に福岡県立大学看護学部にて助教授として着任。看護学部、平成19年度からは大学院看護学研究科看護学専攻で研究コースを担当。平成22年度からはそれらに加えて専門看護師コース(精神看護学,26単位)で精神看護学を担当。平成27年度に日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会の認可を受け、平成28年4月より専門看護師コース(精神看護学,38単位)を開講。地域精神看護又はリエゾン精神看護のサブスペシャリティを持つ精神看護専門看護師の育成と、在学中・修了後の継続的なキャリア形成支援に力を注いでいる。38単位精神看護専門看護師コースでは、これまで学部での実習教育で経験型実習教育を展開してきた経験をもとに、精神看護専門看護師コースの教育を「経験型実習教育」(安酸,2015)で展開する。

3) 研究活動

興味を持っている主な研究の焦点は次のとおりである。

- (1)精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の開発
- (2)モジュール型精神障害者社会復帰援助研修プログラムの作成
- (3)安酸(2015)が提唱する経験型実習教育の学士過程と修士課程の実習における展開
- (4)臨床と専門看護師教育課程の連携による高度実践看護師のキャリア形成支援システムの構築に関する研究

研究方法は研究テーマにより異なるが、特定の理論に基づかない質的・記述的研究方法、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、文献研究、量的研究方法、混合研究法などの指導が可能である。近年は研究疑問に関連する現象を多角的な観点から描き出せる混合研究法に魅力を感じている。

4) 社会的活動

福岡県下の精神看護専門看護師の実践能力の向上、精神看護専門看護師の活動への理解の普及、精神看護専門看護師を活用する側とされる側の相互理解の促進を目的に、「福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会」を平成29年3月に設立し、平成30年度から本格的に活動を開始する。現在、正会員、賛助会員、施設会員を募集中。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・川野雅資編.(2016).精神看護学.東京;ピラールプレス.(Chapter2 精神看護学の理論と技術、Chapter4 状態像と看護の一部を分担・共同執筆)
- ・安酸史子.(2015).経験型実習教育.東京;医学書院(精神看護学実習に関する部分を分担・共同執筆)
- ・川野雅資編.(2015).精神看護学II:臨床精神看護学.第6版,東京;スーヴェルヒロカワ.(第1章の2のセルフケア理論を分担・共同執筆)

<論文>

江上史子,松枝美智子,村田節子,松井聡子,永嶋由理子.(2016)A 県における高度実践看護師の雇用

ニーズ調査—看護管理者が雇用しない理由とその障壁—.福岡県立大学看護学研究紀要,pp.109-117.

〈学会発表〉

- ・安藤愛,松枝美智子.(2016). 看護系大学生が就職先を精神科に決定する要因.日本教師学学会第17回大会, 奈良県生駒郡.
- ・松枝美智子,村田節子,江上史子,松井聡子,永嶋由理子.(2015). A 県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師(Advanced Practice Nurse)に提供したいと考えている支援.第41回日本看護研究学会学術集会,広島市.
- ・松枝美智子,渡邊智子,江上史子,村田節子,永嶋由理子.(2015). A 県の医療機関等の看護管理者がAPNを雇用したい理由.第46回(平成27年度)第35回日本看護学会学術集会:看護管理,福岡市.
- ・松枝美智子,松井聡子,江上史子,渡邊智子,村田節子,永嶋由理子. A 県内医療機関等の看護管理者によるAPN教育のあり方に関する要望.日本看護科学学会学術集会,広島市.
- ・江上史子,松枝美智子,村田節子,松井聡子,永嶋由理子.(2015). A 県の医療機関等に所属する看護管理者の高度実践看護師に対する雇用ニーズ:雇用しない理由. 第46回(平成27年度)第35回日本看護学会学術集会:看護管理,福岡市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授-学習活動との関連.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から看護したいと思うことに関連する要素.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う程度とその理由.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・池田智,松枝美智子.(2014).大学病院に勤務する新卒看護師のSense of Coherenceと職業性ストレス・精神健康度の関連.産業精神保健,22, 72.
- ・江上史子, 安酸史子, 渡邊智子, 榎直美, 吉田恭子, 浅井初, 坂田志保路, 松枝美智子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂, 中野榮子. 経験型実習教育における学生の学びの内容(第2報)—3年生を対象としたフォーカスグループインタビューから—. 日本教師学学会第15回大会, 2014年3月.
- ・江上史子, 浅井初, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 小森直美, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小野美穂. 経験型実習教育における学生の学びの内容—3年生を対象としたフォーカスグループインタビューから—. 日本教師学学会第14回大会, 2013年3月.
- ・浅井初, 江上史子, 坂田志保路, 安酸史子, 渡邊智子, 松枝美智子, 安永薫梨, 中野榮子, 榎直美, 吉田恭子, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂. 経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討—実習の中間にポートフォリオを活用した学習による体験から—. 日本教師学学会第14回大会, 2013年3月.
- ・松枝美智子,安酸史子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路, 中野榮子,渡邊智,榎直美,吉田恭子,江上史子,清水夏子,小森直美,小野美穂. 経験型実習教育研修プログラムの効果:研修参加の有無による精神科看護師の教師効力の比較.日本教師学学会第14回自由研究発表,秋田市,2013年3月.

②その他の最近の業績

- ・安酸史子,中野榮子,榎直美,小森直美,松枝美智子,渡邊智子,小野美穂,安永薫梨,浅井初,江上史子,清水夏子,吉田恭子,坂田志保路.(2013).経験型実習教育の研修プログラムの有効性に関する研究.平成21年~平成24年度科学研究費補助金,基盤研究(B)研究成果報告書(研究代表者:安酸史子,課題番号21390571)
- ・安酸史子企画・著作,安酸史子,松枝美智子監,安酸史子,松枝美智子,安永薫梨,浅井初,坂田志保路.(2013).経験型実習教育の研修プログラム:ビデオ教材(精神看護学編).平成21年~平成24年度科学研究費補助金,基盤研究(B)(研究代表者:安酸史子,課題番号21390571)

- ・安酸史子企画・著作,安酸史子,中野榮子監,安酸史子,中野榮子,小野美穂,清水夏子,松枝美智子. 経験型実習教育の研修プログラム:ビデオ教材(成人看護学編). 平成 21 年~平成 24 年度科学研究費補助金,基盤研究(B) (研究代表者:安酸史子,課題番号 21390571)

③過去の主要業績

- ・松枝美智子, 坂田志保路, 安永薫梨, 浅井初, 梶原由紀子, 北川明, 中野榮子, 安酸史子, 安田妙子, 政時和美, 松井聡子.(2011).精神科超長期入院患者の社会復帰援助レディネス尺度の検討: 因子分析と信頼性の検証. *福岡県立大学看護学研究紀要*,9,(1),1-10.
- ・松枝美智子,安永薫梨,安田妙子,大見由紀子.(2008).精神看護実習で学生の患者ケアへの内発的動機づけが高まる要因. *福岡県立大学看護学研究紀要*,5(2),66-79.
- ・松枝美智子.(2005).精神科超長期入院患者の社会復帰援助が成功するシステム上の要因:日本版治療共同体の実践の分析から. *福岡県立大学看護学部紀要*,2(2),80-91.

5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本看護学教育学会、日本家族看護学会、日本 CNS 看護学会、日本集団精神療法学会、日本老年看護学会、日本看護学会、日本精神科看護学会、日本認知療法学会、日本教師学学会、日本 CNS 看護学会

6. 担当授業科目

1)看護学部

精神看護学概論・2単位・2年・前期、精神看護学実習・2単位・3年後期~4年前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・通年、卒業研究・2単位・4年・後期

2)大学院

(1)研究コース

精神看護学特論・2単位・1年次・前期、精神看護学演習・2単位・1年次・後期、臨床看護学特別研究 8 単位・1-2年・通年

(2)精神看護専門看護師コース

精神看護関連法規・制度・政策論・2単位・通年、精神看護論・2単位・前期、精神看護アセスメント論・2単位・通年、精神看護セラピーⅠ・2単位・通年、精神看護セラピーⅡ・2単位・通年、リエゾン精神看護論・2単位・通年、精神障がい者地域移行・地域定着看護論、精神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・通年、精神看護専門看護師役割実習 2 単位・通年 (以上、1年次)、精神科診断治療実習・2単位・通年、Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習・2単位・通年、Advanced 精神看護専門看護師役割実習・2単位・通年 (以上、2年次)、課題研究・4単位・1-2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・平成 24 年度~平成 28 年度まで日本看護学会誌(精神看護)の論文選考委員
- ・第 4 回精神看護ディスコース研究会誌の査読委員
- ・福岡県精神看護専門看護師活動促進協議会代表

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員.

松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,中本亮.福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻精神看護セミナーⅠ, 2016.6.25.

第一部:グループスーパービジョン

スーパーバイザー: 長谷川病院精神看護専門看護師 後藤優子先生

スーパーバイジー:一本松すずかけ病院 精神看護専門看護師 山本智之様

第二部 講演

テーマ:「精神科病院における精神看護専門看護師の活動の実際」

講師:長谷川病院精神看護専門看護師 後藤優子先生

第三部 事例検討会

事例提供:見立病院 3 病棟 主任 田中章二様、看護師 青木門様 薙野恭平様

- ・松枝美智子,安永薫梨,中本亮. 福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻精神看護セミナーⅡ, 2016.9.17.

第一部 グループ・スーパービジョン

スーパーバイザー: 滋賀医科大学医学部附属病院 精神看護専門看護師 安藤光子先生

スーパーバイザー:久留米大学病院デイケアセンター看護師 山下真範様

第二部 講演

テーマ:「大学病院における精神看護専門看護師の活動の実際」

講師:滋賀医科大学医学部附属病院 精神看護専門看護師 安藤光子先生

第三部 事例検討会

事例提供:(株) 麻生 飯塚病院 西 1 階病棟看護師 大場裕司様.

- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,中本亮. 福岡県立大学大学院看護学研究科看護学専攻精神看護セミナーⅢ,2017.3.14and2017.3.14and3,20.

第一部 グループ・スーパービジョン

スーパーバイザー: 熊本大学大学院保健学教育部 教授 宇佐美しおり先生

スーパーバイザー:福岡県立大学 助教、一本松すずかけ病院精神看護専門看護師 宮崎初先生

第二部 講演

テーマ「オレム-アンダーウッドモデルを用いた、精神力動的看護アプローチ」、

講師 熊本大学大学院保健学教育部 教授 宇佐美しおり先生

事例検討会

事例提供:一本松すずかけ病院すずかけ 2 病棟看護師 四本優子様、北病棟看護師 大嶋竜次様.

- ・松枝美智子,石田智恵美,中本亮.大学院看護学研究科看護学専攻公開授業:特別研究、課題研究 2016.9.25.

講演テーマ:「グラウンデッド・セオリー・アプローチの理論と実際」

講師: 慶應義塾大学教授 戈木クレイグヒル滋子先生.

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	准教授	氏名	渡邊 智子
----	-------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

筑豊地域に住んで、Respect という Key 概念に出逢い、身体の動きが、暮らしぶりや価値観に影響していることを実感しました。行き着いた関心は、認知症があっても高齢者が健康な暮らしを送る上での支障となる不定愁訴を自ら管理する方法についてです。まず、高齢者が身体の動きをよくするための評価・介入する方法として、M-Test（身体の動きに伴って引き起こされる様々な症状を指標にして診断および治療を行うメソッド）の有用性を検討しています。M-Test を用いて、身体感覚に焦点をあて、ストレッチを行っています。健康サロンを継続して、3 年になりますが、高齢者の方々自ら、健康サロンを継続して行く動きが出てきました。そして、ツボ刺激について、わいわいがやがや意見を出し合って、学びを深めているところです。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

安酸史子, 北川明, 江上千代美, 江上史子, 奥祥子, 小野美穂, 金城やす子, 小森直美, 清水 夏子, 田中美延里, 塚原ひとみ, 坪井桂子, 中嶋恵美子, 中富利香, 二井矢清香, 原田奈穂子, 伴佳子, 松枝美智子, 宮野香里, 安永薫梨, 山住康恵, 吉田恭子, 渡邊智子. 経験型実習教育- 看護師をはぐくむ理論と実践. 東京: 医学書院, 2015 年.

<論文>

吉田恭子, 渡邊智子. 10 年後もその先も、住みたいところに住み続ける互助・共助：地域住民の支え合いを活用した支援プログラムの効果と課題. 認知症ケア事例ジャーナル 6(4), 2014 年.

<報告書>

渡邊智子, 吉田恭子. 老年看護学教育における経験型実習教育ツールの検討 臨床実習指導者のイメージ・マップを用いた臨床実習指導経験, 日本看護学教育雑誌 24 巻学術集会講演集, 2014 年.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ 渡邊智子, 吉田恭子. (2014). 老年看護学教育における経験型実習教育ツールの検討 臨床実習指導者のイメージ・マップを用いた臨床実習指導経験, 第 24 回日本看護学教育学会学術集会, 千葉.
- ・ 組坂由加里, 押尾雅代, 和田真由美, 渡邊智子. (2014). 高齢者患者の「食べたいという意思」を尊重した看護ケアに向かう看護師の思い. 第 14 回福岡県看護学会, 福岡.
- ・ 富田郁代, 佐藤恭子, 石井和久, 高島真琴, 組坂由加里, 渡邊智子. (2015). 胃瘻造設患者が経口摂取出来るようになり、食事への喜びが取り戻せたプロセス. 第 15 回福岡県看護学会, 福岡.
- ・ 津野静子, 中野徹, 麦原美喜子, 西田毅, 渡邊智子. (2015). 在宅生活を送る排便障害のある 認知症高齢者の排便コントロール. 筑豊看護学会, 飯塚.
- ・ 松枝美智子, 松井聡子, 江上史子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由理子. (2015). A 県内医療機関等の看護管理者による APN 教育のあり方に関する要望, 第 35 回日本看護科学学会学術集会, 広島.
- ・ 江上史子, 松枝美智子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由理子. (2015). APN の雇用ニーズ調査: 看護管理者が雇用しない理由, 第 46 回日本看護学会-看護管理-学術集会, 福岡.
- ・ WatanabeTomoko, EgamiFumiko. (2015). The factors of continuing the volunteer activity that nursing undergraduates valued dialogue between elderly people, ICCHNR 国際地域看護学会, ソウル.
- ・ 岡野ひとみ, 白川あすか, 松岡晶子, 宝来和恵, 北澤明美, 今仁世都代, 舟越千絵, 渡邊智子. (2016). 上部消化管内視鏡検査を受ける高齢者への視覚媒体使用の有用性. 第 47 回日本看護学会-慢性期看護, 鳥取.
- ・ 梅木美恵, 迎田直美, 樋口絹代, 渡邊智子. (2016). 徘徊高齢者が住みなれた地域で暮らすための介護支援専門員の役割-徘徊高齢者支援の実態調査より-. 筑豊看護学会, 飯塚.

- ・渡邊智子, 御手洗裕子, 生駒 千恵, 石本 佐和子, 廣瀬 理絵, 江上 史子, 出口 敏江, 藤澤 美奈, 松枝 美智子. (2016). M-Test を活用した高齢者健康サロンでの看護師ヘルス・ボランティア活動, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・御手洗裕子, 渡邊智子. (2016). 精神科病院の看護管理者による認知症高齢者の早期退院に向けた取り組みと今後の課題-看護倫理実践に向けた環境づくり-. 第26回日本精神保健看護学会. 滋賀.

〈資格〉

End-of-Life Nursing Education Consortium Trainer 【ELNEC - G179】 2013年8月.

〈保有学位〉

看護学修士

③過去の主要業績

- ・渡邊智子. (2001). 痴呆症高齢者ケアの場における判断の構造. 兵庫県立看護大学大学院修士論文.
- ・渡邊智子. (2001). 中西睦子監修, 水谷信子編著「老人看護学」(担当箇所「閉じ困りがちな高齢者」), 62-71. 建帛社
- ・渡邊智子, 八島妙子, 茂野香おる, 井上映子, 杉田由加里, 酒井郁子, 吉本照子. (2006). 介護老人保健施設での看護・介護職者が有する倫理的ジレンマ-高齢者の生活リズムに調整に関して-, 第36回日本看護学会論文集-看護管理-, p392-p394.
- ・渡邊智子. (2010). 中西睦子監修, 安酸史子編著「実践成人看護学-慢性期」(担当箇所「第3部V肝硬変-希望を持って生きるための支援」), 143-154. 建帛社.

3. 外部研究資金

文部省科学研究費 挑戦的萌芽研究 高齢者の身体活動量維持のための M-Test を用いたセルフマネジメントに関する研究 3,640,000円 H27.4-H29.3.

5. 所属学会

日本老年看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本教師学学会, 日本地域看護学会 各会員

6. 担当授業科目

〈学部〉老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年, 老年看護学概論・1単位・2年・前期, 老年看護学・2単位・2年・後期, 老年看護学演習Ⅱ・1単位・3年・通年, 老年看護学実習Ⅱ・3単位・3年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 老年看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 看護研究・2単位・3年・後期, 統合実習・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉課題研究・4単位・修士1年・通年, 老年看護学特論・2単位・修士1年・前期, 老年看護学演習・2単位・修士1年・前期, 高齢者健康生活アセスメント論・2単位・修士1年・前期, 老年病診断治療学・1単位・修士1年・前期, 老年病診断治療学演習・1単位・修士1年・前期, 高齢者看護方法論・2単位・修士1年・前期, Adフィジカルアセスメント・2単位・修士1年・後期, 高齢者地域・家族看護方法論・1単位・修士1年・後期, 高齢者保健医療福祉政策・ケアシステム論・2単位・修士1年・後期, 終末期高齢者看護論・2単位・修士1年・後期, 終末期老年看護実習Ⅰ・2単位・修士1年・後期, 終末期老年看護実習Ⅱ・3単位・修士1年・後期, 臨床看護学特別研究・8単位・修士2年・通年

7. 社会貢献活動

- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」アドバイザー、福岡ヘルシー・エイジングケア研究会：企画・準備・開催
- ・田川市地域支え合い体制づくり会議委員 見守り部会担当
- ・田川市男女共同参画審議会委員

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践教育センター研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	石村 美由紀
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

特に不妊支援、妊婦教育、助産教育に関する研究に取り組んでいる。不妊支援においては、不妊専門相談センターのあり方に関する研究を行うとともに、不妊当事者のおしゃべり会開催や行政の不妊相談員として活動している。妊婦教育においては、身体感覚活性化マザークラスの企画・運営に携わり、その効果を広く報告している。助産師教育においては、助産学実習における学生のパワーレスに関する研究や、分娩介助技術習得過程に関する研究を行っている。また小中高校生対象の性教育も積極的に行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・石村美由紀(2014). 不妊専門相談センター活動における職種間連携と看護職への期待—看護職の立場から—. 日本生殖看護学会誌 11(1), 73-77.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代(2015). 助産実習における学生のパワーレス状態に関する研究—その要因と回復の促進—. 福岡県立大学看護学部紀要 12(1), 13-23.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 林千絵, 清田哲子(2016). 死産を体験した母親の次子の妊娠・出産・育児に関する研究(第 1 報)—次子妊娠の体験の語りから—. 母性衛生 56(4), 692-700.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代, 鳥越郁代(2016). 学士課程における助産実践能力(分娩介助技術および健康教育)の到達状況と課題. 福岡県立大学看護学部紀要 13(1), 1-10.
- ・石村美由紀. (2016). 「自治体ウェブサイトから得られる不妊専門相談センター事業の情報と課題」. 日本生殖看護学会誌 13(1), 21-27.

②その他最近の業績

- ・石村美由紀, 佐藤香代, 小林絵里子(2014). 看護学生のマザークラス企画による学び—身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して—. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会, 千葉. 2014.9.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代(2014). 助産実習における学生のパワーレス状態からの回復に必要な要因. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会, 千葉. 2014.9.
- ・林千絵, 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 清田哲子(2014). 死産を体験した母親の次子妊娠の体験. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会, 千葉. 2014.9.
- ・林千絵, 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 清田哲子(2014). 死産を体験した母親の次子出産・育児の体験. 第 55 回日本母性衛生学会学術集会, 千葉. 2014.9.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 佐藤繭子, 道園亜希(2015). 身体感覚活性化マザークラス(世にも珍しいマザークラス)に参加した妊婦の変化—バースプランの分析から—. 第 24 回福岡母性衛生学会学術集会, 福岡. 2015.7.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代(2015). 学士課程における分娩介助技術習得の分析—9 年間の分娩介助技術到達度調査から—. 第 11 回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会, 横浜. 2015.7.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子(2015). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活. 第 56 回日本母性衛生学会学術集会, 岩手. 2015.10.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 小林絵里子, 吉田静, 鳥越郁代(2016). 身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験. 第 30 回日本助産学会学実集会, 京都, 2016.3.
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 鳥越郁代, 石村美由紀(2016). 中国における大学生の食文化 - 中国の文化・教育と食の実態との関連 -. 第 30 回日本助産学会学実集会, 京都, 2016.3.

③過去の主要業績

- ・鳥越郁代, 藤木久美子, 古田祐子, 佐藤繭子, 安河内静子, 吉田静, 小林絵里子, 佐藤香代, 石村美由紀(2012). 助産師学生の分娩期助産過程の到達状況に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要 9(2), 53-61.
- ・石村美由紀(2011). 不妊専門相談センターの役割の実態—不妊当事者の認知と利用—. 母性衛生 52(2), 319-326.
- ・石村美由紀, 浅野美智留, 佐藤香代(2009). 不妊女性における苦悩とその克服—女性の語りから考察する—. 母性衛生 49(4), 592 - 601.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 森純子(2009). 第3回「身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス」医療者向けセミナーの企画・開催に関する一考察. 福岡県立大学看護学部紀要.
- ・石村美由紀(2009). 不妊支援を目的とした「子どもの有無を越えた共感型フォーラム」の試みと意義. こころの健康, 24(2), 68-74.
- ・石村美由紀, 古田祐子, 佐藤香代(2009). 分娩介助技術の習得過程—本学での分娩介助技術評価調査より—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 7(1), 18 - 28.

5. 所属学会

日本母性衛生学会, 日本助産学会, 日本不妊カウンセリング学会, 日本精神衛生学会, 日本生殖看護学会, 日本思春期学会, 日本看護科学学会ほか

6. 担当授業科目

<学部>

女性看護学(2)・2年後期, 女性看護学演習Ⅰ(1)・3年前期, 女性看護学演習Ⅱ(1)・3年前期～4年後期, 女性看護学実習(2)・3年後期～4年前期, 専門看護ゼミ(2)・3年通年, 卒業研究(2)・4年通年, 統合実習(2)・4年前期,

<大学院>

助産学特論(2)・1年前期, 助産学演習(2)・1年後期, ウイメンズヘルスト論(1)・1年前期, ウイメンズヘルズ演習(1)・1年後期, 基礎助産学特論(2)・1年前期, 基礎助産学演習(2)・1年通年, 助産実践学Ⅰ(2)・1年前期, 助産実践学Ⅱ(4)・1年通年, 助産学実習Ⅰ(1)・1年前期, 助産学実習Ⅱ(8)・1年生後期, 助産学実習Ⅲ(2)・2年生前期, 助産学実習Ⅳ(1)・2年生前期, 助産学実習Ⅴ(2)・2年生後期, 助産実践アドバンス特論(1)・1年生後期, 助産実践アドバンス実習(4)・2年生前期

7. 社会貢献活動

- ・北九州市不妊専門相談センター 不育症相談担当
- ・福岡県助産師会 子育て女性健康支援センター 相談業務

8. 学外講義・講演

- ・性教育「大切なあなたの性 - “こころ”と“からだ”を正しく知ろう-」. 香春町立香春中学校1年生. (2016.7)
- ・性教育「大切なあなたの性 - “こころ”と“からだ”を正しく知ろう-」. 福岡市立多々良中学校2年生. (2016.11)
- ・性教育「いのちの誕生—大切なあなた-」. 下関市立安岡小学校. (2017.2)

9. 附属研究所の活動等

- ・健康大使への継続教育: 「健康大使セミナー」開催、福岡(2016.8)
- ・身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス (田川) レッスン1～5 (2016.6～7月)
- ・身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス (福岡) (2016.10～11月) 6回

- ・ 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス (北九州) (2016.10～11 月) 5 回
- ・ 性の健康に関する事業：不妊のおしゃべり会(2016.3 月)
- ・ 身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー(2016.10)

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	大島 操
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

成人看護学（慢性期）を担当しています。これまで、終末期看護やさまざまな場で働く看護師の役割について研究してきました。現在は、糖尿病や高血圧など生活習慣病に対する看護師の患者指導について関心をもっています。特にクリニックなどで慢性疾患を有する患者にかかわる看護師の役割は重要と考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 大島操, 新居富美, 安部恭子(2015) : 診療所における看護師の役割に関する文献的検討,九州看護福祉大学紀要,15,81-89.
- ・ 大島操, 藤本明日香, 新居富美, 安部恭子(2014) : 一般診療所における看護師による糖尿病患者指導,日本医学看護学教育会誌,23(1), 7-11.

③過去の主要業績

- ・ 大島操, 赤司千波, 柴北早苗(2012) : 介護付有料老人ホームと認知症グループホームにおける終末期ケアおよび看取りの現状と看護職者の思い,日本看護研究学会雑誌,35(1), 175-181.
- ・ 赤司千波, 大島操, 中山晃志(2011) : 介護付有料老人ホームにおける終末期ケアおよび看取りケアの実態,日本看護学会論文集（老年看護）41号,121-124.

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会、日本医学看護学教育学会、看護経済・政策研究学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人慢性看護学・2単位・2年・後期、成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性看護学実習・3単位・3～4年・後期～前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	中井 裕子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

総合病院内科系病棟での臨床勤務の後、2001年に千葉県立衛生短期大学助手として着任。2010年4月に本学講師として着任し、成人看護学（急性期）の教育に携わっています。主な研究分野は周手術期看護、高齢者看護、看護教育です。主な研究テーマは周手術期患者のニーズ、高齢者に対する急性期看護、臨床での看護学生のリアリティショックを緩和するための演習方法の検討です。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子: A地区におけるAEDの配置に関する調査研究, 福岡県立大学看護学研究紀要, 2014.
- ・松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子: 視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～, 福岡県立大学看護学研究紀要, 2014.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子: 視聴覚教材が成人看護技術演習の事前学習に及ぼす影響～eラーニングを使用して～, 日本看護研究学会第42回学術集会, 茨城, 2016.
- ・野口未生, 廣兼利来, 村田節子, 中井裕子: 化学療法を受ける高齢者の苦痛に関する文献検討, 日本看護研究学会第41回学術集会, 広島, 2015.
- ・廣兼利来, 野口未生, 村田節子, 中井裕子: 日本人看護師と外国人患者の間に生じる課題に関する文献検討, 日本看護研究学会第41回学術集会, 広島, 2015.
- ・政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子: 過疎地域におけるAED設置の問題点, 日本看護科学学会第34回学術集会, 愛知, 2014.
- ・政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子: A地区におけるAED設置調査, 第40回日本看護研究学会学術集会, 奈良, 2014.

③過去の主要業績

- ・中井裕子, 比田井理恵, 小林繁樹: 1看護アセスメント 患者の安全の確保と精神的援助, 小林繁樹編集, 新看護観察のキーポイントシリーズ 脳神経外科, 中央法規出版, 2011.
- ・中井裕子, 榎本麻里, 三枝香代子, 堀之内若名: 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討(第二報), 千葉県立衛生短期大学紀要, 27(1・2), 143-151, 2009.
- ・三枝香代子, 榎本麻里, 中井裕子, 堀之内若名: クリティカルケアの演習における教育方法の検討—患者急変時デモンストレーションの有効性についての分析—, 千葉県立衛生短期大学紀要, 27(1・2), 109-115, 2009.
- ・中井裕子, 堀之内若名, 三枝香代子, 榎本麻里: 成人看護学急性期実習における看護技術教育の検討, 千葉県立衛生短期大学紀要, 26(2), 105-112, 2008.
- ・大谷則子, 堀之内若名, 中井裕子, 榎本麻里: 手術室見学実習における学び—二つの実習形態の比較検討による考察—, OPE NURSING, 21(6), 98-108, 2006.

5. 所属学会

日本看護学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護学教育学会, 日本看護技術学会, 日本老年社会科学会

6. 担当授業科目

成人急性看護学・2単位・2年・後期，成人看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期，成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期，成人急性看護学実習・3単位・3年・通年，専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年，統合実習・2単位・4年・通年，卒業研究・2単位・4年・後期，成人看護学特論・2単位・修士1年・2単位・前期，成人看護学演習・2単位・修士1年・後期

7. 社会貢献活動

九州がんプロフェッショナル養成プランに関する活動，村田節子，宮園真美，赤司千波，中井裕子，大島操，政時和美，松井聡子，柴北早苗．福岡県立大学主催．第42回～第46回福岡県立大学がん看護勉強会，福岡県立大学．

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	安河内 静子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1990年から5年間、九州大学医学部附属病院周産母子センターで勤務(助産師)、1996年より8年間、福岡市保健福祉センター(保健師)で勤務。2004年3月国際医療福祉大学大学院保健医療学専攻修了後、4月より本学に着任、現在に至る。

女性がエンパワーメントしていく過程を支援する身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの開催やリカレント教育、乳児の皮膚と洗浄法に関する研究、妊産婦の禁煙プログラムに関する研究に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・古田祐子, 安河内静子. 簡易型S皮膚洗浄法が肌トラブルを有する乳児と実施者である養育者に及ぼす影響, 福岡県立大学看護学部紀要 15, 福岡県立大学, 11-20. 2016.
- ・安河内静子, 古田祐子, 佐藤香代. 大学院における助産師教育に対するニーズ調査, 福岡県立大学看護学部紀要 14, 福岡県立大学, 53-62. 2015.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮, 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要 12, 25-35. 2015.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要 12, 73-84. 2015.

②その他最近の業績

<報告書>

- ・Yuko Furuta, Shizuko Yasukouchi, Ikuyo Torigoe. Usefulness of a skin cleansing method developed by midwife M for infants with skin disorders. International Confederation of Midwives. 2014, 6.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. (2014). 病産院における「身体感覚活性化マザークラス」の展開時の課題—A 病院助産師へのアンケート調査より—. 第55回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. (2014). 「身体感覚活性化マザークラス」参加経験が、病産院のマザークラス運営への意識に及ぼす影響について. 第55回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 鳥越郁代. (2014). 中国における女子大学生の食文化—中国の文化・教育と食の実態との関連—. 第55回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.

③過去の主要業績

<教材開発>

- ・佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践. 2012年.
- ・古田祐子, 安河内静子. (2012). 乳児の皮膚トラブルに対する皮膚洗浄法の有用性. 日本看護技術学会誌, 11(3), 35-45.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静, 石村美由紀, 森純子, 鳥越郁代. (2010). 医療者が「身体感覚活性化マザークラス」を体験した効果—体験録の分析から—. 福岡県立大学看護学部紀要 7(2), 63-71.
- ・古田祐子, 安河内静子. (2010). 皮膚トラブルを有する生後3か月未満児の表皮pH・水分量・皮膚温の皮膚洗浄前・後の変化. 母性衛生, 51(2), 320-328.
- ・安河内静子, 佐藤香代. (2008). 田川市における妊娠期から産後の女性の喫煙行動の実態. 福岡県立大学看護学部紀要, 6(1), 55-63.

〈学会発表〉

- ・古田祐子, 安河内静子. (2015). S洗浄法が実施者と肌トラブルを有する乳児 (60日未満) に及ぼす影響. 日本科学学会, 広島.
- ・古田祐子, 安河内静子, 鳥越郁代. Usefulness of a skin cleansing method developed by midwife M for infants with skin disorders. ICM, Prague Congress center. 2014.6.2
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子(2015). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活. 第56回母性衛生学会学術集会, 岩手.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015). 中国における中国伝統医療の現状—北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して—. 第56回母性衛生学会学術集会, 岩手.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. (2014). 病産院における「身体感覚活性化マザークラス」の展開時の課題—A病院助産師へのアンケート調査より—. 第55回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. (2014). 「身体感覚活性化マザークラス」参加経験が、病産院のマザークラス運営への意識に及ぼす影響について. 第55回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 鳥越郁代. (2014). 中国における女子大学生の食文化—中国の文化・教育と食の実態との関連—. 第55回日本母性衛生学会学術集会, 千葉.

5. 所属学会

日本母性衛生学会、日本助産学会、日本看護科学学会、日本禁煙科学学会、日本思春期学会、日本看護技術学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護演習Ⅰ・1単位・3年・通年, 女性看護学演習Ⅱ・3~4年・通年, 女性看護学実習・2単位・3~4年・通年, 統合実習・2単位・4年・通年, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期

〈大学院〉

助産学特論・2単位・1年・前年, 助産実践学Ⅰ・1単位・1年・前期, 助産実践学Ⅱ・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅲ・2単位・1年・後期, コミュニティ助産学特論・1単位・1年・後期, コミュニティ助産学演習・2単位・1年・後期, 助産学実習Ⅰ・2単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ・2年・前期, 助産学実習Ⅳ・2年・前期, 助産学実習Ⅴ・2年・2単位・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	安永 薫梨
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年3月に福島県立医科大学大学院看護学研究科修士課程修了。

2004年4月より本学に着任。

現在、研究に関しては、「精神科看護師用心的安全空間体験質問紙の開発」を目指して、精神科看護師を対象に「精神疾患を持つ患者に向けられた怒りへの看護」に関するグループインタビューを行っている。

教育に関しては、専門看護師コース(精神看護学分野)において、複雑で解決困難な精神の健康を持つ人およびその家族・集団への卓越した看護実践とそれに必要な組織変革ができる人を育成できるよう、自分自身の能力向上に努めていきたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・川野雅資編.(2016).精神看護学.東京；ピラールプレス.
- ・安酸史子.(2015).経験型実習教育.東京;医学書院(Chapter2 精神看護学の理論と技術、Chapter4 状態像と看護の一部を分担・共同執筆メディカコンクール委員会編, 安永薫梨.(2014).「精神看護学」担当「メディカコンクール」;2015年受験者対象基礎学力到達度チェックテスト解答・解説」.メディカ出版.

<論文>

- ・安永薫梨, 宇佐美しおり(2017).「境界性パーソナリティ障害を持つ患者の怒りに対する看護介入～精神看護専門看護師(CNS)への面接調査の分析から～」.福岡県立大学看護学部研究紀要.第14巻,掲載予定.
- ・安永薫梨(2015).「精神科看護における患者から看護師への暴力(Violence)」に関する文献レビュー.日本精神保健看護学会誌, 24(1),1-11.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・安永薫梨(2016).統合失調症患者の精神科看護師への怒りと看護介入のあり方.国際力動的心理療法学会第22年次大会抄録,p25.
- ・安永薫梨(2015).精神看護専門看護師(CNS)による怒りへの加入技法とその評価.国際力動的心理療法学会第21年次大会抄録,p46.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授-学習活動との関連.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から看護したいと思うことに関連する要素.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.
- ・松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う程度とその理由.第34回日本看護科学学会学術集会,名古屋市.

③過去の主要業績

- ・安永薫梨.(2010).精神科病院における患者から看護師への暴力の実態と看護の在り方～看護師に暴力を振るった患者を対象とした質問紙調査より～,福岡県立大学看護学研究紀要, 7(2),72-81.
- ・安永薫梨.(2006).精神科閉鎖病棟における患者から看護師への暴力の実態とサポート体制,日本精神保健看護学会誌, 15(1), 96-103.
- ・安永薫梨.(2005).精神科閉鎖病棟において患者から看護師への暴力が起こった状況と臨床判断.福岡県立大学看護学部紀要, 2(1), 11-20.

3. 外部研究資金

文部科学省、科学研究費補助金（若手研究 B）、「精神科病棟における患者から看護師への暴力防止のための患者教育プログラムの開発」、224 万円、平成 22 年度～平成 26 年度.

5. 所属学会

日本精神保健看護学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会、日本看護協会、日本 CNS 看護学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

精神看護学概論・2 単位・2 年・前期、精神看護学・2 単位・2 年・後期、精神看護学演習 I・1 単位・3 年前期、精神看護学演習 II・1 単位・3 年後期~4 年前期、精神看護学実習・2 単位・3 年後期~4 年前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、統合実習・2 単位・通年、卒業研究・2 単位・4 年

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮.平成 28 年度精神看護セミナー I (2016.6.25)
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮.平成 28 年度精神看護セミナー II (2016.9.17)
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮.平成 28 年度精神看護セミナー III (2017.3.14,2017.3.20)

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	講師	氏名	吉川 未桜
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

小児看護学教育方法に関する研究と、看護職による子育て支援に関する研究を行っている。学生が子どもと家族へ適切な看護が行えるよう、子どもの反応を具体的にイメージでき、小児看護実践能力を身につけられる教育方法の探求を行っている。また、子どもと家族が心身共に健康に過ごし、健やかな成長発達へと結びつための看護職によるよりよい子育て支援に向け、子育てを取り巻く環境や現象・養育者の方々のニーズ、地域子育て支援の現場における看護職の役割や専門性、望ましい役割モデルを探究している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護技術演習の効果。福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号。2016 年 3 月。
- ・江上千代美・田中美智子・柏原やすみ・田中美樹・吉川未桜・青野広子・宮城由美子：新卒看護師に対する輸血の準備に関する看護技術教育前後の変化—眼球運動指標による評価—。福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号。2016 年 3 月。
- ・青野広子・吉川未桜・田中美樹・江上千代美・宮城由美子：小児看護技術支援における看護学部 4 年生の看護技術動作の傾向と感想の検討。福岡県立大学看護学部紀要 13 巻 1 号。2016 年 3 月。
- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み。福岡県立大学看護学部紀要 12 巻 1 号。2015 年 3 月。

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護学演習の意義と課題～参加したママ講師・トレーナーへのアンケートより～。第 17 回九州・沖縄小児看護教育研究会。沖縄。2016 年。
- ・宮城由美子・吉川未桜・田中美樹・青野広子：食物アレルギー児の緊急対応に関する保育士の認知について。第 21 回日本保育保健学会。鹿児島。2015 年。
- ・田中美樹・宮城由美子・吉川未桜・柿木里香：外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレーションツールの開発。第 25 回日本外来小児科学会。仙台市。2015 年。
- ・田中美樹・宮城由美子・吉川未桜・柿木里香：外来で検査・処置を受ける子どもと家族の力を引き出すプリパレーションツールの開発。第 19 回九州外来小児科学研究会。福岡市。2015 年。
- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを導入した小児看護技術演習における教育効果の検討。第 19 回日本看護研究学会 九州・沖縄地方学術集会。熊本。2014 年。
- ・青野広子・田中美樹・吉川未桜・宮城由美子：小児看護学外来実習で受け持ち親子制を取り入れた学習効果の検討。第 19 回日本看護研究学会九州・沖縄地方学術集会。熊本。2014 年。
- ・吉川未桜・青野広子・田中美樹・宮城由美子：小児看護学演習における赤ちゃん先生プログラム導入の試み。第 15 回九州・沖縄小児看護教育研究会。熊本。2014 年。
- ・宮城由美子・柏原やすみ・吉川未桜・田中美樹・青野広子：「保育園におけるアレルギー対応の手引き」導入後の食物アレルギーの認知に関する研究。第 16 回日本子ども健康科学学会。京都。2014 年。
- ・田中美樹・青野広子・吉川未桜・宮城由美子：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプレパレーション。第 24 回日本外来小児科学会。大阪。2014 年。

<その他執筆>

吉川未桜。小児看護学執筆分担。第 103 回看護師国家試験(追加試験)の解説。メディカ出版。2014 年。

5. 所属学会

日本看護科学学会・日本小児看護学会・日本看護研究学会・日本小児保健協議会・日本保育園保健学会・九州小児看護教育研究会・子ども健康科学学会

6. 担当授業科目

小児看護学・2単位・2年・後期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期、小児看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期、統合実習（小児）・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・後期

8. 学外講義・講演

- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：子どもの健康見守り隊：健康保育（年少～年長）．田川市中央幼稚園．田川市．2016年6月22日，9月7日
- ・吉川未桜：平成28年度糖尿病認定看護師教育課程「患者および家族・重要他者などの対象理解；乳幼児・学童の成長発達と特徴」2016年8月9日．田川．
- ・田中美樹・吉川未桜・仲村彩・吉田麻美：保育看護 in 田川．田川郡保育士会学習会．「子どもの事故・けいれんへの対応」2016年7月25日．田川．
- ・吉川未桜：平成28年度田川市子育てボランティア養成講座・ファミリーサポートセンター会員養成講習会「小児看護の基礎知識」講師、田川市．2016年10月25日．

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究委員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	江上 史子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

精神科看護の場における認知症高齢者の看護や、家族支援、リハビリテーション看護に関心があります。精神科における認知症ケアについては、これからも取り組んでいきたい課題の一つです。認知症高齢者と家族の支援に関する研究では、相談活動を通して、対象が築いてきた人生や価値観に寄り添う関わりの重要性を実感しています。

老いや病に向き合うことは、本人にも援助者にも哀しみや苦しみを伴うことがあります。しかし同時に、人生の先輩としての豊かな人間性に触れ、教えられることや励まされることも多く、多様なライフスタイルのある現代の高齢社会において、人生の最後の時期である老年期を、その人らしい生活、尊厳ある人生を送るための支援に携わりたいと思っています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・安酸史子, 北川明, 江上千代美, 江上史子, 奥祥子, 小野美穂, 金城やす子, 小森直美, 清水夏子, 田中美延里, 塚原ひとみ, 坪井桂子, 中嶋恵美子, 中富利香, 二井矢清香, 原田奈穂子, 伴佳子, 松枝美智子, 宮野香里, 安永薫梨, 山住康恵, 吉田恭子, 渡邊智子. 経験型実習教育-看護師をはぐくむ理論と実践. 東京: 医学書院, 2015年12月.
- ・江上史子, 松枝美智子, 村田節子, 松井聡子, 永嶋由理子. A県における高度実践看護師の雇用ニーズ調査-看護管理者が雇用しない理由とその障壁-. 福岡県立大学看護学研究紀要, 2016年3月.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・松枝美智子, 村田節子, 江上史子, 松井聡子, 永嶋由理子. A県の医療施設等の看護管理者が高度実践看護師 (Advanced Practice Nurse) に提供したいと考えている支援. 一般社団法人日本看護研究学会第41回学術集会, 2015年8月.
- ・松枝美智子, 渡邊智子, 江上史子, 村田節子, 永嶋由理子. A県の医療機関等の看護管理者が APN を雇用したい理由. 第46回日本看護学会-看護管理-学術集会, 2015年9月.
- ・松枝美智子, 松井聡子, 江上史子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由理子. A県内医療機関等の看護管理者による APN 教育のあり方に関する要望. 第35回日本看護科学学会学術集会. 2015年12月
- ・江上史子, 松枝美智子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由理子. APN の雇用ニーズ調査: 看護管理者が雇用しない理由. 第46回日本看護学会-看護管理-学術集会, 2015年9月.
- ・渡邊智子, 御手洗裕子, 生駒千恵, 石本佐和子, 廣瀬理絵, 江上史子, 出口敏江, 藤澤美奈, 松枝美智子. M-Test を活用した高齢者健康サロンでの看護師ヘルス・ボランティア活動の可能性. 第36回日本看護科学学会学術集会. 2016年12月.

③過去の主要業績

- ・平林美保, 江上史子, 梅垣順子, 松岡千代, 水谷信子. 高齢者看護が担う痴呆症相談活動の課題と方向性-「高齢者もの忘れ看護相談」を通して-, 兵庫県立看護大学 附置研究所推進センター研究報告集 Vol.1, p39-45, 2003年3月.
- ・南裕子 (主任研究者), 水谷信子 (分担研究者), 松岡千代, 平林美保, 江上史子, 梅垣順子 (研究協力者). 「高齢者もの忘れ看護相談」の効果-継続的利用により介護家族に生じた変化について-平成17年3月厚生労働科学研究研究費補助金 医療技術評価総合研究事業、平成16年度総括・分担研究報告書 p31-51, 2005年3月.
- ・江上史子. 精神病院に勤務する看護師の認知症高齢者の持つ力へのアプローチ-認知症高齢者の表現する力に焦点をあてて-, 兵庫県立大学大学院 修士論文, 2007年3月.

5. 所属学会

日本老年看護学会、日本災害看護学会、日本認知症ケア学会、日本教師学学会、日本看護科学学会、日本看護学教育学会

6. 担当授業科目

老年看護学概論・1単位・2年・前期、老年看護学・2単位・2年・後期、老年看護学実習Ⅰ・1単位・2年・通年、老年看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、老年看護学演習Ⅱ・1単位・3~4年・後期~前期、老年看護学実習Ⅱ・3単位・3~4年・後期~前期、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、卒業研究・2単位・4年・後期、認知症高齢者看護論・2単位・修士2年・前期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学看護実践教育センター、糖尿病看護認定看護師教育過程での講義(相談・1単位・前期)
- ・筑豊市民大学「ヘルシーエイジングゼミ」参加(通年・11回)

8. 学外講義・講演

職業訓練法人福岡地区職業訓練協会主催、福祉用具専門相談員指定講習会講師「介護サービスにおける視点」職業訓練法人福岡地区職業訓練協会、2016年9月。

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	小林 絵里子
----	-------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

1997年 市立名寄短期大学(現 名寄市立大学)看護学科卒業。

1999年 神戸大学医学部保健学科看護学専攻卒業。

2008年 北海道札幌医科大学大学院保健医療学研究科看護学専攻博士前期課程修了。

現在 神戸大学大学院保健学研究科保健学専攻看護学領域母性看護学分野博士課程後期課程在籍中。

大学病院で11年間看護師、助産師として臨床(外科領域(皮膚科・形成外科)、小児科、産科周産期科)を経験後、2010年4月より本大学に着任。

臨床では医療的ケアを必要としながら在宅療養へ移行する児とその家族に関するケアや、先天性の疾患を持ち、出生直後から手術までのコントロール目的に入院する児とその家族に対するケア、口唇裂・口蓋裂などの児の術前術後のケアを通じた母乳育児支援、小児科病棟や、外来での母乳育児支援を重点的に取り組んできた。NICU(新生児集中治療室)やGCUで母乳育児支援の啓蒙に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究に取り組んでおり、医療スタッフが正しい知識を持って、安心して楽しく母乳育児支援ができるよう、実践に生かせる研究をしたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・小林絵里子, 齋藤いずみ, 新野由子. (2016) .A 地区における周産期看護の現状～管理者への質問紙調査から～. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・佐藤繭子, 小林絵里子.(2016) .看護系大学の母性看護学における母乳育児支援教育の現状と課題. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・佐藤繭子, 小林絵里子. (2015) .タイ・ムアンコンケン郡における母乳育児支援の現状－コンケン大学の現地訪問を通して－. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2014) .中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2014) .中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要
- ・小林絵里子, 佐藤香代. (2014) .本学助産学課程におけるホリスティックケア履修者の学びと実践. 福岡県立大学看護学部紀要

②その他最近の業績

<教材開発>

佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体活性化(世にも珍しい)マザークラスの哲学と実践.,2012.

<学会発表>

- ・小林絵里子, 齋藤いずみ, 新野由子. (2016). A 地区における周産期看護の実情～母乳育児支援に焦点を当てて～,第31回日本助産学会学術集会,徳島
- ・佐藤繭子,佐藤香代,吉田静,小林絵里子,石村美由紀,鳥越郁代.(2016) 妊婦と育児中の母親が共に集い学び合う「身体感覚活性化マザークラス」を試みて,第31回日本助産学会学術集会,徳島
- ・小林絵里子,佐藤香代,吉田静,石村美由紀,鳥越郁代.(2015).中国天津地域における大学生の食文化-中国の文化・教育と食の実態との関連-,第30回日本助産学会学術集会,京都
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015)中国における中国伝統医療の現状－北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して－,第56回日本母性衛生学会総会・学術集会,岩手

- ・石村美由紀,佐藤香代,小林絵里子,吉田静,鳥越郁代.(2015).身体感覚活性化マザークラスに参加した妊婦のバースプランおよび出産体験, 第30回日本助産学会学術集会, 京都
- ・小林絵里子,佐藤香代,吉田静,安河内静子,鳥越郁代.(2014). 中国における女子大学生の食文化ー中国の文化・教育と食の実態との関連ー, 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会,千葉
- ・石村美由紀,佐藤香代,小林絵里子.(2014). 看護学生のマザークラス企画による学び-身体感覚活性化マザークラスのレッスン企画を通して-,第55回日本母性衛生学会総会・学術集会,千葉.
- ・佐藤繭子, 小林絵里子, 佐藤香代.(2014). 看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題, 第55回日本母性衛生学会総会・学術集会,千葉.

③過去の主要業績

- ・小林絵里子. (2009). コメディカルセッションシンポジスト 循環器領域におけるアロマセラピー. 第57回日本心臓病学会. 北海道
- ・瀬尾智子. 小林絵里子. 山岸映子. 多田香苗 (2007) 「新イノチェンティ宣言」翻訳
- ・小林絵里子. (2005). 「アロマセラピーの及ぼすリラクゼーション効果(担当部分単独執筆)」. 『Aromatopia Vol.14 No.2』, フレグランス・ジャーナル社.

5. 所属学会

日本助産学会／日本新生児看護学会／日本母性衛生学会／日本母性看護学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護学演習Ⅰ・2単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3年後期~4年前期, 女性看護学実習・2単位・3年後期~4年前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 卒業研究2単位・4年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

〈大学院〉

基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 助産学演習・2単位・1年・通年, ホリスティック助産学特論・2単位・1年・前期, ホリスティック助産学演習・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅱ(分娩期)・4単位・1年・通年, 助産実践学Ⅲ(産褥・新生児期)・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅳ(ハイリスクケア)・2単位・1年・後期, 助産学実習Ⅰ(外来ケア実習)・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期, 助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会理事・広報事業部員
- ・母乳育児支援を学ぶ北海道教室事務局
- ・母乳育児支援を学ぶ九州教室事務局
- ・九州母乳育児支援セミナー 代表

〈母乳育児支援に関するセミナー企画・運営〉

- ・平成28年度第1期20時間基礎セミナー(2016.5月~7月)
- ・平成28年度第2期20時間基礎セミナー(2016.9月~11月)
- ・第40回母乳育児学習会 in 神戸(2016.6.24-25)
- ・第12回医師のための母乳育児支援セミナー in 名古屋(2016.10.8-10.9)
- ・第14回母乳育児支援を学ぶ九州教室(2016.8.7-)
- ・第41回母乳育児学習会 in 東京(2017.1.25)
- ・第6回母乳育児支援20時間基礎セミナー in 長崎市医師会看護専門学校助産学科(2016.7.16-18)
- ・第14回母乳育児支援を学ぶ九州教室(2017.2.5)
- ・第14回IBCLCのための母乳育児カンファレンス in 京都(2017.2.24-25)

8. 学外講義・講演

- ・小林絵里子他. (2016). 第6回母乳育児支援20時間基礎セミナーin 長崎市医師会看護専門学校助産学科 ファシリテーター
- ・小林絵里子他. (2016). 第2回母乳育児支援20時間基礎セミナーin 大阪府立母子医療センター ファシリテーター
- ・小林絵里子. (2016). 新生児蘇生法講習会「専門」コースアップデート講習会 インストラクター(7回)
- ・小林絵里子. (2016). 第9回~第15回福岡県立大学新生児蘇生法講習会「専門」コース インストラクター
- ・小林絵里子. (2016). 福岡県看護協会助産師職能委員会 新人助産師合同研修(母乳育児支援)講師
- ・小林絵里子. (2016). 福岡県看護協会助産師職能委員会 院内助産スキルアップ研修(母乳育児支援)講師

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・第7回健康大使セミナー (2016.8.9)
- ・第12回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 田川 (2016.5~6)
- ・第11回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー (2016.10.9)
- ・第21回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 福岡 (2016.10)
- ・女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」主催
新生児蘇生法アップデート講習会・母乳育児相談

所属	看護学部／臨床看護看護学系	職名	助教	氏名	廣瀬 理絵
----	---------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了し、12月にがん看護専門看護師を取得しました。その後、超高齢社会である筑豊地域にある医療機関で5年間、がん看護専門看護師として活動してきましたが、「がん」と共に生きるだけでなく、「若い」を生きる人、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフ・ケアの必要性と困難さを痛感するとともに、ケアの喜びを実感してきました。高齢者が尊厳をもって生を全うするためには、家族や医療者の代理意思決定だけでなく、たとえ認知機能が低下していても、高齢者自身を尊重し、安心して意志を表現できるように過程を支えることが必要です。

今後も若いや病をもちながらも高齢者がその人らしく生活できるようにどのような支援が必要であるか、高齢者を対象としたエンド・オブ・ライフに関する研究に取り組んでいきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書

〈著書〉

廣瀬 理絵. (2015). 「認知機能低下がある終末期高齢がん患者の意思決定支援」, *Oncology NURSE*, 8 (6) p98-10.

②その他最近の業績

- ・ 渡邊智子, 御手洗裕子, 生駒千恵, 石本佐和子, 廣瀬理絵, 江上史子, 出口敏江, 藤澤美奈, 松枝美智子. (2016). M-Test を活用した高齢者健康サロンでの看護師ヘルス・ボランティア活動の可能性, 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・ 森崎直子, 工藤昌子, 廣瀬理絵. (2016). 在宅要介護高齢者の口腔関連 QOL と栄養状態, 日本老年看護学会第21回学術集会, 埼玉.

③過去の主要業績

〈学会報告〉

廣瀬 理絵, 伊福セツ子, 渡邊智子. (2013). がん看護専門看護師のコーディネーション～チーム医療の実践内容からの分析～, 日本看護倫理学会第6回年次大会, 鹿児島.

〈過去の業績〉

- ・ 廣瀬 理絵, 渡邊智子, 小島リヨ子, 浦田真澄美, 藤本弘美. (2010). 一般病棟における緩和ケアに携わるリンクナースのサポートシステムづくり リンクナースへの教育と啓発にむけての現状分析, 第40回日本看護学会論文集:看護管理, p51-53.
- ・ 廣瀬 理絵, 渡邊 智子, 藤本 弘美, 安永 一美, 伊福 セツ子, 小島リヨ子. (2010). リンクナースの教育と啓蒙に向けたサポートシステムの構築, *看護展望*, Vol35 (9), p0842-0847.
- ・ 廣瀬 理絵. (2010). がん看護専門看護師としての活動, *福岡県病院協会*, ほすびたる (No. 630), p4-6.
- ・ 廣瀬 理絵, 渡邊 智子. (2012). 終末期がん患者の意思決定への支援 意思決定内容とプロセスからの考察, 第26回日本がん看護学会学術集会, 島根.
- ・ 廣瀬 理絵, 伊福 セツ子, 藤本 弘美, 渡邊 智子. (2012). 医療チームとしての課題～がん相談内容からの分析～, 日本看護倫理学会 第5回年次大会, 東京.

3. 外部研究資金

研究奨励交付金: 研究課題「高齢者の生活行動維持に向けた M-Test の活用によるセルフ・マネジメントに関する研究」, 交付金額: 30,000 円, 研究期間: 平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月.

5. 所属学会

公益社団法人福岡県看護協会，公益社団法人日本看護協会，一般社団法人日本がん看護学会，特定非営利活動法人日本緩和医療学会，日本 CNS 看護学会，日本看護倫理学会，日本老年看護学会，日本看護科学学会，国際ケアリング学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

老年看護学概論・1 単位・2 年・前期、老年看護学・2 単位・2 年・後期、老年看護学実習Ⅰ・1 単位・2 年・通年、老年看護学演習Ⅰ・1 単位・2 年・前期、老年看護学演習Ⅱ・1 単位・3~4 年・後期~前期、老年看護学実習Ⅱ・3 単位・3~4 年・後期~前期

〈大学院〉

コンサルテーション論・2 単位・修士1 年・前期，終末期高齢者看護論・2 単位・修士1 年・後期，終末期老年看護実習Ⅰ・2 単位・修士1 年・後期，終末期老年看護実習Ⅱ・3 単位・修士1 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・「エンド・オブ・ライフ・ケアに関わる看護師のための研修会 ELNEC-J IN 筑豊」
- ・筑豊市民大学「ヘルシー・エイジングゼミ」参加

8. 学外講義・講演

LNEC-J コアカリキュラム看護師プログラム研修会，国家公務員共済組合連合会 浜ノ町病院 講師・ファシリテーター

9. 附属研究所の活動等

- ・筑豊市民大学 ヘルシー・エイジングゼミ
- ・福岡ヘルシー・エイジングケア研究会
- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	政時 和美
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

成人看護学領域の教育に携わっている。主な研究分野は教育に関する研究で、特に災害や救急に関する研究を行っている。また、2012年には、リンパ浮腫指導技能者の資格を得、リンパ浮腫に関する知識と技術を取得し、「リンパ浮腫」を通じて、弾性ストッキングや退院指導などの勉強会を開催している。今後は、リンパ浮腫に関する研究も行う予定である。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・ 政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子 : A 地区における AED の配置に関する調査研究, 福岡県立大学看護学部紀要, 2015
- ・ 松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子 : 視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～e ラーニングシステムを使用して～, 福岡県立大学看護学部紀要, 2015

②その他最近の業績

〈示説〉

- ・ 政時和美, 笹野莉奈, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子 : A 地区における AED 設置調査, 第 40 回日本看護研究学会, 2014
- ・ 政時和美, 笹野莉奈, 村田節子, 中井裕子 : 過疎地域における AED 設置の問題点, 第 34 回日本看護科学学会, 2014
- ・ 宮園真美, 村田節子, 政時和美 : 地域でがんについて語り合う「キャンサー・ナーシング・カフェ」の取り組み～医療者側スタッフの意識調査～, 第 17 回日本看護医療学会, 2015
- ・ 村田節子, 宮園真美, 政時和美 : 地域で語り合うがんとの向き合い方～キャンサー・ナーシング・カフェの取り組み～, 第 17 回日本看護医療学会, 2015
- ・ 政時和美, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子 : 看護学生における災害訓練体験からの学び, 第 42 回看護研究学会, 2016
- ・ 政時和美, 村田節子, 宮園真美, 今丸満美, 吉田恭子, 櫛直美, 杉本みぎわ, 柴北早苗, 吉村美奈子 : 訪問看護ステーション, 第 18 回日本看護医療学会, 2016
- ・ 松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子 : 視聴覚教材が成人看護技術演習の事前学習に及ぼす影響～e ラーニングシステムを使用して～, 第 42 回看護研究学会, 2016
- ・ 村田節子, 宮園真美, 政時和美, 今丸満美, 吉田恭子, 櫛直美, 杉本みぎわ, 柴北早苗, 吉村美奈子 : がん療養生活の選択に影響を与えるもの～地域で語り合うがんとの向き合い方 (第 2 報)～, 第 18 回日本看護医療学会, 2016
- ・ 堂脇遼, 村田節子, 政時和美 : 被災地域の支援活動に参加した看護師の精神的な変化とケアに関する文献検討, 第 18 回日本看護医療学会, 2016
- ・ 宮園真美, 村田節子, 政時和美, 今丸満美, 植木昭代 : 地域住民参加型プログラム「キャンサー・ナーシング・カフェ」実践への課題～主催者側スタッフの実施評価調査より～, 第 18 回日本看護医療学会, 2016

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本リンパ学会、日本看護研究学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人看護学概論・1 単位・2 年・前期、成人急性看護論・2 単位・2 年・後期、成人急性看護学実習・3 単位・3 年～4 年・前期～後期、成人看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、成人看護学演習Ⅱ・3 単位・3 年・前期、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年～4 年・前期、卒業研究・2 単位・4 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学がん看護勉強会（リンパ浮腫）
- ・西日本がんプロ合同市民公開シンポジウム分科会（乳がん担当）
- ・第1回がん・ナーシング・カフェ企画、開催（2015.1.31）
- ・第2回がん・ナーシング・カフェ企画、開催（2016.3.5）
- ・第3回がん・ナーシング・カフェ企画、開催（2016.6.25）

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	松井 聡子
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として外科・循環器内科での臨床経験を経て、2013年より本学に着任。成人看護学領域における急性期看護教育に携わっている。

演習での看護技術習得に加え、臨地実習での実践スキル向上を目指し、eラーニングシステムを活用して自宅や実習場所で学習が行えるような環境づくりを進めている。また、臨地実習で質の高い教育を実現するために、臨地実習施設の看護師と共同研究を進めている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・政時和美, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子. 総合防災訓練に参加した学生の学習意欲と学び. 福岡県立大学紀要, 14 (1), 2017.
- ・江上史子, 松枝美智子, 村田節子, 松井聡子, 永嶋由里子. A県における高度実践看護師の雇用ニーズ調査 - 看護管理者が雇用しない理由とその障壁 -. 福岡県立大学紀要, 13, 2016.
- ・松井聡子, 政時和美, 杉野浩幸, 村田節子, 中井裕子. 視聴覚教材が成人看護技術演習に及ぼした効果～eラーニングシステムを使用して～. 福岡県立大学紀要, 12, 2015.
- ・政時和美, 松井聡子, 笹野莉奈, 村田節子, 中井裕子. A地区におけるAEDの配置に関する調査研究. 福岡県立大学紀要, 12, 2015.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・政時和美, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子. (2016). 総合防災訓練に参加した学生の学習意欲と学び. 日本看護研究学会第42回学術集会. つくば国際会議場. 茨城.
- ・松枝美智子, 松井聡子, 江上史子, 渡邊智子, 村田節子, 永嶋由里子. (2015). A県内医療機関等の看護管理者によるAPN教育のあり方に関する要望. 日本看護科学学会学術集会. 広島国際会議場. 広島.
- ・政時和美, 松井聡子, 村田節子, 中井裕子. (2014). A地区におけるAED設置調査. 日本看護研究学会第40回学術集会. 奈良県民文化会館. 奈良.

③過去の主要業績

<著書>

松枝美智子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 松井聡子: 精神看護学. 安酸史子, 北川明編, 佐藤香代監修: 看護師国家試験過去問題「できる」「できない」カード式仕分け Book2012年. メディカ出版, 2011.

<論文>

松枝美智子, 坂田志保路, 安永薫梨, 浅井初, 梶原由紀子, 北川明, 中野榮子, 安酸史子, 安田妙子, 政時和美, 松井聡子: 精神科超長期入院患者の復帰援助レディネス尺度の検討: 因子分析と信頼性の検証. 福岡県立大学紀要, 9 (1), 2011.

<報告書>

平成21年度採択「大学教育充実のための戦略的学連携支援プログラム」看護系大学から発信するケアリング・アイランド九州沖縄構想プロジェクト 平成23年度中間報告書, 177-178頁, 2012. 3.

<学会発表>

清水夏子, 石田智恵美, 松井聡子, 安酸史子. (2013). 看護大学生が抱く実習直前の不安要因についての検討. 第33回日本看護科学学会学術集会. 大阪国際会議場. 東京.

5. 所属学会

日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本看護医療学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

成人看護学概論・1単位・2年前期, 成人急性看護学・2単位・2年後期, 成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年前期, 成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年前期, 成人急性看護学実習・3単位・3年後期～4年前期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年通年, 卒業研究・2単位・4年後期

7. 社会貢献活動

福岡県立大学がん看護勉強会

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	宮崎 初
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

2007年高知女子大学大学院看護学研究科修士課程看護学専攻修了。その後4年間、佐賀県内の病院にて外来、精神科病棟に勤務し、同時にプレ精神看護専門看護師、副看護師長の役割を担ってきました。2010年12月日本看護協会認定の精神看護専門看護師を取得し、2011年より本学に着任しました。同時に非常勤精神看護専門看護師としても、病院に出向き、精神科看護師の健康を保ちつつ、楽しみながら看護ができるように支援しています。

関心のある分野としては、精神科看護師のメンタルヘルス、精神科外来における精神科看護師のケアです。

教育に関しては、将来看護職者として働く時に必要なコミュニケーション能力の向上と共に、問題指向にならず患者の持っている力・ニーズをもとに患者や家族にアプローチできるように学生を育てていきたいと思っています。また、大学院の38単位精神看護専門看護師コースにおいては、精神看護専門看護師としての活動を通して蓄積した知識を、大学院での教育にも活かしていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<報告書>

宮崎初.精神科外来看護師の診療待ち患者に対する臨床判断のプロセス.2012～2015年科学研究費助成事業 研究成果報告書.2016年6月

<著書>

- ・川野雅資編,宮崎初,松枝美智子,宮野香里,安永薫梨,坂田志保路.(2016).看護実践 Science Nursing 精神看護学(家族機能の評価),110-117,東京,ピラールプレス
- ・川野雅資編,松枝美智子,宮崎初,宮野香里,安永薫梨,坂田志保路.(2016).看護実践 Science Nursing 精神看護学(対人関係論),36-44,東京,ピラールプレス
- ・川野雅資編,松枝美智子,宮野香里,宮崎初,安永薫梨,坂田志保路.(2016).看護実践 Science Nursing 精神看護学(重篤で難治性の精神障害を持つ人の看護),200-204,東京,ピラールプレス
- ・川野雅資編,松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,宮野香里,坂田志保路.(2016).看護実践 Science Nursing 精神看護学(不安障害と看護),190-193,東京,ピラールプレス

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・ Michiko Matsueda, Tomoko Watanabe, Kaori Yasunaga, Hajime Miyazaki, Ryo Nakamoto, Makoto Masumitsu, Fumiko Egami, Rie Hirose, Ai Ando : A literature review on caring in clinical nursing practice of nursing students, The 3rd International Conference on Caring and Peace in Fukuoka, 2017.
- ・ 松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事と教授・学習活動との関連.第34回日本看護科学学会学術集会.名古屋,2014年11月
- ・ 松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う事とに関連する要素.第34回日本看護科学学会学術集会.名古屋,2014年11月
- ・ 松枝美智子,安永薫梨,宮崎初,坂田志保路.(2014).経験型精神看護実習で学生が患者を心から援助したいと思う程度とその理由.第34回日本看護科学学会学術集会.名古屋,2014年11月

③過去の主要業績

- ・猪狩圭介, 天野昌太郎, 村田尚恵, 浅井初, 黒木俊秀.(2011).精神医療従事者における職業性ストレスの検討と対策. 財団法人メンタルヘルス岡本記念財団 研究助成報告集,Vol.23,23-30.
- ・浅井初, 野嶋佐由美, 畦地博子. (2009).統合失調症と診断されている発病後間もない当事者の病気とのつきあい方.高知女子大学看護学会,34 巻,1 号,29-35.
- ・浅井初, 村田尚恵.(2009).「ケースカンファレンスのロールプレイング」を用いた院内教育の学び,第 40 回日本看護学会-精神看護-学術集会,島根.

5. 所属学会

日本看護協会、日本精神科看護技術協会、高知女子大学看護学会、日本専門看護師協議会、日本看護科学学会、日本教師学学会、国際ケアリング学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

精神看護概論・1 単位・2 年・前期、精神看護学・2 単位・2 年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1 単位・3 年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1 単位・3 年・通年、精神看護学実習・2 単位・3~4 年・通年、統合実習・2 単位・4 年・通年、専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年、卒業研究・2 単位・4 年・通年

〈大学院〉

精神障がい者地域移行・地域定着看護論・2 単位・修士 1 年・通年、精神看護専門看護師役割実習・2 単位・修士 1 年・通年、Advanced 精神看護専門看護師直接ケア実習・2 単位・修士 2 年・通年、Advanced 精神看護専門看護師役割実習・2 単位・修士 2 年・通年

8. 学外講義・講演

- ・国立病院機構再春荘病院 平成 28 年度看護部 3・4 年目現任教育「メンタルヘルスサポート研修」2016 年 7 月
- ・国立病院機構再春荘病院 平成 28 年度看護部管理者研修「メンタルヘルスサポートができる環境づくり」2016 年 10 月

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮.平成 28 年度精神看護セミナーⅠ (2016.6.25)
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮.平成 28 年度精神看護セミナーⅡ (2016.9.17)
- ・大学院看護学研究科, 松枝美智子, 安永薫梨, 宮崎初, 中本亮.平成 28 年度精神看護セミナーⅢ (2017.3.14, 2017.3.20)

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助教	氏名	吉田 静
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

1998年から7年間、助産師として九州労災病院に勤務。2005年から1年間本学に臨時職員として勤務後、2007年本学に着任。2009年3月、福岡県立大学大学院修士課程修了。

現在、子供の喪失経験を持つ者の悲嘆過程と医療者の支援を主な研究分野としている。

特に、子供の喪失経験を持つ人々へのケアやサポートの中心は「母親」にあり、「父親」は母親を支える役割を期待され、支援も等閑されやすい。そのためニーズを把握した上で子どもの喪失経験を持つ父親へ提供できるケアモデルを開発し、医療者の役割、課題等を明らかにする。また子どもを喪失した家族に携わる看護者へのケアや支援も検討している。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<学術論文>

- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子, 増田匡裕. (2016). 「子どもを喪失した両親に携わる看護者の語りの会」の評価と今後の課題. 福岡県立大学看護学部紀要 13, 91-98.
- ・石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 林千絵, 清田哲子. (2016). 死産を体験した母親の次子の妊娠出産育児に関する研究(第1報)一次子妊娠の体験の語りから－. 母性衛生, 56(4), 692-700.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦, 侯小妮. (2015). 中国北京における妊婦の食生活と文化. 福岡県立大学看護学部紀要 12, 25-35.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子, 邬继红, 王琦. (2015). 中国北京における中国伝統医療の現状. 福岡県立大学看護学部紀要 12, 73-84.

<その他執筆>

- ・仲道由紀, 川口弥恵子, 吉田静, 松原まなみ. (2014). 助産師が認識した自己の現状と課題・未来像 ワールド・カフェ形式ワークショップ後の KPT 法を用いた振り返りから. 助産雑誌, 68(9), 808-816.
- ・松原まなみ, 菱川和江, 西本サチ子, 田中啓子, 大牟田智子, 澁谷貴子, 仲道由紀, 吉田静, 阿部聖子, 浜崎ヨシ子, 平田伸子. (2014). 参加型ワールドショップ「ワールド・カフェ」から得られたもの. 助産雑誌, 68(8), 700-706.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・吉田静, 佐藤香代. (2017). 「子どもを喪失した両親に携わる看護者の語りの会」に参加した看護者が語った苦悩と語り合いの効果. 第31回日本助産学会学術集会, 徳島.
- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子. (2015). 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」に関する研究. 第56回母性衛生学術集会, 岩手.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 石村美由紀, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子(2015). 「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活. 第56回母性衛生学術集会, 岩手.
- ・吉田静, 佐藤香代, 鳥越郁代, 安河内静子, 小林絵里子, 佐藤繭子. (2015). 中国における中国伝統医療の現状－北京中医薬大学を中心とした医療施設の視察を通して－. 第56回母性衛生学術集会, 岩手.
- ・吉田静, 佐藤香代, 山下恵子. 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の語り」に関する研究－企画プログラムの検討とその有用性の検証－. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・安河内静子, 佐藤香代, 吉田静. 病産院における「身体感覚活性化マザークラス」展開時の課題－A病院助産師へのアンケート調査より－. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・林千絵, 石村美由紀, 佐藤香代, 吉田静, 清田哲子. 死産を体験した母親の次子妊娠の体験. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.

- ・林千絵,石村美由紀,佐藤香代,吉田静,清田哲子. 死産を体験した母親の次子出産・育児の体験. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・小林絵里子, 佐藤香代, 吉田静, 安河内静子, 鳥越郁代. 中国における女子大学生の食文化ー中国の文化・教育と食の実態との関連ー. (2014). 第55回母性衛生学術集会, 千葉.
- ・Ikuyo Torigoe, Shizuka Yoshida, Allison Shorten .Birth choice after cesarean section in Japan: focusing on giving information about VBAC and repeat cesarean.ICM30th Triennial Congress, Prague.
- ・吉田静, 佐藤香代. 「子どもを喪失した家族に携わる看護者の会」の実践報告. (2014). 第70回日本助産師学会, 福岡.

③過去の主要業績

〈教材開発〉

- ・佐藤香代, 安河内静子, 吉田静, 佐藤繭子, 鳥越郁代, 小林絵里子, 藤木久美子. 身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラスの哲学と実践. 2012年.
- ・吉田静, 佐藤香代. わが国における「おむつ」の起源. (2012). 第53回母性衛生学術集会, 福岡.
- ・吉田静, 佐藤香代. 子どもを喪失した夫婦に携わる看護者の学習ニーズ. (2011). 第52回母性衛生学術集会, 京都.
- ・吉田静. (2009). 子どもを喪失した父親の体験. 福岡県立大学大学院修士論文, A4版 全68頁.

5. 所属学会

日本助産学会, 日本母性衛生学会, 日本死の臨床研究会

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護実践論・1単位・3年・通年, 女性看護実習・2単位・3年・通年, 女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期, 女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

ウイメンズヘルズ特論・1単位・1年・前期, ウイメンズヘルズ演習・1単位・1年・後期, 基礎助産学特論・2単位・1年・前期, 基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 助産学演習・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅰ(妊娠期)・2単位・1年・前期, 助産学実践Ⅱ(分娩期)・4単位・1年・通年, 助産学実習Ⅰ(外来ケア実習)・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期, 助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・第12回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 田川 (2016.6-7)
- ・第8回ペリネイタル・ロス看護者研修プログラム (2016.7.2-3)
- ・第8回健康大使セミナー (2016.8.8)
- ・一般社団法人福岡県助産師会北九州地区講演会「男の子の性教育・赤ちゃんから思春期・青年期まで」, (2016.8.21)
- ・母と子どもを護る多職種の会シンポジウム(2016.9.4)
- ・第12回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー (2016.10.9)
- ・第21回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 福岡 (2016.10-11)
- ・第1回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 北九州 (2016.10-11)

- ・ 第 10 回東アジアグリーフケアセミナー (2016.12.10-11)
 - ・ 平成 28 年度福岡市委託事業「働くパパとママのマタニティスクール」
8. 学外講義・講演
福岡県看護協会 平成 28 年度実践力育成研修 ハイリスク妊婦の診断とグリーフケア
(2016.11.22)
9. 附属研究所の活動等
ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	柴北 早苗
----	-------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

成人看護学(慢性期)を担当しています。これまで終末期看護や在宅看護の臨床で多くの患者様やご家族とかかわってきました。現在は、慢性疾患や終末期の患者様に対する退院支援に関心を持っています。慢性疾患を持つ対象とご家族が安心して生活できるためには、看護師は大きな役割が担えると考えています。

2. 研究業績

③過去の主要業績

大島操、赤司千波、柴北早苗(2012)；介護付き有料老人ホームと認知症グループホームにおける終末期ケアおよび看取りの現状と看護職者の思い，日本看護研究学会雑誌 35(1)，175-181

5. 所属学会

日本看護科学学会、日本看護研究学会、日本老年看護学会

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

成人看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、成人看護学演習Ⅱ・1単位・3年・前期、成人慢性、看護学実習・3単位・3～4年・後期から前期、統合実習・2単位・4年・通年

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	仲村 彩
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

本学を卒業し、看護師、保健師として働いた後、2016年度より着任。看護職として小児またはその家族と関わる中で様々な諸問題を抱えて生活する方々に触れ、多くが育児に対して不安や困難を抱えていた。それによって虐待に発展するケースも見られ、育児支援において必要な社会資源が現状にマッチングしているか、疑問に感じるようになりそれを踏まえううえで、子ども虐待予防の視点から看護職による育児支援と育児を行っている母親や保護者のニーズバランスを把握し、地域の子どもとその家族が心身ともに健やかに生活ができるよう、看護職の役割や専門性の探求を行っていきたいと考える。

2. 研究業績

〈学会発表〉

- ・吉川未桜・青野広子・仲村彩・吉田麻美・田中美樹・宮城由美子：赤ちゃん先生プログラムを取り入れた小児看護学演習の意義と課題～参加したママ講師・トレーナーへのアンケートより～. 第17回九州・沖縄小児看護教育研究会. 沖縄. 2016年
- ・田中美樹・吉川未桜・青野広子・吉田麻美・仲村彩・宮城由美子・柿木里香：外来で子どもが検査・処置を受けるパパ・ママのためのプリパレーションツール. 第26回日本外来小児科学会年次集会. 高松. 2016年

5. 所属学会

日本看護研究学会

6. 担当授業科目（補助）

小児看護学概論・1単位・2年・前期、小児看護学・2単位・2年・後期、子どもの保健Ⅱ・1単位・2年・前期、小児看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、小児看護学演習Ⅱ・1単位・3年、小児看護学実習・2単位・3年・後期、統合実習（小児）・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年

7. 社会貢献活動

- ・田川地区保育協会田川郡支部保育士会「もしものときの応急手当～けいれん等の対応について～」. 2016年7月30日. 田川市
- ・田川市立幼稚園にて健康教育を実施。年少クラス：睡眠や運動、食事の大切さを知ろう～ピーマンマンと怪獣ダマカスのパペット劇を通して～. 年中クラス：からだが大きくなるヒミツ～すいみん電車の旅～. 年長クラス：大きくなる自分の「いのち」について

8. 学外講義・講演

仲村彩. 出前講義「子どもの看護について」講師. 八女学院中学・高等学校. 2016年8月22日

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／臨床看護学系	職名	助手	氏名	中本 亮
----	-------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

精神科病院で看護師として、その後2年課程看護専門学校、3年課程専門学校で看護学生の教育に従事した。2015年福岡県立大学大学院看護学研究科看護教育学を修了し、2016年に精神看護学領域に着任。

専門分野は看護教育学、精神看護学で現在は主に精神看護学実習教育に携わっている。学習上の課題に対して学生との対話を通して、学生が「わかる」経験を積み重ねていき、「もっと知りたい」という意欲を高められるよう支援していきたいと考えている。

研究の分野は学習者の主体的学習行動を促進するための方略に関する研究を行っている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・中本亮. 学生の主体的な学習を目指した精神看護学の授業研究-自己調整学習の活用を試みて-. 福岡県立大学看護学研究科修士論文. 2015年3月
- ・中本亮, 石田智恵美. 自己調整学習を導入した授業を経験した学生の自己効力感の特徴 - 自由記述をコーレスポネンダ分析して -, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 67-74. 2016年3月
- ・増満誠, 松村智大, 中本亮, 馬場保子, 谷多江子, 小浜さつき, 石本祥子, 姫野深雪, 佐藤亜紀. 看護大学生の所属大学を超えた交流の効果の検討, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 51-56, 2016年3月

〈その他執筆〉

- ・第105回看護師国家試験「精神看護学」解説(分担). メディカ出版. 2016年3月
- ・第106回看護師国家試験「精神看護学」解説(分担). メディカ出版. 2017年3月予定

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・中本亮, 石田智恵美. 自己調整学習を導入した精神看護学の授業効果. 日本教育工学会 第31回全国大会, 東京. 2015年9月
- ・石田智恵美, 中本亮. 看護学生の知識の構造化を目指した講義・演習・実習連携授業に関する研究. 日本教育工学会 第31回全国大会 東京, 2015年9月

5. 所属学会

日本教育工学会, 日本看護科学学会, 国際ケアリング学会

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

精神看護概論・1単位・2年・前期、精神看護学・2単位・2年・後期、精神看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、精神看護学演習Ⅱ・1単位・3年・通年、精神看護学実習・2単位・3～4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、卒業研究・2単位・4年・通年

8. 学外講義・講演

- ・「認知症をもつ方との関わり方」日本赤十字社嘉麻赤十字病院, 2015年5月
- ・「認知症のある方との関わり方」日本赤十字社嘉麻赤十字病院看護実践研修(認知症看護), 2015年9月
- ・「認知症をもつ方との関わり方」公益社団法人福岡県看護協会筑豊地区「看護の日のつどい」講演, 2016年5月

- ・「看護師のメンタルヘルス」福岡県看護連盟筑豊支部研修会，2016年11月
- ・「専門職者の主体的な学習について」福岡県看護連盟筑豊支部研修会，2017年3月予定

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・看護実践教育センター兼任講師（糖尿病認定看護師課程「対人関係」担当）
- ・大学院看護学研究科，松枝美智子，安永薫梨，宮崎初，中本亮，平成28年度精神看護セミナーⅠ（2016.6.25）
- ・大学院看護学研究科，松枝美智子，安永薫梨，宮崎初，中本亮，平成28年度精神看護セミナーⅡ（2016.9.17）
- ・大学院看護学研究科，松枝美智子，安永薫梨，宮崎初，中本亮，平成28年度精神看護セミナーⅢ（2017.3.14,2017.3.20）

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	尾形 由起子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

2004年広島大学大学院保健学研究科博士課程修了。保健師として福岡県庁に勤務後、2004年、本学看護学部地域看護学領域に着任。2009年看護学部ヘルスプロモーション看護学教授に就任。

現在、超高齢社会の到来において、高齢者の地域での療養生活を支えるための公衆衛生看護活動の検証を主な研究分野としている。具体的には、①人々の暮らしの中で地域住民自らが健康を大切であると実感することのできる場づくり②保健師による地域におけるケアシステムづくり③多職種協働による医療依存度の高い人々が在宅で療養生活を継続のための地域づくりの検討を主な研究テーマとしている。

進展する高齢社会において、住み慣れた地域で独居でねたきりになっても、安心して暮らし続けることができるための社会システムを看護職や福祉職の方々と共に検討している。また、これまでの実践的な研究をふまえ、地域での健康課題の解決方法について明らかにしていきたいと考えている。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・尾形由起子, 社会・環境と健康 公衆衛生学 2017年度, 柳川洋, 尾島俊之編著, 医歯薬出版株式会社, 2016
- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 研究室からのメッセージ, 保健師ジャーナル, 45(2), 2017
- ・尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現のためのセルフマネジメントに対する支援方法の検討—多職種フォーカス・グループインタビューの結果より—福岡県立大学看護学紀要,
- ・Kazuko Mitoku, Naoko Masaki, Yukiko Ogata, Kazushi Okamoto, Vision and Hearing Impairments, Cognitive Impairment, and Mortality among Long-Term Care, BMC Geriatrics, 16, 112–122, 2016
- ・山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 尾形由起子, 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割—高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から—福岡県立大学看護学部紀要, 第13号, 2016
- ・迫山博美, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 山下清香, 尾形由起子, 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題—A町のふれあい交流活動の分析を通して—, 福岡県立大学看護学部紀要, 第13号, 2016
- ・眞崎直子, 松原みゆき, 森本千代子, 林真二, 三徳和子, 尾形由起子, 看護大学生における教育の進行度による子育てと家庭づくりに対する意識の実態と子育て経験によるその変化, 日本赤十字広島看護大学紀要, 15, 2015
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 神経難病患者のために保健師が行った関係機関調整技術, 地域看護学会誌, 18(2), 2015
- ・尾形由起子, 要介護(支援)高齢者コホート研究—岐阜県郡上市・富山県中新川郡データ分析から—, 三徳和子, 成瀬優和, 坂本由之, 簗輪眞澄, 編著, グオリティケア, 2015
- ・尾形由起子, 北林恭子, 内山弘子, 阿部久美子, 香月進, 他, 保健所モデルから医師会主導へバトンタッチ—在宅医療推進から地域包括ケアシステム構築を目指して—, 地域保健, 45(2), 2014
- ・榎直美, 尾形由起子, 田淵康子, 横尾美智代, 家族介護者の介護力構成要素と介護負担感との関連」福岡県立大学看護学紀要, 第11巻2号, 2014
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 野見山美和, 地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価, 福岡県立大学看護学部紀要, 第11巻2号, 2014

②その他最近の業績

<報告書>

- ・尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 檜橋明子, 杉本みぎわ, 中村美穂子, 福岡県訪問看護ステーション連携強化事業報告書, 2016
- ・尾形由起子, 石崎龍二, 柴田雅博, 榎直美, 檜橋明子, 猪狩崇, 杉本みぎわ, 在宅医療推進における医療福祉情報に関する研究, 平成28年度研究奨励交付金(附属研究所重点領域研究)報告書, 2016
- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究報告書, 2015

<学会発表>

- ・尾形由起子, 坂本知美, 河村真紀代, 荒木小百合, 荒木優子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美, 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価, 第75回日本公衆衛生学会, 大阪, 2016
- ・山口のり子, 後藤美子, 尾形由起子, 高齢者施設における看取り状況調査結果について～県と市町村の連携を通して～, 第75回日本公衆衛生学会, 大阪, 2016
- ・荒木優子, 河村真紀代, 荒木小百合, 尾形由起子, 迫山博美, 山本美江子, 自治会単位で行う介護予防事業ー地域のソーシャル・キャピタルの醸成に向けてー, 第75回日本公衆衛生学会, 大阪, 2016
- ・尾形由起子, 岡田 麻里, 山下 清香, 眞崎 直子, 三徳 和子, 榎 直美, 在宅看取り実現のための配偶者のセルフマネジメントの検証, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・手島 聖子, 尾形由起子, 山下 清香, 小野 順子, 檜橋 明子, 迫山 博美, 中村 美穂子 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズー世話役住民の役割機能ー, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・檜橋 明子, 尾形由起子, 山下 清香, 小野 順子, 手島 聖子, 迫山 博美, 中村 美穂子 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズー支援スタッフの役割機能ー, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・山下 清香, 尾形由起子, 小野 順子, 手島 聖子, 檜橋 明子, 迫山 博美, 中村 美穂子, 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズー世話役住民と支援スタッフの認識からー, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・岡本和土, 三徳和子, 成瀬優知, 新鞍眞理子, 寺西敬子, 尾形由起子, 眞崎直子, 林真二, 簗輪眞澄, 要介護高齢者の経活要因と生命予後との関連ー郡上と富山の2地域の比較ー, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・山口 のり子, 平緒 恵, 尾形由起子, 田川市地域包括ケアシステム構築の課題抽出についてその1, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・平緒 恵 山口 のり子, 尾形由起子, 田川市地域包括ケアシステム構築の課題抽出についてその2, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・三徳 和子, 岡本 和土, 眞崎 直子, 尾形由起子, 林 真二, 石井 英子, 山田 裕子, 西岡 洋子, 荒金 英理子, 簗輪眞澄, 視力・聴力の低下と認知症予防の関連, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015 廣木 里香, 杉本 由利子, 津坂 咲江, 尾形由起子, 行橋市における保健師の人材育成の試みー事業データ分析の作業を通じてー【第1報】, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・廣木 里香, 杉本 由利子, 津坂 咲江, 尾形由起子, 行橋市における保健師の人材育成の試みー母子保健健康課題抽出作業を中心にー【第2報】, 第74回日本公衆衛生学会, 長崎, 2015
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和, 在宅療養神経難病患者の支援ネットワーク形成における保健師調整プロセスの検討, 第2回日本公衆衛生看護学会, 神奈川, 2014

- ・小野順子 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和, 地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性—身体的・心理的・社会的状況の分析—, 第2回日本公衆衛生看護学会, 神奈川, 2014
- ・楳直美, 尾形由起子, 田淵康子, 横尾美智代, 家族介護者の介護負担感及び介護継続意思と認知症との関連」第18回日本在宅ケア学会, 東京, 2014.

3. 外部研究資金

- ・尾形由起子 (研究代表者), 地域における住民の在宅医療セルフマネジメント教育プログラムの開発, 文科省科学研究 (基盤 C) 2014-2016
- ・尾形由起子 (研究分担者, 楳直美), 通所サービスにおける家族介護者の介護適応を促す協同的ケアモデルに関する研究, 文科省科学研究 (基盤 C) 2014-2016

5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本在宅ケア学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本公衆衛生看護学会, 日本学校保健学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期, 家族看護論・1単位・2年・前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期, 公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期, 公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期, 公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期, 公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期, 公衆衛生管理論・2単位・4年生・後期, 組織協働活動論・2単位・4年・後期, 公衆衛生看護学実習Ⅰ・4年・前期, 公衆衛生看護学実習Ⅱ・4年・後期,

<大学院>

地域看護学特別研究・2単位・修士1年・前期, 地域看護学特別演習・2単位・修士1年・後期, 看護研究法・2単位・修士1年

7. 社会貢献活動

- ・福岡県地域在宅推進協議会委員 (H20年度～現在に至る)
- ・地域在宅医療推進協議会委員 (3ヶ所: 京築保健福祉環境事務所, 嘉穂保健福祉環境事務所, 筑紫保健福祉環境事務所)
- ・宗像医師会在宅医療連携拠点事業運営委員会 (平成25年度～現在に至る)
- ・宗像薬剤師会かかりつけ薬剤師研修会 (平成28年度～)
- ・グループホーム外部評価審査員 (平成20年度～平成28年度)
- ・公益社団法人福岡県看護協会複合型サービス準備・運営委員会委員 (平成26年度～平成28年度)
- ・田川市地域支え合い体制づくり検討委員会 (平成26年度～現在に至る)
- ・香春町地域福祉計画策定委員 (委員長) (平成27年度)
- ・みやこ町健康づくり推進委員会 (平成27年度～現在に至る)
- ・荻田町教育委員会 (平成25年～現在に至る)

8. 学外講義・講演

- ・嘉穂地域在宅医療推進事業 (看護連携研修会) (2017.1.28 飯塚市)
- ・南筑後訪問看護ステーション等研修会 (2017.2.16 大川市)
- ・田川医師会地域医療推進多職種研修会 (2016.9.1 田川市)
- ・宗像薬剤師会研修会 (2016.9.3 宗像市)
- ・福岡県看護実習指導者講習会 (2016.6.28)
- ・豊前築上医師会地域住民フォーラム研修会 (2016.2.27)

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター長

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	教授	氏名	松浦 賢長
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

母子保健学者，思春期保健学者，性教育学者。

東京大学を卒業後，同大学院に進学し，東京大学医学系研究科博士課程を修了（保健学博士）。日本総合愛育研究所母子保健研究部に研究員として勤務後，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部母子保健学教室に研究助手として勤務。帰国後，京都教育大学教育学部にて衛生学（学部）および学校保健学（大学院）を担当する助教授として教員養成に10年間携わる。再度，カリフォルニア大学バークレー校公衆衛生学部人口・家族計画学教室に助手として勤務し，平成15年度から本学看護学部開設と同時に地域看護学講座教授として着任した。その後，学部改組によりヘルスプロモーション看護学系教授。また，本学の附属図書館長を平成20年度から21年度まで兼務。平成22年度～23年度には，本学の4つのセンターを有する附属研究所長を兼務。平成24年度，不登校・ひきこもりサポートセンター長。平成25年度から，教員兼務理事を務める。

母子保健学：学会レベルでは，日本小児保健学会が10年に一度行う幼児健康度調査（平成22年）の委員長を務めている。国レベルでは，わが国の母子保健（健やか親子21）については，第1回中間評価時（2005年），第2回中間評価時（2009年），最終評価時（2014年）に評価研究メンバーとして九州から只一人参画し，健やか親子21（第2次）策定に係った。また，長年にわたり厚生労働科学研究（山縣然太郎班）のメンバーとして政策研究を遂行してきている。わが国の産後うつ病の頻度の把握をはじめとして，研究成果が厚生労働行政政策に反映されている。わが国の乳幼児健診の標準化にいてもグランドデザインから関わり（山崎嘉久班），わが国で初めての全国標準問診項目の開発を担当した。県レベルにおいても，福岡県の乳幼児健診マニュアルの開発委員長を務めた。現在は，福岡県青少年問題協議会委員長，福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会副委員長，福岡市こども子育て審議会副委員長，北九州市思春期保健連絡会会長などを拝命している。平成25年度（12月1日）には，第26回日本保健福祉学会学術集会を主催した。本学を保健福祉学の拠点とするべく業績を発信中である。

思春期学：学会レベルでは，日本思春期学会の常務理事および性の健康医学財団の幹事を務める傍ら，九州思春期研究会の会長として，山積する思春期の課題に取り組んでいる。国レベルでは，健やか親子21の指標の見直しを担当し，厚生労働省と文部科学省の協力のもと，慎重な性行動を予測する指標の開発を行い，国の政策に反映させた。また，思春期やせ症予防のためのマニュアル（全国版）を開発・出版した。さらに，平成20年度からは文部科学省「質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）」に不登校の子どもたちへの援助力を養成するためのプログラムが採択され，推進責任者としてプログラムを実行した（～平成22年度）。県レベルでは，福岡県エイズ・性感染症対策委員を拝命し，また，北九州市の性感染症対策のための大規模調査（2007年）、久留米市の思春期問題調査（2014年）を担当した。平成23年度（8月26日～28日）には，第30回日本思春期学会学術集会を主催した。

性教育学：学会レベルでは，いまだ学問として発展途上にあることから，性教育学を確立するべく，全国の若手研究者とともに性教育学構築フォーラムを主催し，わが国で初めてとなる性教育学の書籍を出版した。国レベルでは，カプラン・マイヤー法を初めて用いた日本人の性行動の分析をおこない，厚生労働省人口問題研究所等から評価を受けた。また，新しい学校性教育のスタイルである「カフェテリア方式」を開発し，全国に導入されている。現在は全国の若手研究者とともに「思いやり」と「共感」の違いに着目しつつ，脳科学・進化心理学の成果を利用し，性教育学モデルを組み立てている。県レベルでは，福岡県の性教育関連事業の委員等を務め，小集団学習福岡方式の開発に寄与した。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子 (編著). (2017.3). 学校看護学. 東京: 講談社.
- ・松浦賢長, 小林康毅, 荻田香苗 (編著). (2013.3). コンパクト公衆衛生学. 東京: 朝倉書店.
- ・荒堀憲二, 松浦賢長 (編著). (2012.4). 性教育学. 東京: 朝倉書店.

3. 外部研究資金

- ・文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」多価値尊重社会の実現に寄与する学生を養成する教育共同体の構築: 5,019 万円. 取組担当者.
- ・厚労省厚生労働科学研究費補助金, 平成 28 年度成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業 (健やか次世代育成総合研究事業)「健やか親子 21」の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究」班: 80 万円, (主任研究者: 山梨大学教授 山縣然太郎). 分担研究者.
- ・平成 28 年度日本医療研究開発機構 (AMED) 成育疾患克服等総合研究事業「乳幼児期の健康診査を通じた新たな保健指導手法等の開発のための研究」: 50 万円, (主任研究者: あいち小児保健医療総合センター 山崎嘉久). 分担研究者.

5. 所属学会

日本思春期学会 (常務理事), 日本保健福祉学会 (理事), 日本看護科学学会 (社員), 日本公衆衛生学会, 日本小児保健学会 (幼児健康度調査委員長), 日本母性衛生学会, 日本健康教育学会, 日本学校保健学会, 日本民族衛生学会, 日本性感感染症学会, 日本性科学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

公衆衛生学, 保健統計学, 学校保健学, 性教育学, 教育方法論, 健康教育論, 養護実習 (教育実習), 養護実習事前事後指導, 教職実践演習, 不登校ひきこもり援助論, 子供学習支援論

〈大学院〉

看護研究法, ヘルスプロモーション科学, ヘルスプロモーション看護学特別研究, 思春期ヘルスプロモーション特論/同演習

7. 社会貢献活動

- ・日本思春期学会・常務理事
- ・財団法人性の健康医学財団・幹事
- ・九州思春期研究会・会長
- ・福岡県青少年問題協議会・委員長
- ・福岡県青少年インターネット適正利用推進協議会・副委員長
- ・北九州市思春期保健連絡会・会長
- ・福岡市こども子育て審議会・副委員長
- ・ケアリングアイランド九州沖縄大学コンソーシアム・取組担当者
- ・福岡県重点課題事業「土曜の風」・取組担当者
- ・福岡県重点課題事業「健康教育」・委員 (学識経験者)
- ・福岡県教育委員会がん教育推進委員会・委員長
- ・福岡県新規採用養護教諭研修実施協議会・委員
- ・田川広域定住自立圏共生ビジョン懇談会・委員長

8. 学外講義・講演

松浦賢長. (2016.10). 性に関する指導の現状と課題. 平成 27 年度 福岡県教育委員会 教職経験 5 年経過 養護教諭研修 校外研修会, 福岡市.

9. 附属研究所の活動等

不登校・ひきこもりサポートセンター幹事教員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	准教授	氏名	山下 清香
----	---------------------	----	-----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

行政の保健師の活動を主な研究のテーマとし、住民参加やエンパワーメント、地域ケアシステム、保健師教育について研究している。障害児の療育、地域における生活習慣病予防対策等に関心をもっている。行政で働く保健師との関わりを大切にしながら、地域における住民の生活と、行政で働く保健師の視点や判断、援助内容などの実態を明らかにしたい。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・野見山美和. (2013). A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討—「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に関する学生の自己評価から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第10巻第2号)
- ・ 尾形由起子・山下清香・檜橋明子・伊藤順子. (2013). 地域在宅医療推進における保健所保健師の調整技術の検討—保健所での多職種連携会議に焦点をあてて—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第10巻第2号
- ・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・野見山美和. (2014). 地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第11巻第2号
- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子. (2015). 神経難病患者の在宅療養のために保健師が行った関係機関調整技術. 日本地域看護学会誌, 第18巻第2-3号
- ・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美. (2015). 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について—高齢者サロンの世話役および指導員の認識から—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第13巻第1号
- ・ 迫山博美・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・中村美穂子. (2015). 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題—A町のふれあい交流活動の分析を通して—. 福岡県立大学看護学研究紀要, 第13巻第1号

②その他最近の業績

<報告書>

尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美 (2015). 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究 平成26年度福岡県立大学研究奨励交付金 プロジェクト研究成果報告書

<学会発表>

- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・野見山美和 (2013). A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討—3年次・4年次の地域看護実習を通して—. 第1回日本公衆衛生看護学会, 東京
- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子 (2014). 在宅療養神経難病患者の支援ネットワーク形成における保健師の調整プロセスの検討. 日本公衆衛生看護学会学術集会. 小田原.
- ・ 小野順子・尾形由起子・山下清香・手島聖子・檜橋明子 (2014). 地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性—身体的・心理的・社会的状況の分析—. 日本公衆衛生看護学会学術集会. 小田原.
- ・ 檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・迫山博美 (2015). 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ—支援スタッフの役割機能—. 日本公衆衛生学会学術集会. 長崎
- ・ 手島聖子・尾形由起子・山下清香・小野順子・檜橋明子・迫山博美 (2015). 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ—世話役住民の役割機能—. 日本公衆衛生学会学術集会. 長崎

- ・ 山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美 (2015) . 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズー世話役住民と支援スタッフの認識からー. 日本公衆衛生学会学術集会. 長崎

③過去の主要業績

- ・ 山下清香 (2005) . 経過観察児の母親のエンパワーメントに関する研究ー乳幼児健診のフォロー事業の参加者を通してー. 修士論文
- ・ 有原一江, 安齋由貴子, 伊井久美子, 右京信治, 尾崎米厚, 山下清香他6名 (2005) . 「平成17年度地域保健総合推進事業：市町村保健活動体制強化に関する検討会」報告書.
- ・ 山下清香, 尾形由起子, 野見山美和, 野口藍子 (2008) . (平成18~19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究報告書「生活習慣病対策における市町村支援活動モデルの開発ー保健師エンパワーメントモデルー」

5. 所属学会

日本地域看護学会, 日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本看護研究学会, 日本糖尿病教育・看護科学学会, 日本公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目

教養演習 (2単位, 1年前期), 専門職連携入門 (1単位, 1年後期), 公衆衛生看護学Ⅰ (2単位, 2年後期), 専門看護学ゼミ (2単位, 3年通年), 家族看護学 (1単位, 3年前期), 公衆衛生看護学アセスメント論Ⅰ (1単位, 3年後期), 統合実習 (2単位, 4年通年), 卒業研究 (2単位, 4年通年), 公衆衛生看護学Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護学アセスメント論Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅰ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅱ (2単位, 4年前期), 公衆衛生看護学実習Ⅰ (1単位, 4年前期), 組織協働活動論 (2単位, 4年後期), 公衆衛生看護学Ⅲ (1単位, 4年後期), 公衆衛生看護管理論 (2単位, 4年後期), 公衆衛生看護学実習Ⅱ (4単位, 4年後期), ヘルスプロモーション看護学特別研究 (2単位, 大学院)

7. 社会貢献活動

- ・ 福岡県「福岡県感染症の診査に関する協議会」委員
- ・ 田川市「田川市民健康づくり推進協議会」委員
- ・ 田川市「田川市防災会議」委員
- ・ 福智町「福智町健康づくり推進協議会」委員

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任教員
- ・ オレンジリボン運動

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	小野 順子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

専門分野：公衆衛生（地域）看護学

- ・介護予防に関する研究
- ・在宅医療の推進に関する研究
- ・保健師教育に関する研究

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・尾形由起子, 榎直美, 小野順子, 吉田恭子, 杉本みぎわ, 阿部久美子, 岡田麻里, 終末期がん療養者の配偶者による在宅看取り実現の為のセルフマネジメントに対する支援方法の検討-多職種フォーカスグループインタビューの結果より-, 福岡県立大学看護学研究紀要, 14, 2017
- ・迫山博美, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題-A 町のふれあい交流活動の分析を通して-, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 2016
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について-高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から-, 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 2016
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 神経難病感謝の在宅療養のために保健師が行った関係機関調整技術, 日本地域看護学会誌 18 (2, 3), 2015
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 野見山美和, 地域と協同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価, 福岡県立大学看護学部紀要, 11 (2), 2014

<報告書>

- ・平成28年度福岡県訪問看護ステーション連携強化事業 報告書, 2017
- ・平成25年度福岡県立大学研究奨励交付金プロジェクト研究報告書, 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究, 2017

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・檜橋明子・尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・迫山博美 (2015). 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ-支援スタッフの役割機能-. 日本公衆衛生学会学術集会. 長崎
- ・手島聖子・尾形由起子・山下清香・小野順子・檜橋明子・迫山博美 (2015). 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ-世話役住民の役割機能-. 日本公衆衛生学会学術集会. 長崎
- ・山下清香・尾形由起子・小野順子・手島聖子・檜橋明子・迫山博美 (2015). 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ-世話役住民と支援スタッフの認識から-. 日本公衆衛生学会学術集会. 長崎

5. 所属学会

日本公衆衛生学会、地域看護学会、公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目

教養演習 (2 単位, 1 年前期), 家族看護学 (1 単位, 3 年前期), 専門看護学ゼミ (2 単位, 3 年通年), 卒業研究 (2 単位, 4 年通年), 統合実習 (2 単位, 4 年通年), 公衆衛生看護学Ⅰ (2 単位, 2 年後期), 公衆衛生看護学Ⅱ (2 単位, 4 年前期), 公衆衛生看護学Ⅲ (1 単位, 4 年後期), 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ (1 単位, 3 年後期), 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ (2 単位, 4 年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅰ (2 単位, 4 年前期), 公衆衛生看護技術論Ⅱ (2 単位, 4 年前期), 組織協働活動論 (2 単位, 4 年後期), 公衆衛生看護管理論 (2 単位, 4 年後期), 公衆衛生看護学実習Ⅰ (1 単位, 4 年前期), 公衆衛生看護学実習Ⅱ (4 単位, 4 年後期)

7. 社会貢献活動

宗像市薬剤師会「薬学的知見に基づく介護予防事業」委員

8. 学外講義・講演

行橋市包括支援センター職能研修会 講師

9. 附属研究所の活動等

- ・ オレンジリボン活動
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	原田 直樹
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科を卒業，同志社大学大学院文学研究科社会福祉学専攻を修了。社会福祉士，精神保健福祉士。

障害者福祉の現場を経験した後，2008年より福岡県立大学附属研究所不登校・ひきこもりサポートセンターに専門研究員として勤務し，2010年8月に看護学部ヘルスプロモーション看護学系学校保健領域の教員として着任しました。

主な研究分野は，①不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究，②不登校・ひきこもり支援における大学生ボランティアの有効性に関する研究，③学校を中心とした地域社会における子育て環境に関する介入的研究です。

とりわけ不登校・ひきこもり支援の理論と実践に関する研究では，個人因と環境因との関係性に焦点を当て，様々な角度から不登校・ひきこもりへの支援実践理論の構築に向けた研究に取り組んでいます。学校保健福祉の視点から，学校内において養護教諭が果たす支援者としての役割とその具体的な実践内容についての研究を進めたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<著書>

- ・原田直樹. (2016). 第9章. 学習指導要領, 第18章. 発達障害, 第22章. 不登校, 学校看護学, 松浦賢長, 笠井直美, 渡辺多恵子編著, 講談社サイエンティフィク. 65-74, 134-140, 164-170
- ・原田直樹. (2015). 第4章4節. 非行立ち直り支援の取り組み, 第4章5節. 思春期における不登校児童生徒の支援, 保健福祉学, 日本保健福祉学会編, 北大路書房. 65-73

<論文>

- ・三並めぐる, 福山聡美, 原田直樹, 梶原由紀子, 松浦賢長, 岡多枝子. (2014). 不登校児童生徒のきょうだいの経験と支援に関する考察. 福岡県立大学看護学部紀要, 第11巻第1号, 11-20
- ・原田直樹. (2013). 幼児健康度調査における発達に関する項目の通過率についての検討. 保健の科学, 第55巻第8号, 杏林出版. 535-542
- ・梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 増満誠, 松浦賢長. (2013). 特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究. 日本保健福祉学会誌, 第20巻第1号, 21-34

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・松下聖子, 西田涼子, 葛原誠太, 中山晃志, 足立久美子, 原田直樹, 松浦賢長. (2016). 看護学生を対象とした災害医療実施施設における災害看護短期研修実施後のフォローアップ調査. 第36回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- ・秦野環, 日高艶子, 原田直樹, 松浦賢長他. (2015). 大学間連携におけるVOD化による聴講システム構築の試み. 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島.
- ・梶原由紀子, 中山晃志, 原田直樹, 松浦賢長他. (2015). 看護学生を対象とした国際活動実施施設における短期研修プログラムの学生の学びと課題. 第35回日本看護科学学会学術集会看護学, 広島.
- ・原田直樹, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長. (2013). 特別支援学校におけるスポーツ振興の現状と課題—全国調査の結果から—. 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・三並めぐる, 梶原由紀子, 原田直樹, 松浦賢長. (2013). 喫煙防止教育が喫煙行動に与える影響について—大学生の調査から—. 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.

③過去の主要業績

〈論文〉

- ・ 原田直樹, 野見山晴佳, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長. (2012). 中学校における発達障害が疑われる生徒に対する生徒指導に関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要, 第10巻第1号, 1-12
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長. (2011). 不登校児童生徒の状況と対応に苦慮する点に関する調査研究—家庭支援へ向けての考察—. 福岡県立大学看護学部紀要第8巻第1号, 11-18
- ・ 原田直樹, 梶原由紀子, 吉川美桜, 樋口善之, 江上千代美, 四戸智昭, 杉野浩幸, 松浦賢長. (2011). 学校の児童生徒への大学生ボランティアによる支援のニーズに関する研究. 福岡県立大学看護学部紀要第8巻第1号, 1-9
- ・ 原田直樹, 松浦賢長. (2010). 学習面・行動面の困難を抱える不登校児童・生徒とその支援に関する研究. 日本保健福祉学会誌, 第16巻第2号, 13-22

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金(基盤研究 C), 不登校児童生徒への効果的な支援方法を検討する追跡調査—大学生の関わりを中心に—, 208万円, 平成26年度～平成28年度

4. 所属学会

日本保健福祉学会, 日本思春期学会, 日本学校ソーシャルワーク学会, 日本地域福祉学会, 日本学校保健学会, 日本看護科学学会, 日本小児保健協会

6. 担当授業科目

情報処理演習Ⅰ・1単位・1年・前期, 情報処理演習Ⅱ・1単位・1年・前期, 不登校・ひきこもり援助論・2単位・1年・前期, 社会貢献論・2単位・1年・後期, 統計学・2単位・1年・後期, 公衆衛生学・2単位・1年・後期, 保健統計学・2単位・2年・前期, 養護概説・2単位・2年・後期, 教育方法論・2単位・2・3年・後期, 学校保健・1単位・4年・前期, 養護実習・1単位・4年・前期, 養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 公衆衛生学・1単位・4年・後期, 教職実践演習(養護教諭)・2単位・4年・後期, 不登校・ひきこもり援助応用演習・1単位・4年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 思春期ヘルスプロモーション特論・2単位・大学院1年・前期, 思春期ヘルスプロモーション演習・2単位・大学院1年・後期

7. 社会貢献活動

- ・ 日本保健福祉学会幹事長
- ・ 九州思春期研究会理事
- ・ 赤村子ども・子育て会議会長
- ・ 特定非営利活動法人ひこうせん理事長
- ・ 田川市立鎮西小学校 学校評議員・学校関係者評価委員

8. 学外講義・講演

- ・ 福岡県手話通訳士協会 手話通訳士国家試験研修会「障害者福祉の基礎」講師, 2015年
- ・ 糸田町立糸田小学校「薬物乱用防止教室」講師, 2016年
- ・ 嘉麻市立嘉穂小学校「薬物乱用防止教室」講師, 2016年
- ・ 岡垣町立戸切小学校「薬物乱用防止教室」講師, 2016年

9. 附属研究所の活動等

- ・ 不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ
- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	講師	氏名	吉田 恭子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

高齢社会を支える一つの方法としての介護保険法は、在宅療養者やその家族、その人々を取り巻く保健福祉医療職種の在り方を再考する機会となりました。要援護者の増加への対策を中心に介護保険法は改正を繰り返しており、介護予防への取り組みと同時に、多死時代を迎えるにあたり、死にゆく人と家族へのケアも重要になってきます。そのため、在宅療養中の高齢者とその家族のケアマネジメントをテーマとして、質の高い生活を維持できるような看護実践の検討について考えています。また、病歴が長い糖尿病を抱える高齢者への関わりを検討しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・吉田恭子, 渡邊智子. (2014). 10年後もその先も、住みたいところに住み続ける互助・共助—地域住民の支え合いを活用した支援プログラムの効果と課題—, 認知症ケア事例ジャーナル, 第6巻第4号, 391-396
- ・吉田恭子, 勝田和典, 酒井出, 井上俊孝, 権藤美和子, 堤素子. (2012). 韓国大田広域市における高齢者福祉の現状—大田広域市の現地調査を通して—, 九州社会福祉研究, 第37号, 15-26
- ・榎直美, 吉田恭子, 江上史子, 福田和美, 安酸史子. (2011). 地域住民の主体的健康活動の質を高める支援に関する検討—参加・共同型看護ゼミでの体験を通して得られた効果の検証—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第8巻第2号, 75-82
- ・清水夏子, 吉田恭子, 永嶋由理子, 渡邊智子, 江上千代美, 小森直美, 安永薫梨, 尾形由紀子, 中野榮子, 石川フカエ, 鳥越郁代, 宮城由美子, 野口藍子. (2011). 助教・助手を対象とした経験型実習教育での直接的経験の教材化に関する研修会実践報告—ロールプレイを活用した学びの検討—, 福岡県立大学看護学研究紀要, 第8巻第1号, 37-45

〈調査研究報告書〉

- ・吉田恭子, 渡邊智子. (2012). 「認知症高齢者のためのご近所相談員育成プログラムの開発—高齢者どうしの共助による地域ケア再生を目指して—」平成23年度田川市と福岡県立大学との共同研究報告書(中間)
- ・吉田恭子, 渡邊智子, 江上史子. (2011). 「小規模多機能型居宅介護における看取りに向けた専門職チームへの教育プログラムの検討」平成22年度看護系学会等社会保険連合研究助成報告書

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・吉田恭子, 岡崎美智子, 中島洋子, 山崎尚美, 岡部由紀夫, 小規模多機能型居宅介護での看取りにおける専門職の調整技術, 第28回日本看護福祉学会学術集会, 2016年7月.
- ・勝田和典, 吉田恭子, 在宅医療推進時代における退院調整の困難の現状, 第27回日本看護福祉学会学術大会, 2014年7月.
- ・吉田恭子, 渡邊智子, 地域住民の互助を活かした認知症高齢者の支援プログラム 第2報, 第14回日本認知症ケア学会大会, 2013年6月.
- ・吉田恭子, 岡崎美智子, 平木尚美, 岡部由紀夫, 中島洋子, 小規模多機能型居宅介護における看取りケア, 第26回日本看護福祉学会学術集会, 2013年7月.
- ・吉田恭子, 渡邊智子, 地域住民の互助を活用した認知症高齢者の支援プログラム 第1報, 第13回日本認知症ケア学会大会, 2012年5月.
- ・吉田恭子, 渡邊智子, 江上史子, 小規模多機能型居宅介護における看取りに向けた専門職チームの教育プログラムの検討, 第25回日本看護福祉学会学術集会, 2012年7月.

- ・梅木美恵, 迎田直美, 土谷祐子, 樋口絹代, 吉田恭子, 独居や高齢者世帯が多い地域での在宅サービス調整を困難にしている現状—介護支援専門員が苦悩している事例から—, 第 43 回日本看護学会 地域看護, 2012 年 9 月.
- ・櫛直美, 吉田恭子, 安酸史子, 中野榮子, 渡邊智子, 松枝美智子, 江上史子, 安永薫梨, 浅井初, 坂田志保路, 清水夏子, 小森直美, 小野美穂, 経験型実習教育におけるプロジェクト学習の有効性の検討—ポートフォリオを活用した学習による臨地実習への不安の軽減—, 第 32 回日本看護科学学会学術集会, 2012 年 11 月.
- ・吉田恭子, 渡邊智子, 江上史子, 小規模多機能型居宅介護における看護・介護への思い, 第 12 回日本認知症ケア学会大会, 2011 年 9 月.
- ・石本佐和子, 吉田恭子, 生きがいを見出せない維持透析患者の気持ちが前向きに変化した支援—家族エンパワーメントモデルを用いての看護の振り返り—, 第 16 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2011 年 9 月.
- ・桑原京子, 吉田恭子, 「看護の教育的関わりモデル Ver.6.1」に基づく看護過程の検討～高齢糖尿病患者への関わりを振り返っての考察～, 第 16 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2011 年 9 月.
- ・松崎ふみ, 吉田恭子, 緩徐進行1型糖尿病患者の学ぶ気持ちへの支援における視点～成人教育論を用いて～, 第 16 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 2011 年 9 月.

〈商業誌掲載〉

吉田恭子 (共著). (2012). 患者さん・スタッフの質問にナースが答える糖尿病ケア Q&A200. 糖尿病ケア 2012 年春季増刊, 209-213

③過去の業績

吉田恭子. (2010). 2 年課程通信制看護教育「在宅看護論」における新聞記事を用いた教育方法の検討—成人教育学モデルの観点から—, 九州社会福祉研究, 第 35 号, 59-72

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金 (基盤研究 C), 「小規模多機能型居宅介護における看取りケアに関する研究」, 平成 26 年～平成 28 年度, 4,030,000 円

5. 所属学会

日本看護福祉学会, 日本認知症ケア学会, 日本老年看護学会, 日本社会福祉学会, 日本看護科学学会, 日本看護学教育学会, 日本看護研究学会

6. 担当授業科目

在宅看護学概論・1 単位・2 年・前期, 在宅看護学・2 単位・2 年, 在宅看護学演習 I・1 単位・3 年・前期, 在宅看護学演習 II・1 単位・3~4 年・通年, 在宅看護学実習・2 単位・3~4 年・通年, 専門看護学ゼミ・2 単位・3 年・通年, 統合実習・2 単位・4 年・前期, 卒業研究・2 単位・4 年・後期

7. 社会貢献活動

- ・福岡県立大学看護実践教育センターの糖尿病看護認定看護師教育過程で「ライフステージに応じた生活調整・療養支援」「患者及び家族・重要他者などの対象理解」を担当
- ・朝倉医師会在宅医療連携拠点事業運営委員会

8. 学外講義・講演

終末期ケア研修, 神戸市小規模多機能型居宅介護事業所連絡会, 2015 年 8 月

9. 附属研究所の活動等

福岡県立大学ヘルスプロモーション実践センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	猪狩 崇
----	---------------------	----	----	----	------

1. 教員紹介・主な研究分野

平成 28 年度より着任しました。宮崎県立看護大学看護学部・同大学院を修了し、専攻は理論看護学ですが、直接の実践・研究フィールドとしては地域・在宅看護学が中心です。大学では補完代替看護学（いわゆるヒーリングや民間・伝統療法にかかわる分野）の授業を担当する傍ら、本学附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センターの専任教員として、地域住民の皆さんと一緒に、ヒーリングを活かしたホリスティックな看護実践事業を展開しています。研究分野は、理論看護学（看護哲学）、地域・在宅看護学、補完代替看護学ですが、F.ナイチンゲールに多大な影響を与えながら、いまだ正当な評価がなされているとはいいがたい近代ドイツの看護史にも興味があり、文献を集めています。

2. 研究業績

②その他最近の業績

〈パネルディスカッション〉

LLP チーム香春藩主催、香春町、福岡県立大学共催、「第 1 回まちづくりシンポジウム 生き残りへの処方箋～医療編～」パネリスト参加、2017 年 2 月 8 日、香春町町民センター文化ホール

〈座談会〉

ケアリングアイランド九州沖縄学生コンソーシアム主催「第 39 回ナーシングキャリアカフェ in 沖縄 講師 武内三恵さんを囲む会」参加、2017 年 2 月 26 日、公立大学法人 名桜大学

〈教材開発〉

- ・「補完的健康アプローチ E-C.H.A.」に基づくヒーリング実習教材、福岡県立大学看護学部「ヒーリングセラピー演習」授業、2016 年度 2 年生前期
- ・いのちの歴史から説く、看護にとっての癒し（治癒過程）論教材、福岡県立大学「ヒーリング論」授業、2016 年度 1 年生後期

③過去の主要業績

- ・博士学位論文「対応困難な事例にしないための対象理解の構造—地域包括支援センター保健師の在宅療養患者への支援過程の分析を通して—」猪狩崇、看護科学研究、Vol.8 p.25～40、2013 年
- ・学会発表（ワークショップ事例提供）「理論を用いるとはどうすることかを考える」猪狩崇、看護科学研究学会第 12 回学術集会、2012 年、10 月 6 日、学士会館（東京）
- ・学会発表 「ナイチンゲール看護論に基づく現代の地域看護実践」猪狩崇、ナイチンゲール研究学会大 29 回研究懇談会、2008 年、10 月 5 日、学士会館（東京）

5. 所属学会

看護科学研究学会、ナイチンゲール研究学会、宮崎県立看護大学学術研究会

6. 担当授業科目

ヒーリング論・1 単位・1 年、ヒーリングセラピー・1 単位・2 年、専門看護学ゼミ（補助）・2 単位・3 年、卒業研究（補助）・2 単位・4 年

7. 社会貢献活動

- ・田川地区高齢者交流会主催、伊田商店街振興組合、田川市地域包括支援センター、福岡県立大学ヘルスプロモーション実践研究センター共催「たちばなカフェ」協議委員
- ・LLP チーム香春藩主催、香春町、福岡県立大学共催、「チーム香春藩定例会」協議委員
- ・田川後藤寺商店街サン Q 市主催、田川市地域包括支援センター共催「ひまわりカフェ」ボランティア会員

- ・暮らしの保健室 in 若松「こみねこハウス」(北九州市若松区) プレ協働チームメンバー、運営スタッフ
- ・JSCI (株)日本スウェーデン福祉研究所) 公認「タクティール®ケアリーダー I」資格による、タッチケアボランティア活動

8. 学外講義・講演

- ・福岡県立大学サマースクール・オープンキャンパスにおける高校生向け授業「いのちといやしのワークショップ」講師(講義と演習) 2016年8月6日
- ・LLP チーム香春藩主催、香春町、福岡県立大学共催、「第1回まちづくりシンポジウム 生き残りへの処方箋～医療編～」での講演「在宅医療・看護の現状とこれからの展望」、2017年2月8日、香春町町民センター文化ホール

9. 附属研究所の活動等

- ・附属研究所ヘルスプロモーション実践研究センター主催地域事業「ヒーリング教室」「食によるヒーリングパワー」「癒しの空間」講師(専任教員)
- ・同センター主催

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	梶原 由紀子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、重心障害児（者）病棟，消化器内科・小児科，大学の保健室で勤務，高等学校で養護助教諭として勤務しました。また，平成 24 年に本学大学院看護学研究科を修了しました。

【養護教諭の研修プログラムの開発に関する研究】

養護教諭の危機管理力の研修の開発に関して取り組んでいます。医療技術の進歩や在宅医療の推進，ノーマライゼーション理念の普及に伴って重度の障害がありつつ地域で暮らす子どもが増加しています。今後，地域の学校に通学する子どもたちが増加することが予想され，地域の学校においては，緊急時には専門的な対応を必要とすることも考えられます。その際，保健管理の中核を担う養護教諭の役割も大きいと考えられ，養護教諭として資質の向上が求められており，具体的な対策の現状や課題，また，研修においてどのようなプログラムが必要か等，養護教諭の研修プログラムの開発を行っていく所存です。児童生徒一人一人が安全にそして安心した学校生活を過ごすことができるため，また現場の養護教諭の先生方の支援のために研究を進めていきたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

松浦賢長，笠井直美，渡辺多恵子編者；保健の実践科学シリーズ 学校看護学，第 12 章 感染症対策 193-97，第 13 章 感染症対策 98-103，第 15 章 救急処置 112-118，第 26 章 特別支援教育・医療的ケア 187-192，講談社サイエンティフィク。

渡辺多恵子，渡辺裕一，安梅勅江編著；日本保健福祉学会編集。(2015). 保健福祉学 当事者主体のシステム科学の構築と実践，第 4 章 7 節 医療的ケアを必要とする子どもと親の支援，北大路書房. 77-80.

〈論文・報告書〉

- ・梶原由紀子。(2015), 養護教諭の危機対応力の研修に関する研究調査，平成 26 年度福岡県立大学研究奨励交付金若手奨励研究報告。
- ・渡辺多恵子，樋口善之，原田直樹，三並めぐる，梶原由紀子，鈴木茜，仁木雪子，秋山有佳，篠原亮次，市川香織，玉腰浩司，松浦賢長，山縣然太郎。(2014). 7.EPDS による産後うつ頻度の把握に関する研究～健やか親子 21 最終評価に向けて～. 平成 25 年度 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業，『健やか親子 21』の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究」 分担研究報告書，470-475
- ・樋口善之，三並めぐる，原田直樹，梶原由紀子，阿部眞理子，森慶恵，豊田菜穂子，福島由美子，土井智子，香田由美，内田郁美，徳永久美子，精松真紀子，渡辺多恵子，北村喜一郎，鈴木茜，仁木雪子，磯田宏子，三國和美，丸岡里香，笠井直美，中野貴博，秋山有佳，篠原亮次，松浦賢長，山縣然太郎。(2014). 8.思春期やせ症及び不健康やせの発生頻度に関する研究. 平成 25 年度 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業，『健やか親子 21』の最終評価・課題分析及び次期国民健康運動の推進に関する研究」 分担研究報告書，476-481.
- ・三並めぐる，福山聡美，原田直樹，梶原由紀子，松浦賢長，岡多枝子. 不登校児童生徒のきょうだいの経験と支援に関する研究. 福岡県立大学看護学研究紀要 11 (1), 11-20, 2014.
- ・梶原由紀子，原田直樹，三並めぐる，増満誠，松浦賢長. 特別支援学校教員の特定行為実施における期待感・不安感に関する研究.(2013). 日本保健福祉学会誌，2013.Vol.20, No. 1, 査読有，21-34.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・梶原由紀子, 中山晃光, 秦野環, 照屋典子, 木村弘江, 佐藤千春, 原田直樹, 松浦賢長. (2015. 12) 看護学生を対象とした国際看護実施施設における短期研修プログラムの学生の学びと課題, 第35回日本看護科学学会学術集会, 広島.
- ・樋口善之, 三並めぐる, 原田直樹, 梶原由紀子, 松浦賢長, 山縣然太郎. (2014, 8) 思春期やせ症及び不健康やせの発生頻度に関する研究, 第62回九州学校保健学会, 福岡.
- ・梶原由紀子, 三並めぐる, 原田直樹, 松浦賢長 (2013, 9) 学童期の子どもの空腹感の時間帯と生活習慣の関連について. 第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・原田直樹, 三並めぐる, 梶原由紀子, 松浦賢長 (2013, 9) 特別支援学校におけるスポーツ振興の現状と課題-全国調査の結果から-.第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・三並めぐる, 梶原由紀子, 原田直樹, 松浦賢長 (2013, 9) 喫煙防止教育が喫煙行動に与える影響について-大学生の調査から-.第32回日本思春期学会総会・学術集会, 和歌山.
- ・梶原由紀子. (2013, 9) 特別支援学校養護教諭の特定行為実施におけるリスク認識に関する研究, 第26回日本保健福祉学会学術集会, 福岡.

③過去の主要業績

〈論文〉

梶原由紀子, 原田直樹, 三並めぐる, 宮路雅也, 山崎喜久, 松浦賢長, 山縣然太郎. 特別支援学校における特定行為に関する研究 ～全国の特別支援学校へのアンケート調査の結果～厚生労働科学研究(育成疾患克服等次世代育成基盤研究事業)健やか親子21を推進するための母子保健情報の利活用に関する研究(2012). 平成23年度総括・分担研究報告書, 査読無, 102-107.

3. 外部研究資金

文部科学省, 科学研究費補助金(若手研究B), インクルーシブ教育における養護教諭の危機対応力向上に関する短期研修プログラム開発, 182万円, 平成27年度～平成29年度

4. 所属学会

日本看護研究学会, 日本看護科学学会, 日本思春期学会, 日本学校保健学会, 日本保健福祉学会, 日本公衆衛生学会, 日本LD学会, 九州学校保健学会, 九州思春期研究会.

6. 担当授業科目(補助)

教養演習・2単位・1年・前期, 子ども学習支援論・1単位・1年・後期, 公衆衛生学・2単位・1年・後期, 養護概説・2単位・2年・後期, 保健統計学・2単位・2年・後期, 教育方法論・2単位・看護2年/人社3年・後期, 性教育学・2単位・看護3年/人社3年・前期, 養護実習事前事後指導・1単位・4年・前期, 学校保健・1単位・4年・前期, 養護実習・4単位・4年・前期, 不登校・引きこもり援助応用演習・2単位・4年・後期, 専門看護学ゼミ・2単位・4年・前期, 統合実習・2単位・4年・後期, 卒業研究・2単位・4年・後期, 教職実践演習(養護教諭)・2単位・4年・後期

7. 社会貢献活動

- ・九州思春期研究会, 理事
- ・特定非営利活動法人 前向き子育てふくおか, 理事

9. 附属研究所の活動等

- ・ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・不登校・ひきこもりサポートセンター教員スタッフ

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	佐藤 繭子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として5年間外科系病棟で勤務、助産師として8年勤務後、その経験を生かし、2009年より本大学看護学部臨床看護学系助手として着任。2011年3月、福岡県立大学大学院看護学研究科修了（看護学修士）し、現在に至る。

臨床では母乳育児支援の推進に携わり、母親・医療スタッフへの情報提供や知識の啓蒙に努めてきた。現在は母乳育児支援に関する研究だけでなく、性教育（幼児・児童，子を持つ親，成人）にも積極的に取り組んでいる。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈学術論文〉

- ・佐藤繭子，小林絵里子．(2017)看護系大学の母性看護学における母乳育児支援教育の現状と課題．福岡県立大学看護学部紀要，14，
- ・佐藤繭子，小林絵里子．(2015)．タイ・ムアンコンケン郡における母乳育児支援の現状．福岡県立大学看護学部紀要，13，129-135．
- ・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，邬继红，王琦．(2014)．中国北京における中国伝統医療の現状．福岡県立大学看護学部紀要，12，73-84．
- ・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子，邬继红，王琦，侯小妮．(2014)．中国北京における妊婦の食生活と文化．福岡県立大学看護学部紀要，12，25-35．

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・佐藤繭子，佐藤香代，吉田静，小林絵里子，石村美由紀，鳥越郁代．(2017)．妊婦と育児中の母親が共に集い学び合う「身体感覚活性化マザークラス」を試みて．第31回日本助産学会学術集会，徳島．
- ・佐藤繭子，古田祐子．(2016)．看護系女子学生の布製ナプキン使用感，第30回日本助産学会学術集会，京都．
- ・吉田静，佐藤香代，鳥越郁代，安河内静子，小林絵里子，佐藤繭子．(2015)．「身体感覚活性化マザークラス」に参加した女性たちの食生活．第56回日本母性衛生学会学術集会，岩手．
- ・佐藤繭子．(2015)．看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題，第12回IBCLCのための母乳育児カンファレンス，京都．
- ・佐藤繭子，小林絵里子，佐藤香代．(2014)．看護系大学における母乳育児支援教育の現状と課題，第55回日本母性衛生学会学術集会，千葉．

③過去の主要業績

〈学術論文〉

佐藤繭子．助産師の母乳育児支援の実践に影響する要因の検討．福岡県立大学大学院看護学研究科修士論文．2011年3月．

〈教材開発〉

佐藤香代，安河内静子，吉田静，佐藤繭子，鳥越郁代，小林絵里子，藤木久美子．身体感覚活性化（世にも珍しい）マザークラスの哲学と実践．2012年

5. 所属学会

日本助産学会、日本母乳哺育学会、日本助産師会、思春期学会、日本母性衛生学会、日本性科学会、日本ラクテーション・コンサルタント協会 IBCLC 会員 出版・販売事業部員

6. 担当授業科目

〈学部〉

女性看護学・2単位・2年・後期, 女性看護実践論・1単位・3年・通年, 女性看護実習・2単位・3年・通年, 女性看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期, 女性看護学演習Ⅱ・1単位・3～4年・後期～前期, 女性看護学実習・2単位・3～4年・後期～前期, 専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年

〈大学院〉

ウイメンズヘルス演習・1単位・1年・後期, 基礎助産学演習・2単位・1年・通年, 助産学特論・2単位・1年・前期, 助産学演習・2単位・1年・後期, 助産実践学Ⅰ(妊娠期)・2単位・1年・前期, 助産学実践Ⅱ(分娩期)・4単位・1年・通年, 助産学実践Ⅲ(産褥・新生児期)・2単位・1年・後期, 助産学実習Ⅰ(外来ケア実習)・1単位・1年・前期, 助産学実習Ⅱ(周産期ケア実習)・8単位・1年・後期, 助産学実習Ⅲ(助産所実習・継続ケア実習)・2単位・2年・前期, 助産学実習Ⅳ(ハイリスクケア実習)・1単位・2年・前期, 助産学実習Ⅴ(マザークラス実習)・2単位・2年・後期

7. 社会貢献活動

- ・日本ラクテーション・コンサルタント協会 出版・販売事業部員
- ・母乳育児に関する学習会の開催「母乳育児支援を学ぶ九州教室」代表・運営
- ・子育てサークル主宰
- ・福岡県助産師会子育て・女性健康支援センター相談員
- ・第12回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 田川 (2016.6-7) 企画・運営
- ・第8回健康大使セミナー (2016.8.8)
- ・第12回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー (2016.10.9)
- ・第21回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 福岡 (2016.10-11)
- ・第1回身体感覚活性化(世にも珍しい) マザークラス in 北九州 (2016.10-11)

〈母乳育児支援に関するセミナー企画・運営〉

- ・平成28年度第1期20時間基礎セミナー (2016.5月～7月)
- ・第14回母乳育児支援を学ぶ九州教室, 2016.8.7,福岡市
- ・平成28年度第2期20時間基礎セミナー (2016.9月～11月)
- ・第15回母乳育児支援を学ぶ九州教室, 2016.2.5,福岡市

8. 学外講義・講演

- ・子ども向け性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師. リトル・ママ, 2016.4.6, 福岡市
- ・「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師. 博多大丸, 2016.4.17, 福岡市
- ・ママ・妊婦さんのための「ラクチン母乳育児講座」講師. ふれあい館三国, 2016.5.11, 小郡市
- ・「断乳と卒乳: どうしたらいい?」講師. 博多大丸, 2016.5.15, 福岡市
- ・母乳育児支援20時間基礎セミナー in 鹿児島 (2016.5月～6月) ファシリテーター, 鹿児島市
- ・平成28年度第1期20時間基礎セミナー (2016.6月～8月) ファシリテーター, 福岡市
- ・親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. 2016.6.4, 福岡市
- ・「おれの妊婦体験!～起きたら妊婦になっちゃた?～」講師, テンジン大学, 2016.6.25, 福岡市
- ・子ども向け性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師. 2016.7.2, 福岡市
- ・「補完食(離乳食)の進め方・らくちん離乳食」講師. 博多大丸, 2016.7.10, 福岡市
- ・性の健康に関する事業「布ナプキンって?」講師. 附属研究所, 2016.7.21. 田川市

- ・ 親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. NPO 法人子育てパレット, 2016.7.23, 東京都足立区
- ・ 子ども向け性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師. こども支援センターげんき. 2016.7.24, 東京都足立区
- ・ 「母乳育児と職場復帰」講師. 第14回母乳育児支援を学ぶ九州教室, 2016.8.7, 福岡市
- ・ 平成28年度第2期20時間基礎セミナー(2016.8月~9月)ファシリテーター, 福岡市
- ・ 子ども向け性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師. 2016.8.20, 福岡市
- ・ 福岡県看護協会助産師職能委員会 新人助産師合同研修(母乳育児支援)講師, 2016.9.3.
- ・ 「職場復帰が近いけど・・・おっばいはどうする？」講師. 博多大丸, 2016.9.18, 福岡市
- ・ 親子で学ぶ性教育「からだについていっしょにまなぼう！」講師. 2016.9.24, 福岡市
- ・ 「母乳で楽ちん子育て講座」講師. 2016.9.27, 福岡市
- ・ 「母乳育児は簡単♪楽しい♪知っておいてほしい母乳育児のコツ」講師. 博多大丸, 2016.10.16, 福岡市
- ・ 親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. 2016.10.19, 福岡市
- ・ 福岡県職員対象育児サロンでの講演. ももちパレス, 2016.11.5. 福岡市
- ・ 「断乳と卒乳: どうしたらいい？」講師. 博多大丸, 2016.11.6, 福岡市
福岡県看護協会助産師職能委員会 院内助産スキルアップ研修(母乳育児支援)講師, 2016.11.26
- ・ 「補完食(離乳食)の進め方・らくちん離乳食」講師. 博多大丸, 2016.12.4, 福岡市
- ・ 親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. ももちパレス. 2016.12.11, 福岡市
- ・ 「男の子の健康を見守るための おちんちんケア」講師. 博多大丸, 2017.1.8, 福岡市
- ・ 親向け性教育「こどもに伝えるせいのお話」講師. 篠栗町. 2017.1.23, 福岡市
- ・ JALC 主催母乳育児支援20時間基礎セミナー in 鹿児島ファシリテーター, 鹿児島市 2017.1
- ・ 久留米市立荒木小学校 PTA 主催性教育講師. 2017.1.25. 久留米市
- ・ これから働きたいあなたのために 今、はじめる10のレッスン「母乳育児と職場復帰」講師.
- ・ 福岡市男女共同参画推進センター アミカス, 2017.2.10, 福岡市
- ・ 「職場復帰が近いけど・・・おっばいはどうする？」講師. 博多大丸, 2017.2.12, 福岡市
- ・ 性の健康に関する事業「布ナプキン講座」講師. 福岡県助産師会, 2017.2.21. 福岡市
- ・ 「男の子の健康を見守るための おちんちんケア」講師. 博多大丸, 2017.2.23, 福岡市
- ・ 「職場復帰が近いけど・・・おっばいはどうする？」講師. 博多大丸, 2017.3.12, 福岡市

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ 第8回健康大使セミナー(2016.8.8)
- ・ 第12回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス in 田川(2016.6~7)
- ・ 第21回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス in 福岡(2016.10~11)
- ・ 第1回身体感覚活性化(世にも珍しい)マザークラス in 北九州(2016.10~11)
- ・ 第13回身体感覚活性化マザークラス医療者向けセミナー(2016.10.9)
- ・ 女性と子どものためのスペース「ら・どんな☆まんま」母乳育児支援
- ・ 性の健康に関する事業

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	手島 聖子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

2000年から乳幼児健康診査を通じた養育者の育児ストレスと育児支援システムについて研究を進めています。本研究は、乳幼児虐待問題という最も先鋭化されたかたちで現れている子育ての危機の内実とその援助のあり方を、乳幼児健康診査を手がかりにしながら理論面と実践面での両面からのアプローチを目指したものです。具体的には、養育者が安心して育児ができる環境を構築するために、子どもの発達過程に応じた養育者の育児ストレスや育児不安、育児ストレスに影響を与える個人的・社会的要因を短時間に把握できる質問紙を作成し、心理的・社会的に困難な状況におかれている養育者の育児不安や育児ストレスを早期に把握するための調査を実施しています。作成した尺度の有用性や育児不安の縦断的变化についての検討、養育者へのインタビューなどから、母子保健システムに虐待の視点を取り入れた多層的な育児支援システムのあり方について考察しています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

<論文>

- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 野見山美和. (2014). 地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価. 福岡県立大学看護学研究紀要, 11 (2), 53-61.
- ・迫山博美, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子. (2016). 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題－A町のふれあい交流活動の分析を通して－. 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 57-65.
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美. (2016). 地域の介護予防活動に推進における保健師の役割について－高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から－. 福岡県立大学看護学研究紀要, 13, 35-49.

<報告書>

尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 本郷秀和, 村山浩一郎. (2014). 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究報告書.

②その他最近の業績

<学会発表>

- ・小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 手島聖子, 檜橋明子. 地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性－身体的・心理的・社会的状況の分析－. 第2回日本公衆衛生看護学会. 2014年1月, 小田原.
- ・手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子. 保健師のリカレント教育を考える－卒業生への新人保健師交流会を開催して(第一報)－. 第3回日本公衆衛生看護学会. 2015年1月, 神戸.
- ・手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 世話役住民の役割機能. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 支援スタッフの役割機能. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ－世話役住民と支援スタッフの認識から－, 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・尾形由起子, 坂本知美, 河村真紀代, 荒木小百合, 荒木優子, 山下清香, 小野順子, 手島

- ・聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価, 第 75 回日本公衆衛生学会, 2016 年 11 月, 大阪,
- ・尾形由起子, 坂本知美, 河村真紀代, 荒木小百合, 荒木優子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価. 第 73 回公衆衛生学会学術集会. 2016 年 11 月, 大阪.
- ・矢田貝詩織, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャルキャピタルの醸成へ向けた保健師の支援—9 年間の活動を通して—. 第 73 回公衆衛生学会学術集会. 2016 年 11 月, 大阪.

<その他>

- ・尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子. 研究室からのメッセージ, 保健師ジャーナル, 45 (2), 2017

③過去の主要業績

- ・手島聖子. (2002). 養育者の育児ストレスと育児支援システム：乳幼児健康診査を通じた子育て支援と児童虐待の予防について. (財) 安田生命社会事業団 2001 年度研究助成論文集, 37, 30-38.
- ・手島聖子, 原口雅浩. (2003). 乳幼児健康診査を通じた育児支援：育児ストレス尺度の開発. 福岡県立大学看護学部紀要, 1 (1), 15-27.
- ・手島聖子, 原口雅浩. (2004). 育児不安の構造. 久留米大学心理学研究, 3, 83-88.

5. 所属学会

日本公衆衛生学会, 日本看護科学学会, 日本地域看護学会, 日本心理学会, 日本発達心理学会, 日本公衆衛生看護学会

6. 担当授業科目

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位、2年・後期、専門看護学ゼミ・2単位、3年・通年、家族看護学・1単位、3年・前期、在宅看護学演習・1単位、3年・前期、公衆衛生看護学アセスメント論Ⅰ・1単位、3年・後期、卒業研究・2単位、4年・通年、統合実習・2単位、4年・通年、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位、4年・前期、公衆衛生看護学アセスメント論Ⅱ・2単位、4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位、4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位、4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位、4年・前期、組織協働活動論・2単位、4年・後期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位、4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位、4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位、4年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助教	氏名	檜橋 明子
----	---------------------	----	----	----	-------

1. 教員紹介・主な研究分野

保健師として保健所で勤務。2012年に福岡県立大学大学院看護学研究科修士課程を修了しました。

研究は、難病患者の療養支援について取り組んでいます。難病の中でも神経難病は進行性であり、症状の進行に伴い、医療依存度は高くなっていきます。医療制度改革の中で在宅医療が推進され、神経難病患者も医療依存度の高い状態で療養する機会がますます増えてきています。さまざまな職種が関わって支援を行いますが、保健師がどのように支援することが効果的なのか、また、医療依存度の高い状態でも生活しやすい地域づくりのための研究に取り組みたいと考えています。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈論文〉

- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 野見山美和. 地域と共同で実施した地域担当制の地域看護学実習の評価. 福岡県立大学看護学部紀要, 第11巻2号, 2014.
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子. 神経難病患者の在宅療養のために保健師が行った関係機関調整技術. 日本地域看護学会誌, 第18巻2, 3号, 33-40, 2015.
- ・迫山博美, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子. 地域における高齢者に対する介護予防活動の現状と課題-A 町のふれあい交流活動の分析を通して-. 福岡県立大学看護学研究紀要. 第13巻 p57-65, 2016.
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美. 地域の介護予防活動の推進における保健師の役割について-高齢者サロンの世話役及び指導員の認識から-, 福岡県立大学看護学研究紀要. 第13巻, p35-49, 2016

〈報告書〉

尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 本郷秀和, 村山浩一郎. 旧産炭地における高齢者の介護予防に対するコミュニティ再生に関する研究報告書. 2014年3月.

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子. 在宅療養神経難病患者支援ネットワーク形成における保健師の調整プロセスの検討. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会 2014年1月, 小田原.
- ・小野順子, 尾形由起子, 山下清香, 手島聖子, 檜橋明子. 地域で生活する転倒経験のある高齢者の特性. 第2回日本公衆衛生看護学会学術集会 2014年1月, 小田原.
- ・手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子. 保健師のリカレント教育を考える-卒業生への新人保健師交流会を開催して(第1報)-. 第3回日本公衆衛生看護学会学術集会 2015年1月, 神戸.
- ・手島聖子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 世話役住民の役割機能. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 迫山博美, 中村美穂子. 高齢者サロン活動から把握した介護予防ニーズ 支援スタッフの役割機能. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.
- ・山下清香, 尾形由起子, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 迫山博美, 中村美穂子. 第72回日本公衆衛生学会学術集会. 2015年11月, 長崎.

- ・ 山口のり子, 後藤美子, 檜橋明子, 尾形由起子. 高齢者施設における看取り状況調査結果について ～県と市町村の連携を通して～. 第73回公衆衛生学会学術集会. 2016年11月, 大阪.
- ・ 尾形由起子, 坂本知美, 河村真紀代, 荒木小百合, 荒木優子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャル・キャピタル醸成のための自治会単位で行う介護予防事業の評価. 第73回公衆衛生学会学術集会. 2016年11月, 大阪.
- ・ 矢田貝詩織, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 檜橋明子, 中村美穂子, 迫山博美. 地域のソーシャルキャピタルの醸成へ向けた保健師の支援ー9年間の活動を通してー. 第73回公衆衛生学会学術集会. 2016年11月, 大阪.

③過去の主要業績

〈学会発表〉

- ・ 大塚純子, 檜橋明子. 特定疾患患者へのアンケート. 第63回日本公衆衛生学会. 2004年10月, 島根.
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子. 在宅療養神経難病患者を支援する保健師の調整技術. 第71回日本公衆衛生学会学術集会. 2012年10月, 山口.

〈論文〉

- ・ 檜橋明子. 在宅で療養する神経難病患者の支援ネットワーク形成に対する保健師の調整技術. 福岡県立大学看護学研究科 修士論文 2012
- ・ 檜橋明子, 尾形由起子, 山下清香, 小野順子, 手島聖子, 野見山美和. A大学における保健師教育の課題と効果的な教育方法の検討-「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」に対する学生の自己評価から-. 福岡県立大学看護学部紀要, 第10巻2号, pp73-82. 2014.

5. 所属学会

日本公衆衛生学会・日本地域看護学会・日本災害看護学会・日本看護教育学会・日本看護科学学会・日本看護研究学会・日本看護歴史学会・日本公衆衛生看護学会・日本難病看護学会

6. 担当授業科目

〈学部〉

教養演習・1単位・1年・前期, 公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期, 家族看護学・1単位・3年・前期, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期, 専門看護学ゼミ・3年・2単位・通年, 公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期, 公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期, 公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期, 公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期, 公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期, 公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期, 公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期, 組織協働活動論・2単位・4年・後期, 公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期, 統合実習・4年・2単位・通年, 卒業研究・2単位・4年・通年.

7. 社会貢献活動

日本ALS協会 福岡県支部 運営委員

9. 附属研究所の活動等

- ・ ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員
- ・ オレンジリボン運動

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	杉本 みぎわ
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

介護保険導入以前より在宅看護にかかわり、介護保険制度の変遷の中で訪問看護の果たす役割について実践の中で常に考えてきた。また、超高齢化を迎える時代の中で、高齢者や、がんのターミナル期の方々が、安心して在宅で最期まで暮らせるための在宅医療・介護の連携のあり方について、厚生労働省のモデル事業として開設した東京、新宿区にある「暮らしの保健室」での活動を通して研究してきた。地域包括ケアシステムにおける要ともなる訪問看護の展望について、「暮らしの保健室」を拠点とした研究を重ねるとともに、それぞれの地域に即した地域包括ケアシステムの実現に向けての研究と、生活の中にある医療という視点から看護師が果たすべき役割について研究を継続する。

2. 研究業績

①最近の著書・論文

〈寄稿〉

- ・ 杉本みぎわ, がん治療が点在する新宿区に「暮らしの保健室」が存在する意義.” 看護管理 医学書院 2015年2月
- ・ 杉本みぎわ, 地域から発信する「暮らしの保健室」の地域包括ケア 他職種連携のハブ的役割 高齢者ケア実践事例集. 第一法規 2014年9月

②その他最近の業績

〈学会発表〉

- ・ 杉本みぎわ, 久保哲郎, 櫛直美, 林田優子, 和田和人, 山本節子. 医療・介護・福祉の他職種から捉える「介護連携」の在り方と課題(その3)～「認知症ケア」のグループワークより～. 第24回日ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 久留米 2017年2月, 久留米〈シンポジウム〉
- ・ 村田節子, 宮園真美, 政時和美, 今丸満美, 吉田恭子, 櫛直美, 杉本みぎわ, 柴北早苗, 吉村美奈子: がん療養生活の選択に影響を与えるもの～地域で語り合うがんとの向き合い方(第2報)～, 第18回日本看護医療学会, 2016
- ・ シンポジウム座長 第24回日本健康体力栄養学会大会. 2017年3月 東京

5. 所属学会

看護医療学会・日本在宅医学会・日本ホスピス・在宅ケア研究会・日本臨床死生学会

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

在宅看護学概論・1単位・2年・前期、在宅看護学演習Ⅰ・1単位・3年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年・通年、在宅看護学演習Ⅱ(補助)・1単位・3年・後期～4年・前期、在宅看護学実習・2単位・3年・後期～4年・前期、専門看護学ゼミ・2単位・4年・通年、統合実習・2単位・4年・通年

7. 社会貢献活動

- ・ 在宅医療推進のための会(勇美記念財団) 委員,
- ・ 北九州在宅医療・介護塾 世話人,
- ・ 暮らしの保健室 in 若松 代表

8. 学外講義・講演

- ・ シルバー人材センター初任者研修 講師. 2016年6月
- ・ 特定非営利活動法人北九州あいの会 25周年記念講演 2016年11月
- ・ のうがた元気づくりサポーター養成講座 講師. 2017年1月
- ・ 直方市 平成28年度在宅医療連携市民公開講座 講演 2017年3月

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員

所属	看護学部／ヘルスプロモーション看護学系	職名	助手	氏名	中村 美穂子
----	---------------------	----	----	----	--------

1. 教員紹介・主な研究分野

看護師として、呼吸器内科病棟、緩和ケア病棟に勤務、その後 2015 年度より本学へ着任する。これまでの経験の中で、癌を患い、癌による症状および治療に伴う副作用を持ちながら自宅で過ごす人、そして、残された時間、最期の時を住み慣れた自宅で過ごしたいという患者、家族の想いに触れてきた。しかし、現実ではそのほとんどが病院での看取りとなり、患者、家族の願いを叶えるためには、地域における社会資源の充実や人材育成の必要性を感じている。本学において、在宅での看取りをサポートしていくためへの課題や支援についてを、保健師の視点も合わせながら探究していきたいと思っている。

5. 所属学会

日本公衆衛生学会

6. 担当授業科目(補助)

〈学部〉

公衆衛生看護学Ⅰ・2単位・2年・後期、家族看護学・1単位・3年、前期、専門看護学ゼミ・2単位・3年、通年、公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ・1単位・3年・後期、公衆衛生看護技術論Ⅰ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護技術論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生アセスメント論Ⅱ・2単位・4年・前期、公衆衛生看護学実習Ⅰ・1単位・4年・前期、公衆衛生看護学Ⅲ・1単位・4年・後期、公衆衛生看護管理論・2単位・4年・後期、組織協働活動論・2単位・4年・後期、公衆衛生看護学実習Ⅱ・4単位・4年・後期、統合実習・2単位・4年・後期

9. 附属研究所の活動等

ヘルスプロモーション実践研究センター兼任研究員